《確　認》　暗褐色土の溝状落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　開口部長軸2.82m、幅0.88m、深さ132cm、底面長軸2.74m、幅0.22m。

《平面形》　長楕円形である。

《断面形》　緩やかなＹ字形を呈する。

《埋　土》　６層に分層した。人為的堆積と思われる。

《底　面》　中華鍋底状に中央部が深くなっている。

《遺　物》　埋土中から縄文時代前期の土器（１～４）が出土した。

《時　期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＫＴ　691　Ｔ－ｐｉｔ（第286図）

《位　置》　ＭＨ74、ＭＩ74グリッドに位置する。

《確　認》　暗褐色土の溝状落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　開口部長軸1.90m、幅0.62m、深さ40cm、底面長軸1.56m、幅0.64m。

《平面形》　木根の攪乱を受けており、不整形である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《埋　土》　10層に分層した。人為的堆積と思われる。

《底　面》　凹凸があり、ピット状の凹みを有する。

《遺　物》　埋土中から縄文時代前期中葉の土器（１）・前期の土器（２～８）が出土した

《時　期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＫＴ　721　Ｔ－ｐｉｔ（第286図）

《位　置》　ＭＴ63グリッドに位置する。

《確　認》　暗褐色土の溝状落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　開口部長軸3.24m、幅1.00m、深さ110cm、底面長軸3.24m、幅0.08m。

《平面形》　長楕円形である。

《断面形》　Ｙ字形を呈する。

《埋　土》　４層に分層した。人為的堆積と思われる。

《底　面》　急な角度でＶ字型に深くなっている。

《遺　物》　遺物は出土しなかった。

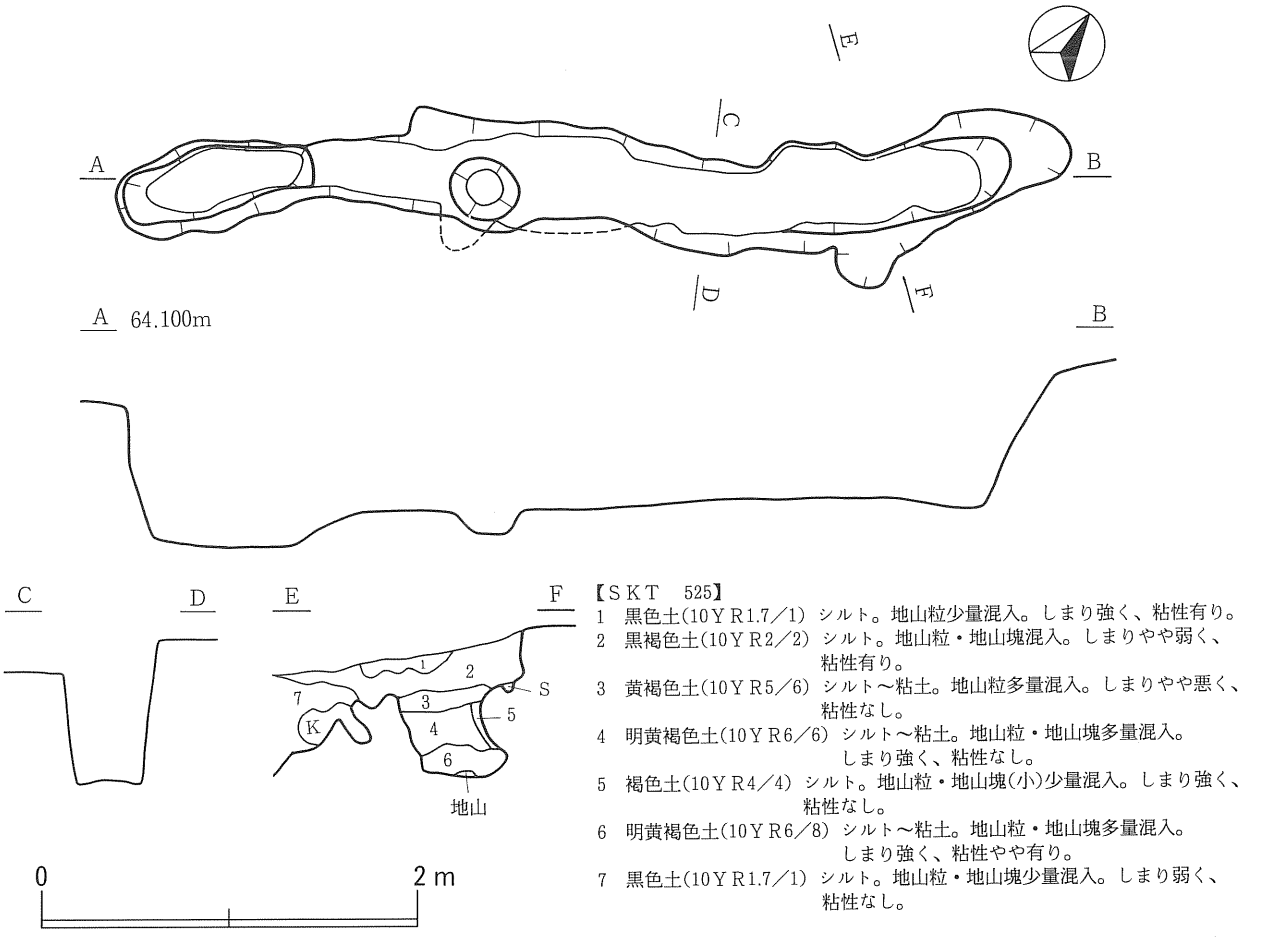
《時　期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＫＴ　750　Ｔ－ｐｉｔ（第287図）

《位　置》　ＭＬ63･64グリッドに位置する。

《確　認》　暗褐色土の溝状落ち込みとして確認した。

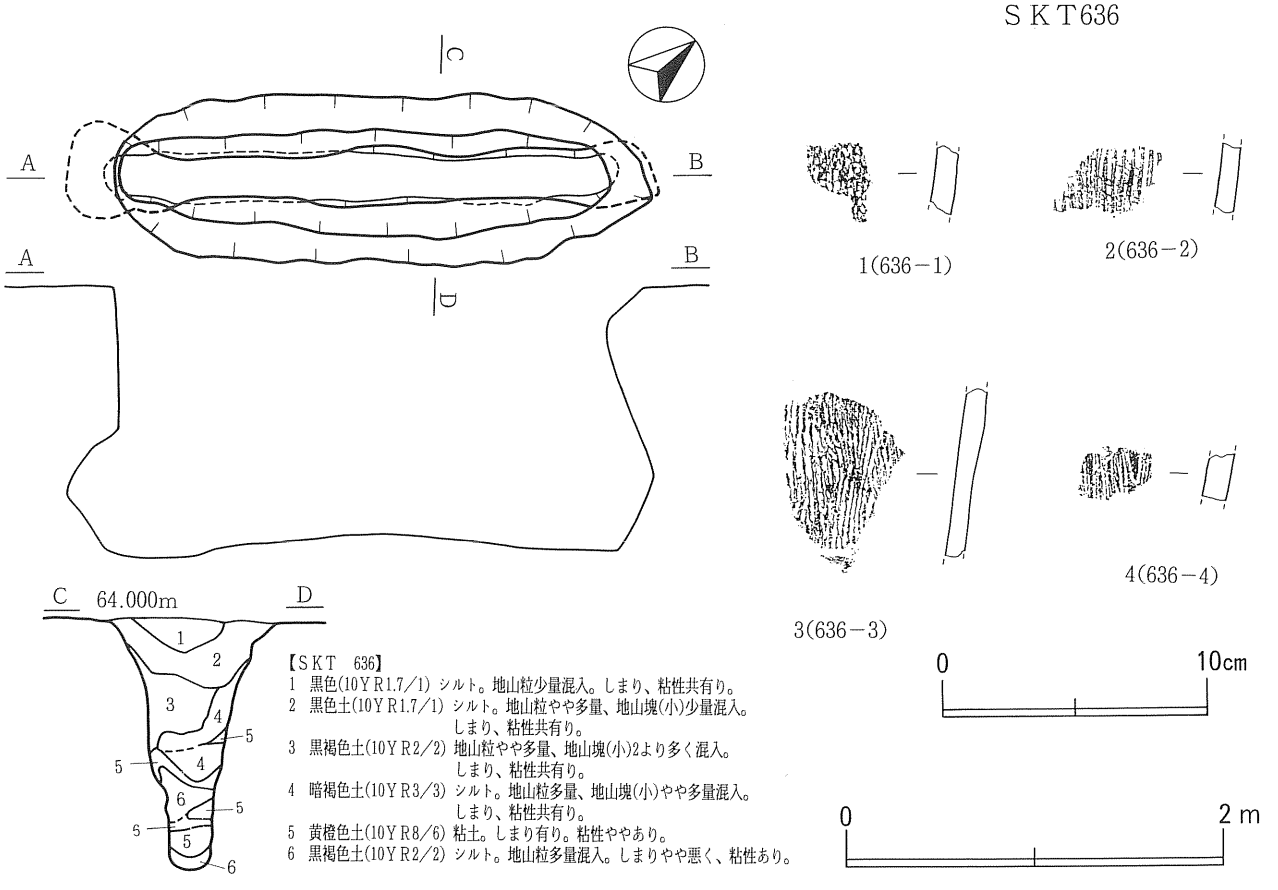
《重　複》　なし。



【ＳＫＴ　525】
1　黒色土(10ＹＲ1.7／1)　シルト。地山粒少量混入。しまり強く、粘性有り。
2　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。地山粒・地山塊混入。しまりやや弱く、粘性有り。
3　黄褐色土(10ＹＲ5／6)　シルト～粘土。地山粒多量混入。しまりやや悪く、粘性なし。
4　明黄褐色土(10ＹＲ6／6)　シルト～粘土。地山粒・地山塊多量混入。しまり強く、粘性なし。
5　褐色土(10ＹＲ4／4)　シルト。地山粒・地山塊(小)少量混入。しまり強く、粘性なし。
6　明黄褐色土(10ＹＲ6／8)　シルト～粘土。地山粒・地山塊多量混入。しまり強く、粘性やや有り。
7　黒色土(10ＹＲ1.7／1)　シルト。地山粒・地山塊少量混入。しまり弱く、粘性なし。

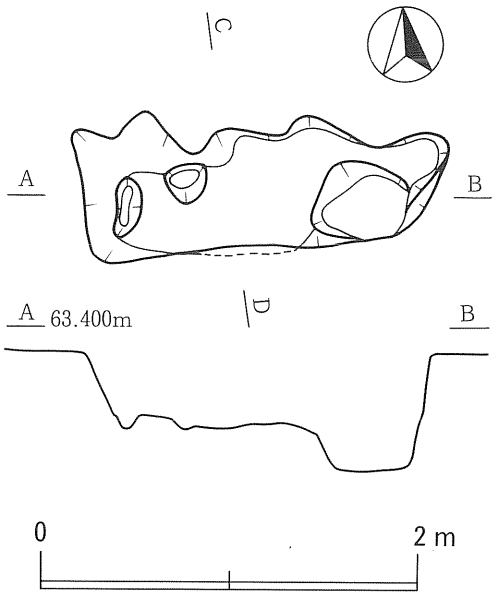
ＳＫＴ525

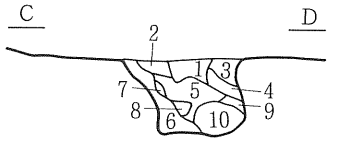
ＳＫＴ636



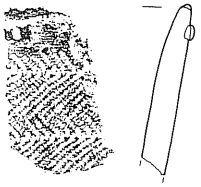
【ＳＫＴ　636】
1　黒色(10ＹＲ1.7／1)　シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性共有り。
2　黒色土(10ＹＲ1.7／1)　シルト。地山粒やや多量、地山塊(小)少量混入。しまり、粘性共有り。
3　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　地山粒やや多量、地山塊(小)2より多く混入。しまり、粘性共有り。
4　暗褐色土(10ＹＲ3／3)　シルト。地山粒多量、地山塊(小)やや多量混入。しまり、粘性共有り。
5　黄橙色土(10ＹＲ8／6)　粘土。しまり有り。粘性ややあり。
6　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。地山粒多量混入。しまりやや悪く、粘性あり。

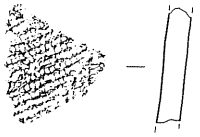
第285図　SKT 525・SKT 636 土坑とその出土遺物

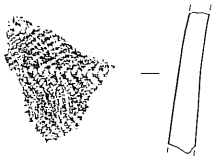


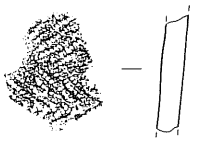


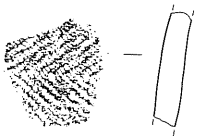
【ＳＫＴ　691】
1　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3／4) 地山小ブロック混入。
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山粒少量混入。しまりやや硬い。
3　褐色土(10Ｙ Ｒ4／4) 地山粒・細砂混入。しまりゆるく、パサパサしている。
4　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ4／3) 地山粒多量混入。粘性なし。
5　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山ブロック混入。炭化物微量混入。やや粘性あり。
6　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／2) 地山粒混入。粘性やや強い。
7　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3／4) 地山粒多量混入。炭化物微量混入。
8　7に同じ。
9　褐色土(10Ｙ Ｒ4／6) しまりゆるく、粘性なし。
10　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ4／3) 地山粒・地山ブロック混入。粘性やや強い。

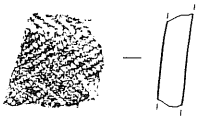

1(691－1)


2(691－2)

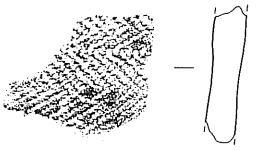

3(691－3)


4(691－4)


5(691－5)


6(691－6)

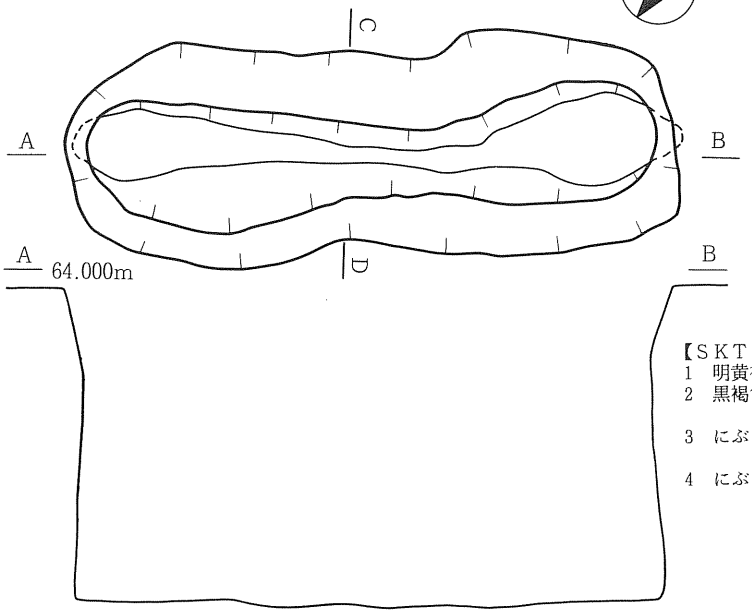
7(691－7)

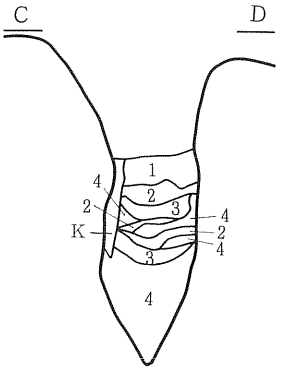

8(691－8)

0　10cm

ＳＫＴ691

ＳＫＴ721





【ＳＫＴ　721】
1　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ7／6) 粘土。硬質。粘性あまりなし。
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) シルト。地山粒多量、地山塊(小)少量混入。しまり、粘性有り。
3　にぶい黄橙色土(10Ｙ Ｒ6／4) シルト～粘土。地山粒多量混入。しまりやや弱く、粘性あまりなし。
4　にぶい黄橙色土(10Ｙ Ｒ7／3) 粘土。しまり有り、粘性あまりなし。

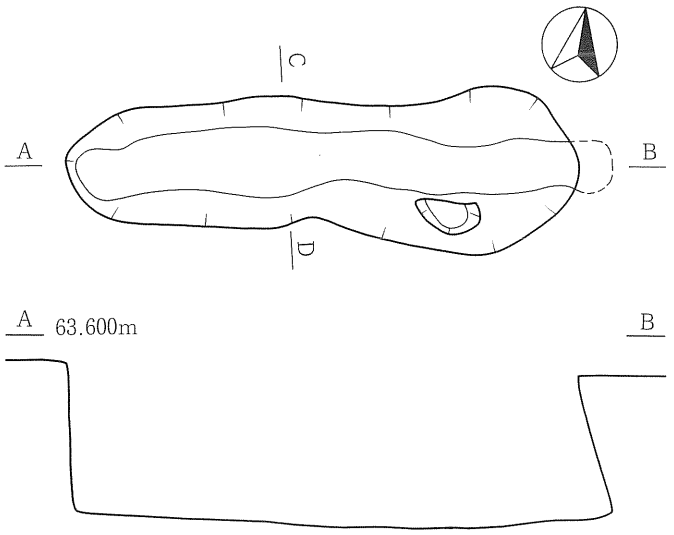
0　2 m

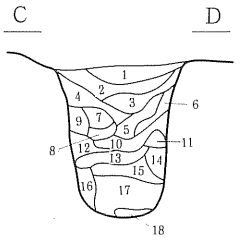
第286図　SKT 691・SKT 721 土坑とその出土遺物

《規　模》　開口部長軸2.72m、幅0.68m、深さ82cm、底面長軸2.84m、幅0.32m。
《平面形》　長楕円形である。
《断面形》　緩やかなU字形を呈する。
《埋　土》　18層に分層した。人為的堆積と思われる。
《底　面》　やや凹凸があるが、中華鍋底状に中央部が深くなっている。
《遺　物》　遺物は出土しなかった。
《時　期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＫＴ　966　Ｔ－ｐｉｔ（第287図）
《位　置》　ＮＣ46・47、ＮＤ46・47グリッドに位置する。
《確　認》　暗褐色土の溝状落ち込みとして確認した。
《重　複》　なし。
《規　模》　開口部長軸2.42m、幅0.98m、深さ106cm、底面長軸2.38m、幅0.38m。
《平面形》　長楕円形である。
《断面形》　緩やかなU字形を呈する。
《埋　土》　16層に分層した。自然堆積か人為的堆積か不明。
《底　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《遺　物》　遺物は出土しなかった。
《時　期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＫＴ　1016　Ｔ－ｐｉｔ（第287図）
《位　置》　ＭＫ53・54グリッドに位置する。
《確　認》　暗褐色土の溝状落ち込みとして確認した。
《重　複》　ＳＩ609竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本Ｔ－ｐｉｔが新しい。
《規　模》　開口部長軸1.26m、幅0.6m、深さ48cm、底面長軸1.28m、幅0.34m。
《平面形》　隅丸長方形である。
《断面形》　U字形を呈するが、開口部がやや狭くなっている。
《埋　土》　土層断面を作成できなかったため、詳細は不明である。
《底　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。長軸線に沿って２カ所、ピット状の窪みを確認したが、逆茂木の痕跡と考えられる。
《遺　物》　遺物は出土しなかった。
《時　期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

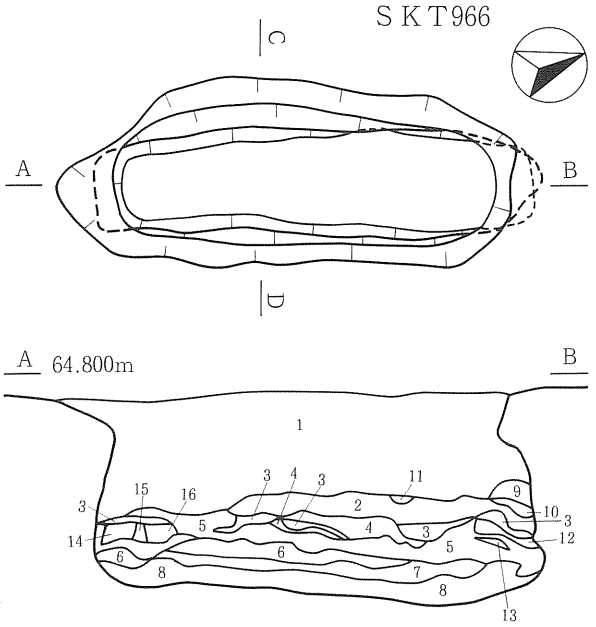


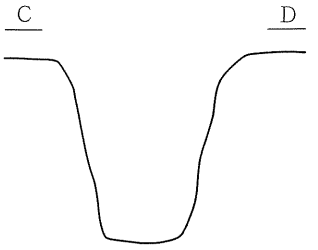


【ＳＫＴ　750】
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山小ブロック混入。しまり強い。
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／3) 地山小ブロック多量混入。しまりやや弱い。
3　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山小ブロック・炭化物混入。しまりやや強い。
4　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／2) 炭化物混入。しまり弱い。
5　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3／4) 地山粒多量混入。しまりやや強い。
6　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ4／3) 地山ブロック多量混入。
7　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／4) 炭化物微量混入。しまり強い。
8　黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／8) 焼土微量混入。しまりやや弱い。
9　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3／4) 地山粒・地山小ブロック混入。しまり、粘性共強い。
10　褐色土(10Ｙ Ｒ4／6) 炭化物・焼土微量混入。固くしまっている。
11　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／6) 地山ブロック。
12　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／6) 炭化物微量混入。固くしまっている。
13　黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／6) 地山ブロック・礫混入。ややしまり弱い。
14　褐色土(10Ｙ Ｒ4／4) しまりゆるく、粘性やや強い。
15　にぶい黄褐色土(10Ｙ Ｒ4／3) 地山小ブロック多量混入。ややしまり弱い。
16　黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／6) ややしまり強い。
17　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／6) 炭化物微量・細礫混入。しまり強い。
18　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3／4) 地山粒・焼土少量混入。ややしまり強い。

ＳＫＴ750

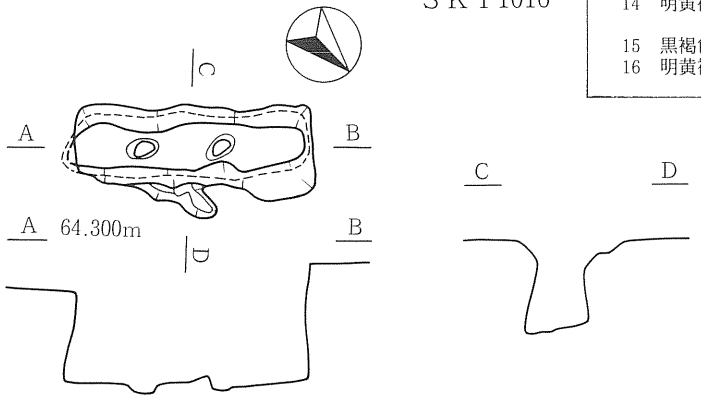
ＳＫＴ966

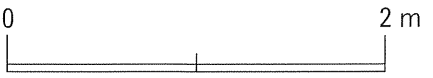




【ＳＫＴ　966】
1　赤褐色土(2.5Ｙ Ｒ1.7／1) しまりやや強く、粘性やや弱い。
2　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ7／6) 地山再堆積土。しまり、粘性共やや強い。
3　にぶい黄橙色土(10Ｙ Ｒ6／4) 黒色土斑に混入。しまり、粘性共にやや強い。
4　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山粒斑に混入。
5　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／1) 地山細粒多量に混入。
6　暗オリーブ褐色土(2.5Ｙ3／3) 地山細粒5以上に多量混入。
7　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3) 黒色土微量混入。
8　黄橙土(10Ｙ Ｒ7／8) 黒褐色土斑状に混入。しまり、粘性共に弱い。
9　黒色土(10Ｙ Ｒ1.7／1) しまり弱く、粘性やや弱い。
10　オリーブ黒色土(5Ｙ2／2) 地山粒微量混入。しまりやや弱く、粘性弱い。
11　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／8) 黒色土斑状に混入。しまり、粘性共弱い。
12　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／8) 黒色土斑状に混入(11より多く混入)。しまり、粘性共に弱い。
13　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／8) 11に同じ。
14　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／8) しまりやや弱く、粘性弱い。地山再堆積
15　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／1) 地山粒混入。しまり、粘性共に弱い。
16　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／6) 地山層

ＳＫＴ1016





第287図　SKT 750・SKT 966・SKT 1016土坑

土器埋設遺構

土器埋設遺構は９基検出した。全容が確認できた土器埋設遺構は３基のみで、６基は黒土不法採取のため上部を削平されていた。埋設した土器は円筒土器様式の土器がほとんどであるが、１基のみ大木式土器様式の土器であった。また、円筒土器様式の１基が土器の上部を偏平な礫（河原石）で覆っていた。

ＳＲ　103　土器埋設遺構（第288図）

《位　置》　ＮＬ59グリッドに位置する。

《確　認》　黒土不法採取のため上部を削平されていたが、円形ピット中にやや傾斜しながらも正立していたのを確認した。

《重　複》　なし。

《掘り方規模》　開口部20×19㎝、底面部13×12㎝、深さ17㎝。

《土　器》　底径10㎝、高さ14㎝の、上半を欠失する深鉢形土器底部および同一個体のものと思われる口縁部破片。（整理中に深鉢形土器の底部が行方不明となり、未実測）

《埋　土》　締まりのない暗褐色土。

《土器内遺物》　なし。

《時　期》　同一個体のものと思われる口縁部破片と胴部破片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＲ　433　土器埋設遺構（第288図）

《位　置》　ＭＳ57グリッドに位置する。

《確　認》　黒土不法採取のため上部を削平されていたが、円形ピット中に正立していたのを確認した。

《重　複》　なし。

《掘り方規模》　開口部30×22㎝、底面部24×21㎝、深さ15㎝。

《土　器》　底径16㎝、高さ15㎝の、土器の上半を欠失する深鉢形土器底部破片。

《埋　土》　土器内と掘り方を３層に分層した。掘り方の埋土には炭化物が混入する。

《土器内遺物》　なし。

《時　期》　縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＲ　434　土器埋設遺構（第288図）

《位　置》　ＮＢ56グリッドに位置する。

《確　認》　黒土不法採取のため上部を削平されていたが、円形ピット中に正立していたのを確認された。

《重　複》　なし。

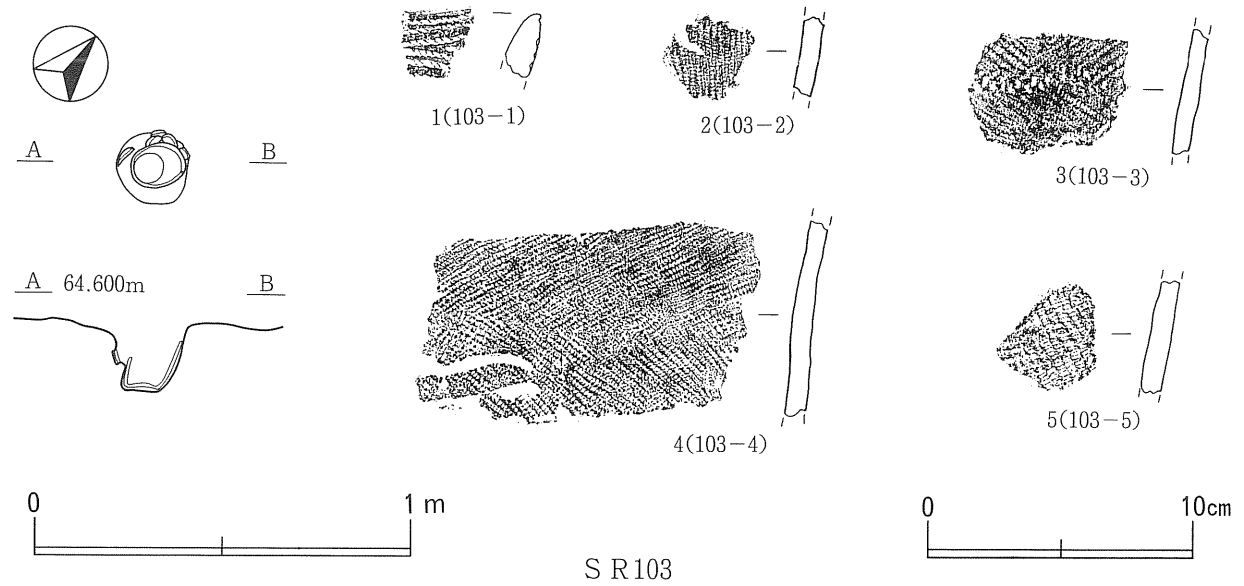
《掘り方規模》　開口部22×21㎝、底面部23×22㎝、深さ12㎝。

《土　器》　底径16㎝、高さ11㎝の土器の上半を欠失する深鉢形土器底部破片。（整理中に深鉢形土器の底部が行方不明となり、未実測）

《埋　土》　土器内と掘り方を２層に分層した。土器内の埋土に炭化物が混入する。

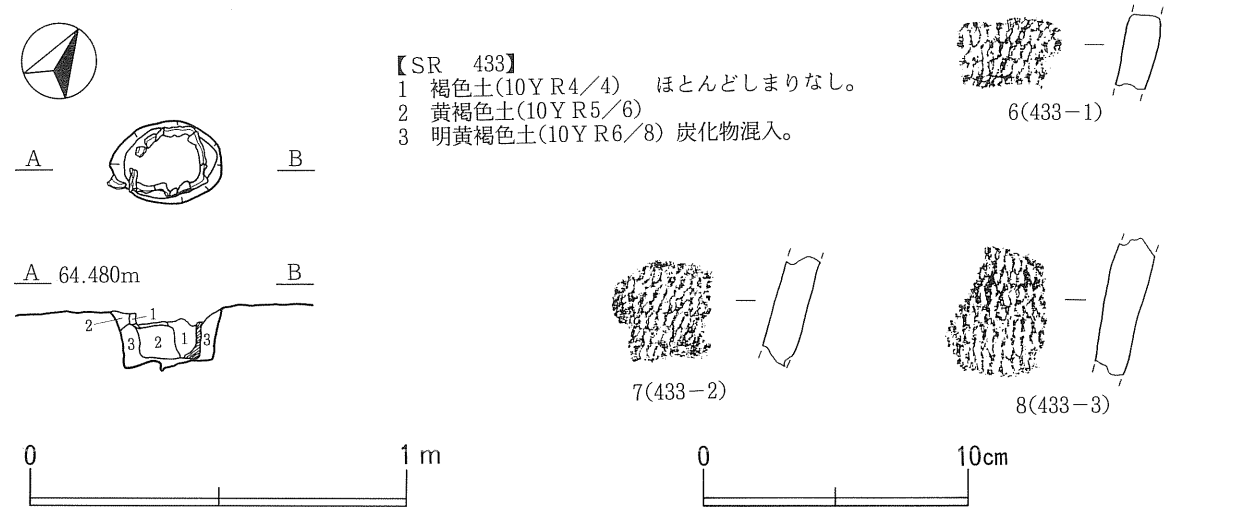
《土器内遺物》　なし。

《時　期》　現場で撮影された写真から縄文時代前期後葉と思われる。

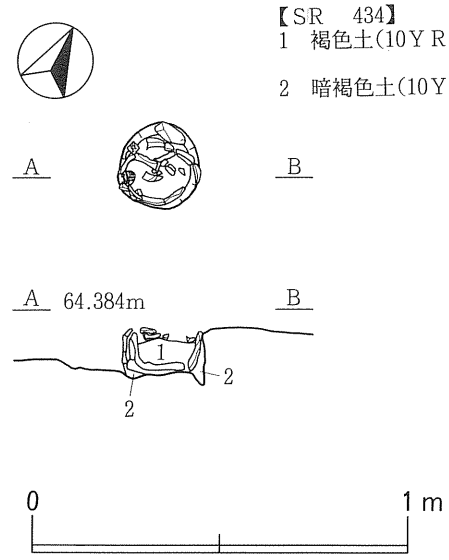


S R103

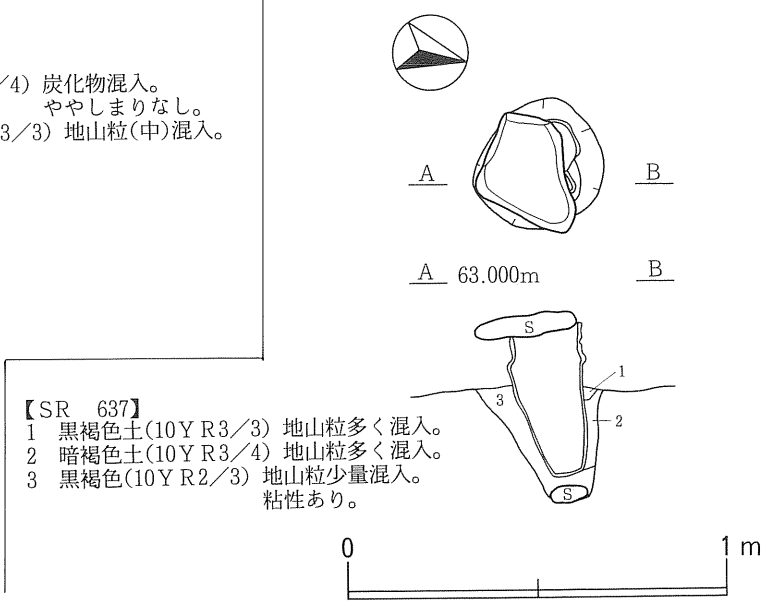
S R433



S R434



S R637



第288図　SR 103・SR 433・SR 434・SR 637 土器埋設遺構

ＳＲ　513　土器埋設遺構（第289図）

《位　置》　ＭＭ43グリッドに位置する。

《確　認》　ＳＴ504谷の捨て場中に谷尻側にやや傾斜しながら正立していたのを確認した。

《重　複》　なし。

《掘り方規模》　開口部51×44㎝、底面部20×21㎝、深さ71㎝。

《土　器》　口径38.8㎝、高さ67.5㎝、底径14.4㎝の完形の深鉢形土器。底辺部に貫通孔が３カ所。

《埋　土》　残留脂肪酸分析用の試料採取のため分層しなかった。

《土器内遺物》　なし。

《時　期》　縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＲ　637　土器埋設遺構（第288図）

《位　置》　ＭＩ62グリッドに位置する。

《確　認》　ＳＴ639谷の埋土中に偏平な礫の下位にやや傾斜しながらも正立していたのを確認した。

《重　複》　なし。

《掘り方規模》　開口部36×34㎝、底面部15×12㎝、深さ32㎝（礫の上面からの深さは44㎝）。

《土　器》　口径25㎝、高さ39㎝、底径10㎝。（整理中に接合した土器が行方不明となり、未実測である。計測値はいずれも現場での実測図と写真からの推定）

《埋　土》　土器内と掘り方を４層に分層した。

《土器内遺物》　なし。掘り方底面に偏平な礫が１個置かれていた。

《時　期》　いずれも現場での実測図と写真から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＲ　641　土器埋設遺構（第290図）

《位　置》　ＭＭ56グリッドに位置する。

《確　認》　黒土不法採取のため上部を削平されていたが、円形ピット中にやや傾斜しながらも正立していたのを確認した。

《重　複》　なし。

《掘り方規模》　開口部33×28㎝、底面部20×18㎝、深さ9㎝。

《土　器》　底径16.4㎝、高さ12.6㎝の、土器の上半を欠失する深鉢形土器底部。

《埋　土》　不明。

《土器内遺物》　なし。

《時　期》　縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＲ　749　土器埋設遺構（第290図）

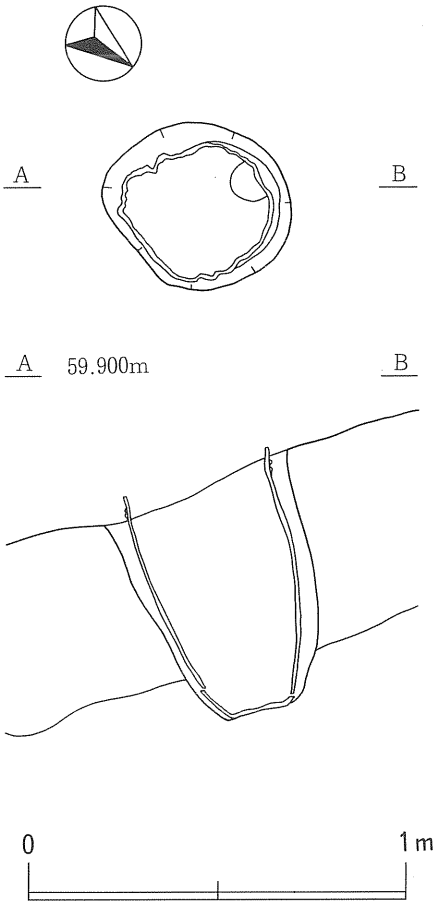
《位　置》　ＭＥ68グリッドに位置する。

《確　認》　ＳＩ 744 竪穴住居跡の埋土中にやや傾斜しながらも正立していたのを確認した。

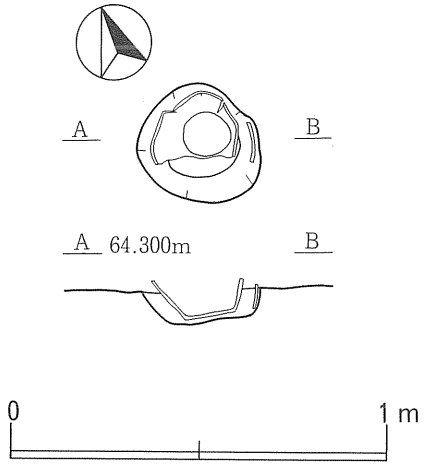
《重　複》　ＳＩ 744 竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本土器埋設遺構が新しい。

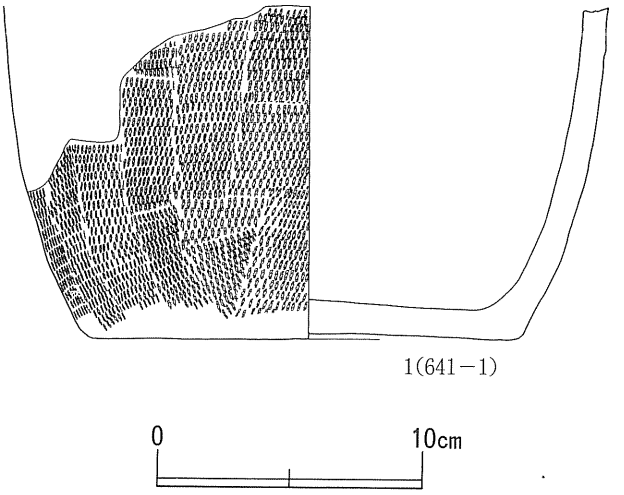
《掘り方規模》　開口部38×32㎝、底面部20×18㎝、深さ98㎝。

《土　器》　土器の上半と底部を欠失する深鉢形土器で現高33㎝。（整理中に接合した土器が行方不明とな



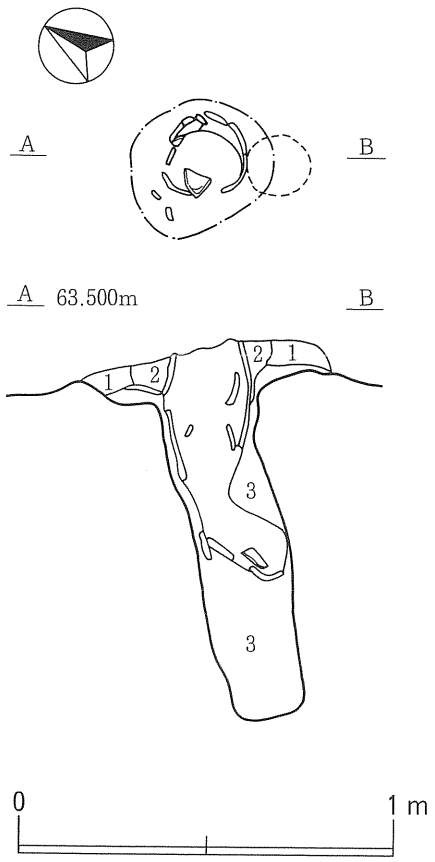
第289図　SR 513 土器埋設遺構

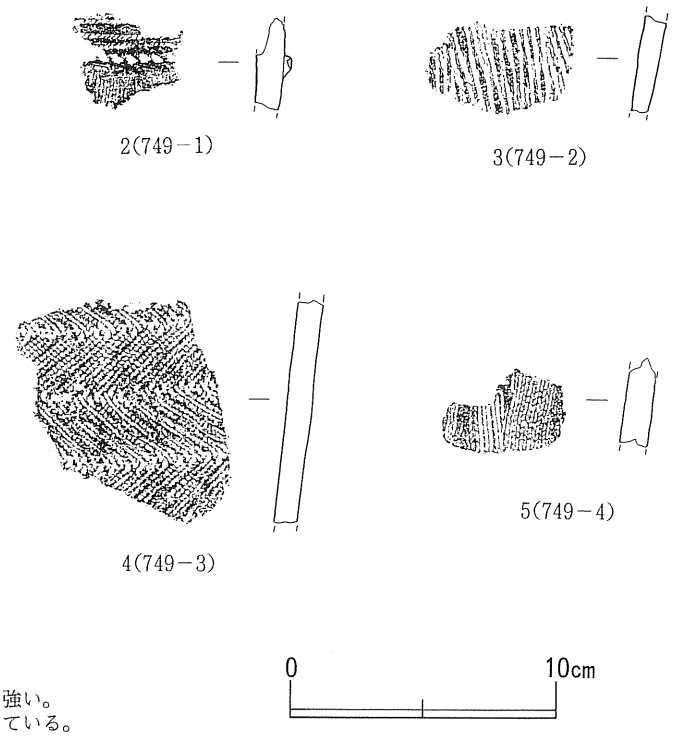




S R641

S R749





【SR　749】
1　暗褐色土(10Y R3／3) 炭化物微量混入。しまりやや強い。
2　黒褐色土(10Y R3／2) 地山粒少量混入。パサパサしている。
3　暗褐色土(10Y R3／4) 地山小ブロック多量混入。しまりやや弱く粘性なし。
※　土器内については、褐色(10Y R4／6) 地山小ブロック混入。非常にゆるく、パサパサしている。

第290図　SR 641・SR 749 土器埋設遺構

り、未実測）

《埋　土》　土器内と掘り方を４層に分層した。

《土器内遺物》　なし。

《時　期》　同一個体でありながら接合できなかった土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＲ　800　土器埋設遺構（第291図）

《位　置》　ＭＱ58グリッドに位置する。

《確　認》　黒土不法採取のため上部を削平されていたが、円形ピット中に正立していたのを確認した。

《重　複》　なし。

《掘り方規模》　開口部22×21㎝、底面部25×20㎝、深さ７㎝。

《土　器》　底径12㎝、現高10㎝の、土器の上半を欠失する深鉢形土器底部。

《埋　土》　不明。

《土器内遺物》　なし。

《時　期》　縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＲ　813　土器埋設遺構（第291図）

《位　置》　ＭＲ57グリッドに位置する。

《確　認》　黒土不法採取のため上部を削平されていたが、円形ピット中に傾斜しながらも正立していたのを確認した。

《重　複》　なし。

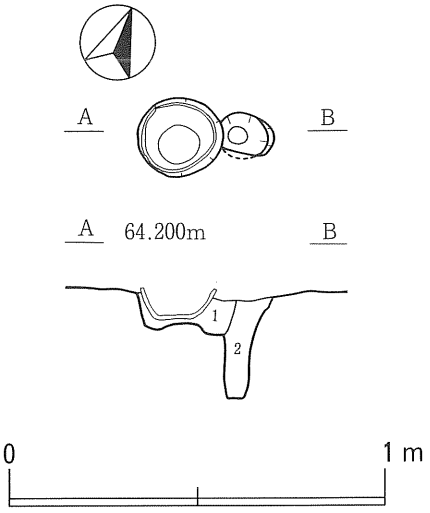
《掘り方規模》　開口部41×32㎝、底面部17×15㎝、深さ29㎝。

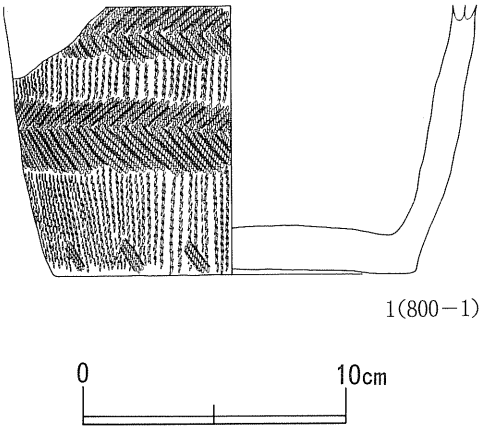
《土　器》　底径11㎝、現高11㎝の、深鉢形土器の上半と底部。（整理中に土器底部が行方不明となり、未実測）

《埋　土》　４層に分層した。

《土器内遺物》　同一個体の破片が入っていた。

《時　期》　縄文時代前期後葉と思われる。



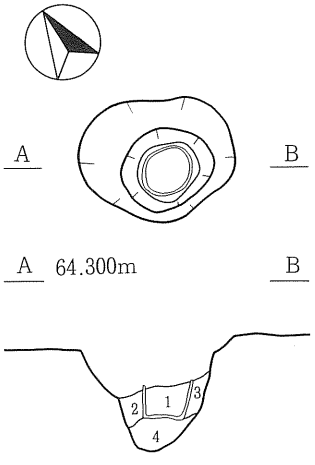


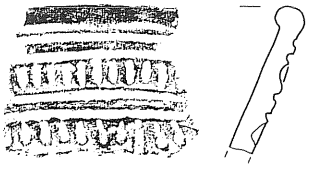
【SR 800】
1　黒色土(10Y R1.7／1) シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性共有り。
2　黒褐色土(10Y R2／2) シルト。地山粒やや多く混入。しまり、粘性共有り。

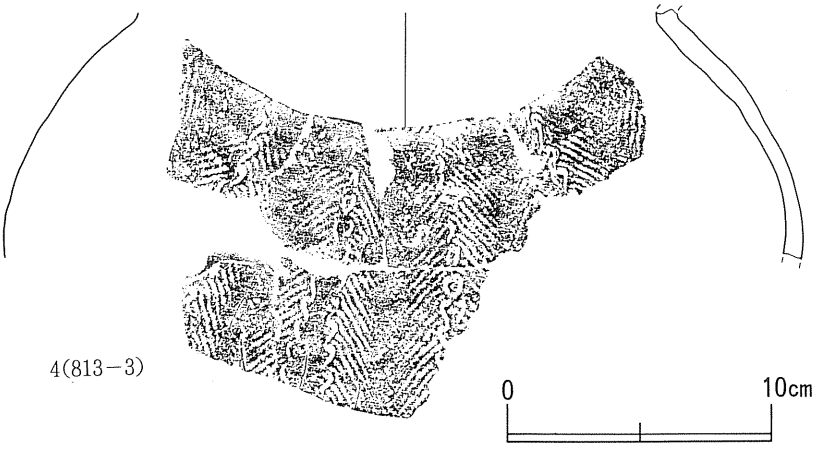
S R800

S R813

【SR 813】
1　黒褐色土(10Y R3／3) 地山粒10%、炭化物微量混入。しまり、粘性共普通。
2　暗褐色土(10Y R3／3) 地山粒微量混入。しまり、粘性共弱い。
3　褐色土(10Y R4／4) 地山粒10%混入。しまり、粘性共2よりさらに弱い。
4　地山と褐色土(10Y R4／6) 土が斑状に入っている。撹乱層。







第291図　SR 800・SR 813 土器埋設遺構

後期の土坑・フラスコ状土坑

後期の土坑とフラスコ状土坑は、ＳＴ 529谷の南側に北東側から舌状に張り出す狭い台地の先端部に検出した重複関係にある２基が考えられる。

ＳＫ　506　土坑（第294図、図版172）

《位　置》　ＭＨ38グリッドに位置する。

《確　認》　にぶい黄褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　複》　ＳＫＦ 507 フラスコ状土坑と重複している。新旧関係はフラスコ状土坑の埋没後に掘り込んでおり本土坑が新しい。

《規　模》　開口部長径1.31ｍ、短径1.22ｍ、深さ12㎝、底面長径1.23ｍ、短径1.05ｍ。

《平面形》　円形である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《埋　土》　２層に分層した。地山粒•塊が混入する。

《底　面》　締まりが弱いためやや凹凸がある。

《遺　物》　なし。

《時　期》　重複関係にあるＳＫＦ 507フラスコ状土坑から後期の土器が出土しているので、後期かそれ以降の時期と思われる。

ＳＫＦ　507　フラスコ状土坑（第294図）

《位　置》　ＭＨ38グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　複》　ＳＫ 506 土坑と重複している。新旧関係は本土坑が古い。

《規　模》　開口部長径2.04ｍ×短径1.82ｍ、深さ70㎝、坑底部長径2.13ｍ×短径2.02ｍ。

《平面形》　円形である。

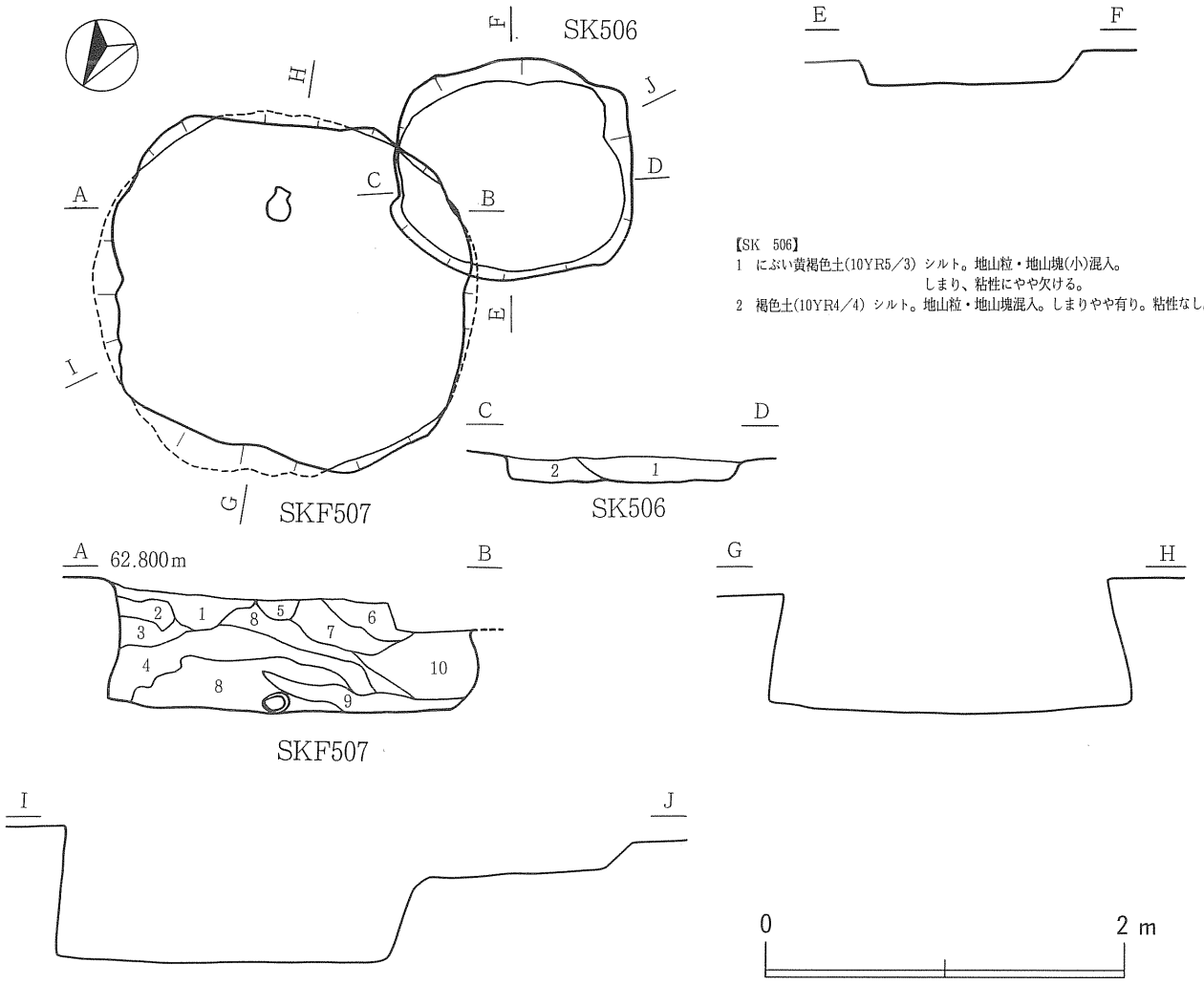
《断面形》　袋状を呈する。

《埋　土》　10層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《底　面》　ほぼ平坦である。

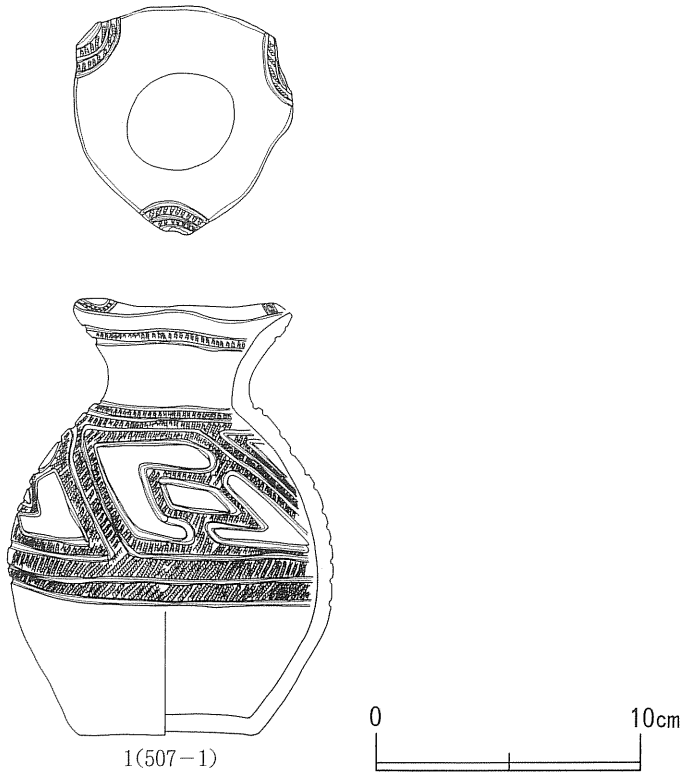
《遺　物》　底面の中央からやや南東寄りに壷形土器が1個体横倒して出土した。

《時　期》　出土した土器から縄文時代後期前葉と思われる。



【SK　506】
1　にぶい黄褐色土(10YR5／3)　シルト。地山粒・地山塊(小)混入。
　　しまり、粘性にやや欠ける。
2　褐色土(10YR4／4)　シルト。地山粒・地山塊混入。しまりやや有り。粘性なし。

【SKF　507】
1　黒褐色土(10YR2／3)　シルト。地山粒・地山塊(小)混入。しまり弱く、粘性なし。
2　褐色土(10YR4／4)　シルト。地山塊(大)・炭混入。しまり強く、粘性なし。
3　暗褐色土(10YR3／3)　シルト。地山粒・地山塊(小)混入。しまり・粘性やや有り。
4　暗褐色土(10YR3／4)　シルト。地山粒・地山塊多量混入。しまり有り、粘性なし。
5　暗褐色土(10YR3／4)　シルト。地山粒混入。しまりやや悪く、粘性なし。
6　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　シルト～粘土。地山粒多量混入。しまり、粘性若干有り。
7　にぶい黄橙色土(10YR6／4)　シルト～粘土。地山粒多量、炭少量混入。
　　しまりやや弱く、粘性若干有り。
8　明黄褐色土(10YR7／6)　シルト～粘土。地山粒多量混入。しまり強く、粘性有り。
9　暗褐色土(10YR3／3)　シルト。地山粒・地山塊混入。しまり強く、粘性有り。
10　明黄褐色土(10YR7／6)　粘土。しまり弱く、粘性若干有り。



第292図　SK 506 土坑・SKF 507 フラスコ状土坑とその出土遺物

第２節　続縄文時代の遺構と遺物

続縄文時代の遺構は、ＳＴ396•504谷とＳＴ639谷に挟まれた台地上、ＳＴ396•504谷寄りに検出した土坑１基のみである。

ＳＫ　620　土坑（第295図）

《位　置》　ＭＦ51グリッドに位置する。

《確　認》　黒色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　開口部長径1.36ｍ、短径1.32ｍ、深さ34㎝、底面長径1.00ｍ、短径0.94ｍ。

《平面形》　円形である。

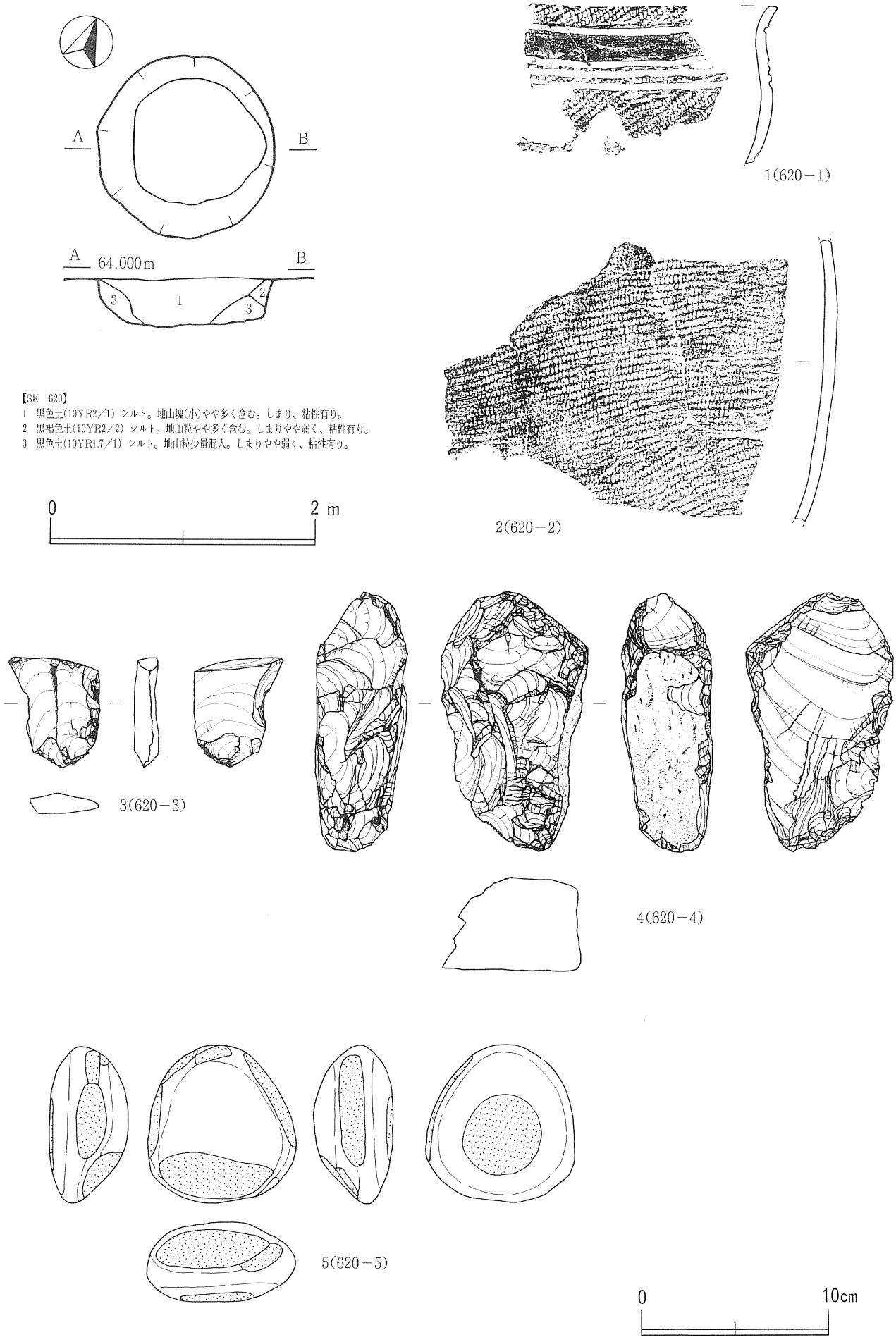
《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《埋　土》　３層に分層した。

《底　面》　やや凹凸がある。

《遺　物》　埋土中から土器片２点、剥離痕のある石器剥片１点、石器母岩１点、擦り石１点が出土した。

《時　期》　出土した土器片から続縄文時代と思われる。



【SK 620】
1　黒色土(10YR2／1) シルト。地山塊(小)やや多く含む。しまり、粘性有り。
2　黒褐色土(10YR2／2) シルト。地山粒やや多く含む。しまりやや弱く、粘性有り。
3　黒色土(10YR1.7／1) シルト。地山粒少量混入。しまりやや弱く、粘性有り。

第293図　SK 620 土坑とその出土遺物

第３節　古代の遺構とその出土遺物

古代の遺構は、竪穴住居跡32軒、土坑６基、焼土遺構９基である。竪穴住居跡は台地の北側縁辺部とＳＴ396•504谷とＳＴ 639谷に囲まれた平坦面の２つの区域に分布していた。土坑は台地の北東側に分布していた。

竪穴住居跡

ＳＩ　42　竪穴住居跡（第294図）

《位　　置》　ＮＧ62•63、ＮＨ62•63グリッドに位置する。

《確　　認》　床面近くまで黒土採取のために削平されていたが、方形の暗褐色土のプランとして確認した。

《重　　複》　北側で縄文時代のＳＫＦ 33フラスコ状土坑と重複していた。本住居跡が新しい。

《規模と平面形》　東西壁長4.04ｍ×南北壁長3.50ｍ、深さ7㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　７層に分層できた。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《かまど》　南側壁の中央からやや東寄り西寄りに構築されていた。遺存状況は不良で、燃焼部の火床面と支脚と思われる自然石を確認したのみである。

《柱　　穴》　壁下を巡る壁溝中と床面に９カ所検出したが、四隅と壁面に接して穿たれている柱穴が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　西側壁の南半分を除き壁下に検出したが、削平により消滅したもので、本来は一巡する。

《遺　　物》　埋土中から土師器甕の破片が出土した。１は胴部を篦削り、２はロクロ整形されている。

《構築時期》　平安時代と推定した。

ＳＩ　79　竪穴住居跡（第295図）

《位　　置》　ＮＧ58•59、ＮＨ58•59グリッドに位置する。

《確　　認》　床面近くまで黒土採取のために削平されており、床面とかまどからプランを確認した。

《重　　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長3.62ｍ×南北壁長3.66ｍ、深さ12㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　地山粒•塊を含む暗褐色土が堆積していた。

《　壁　》　北側と東側の壁を確認した。緩やかに外傾しながら立ち上がる。西側と南側の壁は削平されていた。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

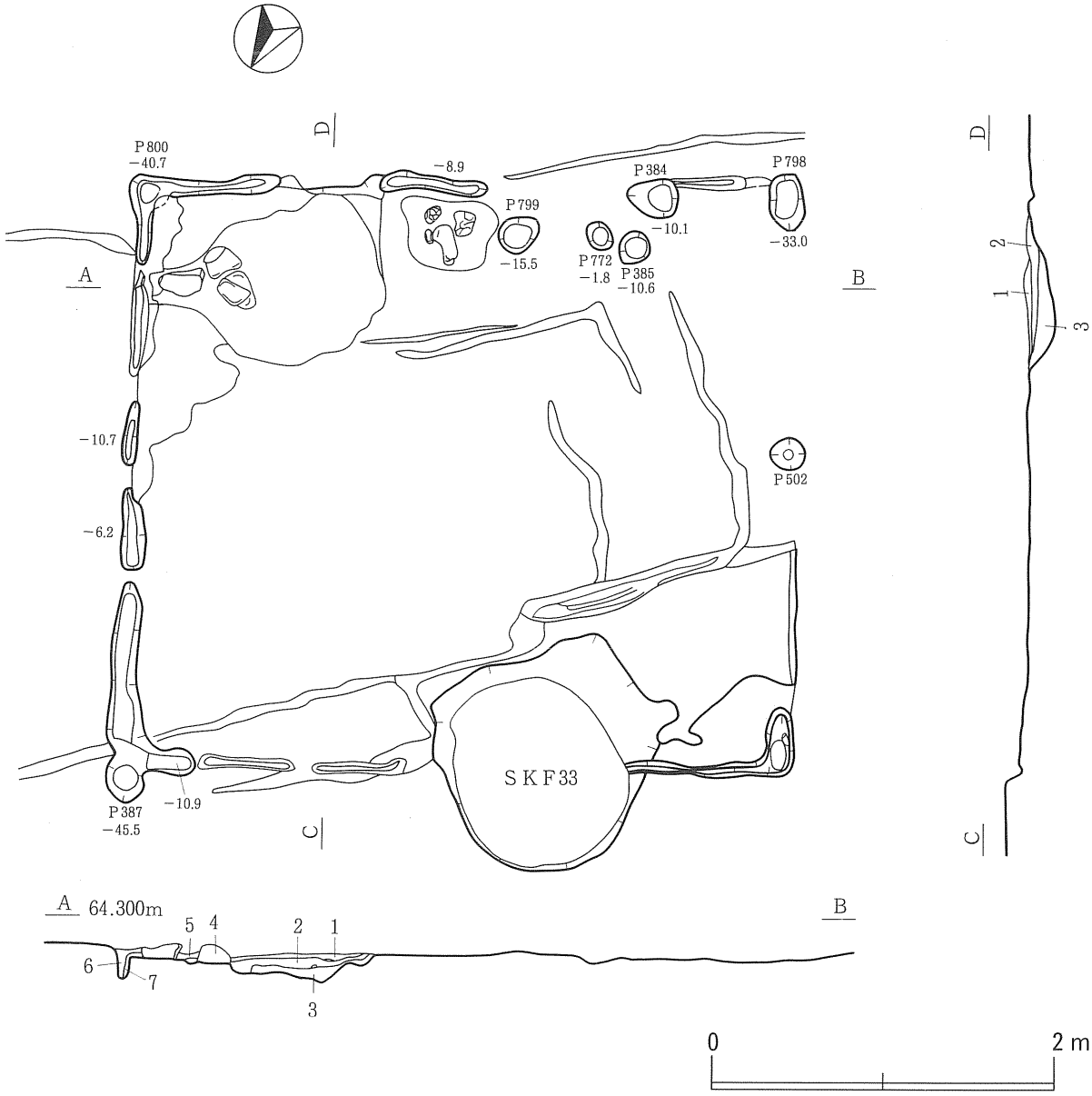
《かまど》　北側壁の東壁寄りに構築されていた。上部を削平されているが、両袖と燃焼部が確認できた。燃焼部から支脚として使用したと考えられる土師器甕の破片が出土した。

《柱　　穴》　床面と壁下に16カ所検出したが、主柱穴と思われるものは明確でない。

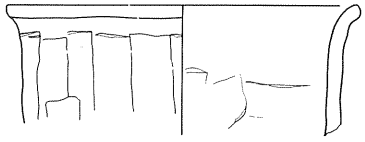
《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　土師器甕の破片がかまど中から出土した。埋土中からの出土なし。

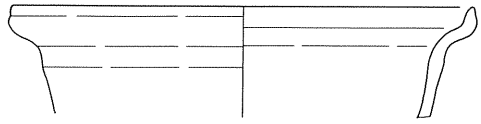
《構築時期》　かまどの形態から平安時代と推定した。



【SI　42】
1　明褐色土(10ＹＲ3／4)　地山粒・焼土多量混入。粘性しまり有り。
2　褐色土(7.5ＹＲ4／4)　焼土しまりあり。粘性なし。
3　明褐色土(7.5ＹＲ5／6)　しまりあり。
4　黒褐色土(10ＹＲ3／1)　地山(明黄褐色シルト)小〜中粒混入。
5　褐色土(7.5ＹＲ4／4)　焼土
6　暗褐色土(10ＹＲ3／4)　地山・焼土の極小〜極大粒多量混入。
7　褐色土(10ＹＲ4／4)　地山小〜中粒混入。ややしまり有り。



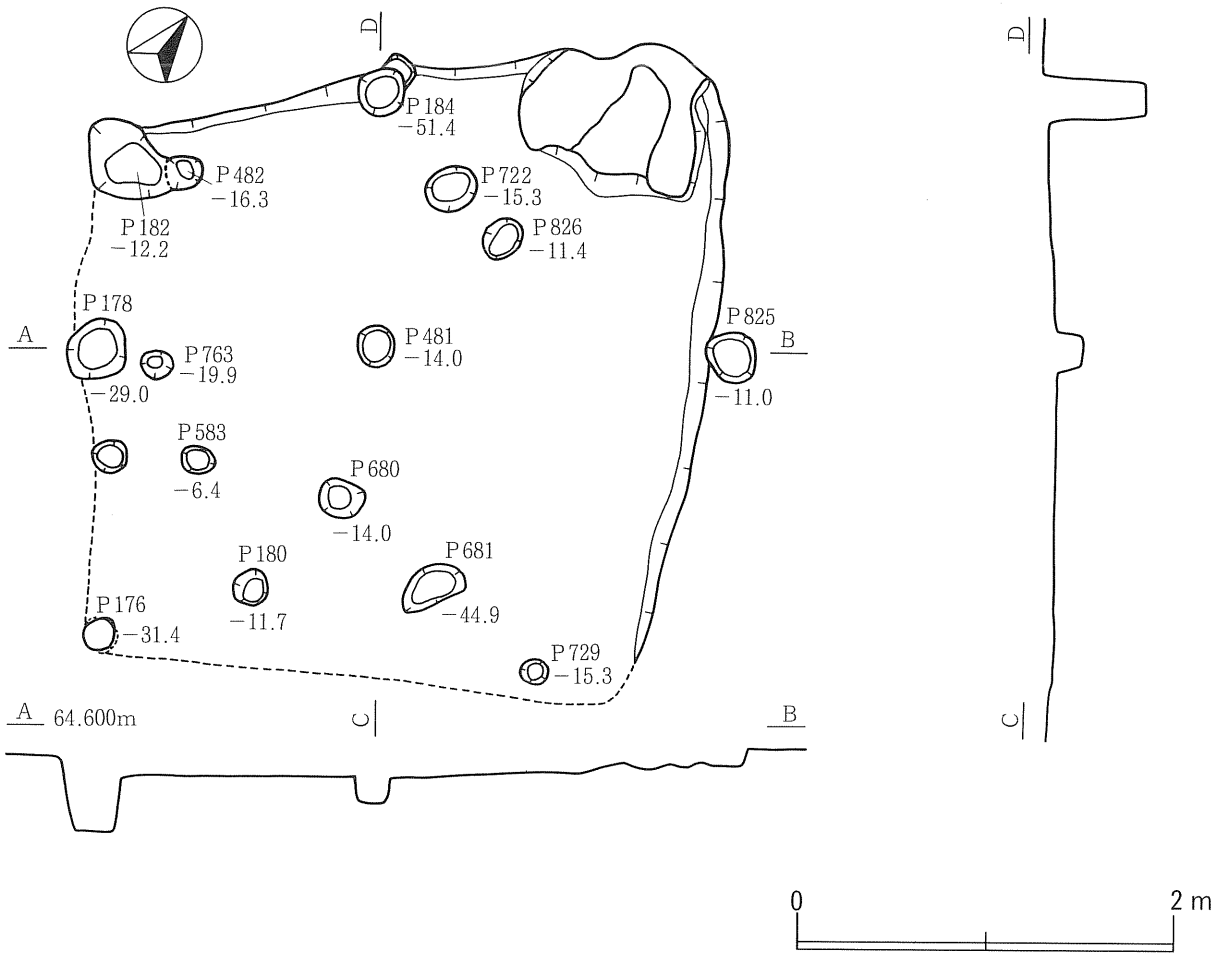
1(42−1)



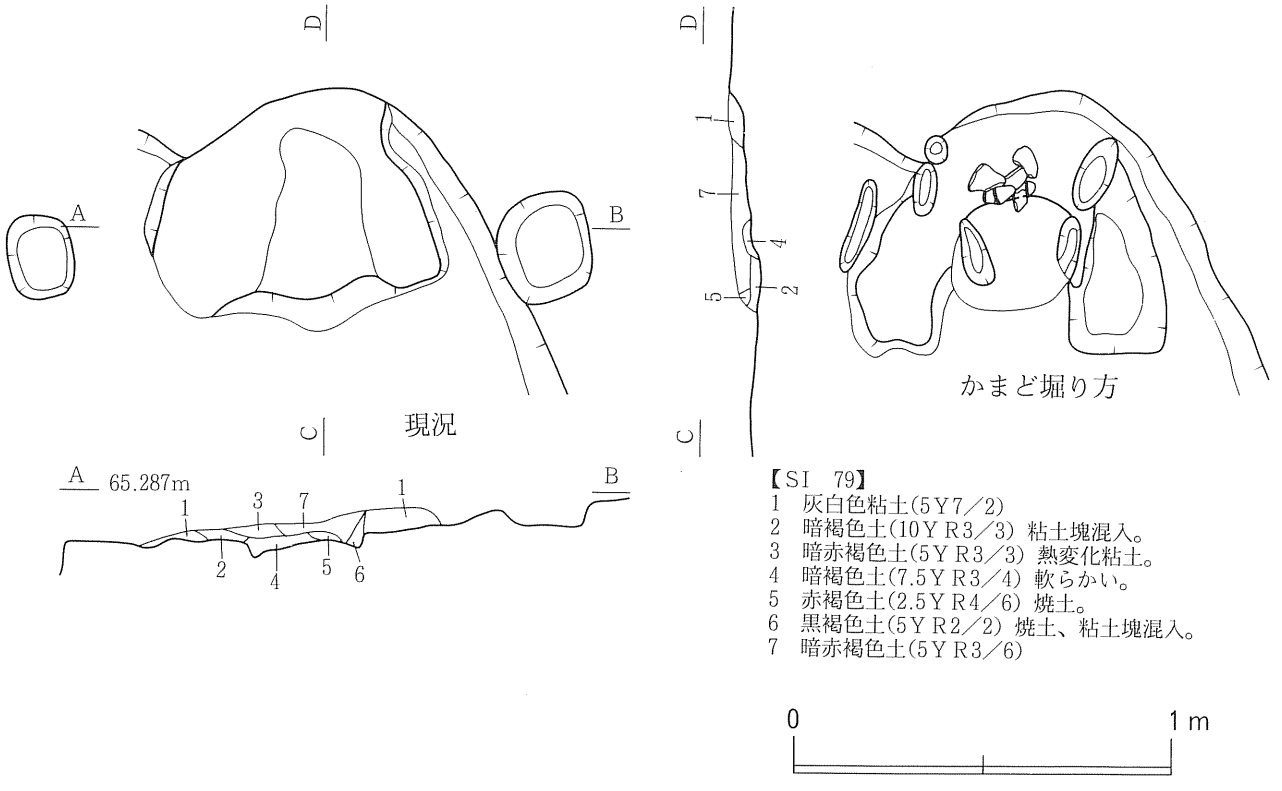
2(42−2)

0　10cm

第294図　SI 42 竪穴住居跡とその出土遺物



かまど



第295図　SI 79 竪穴住居跡・かまど

ＳＩ　100　竪穴住居跡（第296図・第297図）

《位　　置》　ＮＯ54•55、ＮＰ54•55グリッドに位置する。

《確　　認》　大湯浮石層が霜降り状に混入している黒色土の方形プランとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長3.88ｍ×南北壁長4.29ｍ、深さ10㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　９層に分層できた。自然堆積と思われる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《かまど》　南側壁の中央からやや西寄りに構築されていた。遺存状況は良好で両袖部、燃焼部が確認できた。右側袖部から芯材の角礫が１点出土した。煙道部は短く急角度で立ち上がる。

《柱　　穴》　壁下と床面に27カ所検出した。主柱穴は不明。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中から土師器の坏、甕、砥石が出土した。土師器坏（１）の底部には回転糸切り痕がある。堅く焼き締まった土師器甕（４）の底辺部には叩き目がある。

《構築時期》出土した土器とかまどの形態から平安時代と推定した。

ＳＩ　101　竪穴住居跡（第298図•第299図）

《位　　置》　ＮＴ50•51、ＯＡ50グリッドに位置する。

《確　　認》　大湯浮石層が霜降り状に混入している黒色土の方形プランとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長3.28ｍ×南北壁長2.80ｍ、深さ11㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　15層に分層できた。自然堆積と思われる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《かまど》　南側壁の東寄り隅に構築されていた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも確認できた。燃焼部に土師器坏を倒立させて支脚としていた。煙道部は短く急角度で立ち上がる。

《柱　　穴》　壁下を巡る壁溝中と床面に10カ所検出したが、壁溝中にある柱穴が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　かまど構築部分を除き壁下を一巡する。

《遺　　物》　かまど中と埋土中から土師器坏が出土した。土師器坏の底部には回転糸切り痕がある。

《構築時期》　大湯浮石層の堆積状況と出土した土器、かまどの形態から平安時代と推定した。

ＳＩ　104　竪穴住居跡（第300図～第303図）

《位　　置》　ＯＢ43•44、ＯＣ43•44グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の方形プランとして確認した。

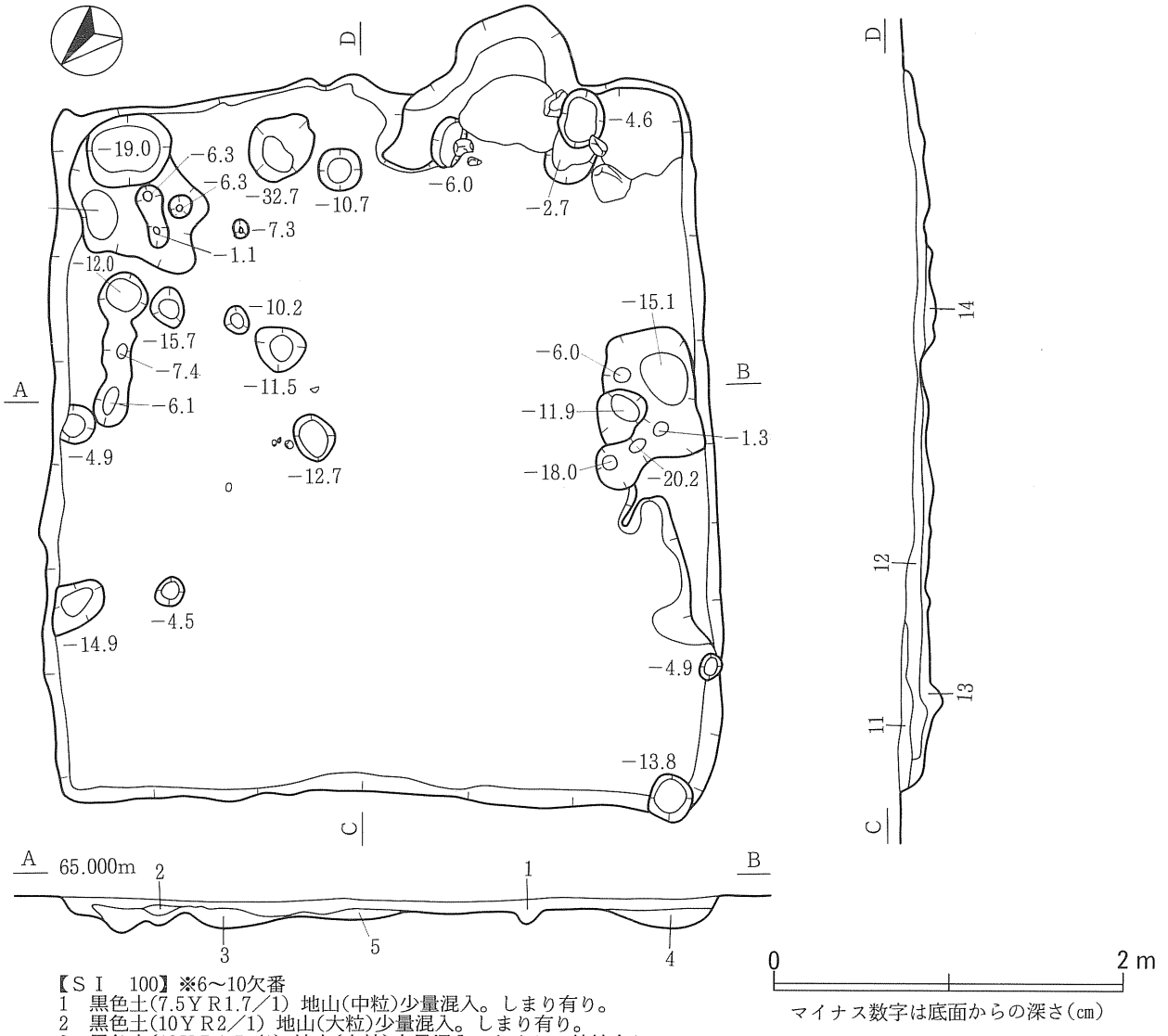
《重　　複》　ＳＩ 111竪穴住居跡を掘りこんで構築していた。

《規模と平面形》　東西壁長3.78ｍ×南北壁長3.97ｍ、深さ20㎝。方形を呈する。

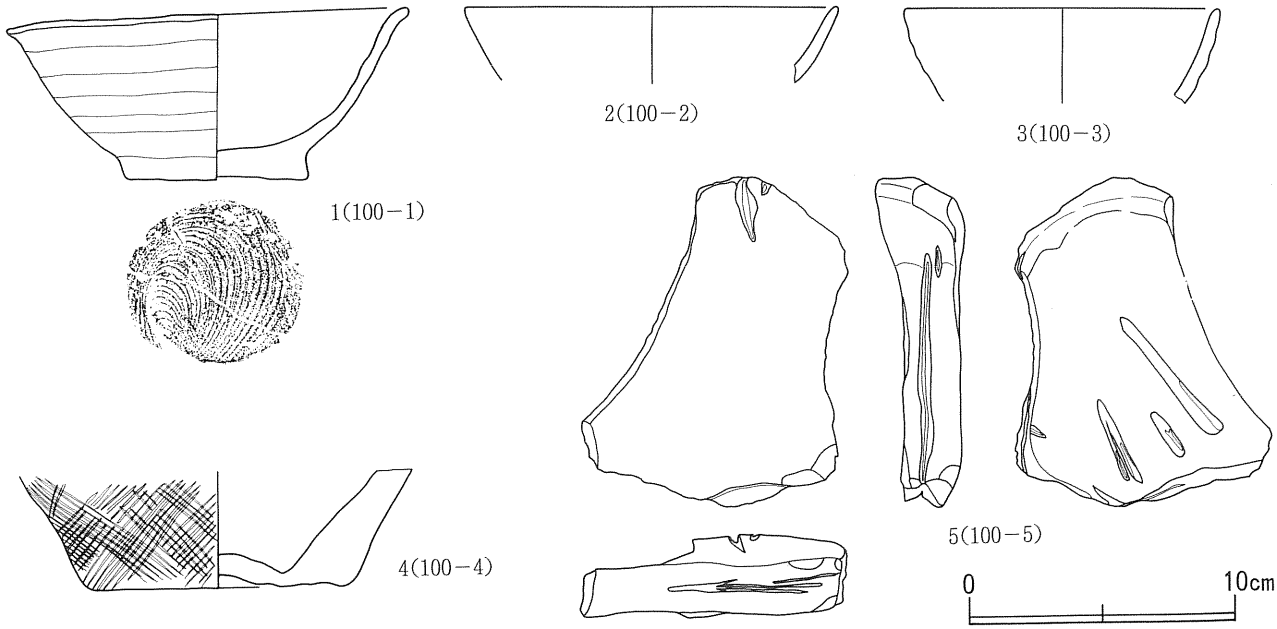
《埋　　土》　10層に分層できた。自然堆積と思われる。床面上に焼土が４カ所堆積していた。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

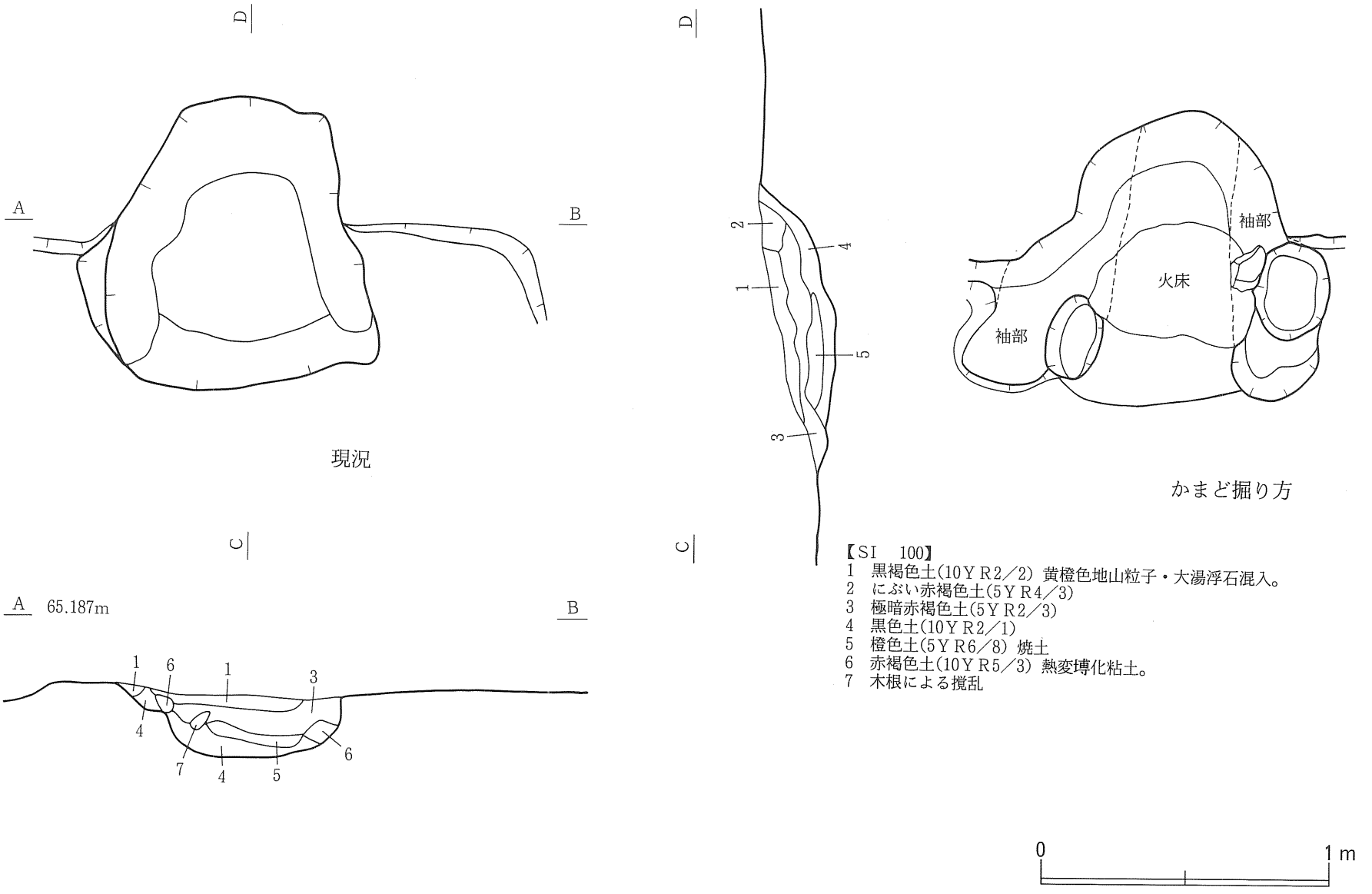
《床　　面》　やや凹凸がある。南側から北東隅側にＹ字状に溝状の落ち込みがあり貼床されていた。



【ＳＩ　100】※6～10欠番
1　黒色土(7.5ＹＲ1.7／1) 地山(中粒)少量混入。しまり有り。
2　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(大粒)少量混入。しまり有り。
3　黒色土(10ＹＲ1.7／1) 地山(大粒)中量混入。しまり、粘性有り。
4　黒色土(7.5ＹＲ2／1) 地山(大粒)中量混入。しまり、粘性有り。
5　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(大粒)中量混入。しまり、粘性有り。
11　黒色土(7.5ＹＲ2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
12　黒色土(10ＹＲ1.7／1) 地山(小粒)ごく少量混入。しまり有り。
13　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(小粒)中量混入。しまり、粘性有り。
14　黒褐色土(2.5Ｙ3／1) 地山(大粒)多量混入。しまり、粘性有り。

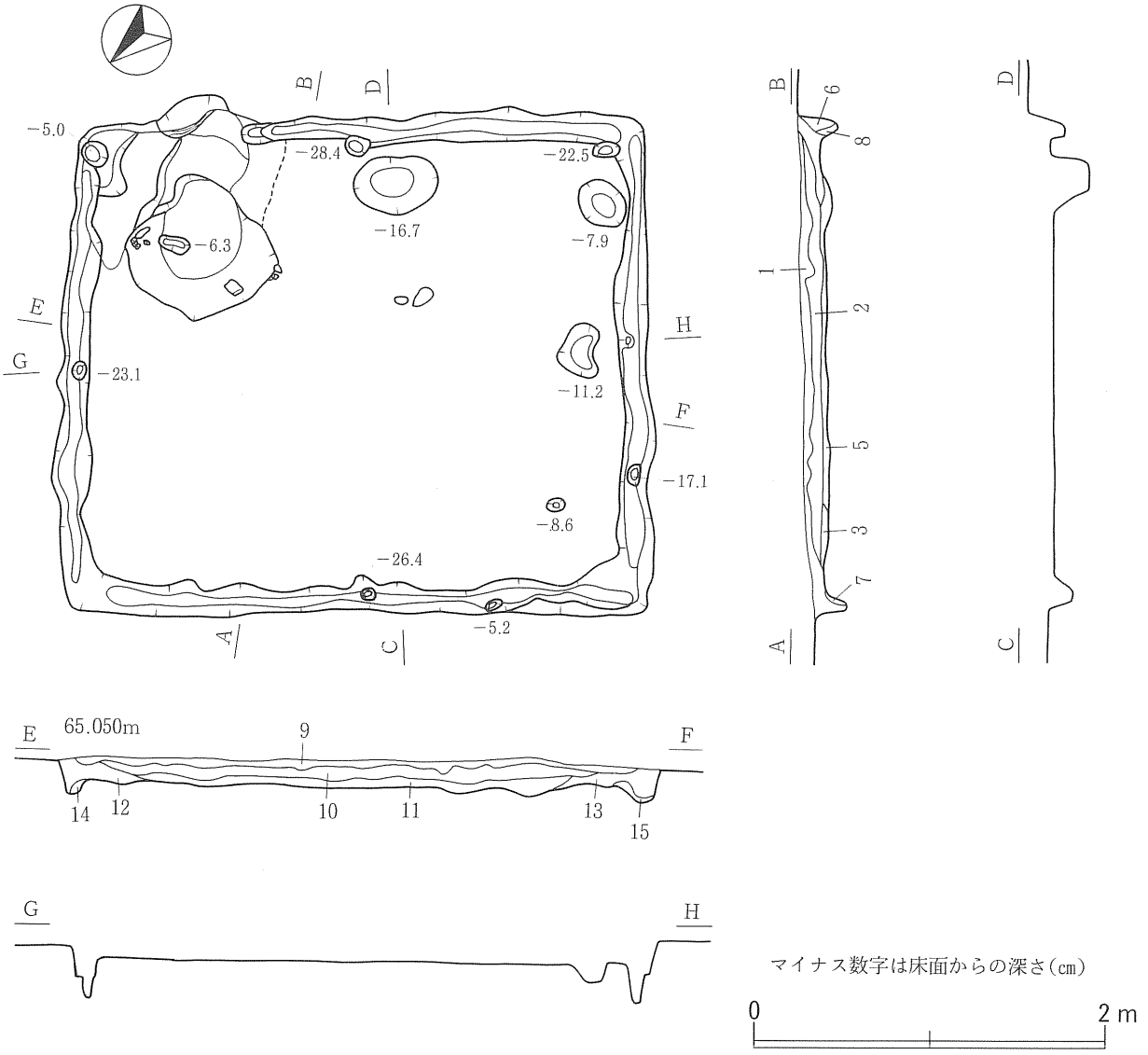


第296図　SI 100 竪穴住居跡とその出土遺物

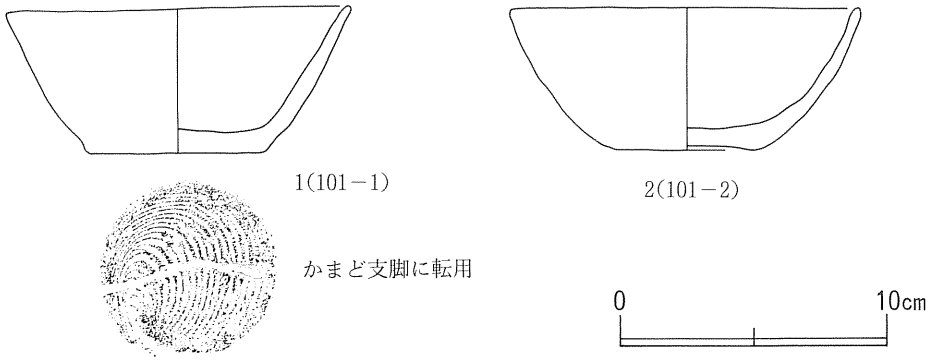


【SI　100】
1　黒褐色土(10YR2／2) 黄橙色地山粒子・大湯浮石混入。
2　にぶい赤褐色土(5YR4／3)
3　極暗赤褐色土(5YR2／3)
4　黒色土(10YR2／1)
5　橙色土(5YR6／8) 焼土
6　赤褐色土(10YR5／3) 熱変塼化粘土。
7　木根による撹乱

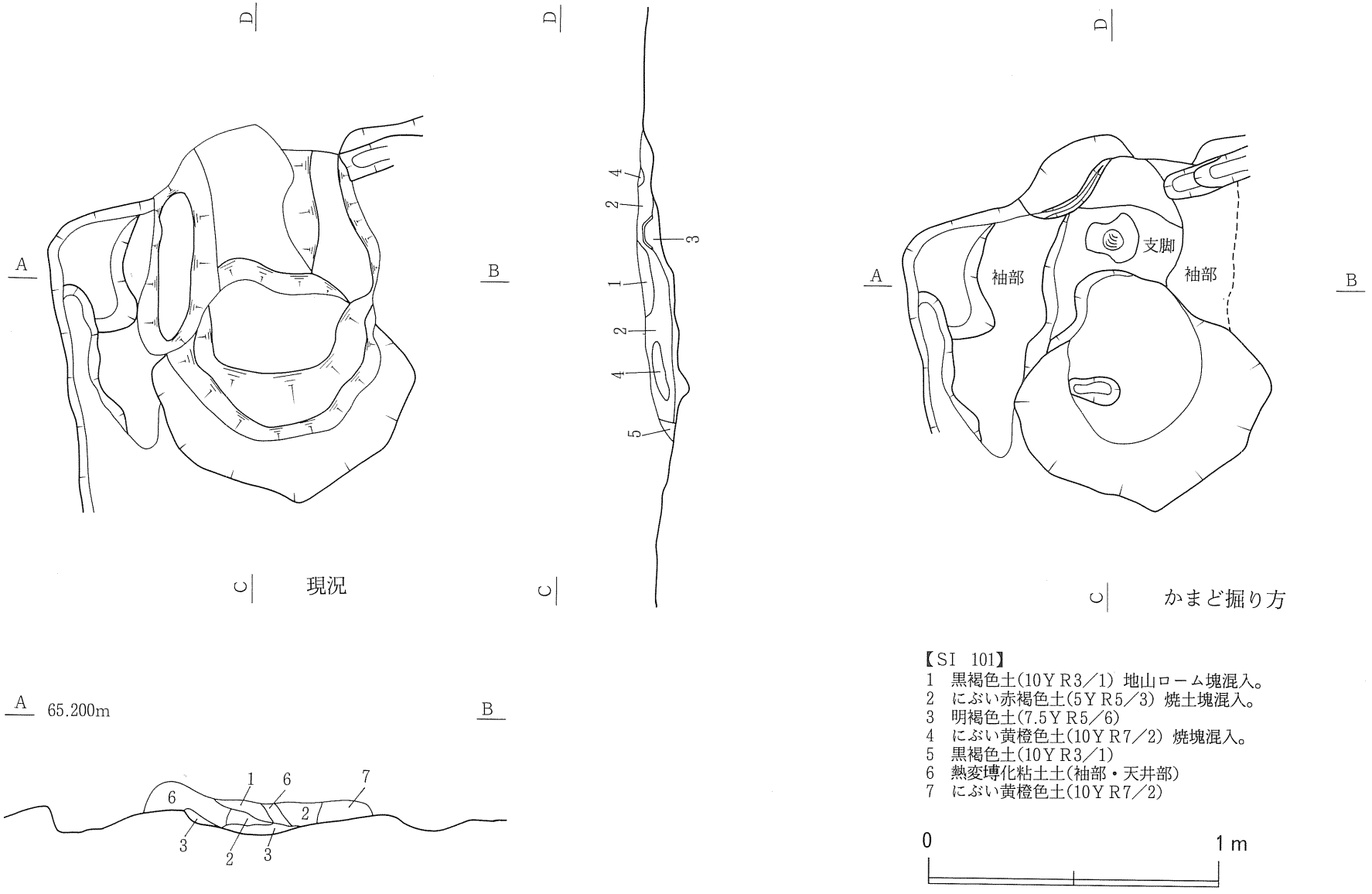
第297図　SI 100 竪穴住居跡かまど



【ＳＩ　101】
1　黒色土(7.5ＹＲ1.7／1) 地山(中粒)・浮石少量混入。ややしまり有り。
2　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3) 浮石層。しまり有り。
3　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
4　黒色土(10ＹＲ1.7／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
5　黒褐色土(2.5Ｙ3／2) 浮石(小粒)多量混入。しまり有り。
6　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。
7　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(中粒)ごく多量混入。ややしまり有り。
8　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(中粒)少量混入。ややしまり有り。
9　1と同じ。
10　2と同じ。
11　5と同じ。
12　黒色土(7.5ＹＲ1.7／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
13　黒色土(7.5ＹＲ1.7／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
14　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(大粒)中量混入。
15　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(大粒)ごく多量混入。しまり有り。

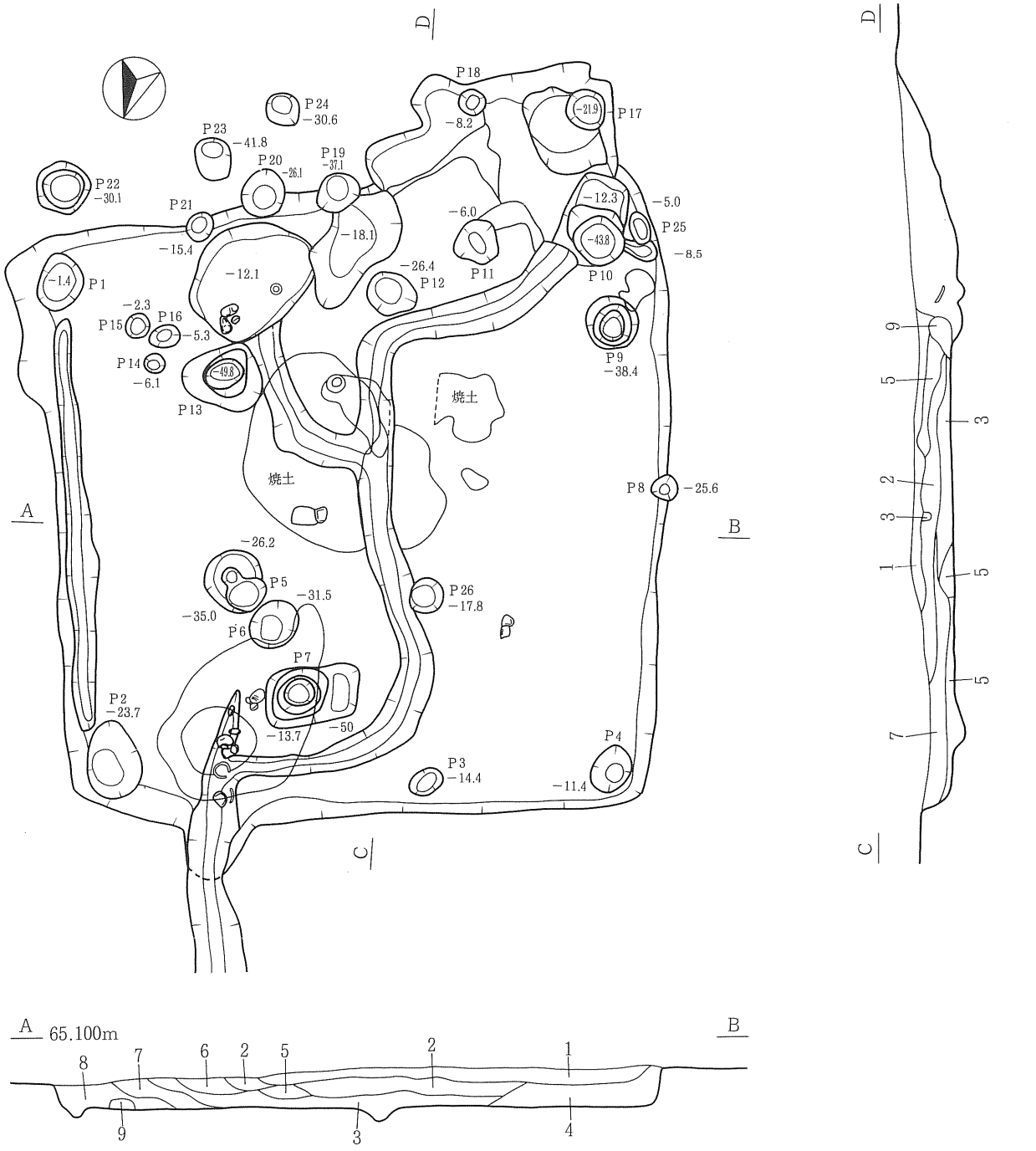


第298図　SI 101 竪穴住居跡とその出土遺物



【SI 101】
1　黒褐色土(10YR3／1) 地山ローム塊混入。
2　にぶい赤褐色土(5YR5／3) 焼土塊混入。
3　明褐色土(7.5YR5／6)
4　にぶい黄橙色土(10YR7／2) 焼塊混入。
5　黒褐色土(10YR3／1)
6　熱変博化粘土土(袖部・天井部)
7　にぶい黄橙色土(10YR7／2)

第299図　SI 101 竪穴住居跡かまど

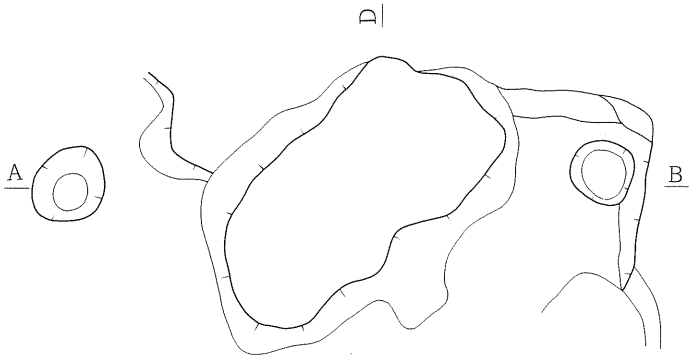


【ＳＩ　104】
1　黒褐色土(10ＹＲ2／2)
2　黒褐色土(10ＹＲ2／3) 灰白色粘土塊、黄橙色ローム粒・塊混入。
3　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 黄橙色ローム粒・塊混入。
4　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 明赤褐色ローム塊混入。
5　灰白色土(10ＹＲ8／1) 灰白色粘土。
6　黒褐色土(10ＹＲ3／1) 黄橙色ローム粒混入。
7　黒褐色土(10ＹＲ3／1) 6よりローム塊多く、大きい。
8　黒色土(10ＹＲ1.7／1) 黄橙色ローム粒混入。
9　黄橙色土ローム塊
10　地山ローム貼床(厚さ１cm)

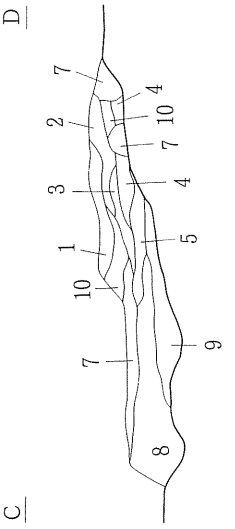
0　2m

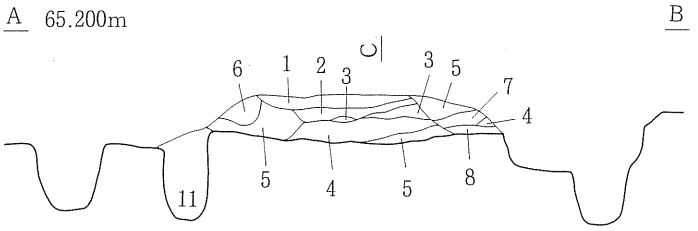
マイナス数字は床面からの深さ(cm)

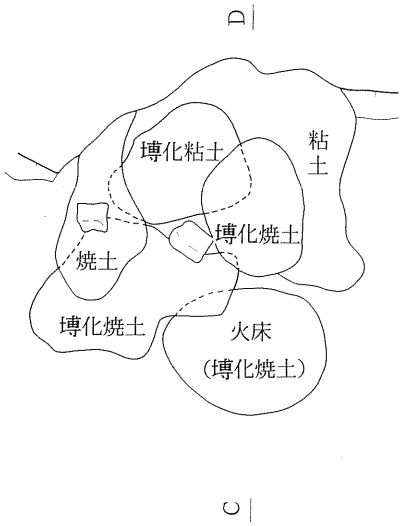
第300図　SI 104・SI 111 竪穴住居跡

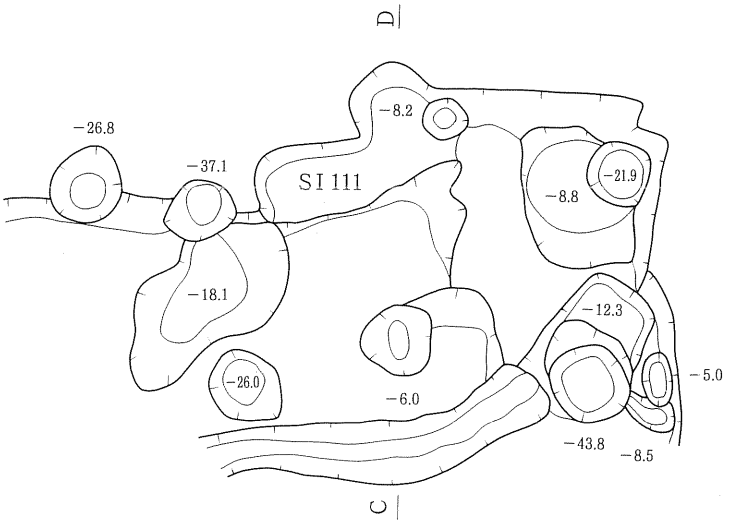


現況









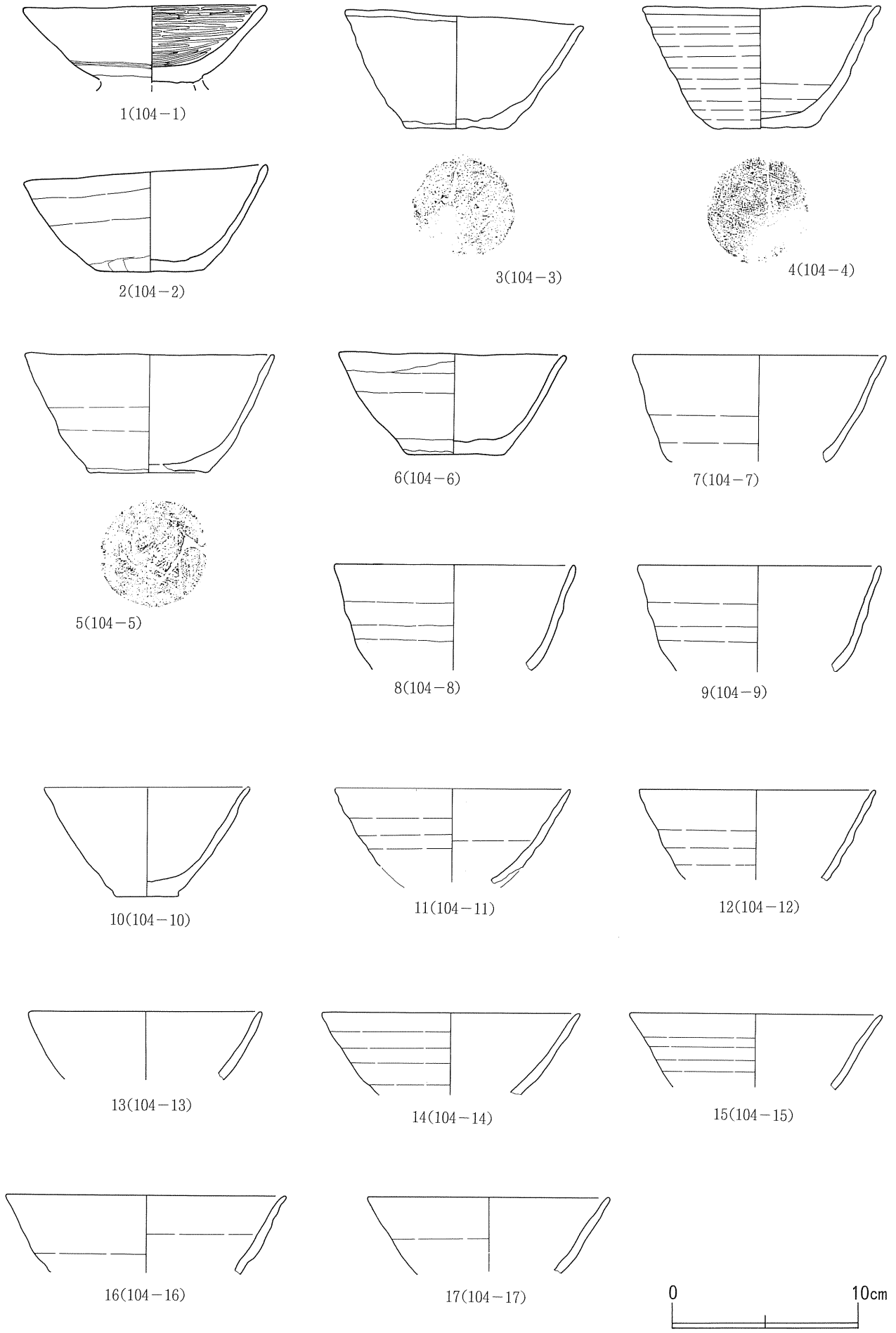
【SI　104】
1　にぶい橙色土(7.5Y R7／3) 粘土。
2　橙色土(5Y R6／6)
3　焼土(塼化) (S I 111)
4　黒褐色土(7.5Y R3／1)
5　暗赤褐色土(5Y R3／3)
6　黄橙色土(10Y R8／6) 砂質。
7　にぶい黄橙色土(10Y R7／3)
8　黒褐色土(10Y R3／1) 明黄褐色地山塊混入。
9　灰赤色土(2.5Y R4／2)
10　にぶい褐色土(7.5Y R5／3)
11　黒褐色土(10Y R3／1)

かまど掘り方

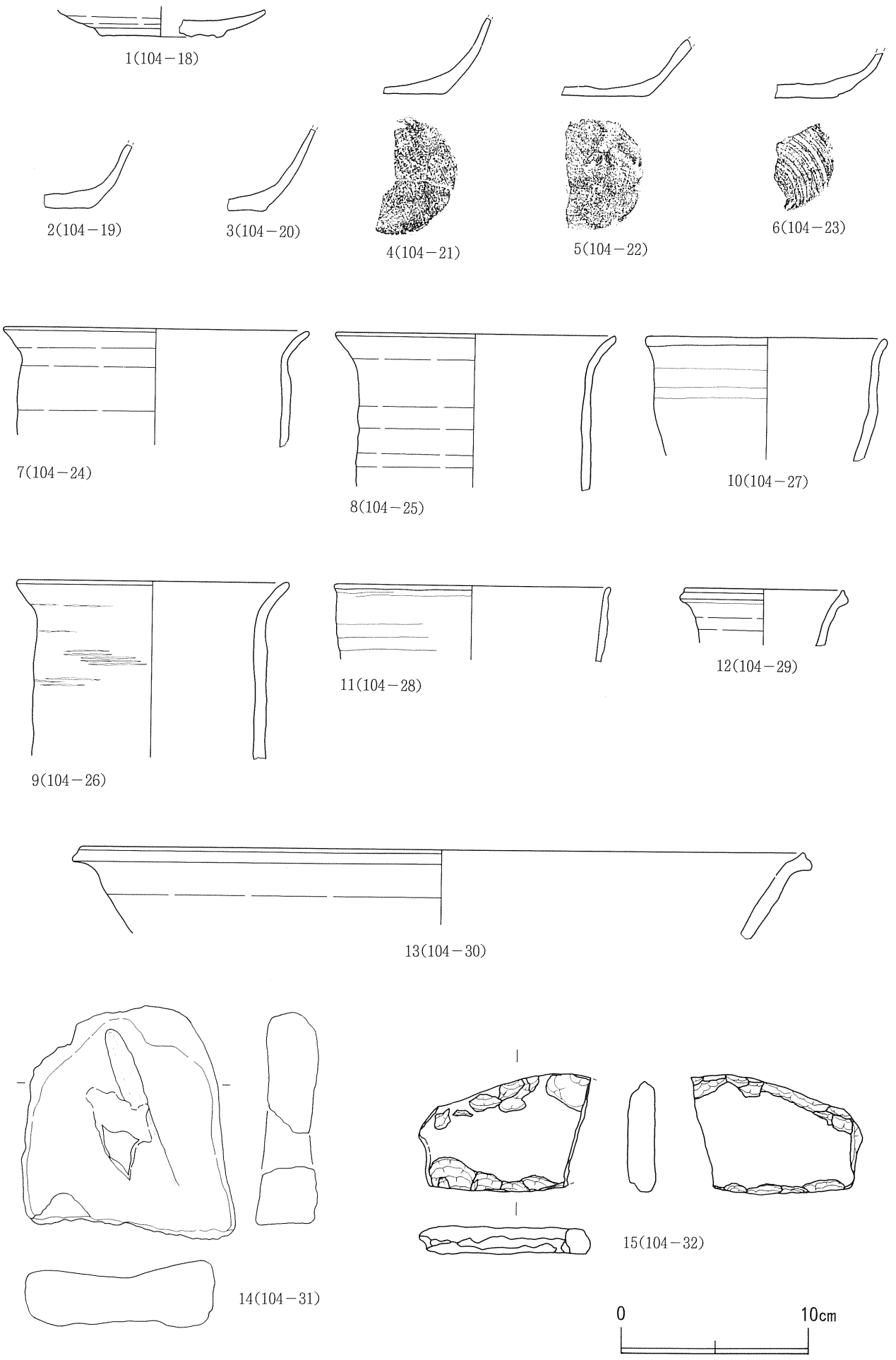
マイナス数字は床面からの深さ(cm)

0　1 m

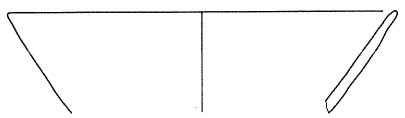
第301図　SI 104 竪穴住居跡かまど



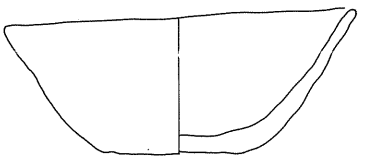
第302図　SI 104 竪穴住居跡出土遺物（１）

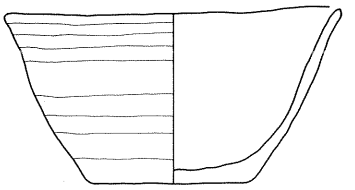


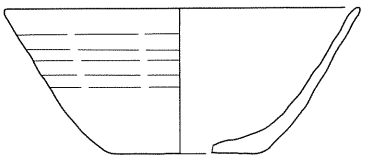
第303図　SI 104 竪穴住居跡出土遺物（２）



1(111－1)



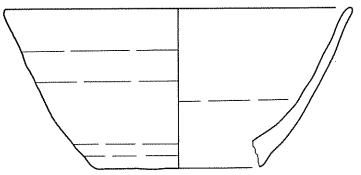




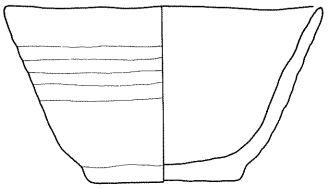
2(111－2)

3(111－3)

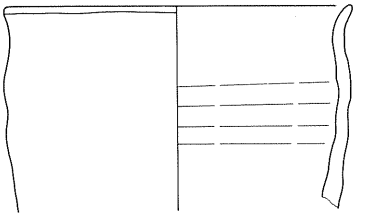
4(111－4)



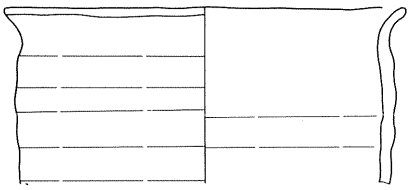
5(111－5)



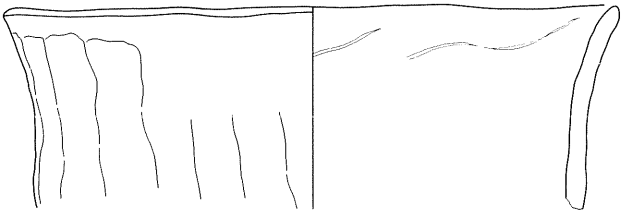
6(111－6)



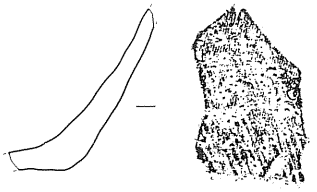
7(111－7)



8(111－8)

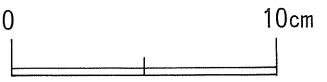


9(111－9)



10(111－10)

11(111－11)



第304図　SI 111 竪穴住居跡出土遺物

《か ま ど》　南側壁の中央からやや東寄り西寄りに構築されていた。遺存状況は良好で両袖部、燃焼部が確認できた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも確認できた。火床は高熱のため塼化していた。煙道部は短く急角度で立ち上がる。煙道部は長く煙出孔に向かって底面が下降する。

《柱　　穴》　壁下を巡る壁溝中と床面に20カ所検出したが、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ４・Ｐ10が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中から土師器の坏（１～23)、甕（24～28)、鍋（30)、須恵器の長頸壷（29)のほか、縄文時代の石皿（31)、半円状偏平打製石器（32）も出土した。土師器坏には高台付内黒（１・18)、底辺部篦削り（２）、ロクロからの切り離しに、ヘラ切り（３～６、21・22)、回転糸切り（23）がある。土師器鍋はロクロで製作したものである。須恵器壷は口頸部の破片である。

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　105　竪穴住居跡（第305図・第306図）

《位　　置》　ＯＤ40・41、ＯＥ40・41グリッドに位置する。

《確　　認》　方形プランの中央に大湯浮石層が堆積しているのを確認した。

《重　　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長3.20ｍ×南北壁長2.80ｍ、深さ16㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　７層に分層できた。自然堆積と思われる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　わずかに凹凸がある。

《か ま ど》　南側壁の中央からやや西寄りに構築されていた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも確認できた。燃焼部には自然石と土師器甕の胴部下半を倒立させ支脚としていた。煙道部は長く煙出孔に向かって底面がやや下降する。

《柱　　穴》　壁下床面に５カ所検出したが、Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ６が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中から土師器の坏と甕が出土した。土師器坏の底部には糸切り痕があり、４と５は高台付で、４は内黒である。堅く焼き締まった土師器甕（７）の底辺部には叩き目がある。

《構築時期》　大湯浮石層の堆積状況と出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　106　竪穴住居跡（第307図～第309図）

《位　　置》　ＯＡ48、ＯＢ48グリッドに位置する。

《確　　認》　西側に撹乱穴があり、上部を削平された黒褐色土の方形プランとして確認した。

《重　　複》　なし。

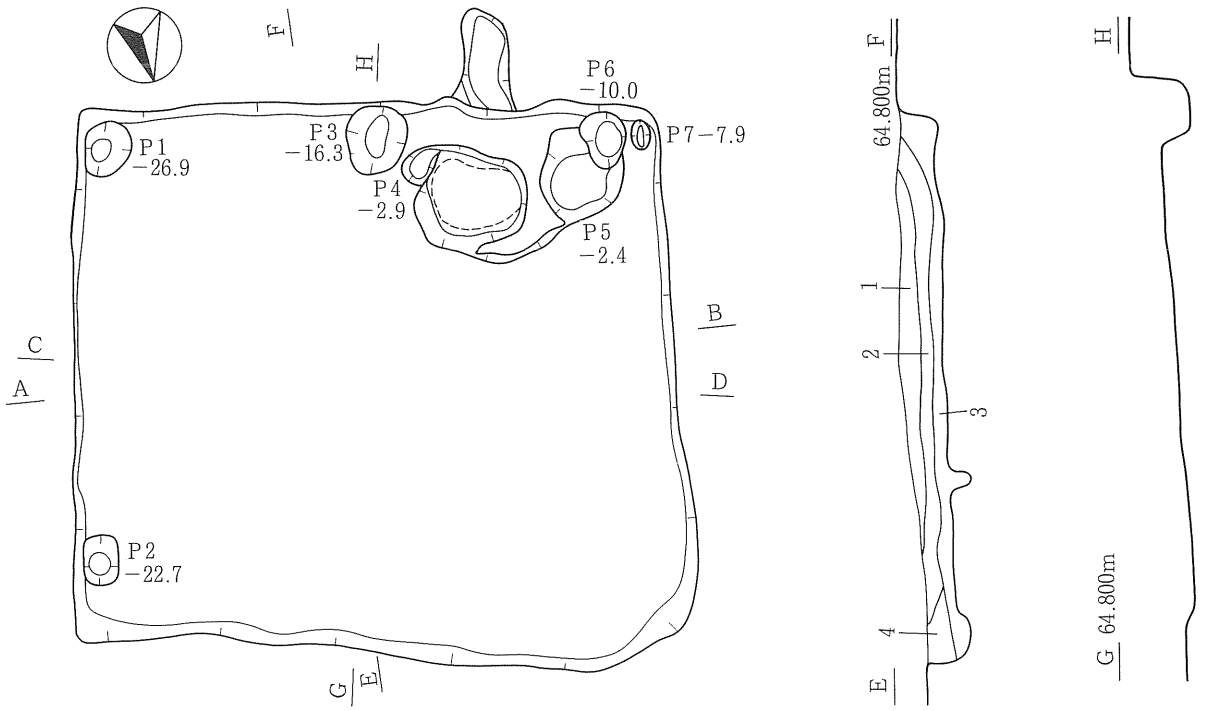
《規模と平面形》　東西壁長3.18ｍ×南北壁長2.63ｍ、深さ8㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　黒褐色土が薄く堆積していた。

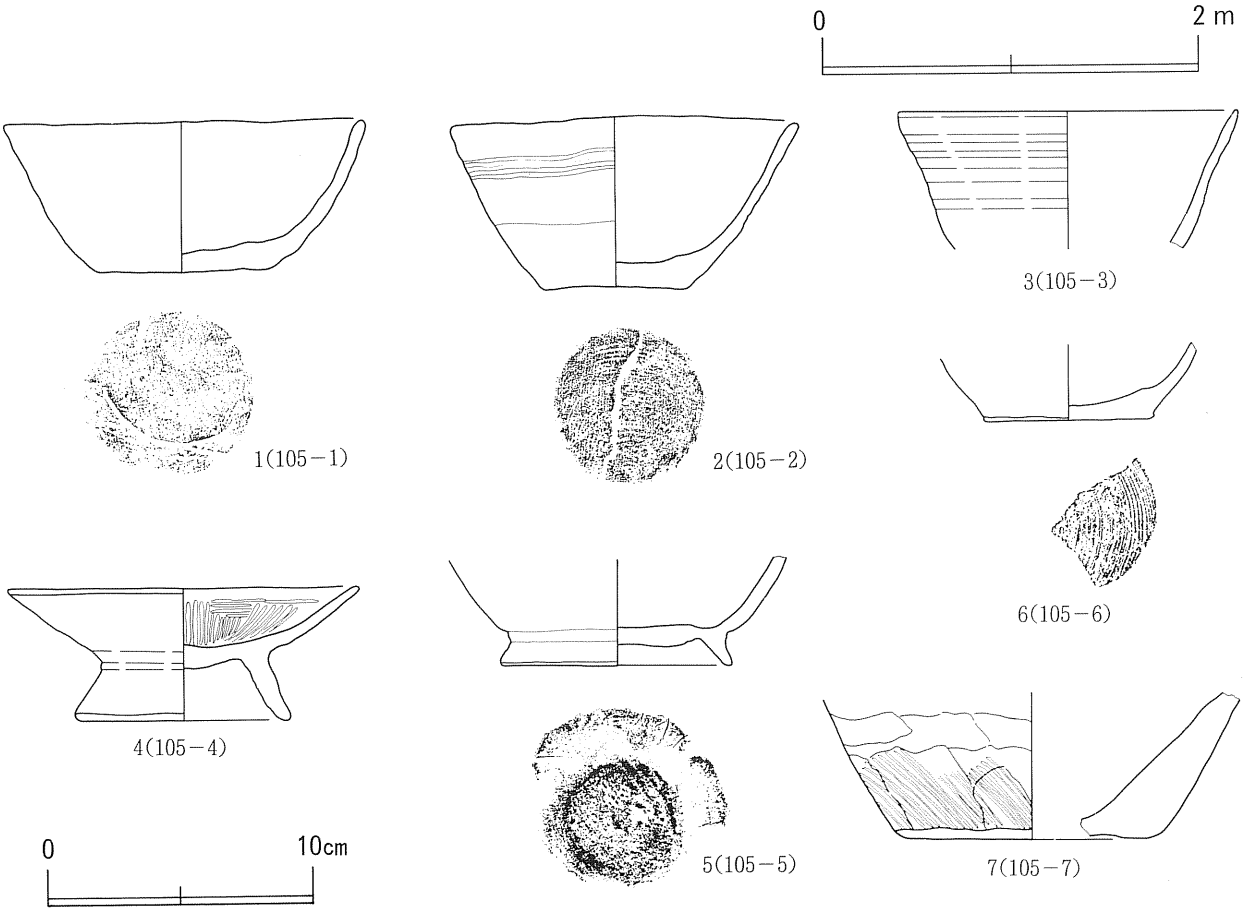
《　壁　》　削平されていたが、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸がある。

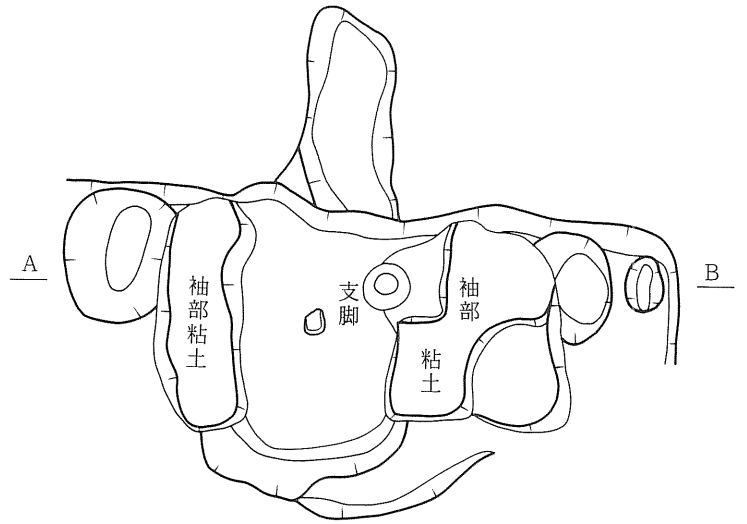
《か ま ど》　南側壁の中央からやや東寄りに構築されていた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも確認できた。燃焼部には土師器坏を倒立させて支脚としていた。煙道部は短く急角度で立ち上がる。



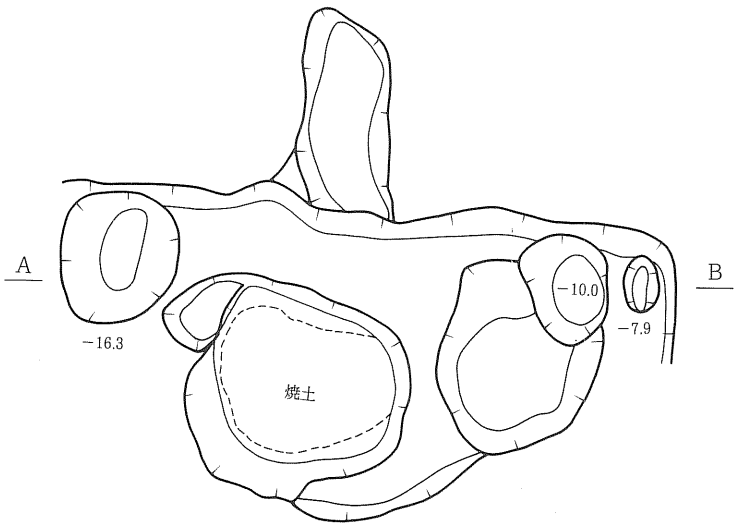
【SI　105】
1　大湯浮石層
2　黒褐色土(10YR2／2) 明黄褐色地山粒混入。
3　黒褐色土(10YR3／2) ややボソボソしている。
4　黒褐色土(10YR3／2) 明黄褐色地山粒混入。
5　黒褐色土(10YR3／1) 明黄褐色砂質・地山ローム粒・塊混入。
6　黒褐色土(10YR3／2) 明黄褐色地山ローム塊混入。
7　黒色土(10YR2／1) ややボソボソしている。



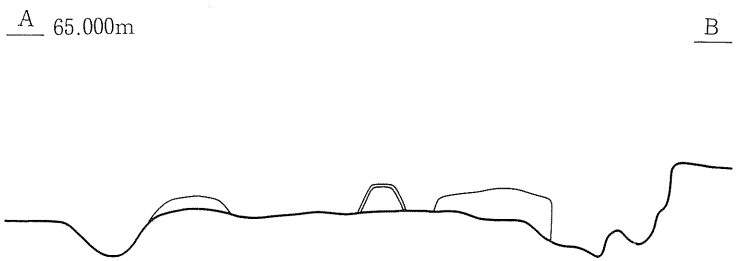
第305図　SI 105 竪穴住居跡とその出土遺物



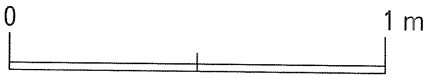
現況



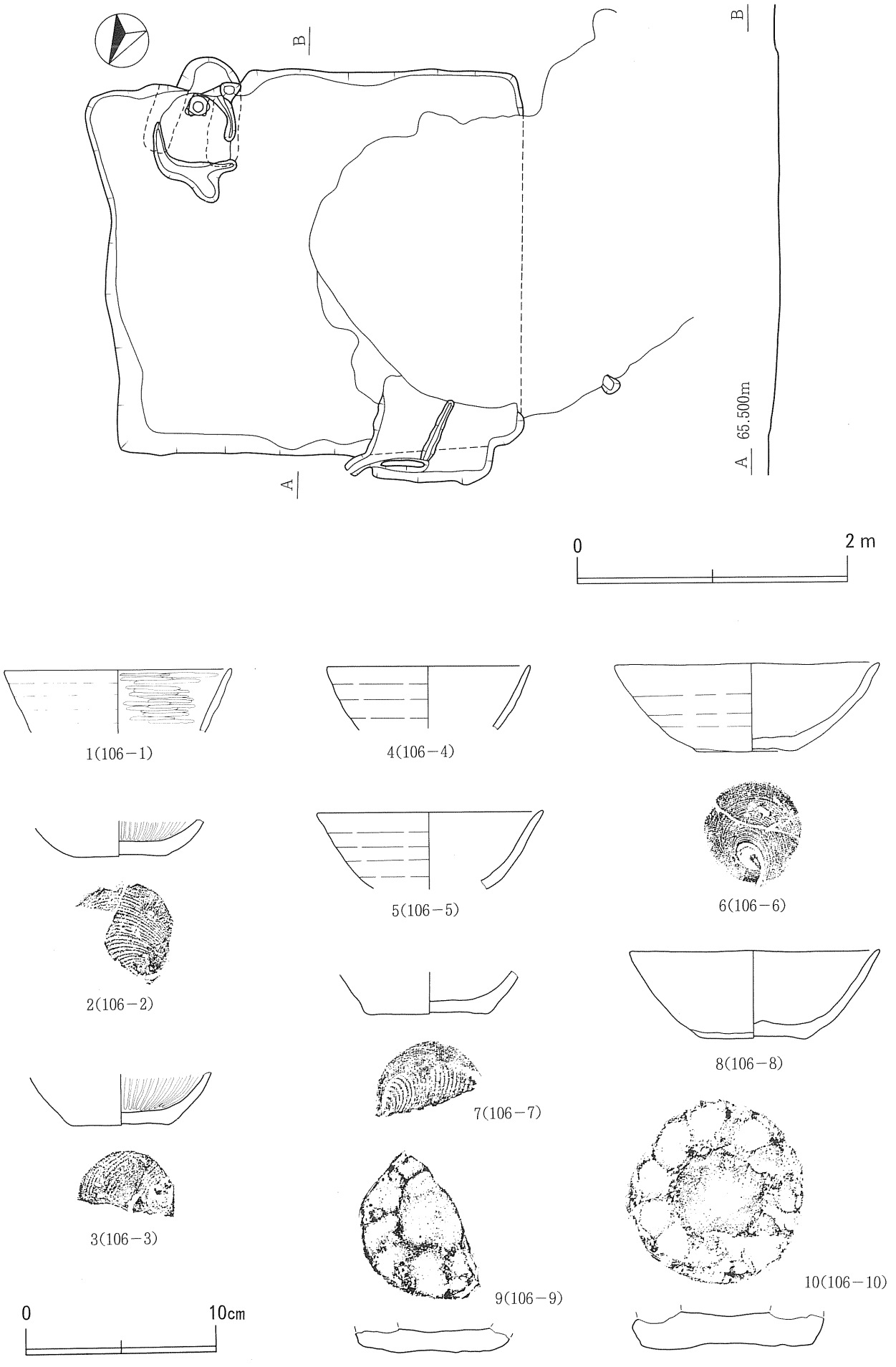
かまど掘り方



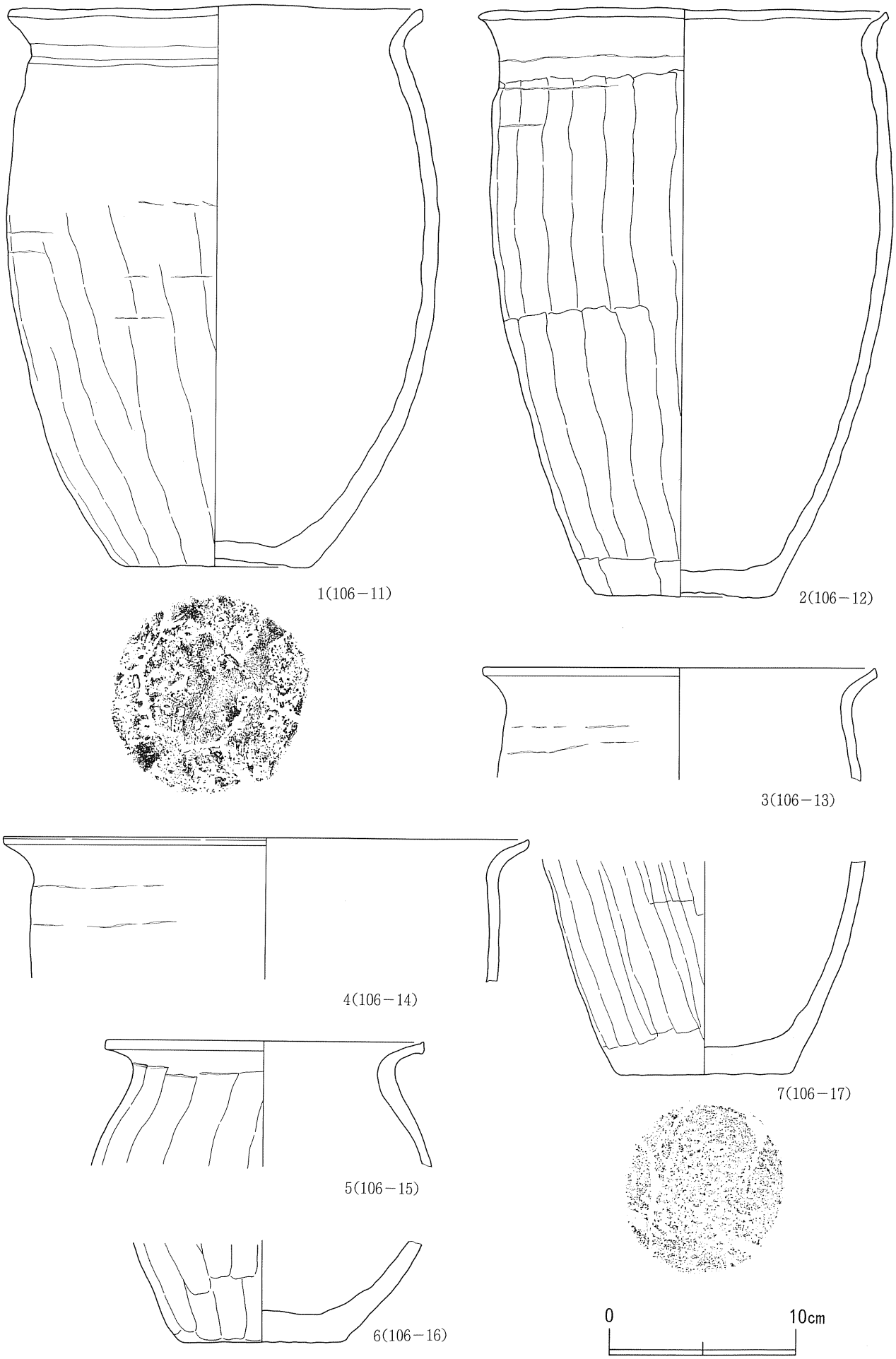
マイナス数字は床面からの深さ(cm)



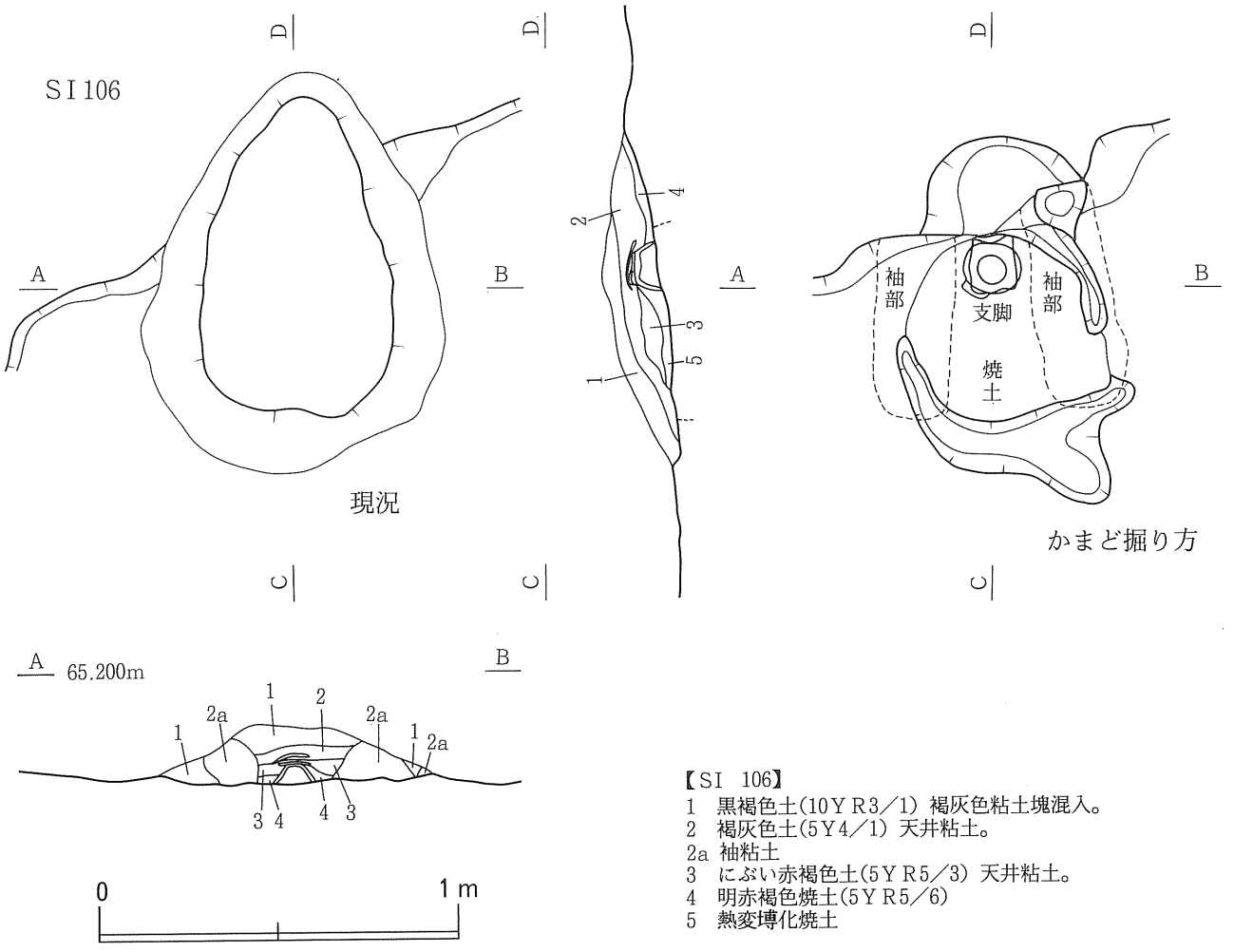
第306図　SI 105 竪穴住居跡かまど



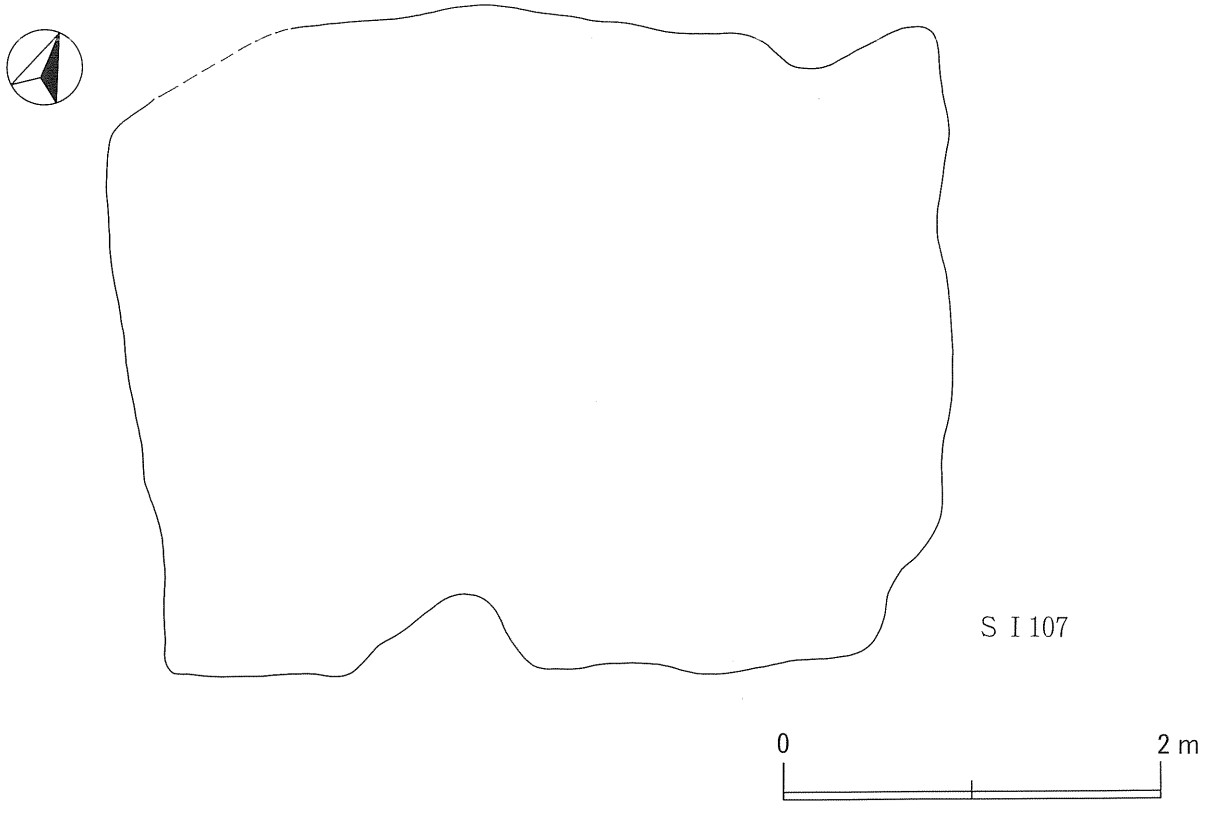
第307図　SI 106 竪穴住居跡とその出土遺物（１）



第308図　SI 106 竪穴住居跡出土遺物（２）



【SI 106】
1　黒褐色土(10ＹＲ3／1) 褐灰色粘土塊混入。
2　褐灰色土(5Ｙ4／1) 天井粘土。
2a 袖粘土
3　にぶい赤褐色土(5ＹＲ5／3) 天井粘土。
4　明赤褐色焼土(5ＹＲ5／6)
5　熱変博化焼土



第309図　SI 106 竪穴住居跡かまど・SI 107 竪穴住居跡

《柱　　穴》　なし。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中から土師器の坏、甕が、かまどからは土師器の坏（６）が出土した。土師器坏（１～３）は内黒である。底部に回転糸切り痕がある。土師器甕の胴部は篦削りしていた。９・10は土師器甕の底部破片であるが、底板と胴部が接合部で剥離しており、製作方法がわかる資料である。

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　107　竪穴住居跡（第309図）

《位　　置》　ＯＡ45・46、ＯＢ45・46グリッドに位置する。

《確　　認》　上部を削平されており、わずかに床面の痕跡が周囲と区別できた。

《重　　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長4.43ｍ×南北壁長3.48ｍ、長方形を呈する。

《埋　　土》　地山粒・塊を含む暗褐色土が堆積していた。

《　壁　》　削平されており、不明。

《床　　面》　大きな凹凸がある。

《か ま ど》　確認できなかった。

《柱　　穴》　確認できなかった。

《壁　　溝》　確認できなかった。

《遺　　物》　なし。

《構築時期》　プランから古代と推定した。

ＳＩ　111　竪穴住居跡（第300図・第304図）

《位　　置》　ＯＢ43・44、ＯＣ43・44グリッドに位置する。

《確　　認》　ＳＩ 104竪穴住居跡のかまど精査中に、ほとんど破壊・削平され、わずかに南西隅部と南側壁下の柱穴が残っていたのを確認した。

《重　　複》　ＳＩ 104竪穴住居跡と重複していた。本竪穴住居跡が、ＳＩ 104竪穴住居跡にほとんど破壊され、かまどを構築されていたので古い。

《規模と平面形》　西壁残存長0.68ｍ、推定南壁長3.74ｍ、深さ５㎝。方形と推定。

《埋　　土》　地山粒・塊を多量に含む暗褐色土が堆積していた。

《　壁　》　重複のため、削平されていたが緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸がある。

《か ま ど》　なし。

《柱　　穴》　南側壁下に５カ所（Ｐ17・Ｐ18・Ｐ22・Ｐ23・Ｐ24）検出した。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　土師器の坏、甕が出土した。土師器坏は底部に、静止糸切り痕、ヘラ切り、回転糸切り痕の残るものがある。土師器甕（９）の胴部は篦なで調整されている。堅く焼き締まった土師器甕（10・11）の底辺部には叩き目がある。

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　120　竪穴住居跡（第310図～第312図）

《位　　置》　ＭＲ69、ＭＳ68･69･70、ＭＴ69グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＫＴ 252Ｔ－Ｐｉｔ、ＳＫＦ 253フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規模と平面形》　東西壁長4.53ｍ×南北壁長3.84ｍ、深さ28㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　24層に分層した。自然堆積と思われる。北東側の埋土断面に風倒木痕が認められた。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　ほぼ平坦である。縄文時代の遺構部分には地山土で貼床をしていた。

《か ま ど》　南側壁の中央からやや東寄りに構築されていた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも確認できる。燃焼部には、土師器の坏を倒立させた支脚が残っていた。煙道部が長く、煙出孔に向かって底面が緩やかに上昇する。焚口前の床面を楕円形に掘り窪めていた。

《柱　　穴》　壁下と床面に８カ所検出したが、各隅部にあるＰ１～Ｐ４が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　かまどから土師器の坏（１）、埋土中から坏（２）、甕（３・４）、鍋（５）の外、縄文土器片（６～15）、微小剥離のある石器剥片（16～18）も出土した。土師器坏は底部に回転糸切り痕がある。土師器甕は胴部に篦けずり、底部に木葉痕がある。鍋は体部両面に叩き目がある。

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　121　竪穴住居跡（第313図～第316図）

《位　　置》　ＭＱ70･71･72、ＭＲ70･71･72グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みの中に大湯浮石層が不整円形に堆積しているのを確認した。また、南側の壁にかまどの煙道が２本あるように見えた。

《重　　複》　縄文時代のＳＫＦ 231･ＳＫＦ 246フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規模と平面形》　東西壁長4.30ｍ×南北壁長4.40ｍ、深さ26㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　36層に分層した。自然堆積と思われる。埋没がかなり進んでから大湯浮石層が堆積した状況を示す。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。南側壁の中央から西寄りに長さ1.10ｍ、幅68ｍの長方形の落ち込み（深さ10～15㎝）がある。出入り口と考えられた。

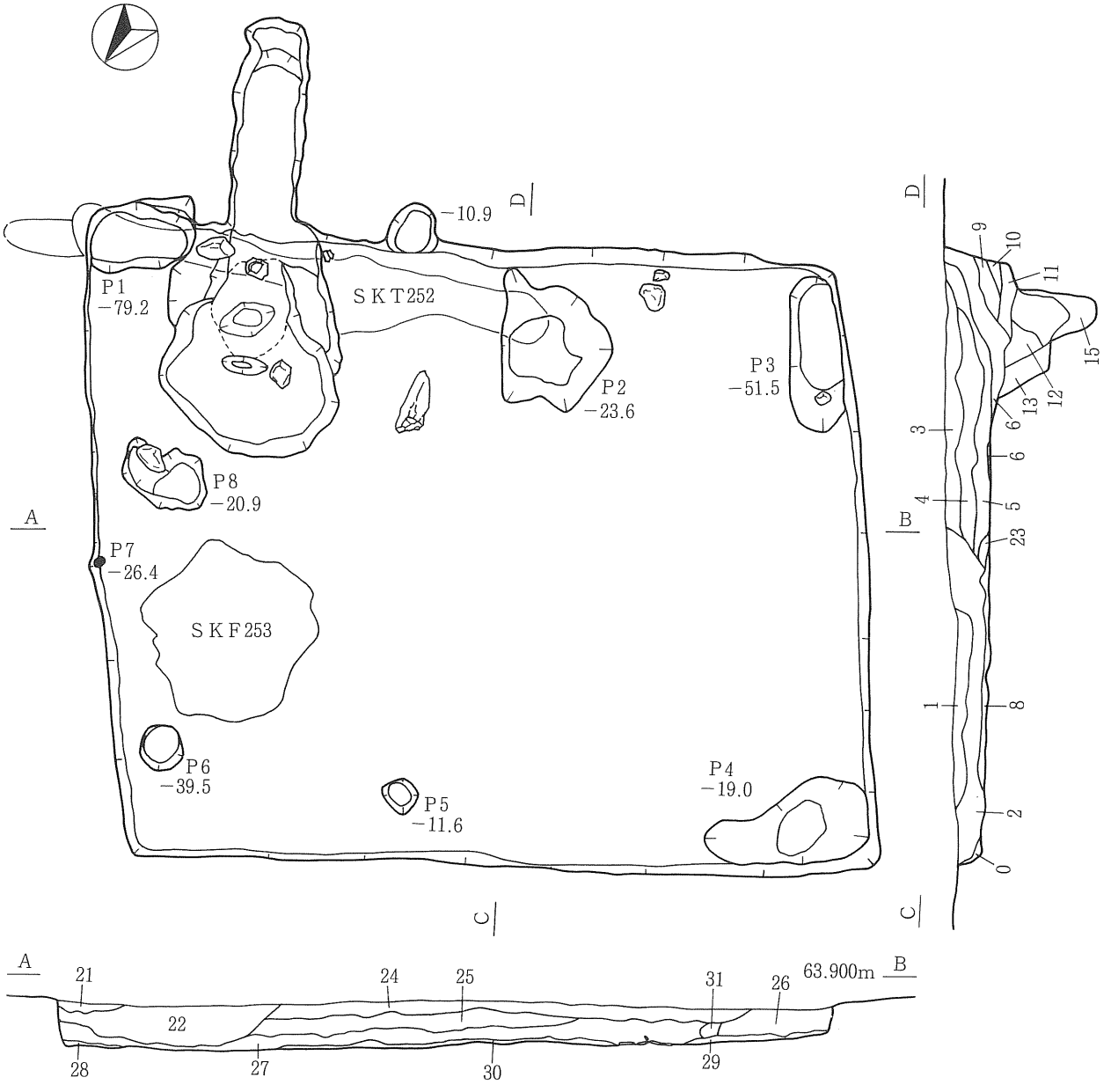
《床　　面》　ほぼ平坦である。縄文時代の遺構部分には地山土で貼床をしていた。

《か ま ど》　南側壁の中央からやや東寄りに構築されていた。遺存状況は良好で両袖部、燃焼部が確認できた。燃焼部の火床は高熱により堅く焼き締まり塼化していた。丸い自然石を支脚としていた。煙道部は長く煙出孔に向かって底面が下降する。煙道部の両側には粘土が張り付けられており、煙出孔には重なり合った状況で土師器甕の破片（１個体：12）と偏平な自然石を検出した。

《柱　　穴》　床面に10カ所と壁上部に２カ所検出したが、主柱穴となるのは不明。

《壁　　溝》　かまど構築部分を除き壁下を一巡する。

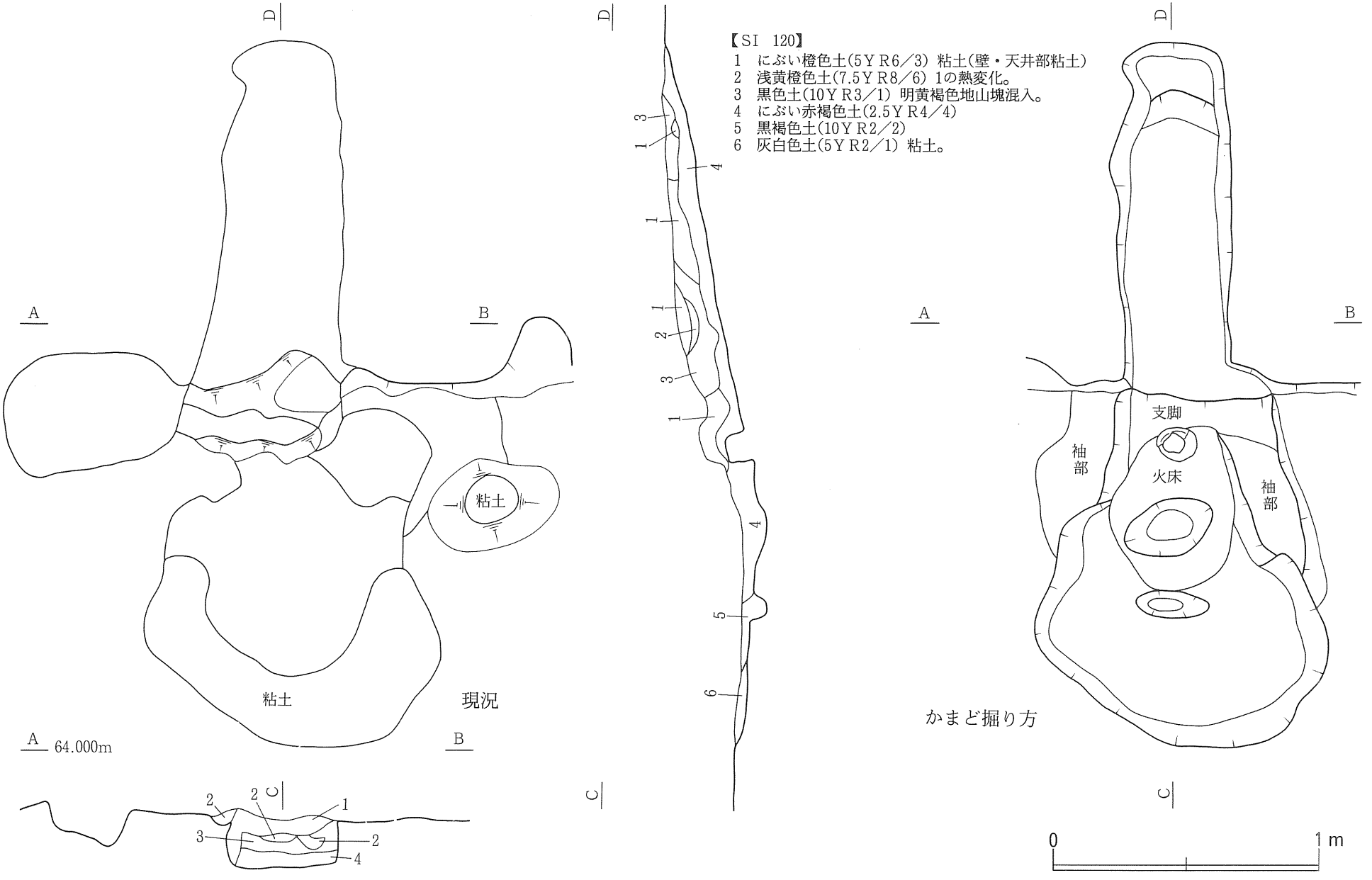
《遺　　物》　かまど周辺の床面とかまど中から土師器の坏、甕、鍋のほか、鉄滓（32）、縄文時代の石器



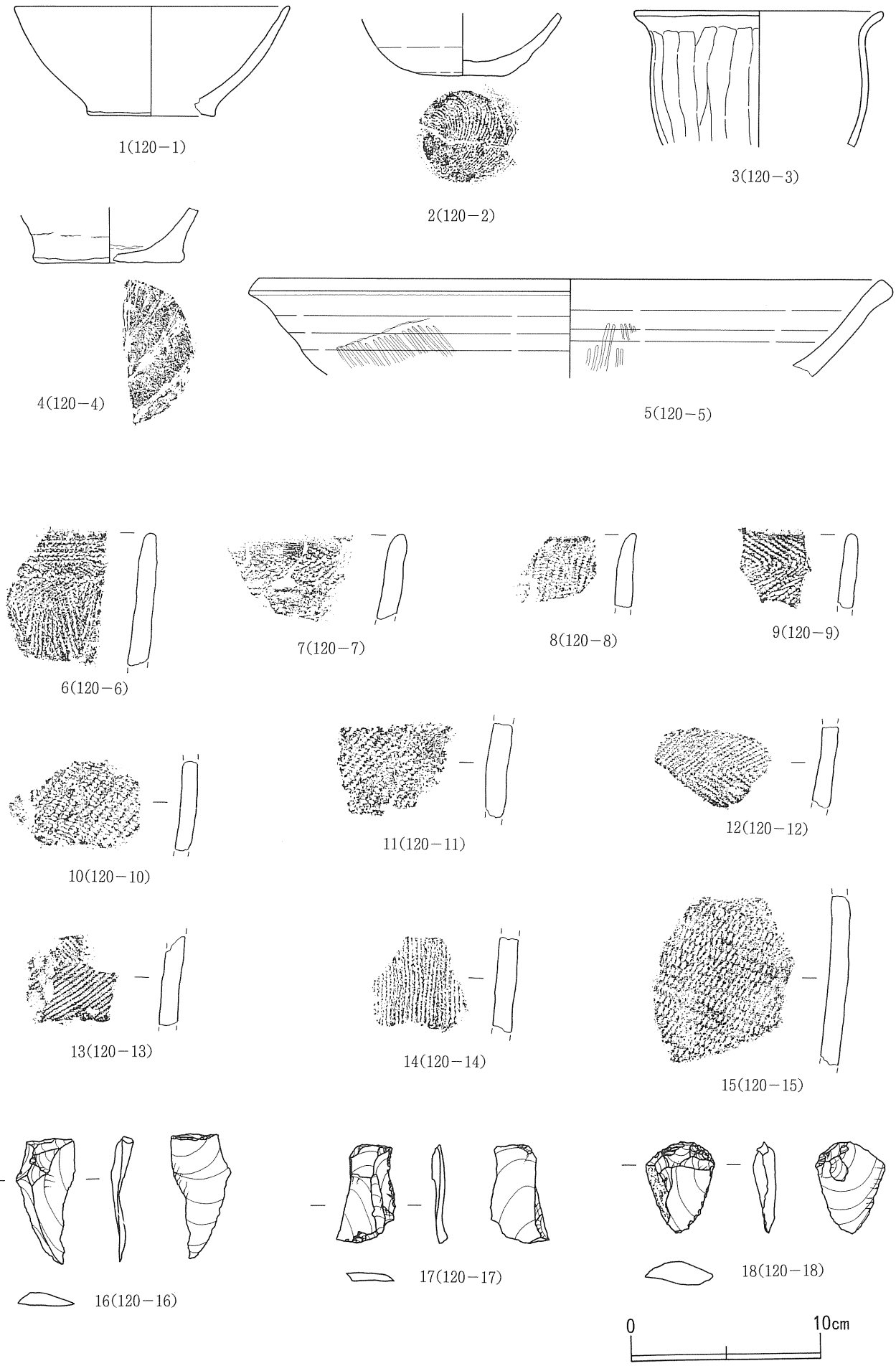
【ＳＩ　120】※16～20欠番
0　黒色土(7.5ＹＲ1.7／1)　地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
1　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
2　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　地山(大粒)中量混入。ややしまり有り。
3　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。
4　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　地山(大粒)中量混入。ややしまり有り、弾性有り。
5　黒色土(7.5ＹＲ2／1)　地山(大粒)中量混入。ややしまり有り。
6　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
7　浅黄色土(2.5Ｙ7／3)　地山(小粒)ごく少量混入。しまり有り。
8　黒色土(7.5ＹＲ2／1)　地山(大粒)中量混入。しまり有り。
9　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山(小粒)・炭(小粒)中量混入。しまり有り。
10　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(中粒)・炭(中粒)多量混入。しまり有り。
11　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　地山(大粒)・炭(中粒)多量混入。しまり有り。
12　黒褐色土(2.5ＹＲ3／2)　地山(中粒)・炭(中量)　多量混入。ややしまり有り。
13　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山塊(小)多量、炭(中量)　混入。しまり強い。
14　褐色土(10ＹＲ4／4)　地山(小粒)多量、炭(中粒)中量、地山塊(中)混入。ややしまり有り。
15　明黄褐色土(10ＹＲ7／6)　地山。しまり有り。
21　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
22　黒褐色土(10ＹＲ3／2)　地山(大粒)中量混入。ややしまり有り。
23　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山(小粒)ごく少量、炭(中粒)　少量混入。ややしまり有り。
24　3に同じ。
25　4に同じ。
26　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(小粒)少量、炭(中粒)中量混入。ややしまり有り。
27　5に同じ。
28　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／4)　地山(中粒)多量、炭(中粒)　少量混入。ややしまり有り。
29　黒色土(7.5ＹＲ1.7／1)　地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。
30　8に同じ。
31　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(中粒)　多量混入。しまり強い。

マイナス数字は床面からの深さ(cm)

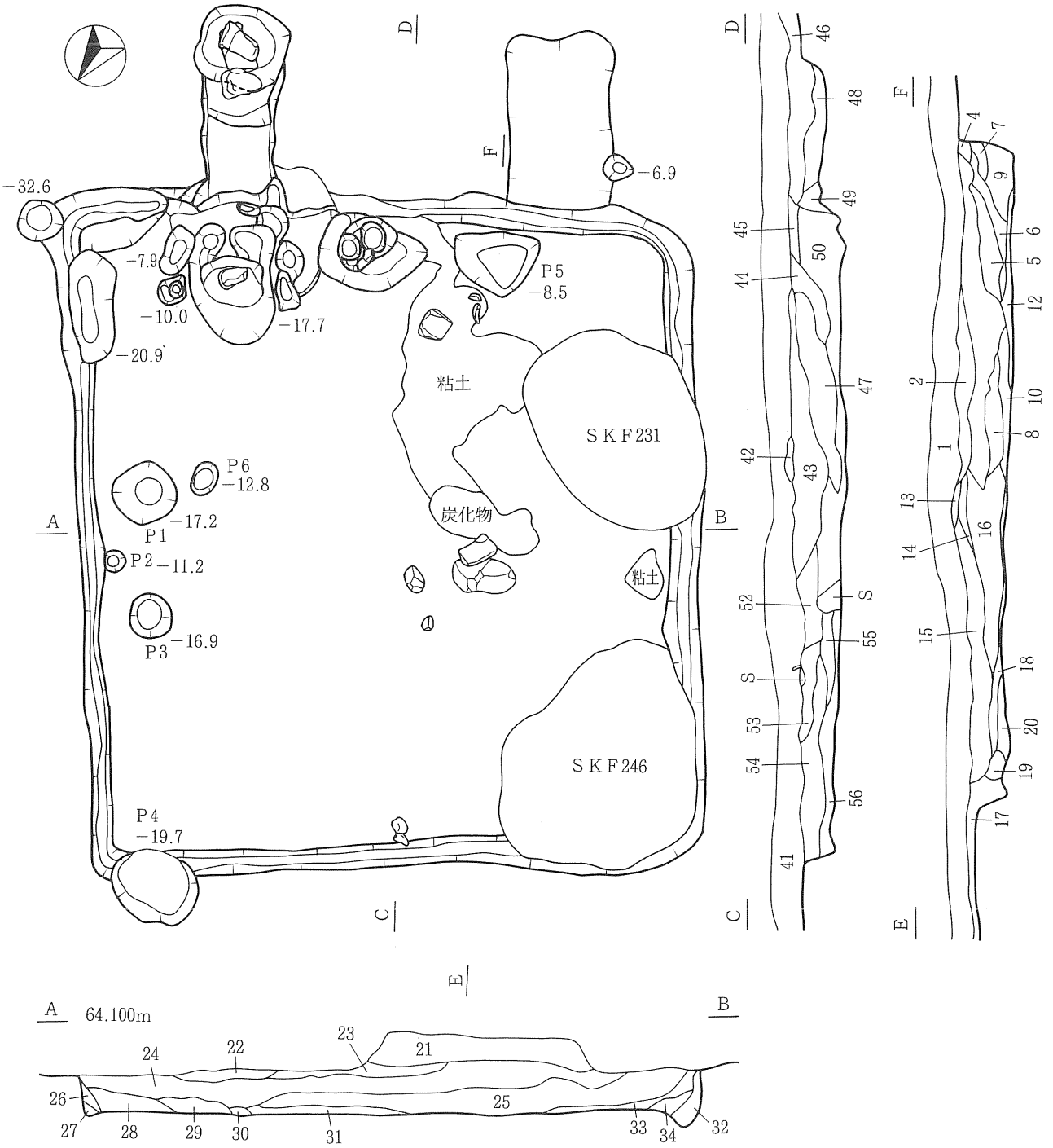
第310図　SI 120 竪穴住居跡



第311図　SI 120 竪穴住居跡かまど



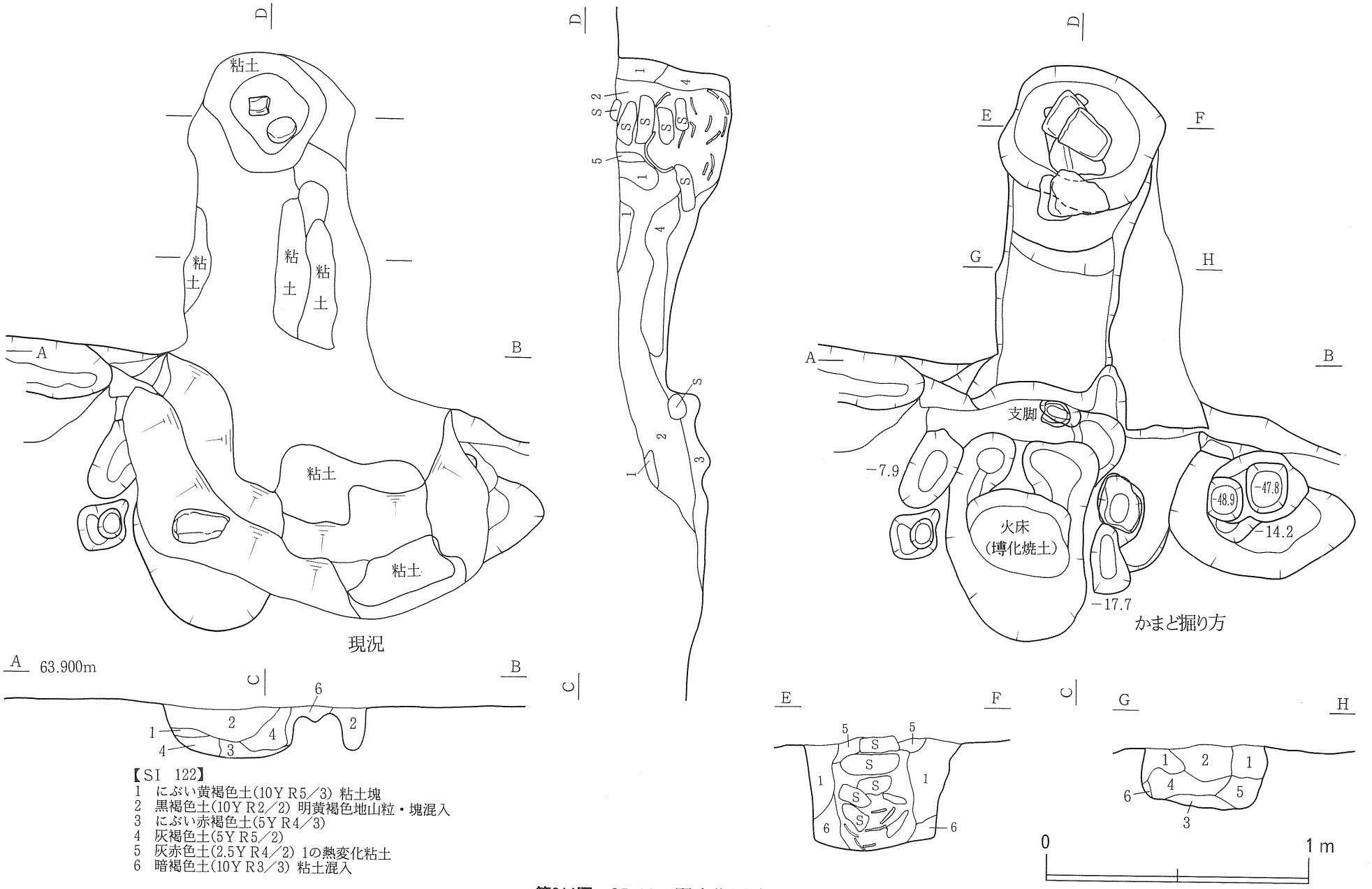
第312図　SI 120 竪穴住居跡出土遺物



【ＳＩ　121】※35～40.58.59欠番
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
2　黒褐色土(2.5Ｙ3／2) 浮石多量混入。しまり有り。
3　黒色土(2.5Ｙ2／1) 地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
4　黒褐色土(2.5Ｙ3／2) 地山(小粒)少量混入。しまり有り。
5　黒色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山(中粒) 中量、炭(小粒) 少量混入。粘土粒混入。しまり、弾性有り。
6　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山(大粒)・炭(小粒)少量混入。粘土粒混入。ややしまり有り。
7　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
8　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山(中粒)中量、地山(大粒)混入。しまり有り。
9　黒褐色(10Ｙ Ｒ2／2) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
10　黒色土(10Ｙ Ｒ1.7／1) 地山(小粒)少量混入。
11　黒色土(2.5Ｙ2／1) 地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。
12　暗灰黄色土(2.5Ｙ4／2) 地山(小粒)少量混入。粘土混入。しまり、粘性有り。
13　黒褐色土(7.5Ｙ Ｒ2／1) 地山(中粒)少量混入。しまり有り。
14　3に同じ。15　3に同じ。16　10に同じ。
17　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山(大粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
18　黒色土(7.5Ｙ4／2) 地山(小粒)少量混入。
19　黒色土(7.5Ｙ Ｒ1.7／1) 地山(中粒)ごく少量混入。しまり有り。
20　黒色土(2.5Ｙ2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。
21　1に同じ。
22　黒褐色土(2.5Ｙ3／1) 地山(小粒)・炭(中粒) 少量、浮石少量混入。しまり有り。
23　2に同じ。24　3に同じ。25　8に同じ。
26　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
27　黒色土(10Ｙ Ｒ1.7／1) 地山(中粒)ごく少量混入。しまり有り。
28　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山(中粒)・炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
29　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
30　黒色土(2.5Ｙ2／1) 地山(中粒)ごく少量混入。
31　10に同じ。
32　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／2) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
33　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／1) 地山(中粒)中量混入。
34　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／2) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。
41　1に同じ。42　2に同じ。43　3に同じ。44　6に同じ。
45　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／2) 地山(中粒)少量混入。しまり有り。
46　黒色土(7.5Ｙ Ｒ1.7／1) 地山(大粒)中量。ややしまり有り。
47　5に同じ。
48　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3) 地山(中粒)中量。しまり有り。
49　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山塊(小)中量混入。しまり有り。
50　8に同じ。
51　地山
52　3に同じ。
53　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／2) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
54　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山(大粒)少量混入。しまり有り。
55　8に同じ。
56　黒色土(10Ｙ Ｒ1.7／1) 地山(中粒) 少量、炭(大粒) 中量混入。しまり有り。
57　地山
60　黒色土(7.5Ｙ Ｒ1.7／1) 地山(中粒) 少量混入。しまり有り。

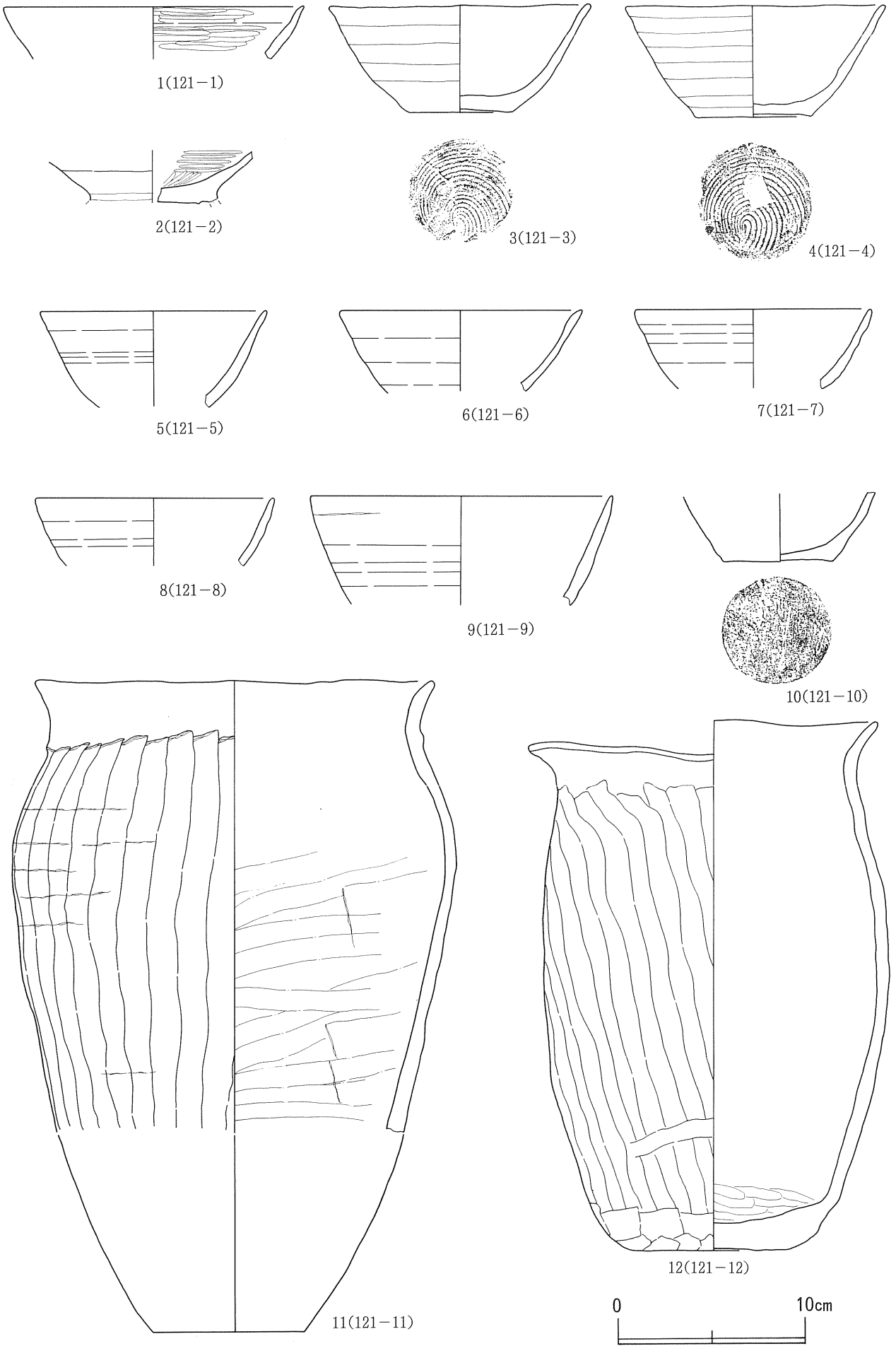
マイナス数字は床面・地山面からの深さ(cm)　0　2 m

第313図　SI 121 竪穴住居跡

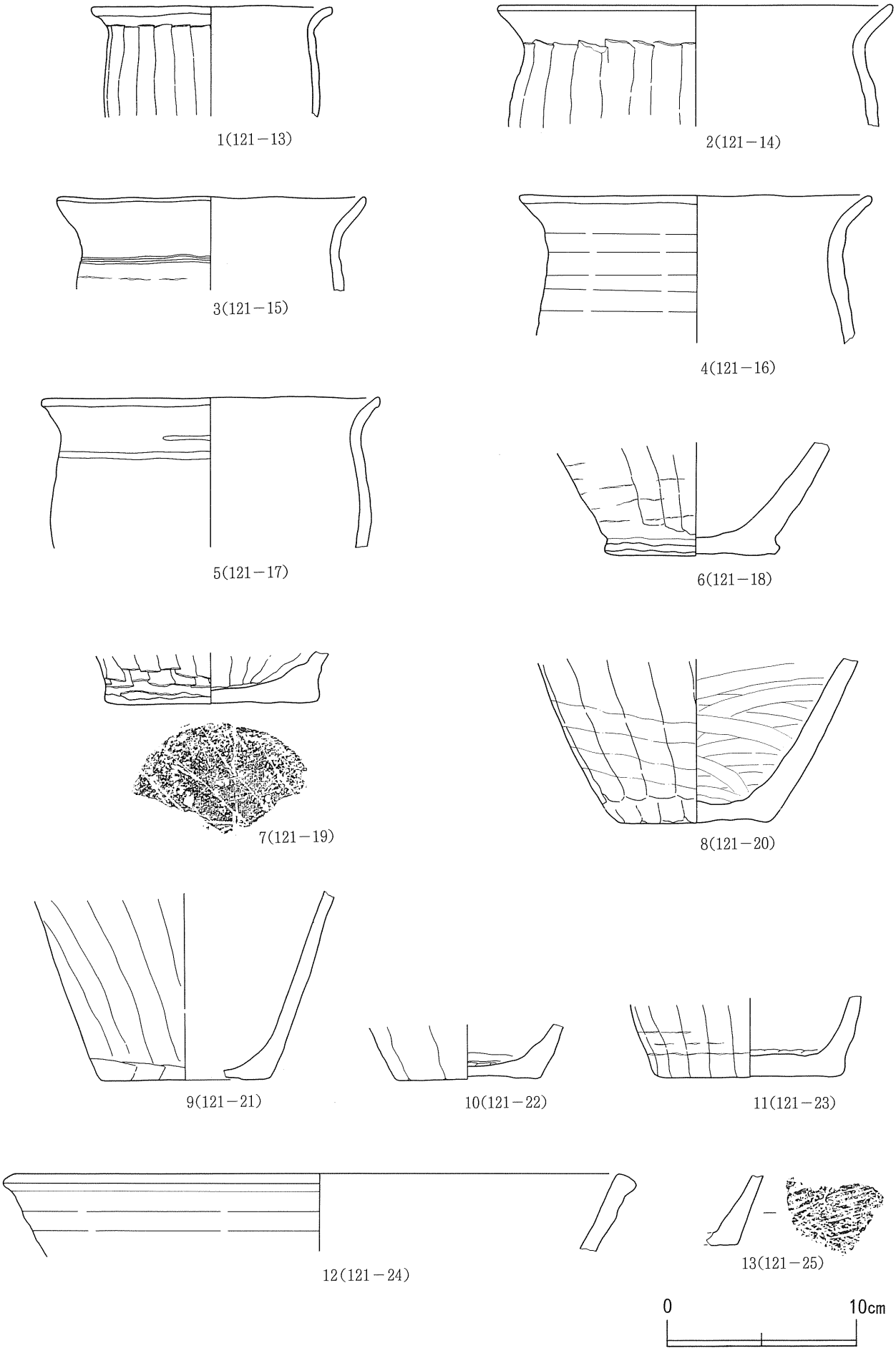


【SI 122】
1　にぶい黄褐色土(10YR5／3) 粘土塊
2　黒褐色土(10YR2／2) 明黄褐色地山粒・塊混入
3　にぶい赤褐色土(5YR4／3)
4　灰褐色土(5YR5／2)
5　灰赤色土(2.5YR4／2) 1の熱変化粘土
6　暗褐色土(10YR3／3) 粘土混入

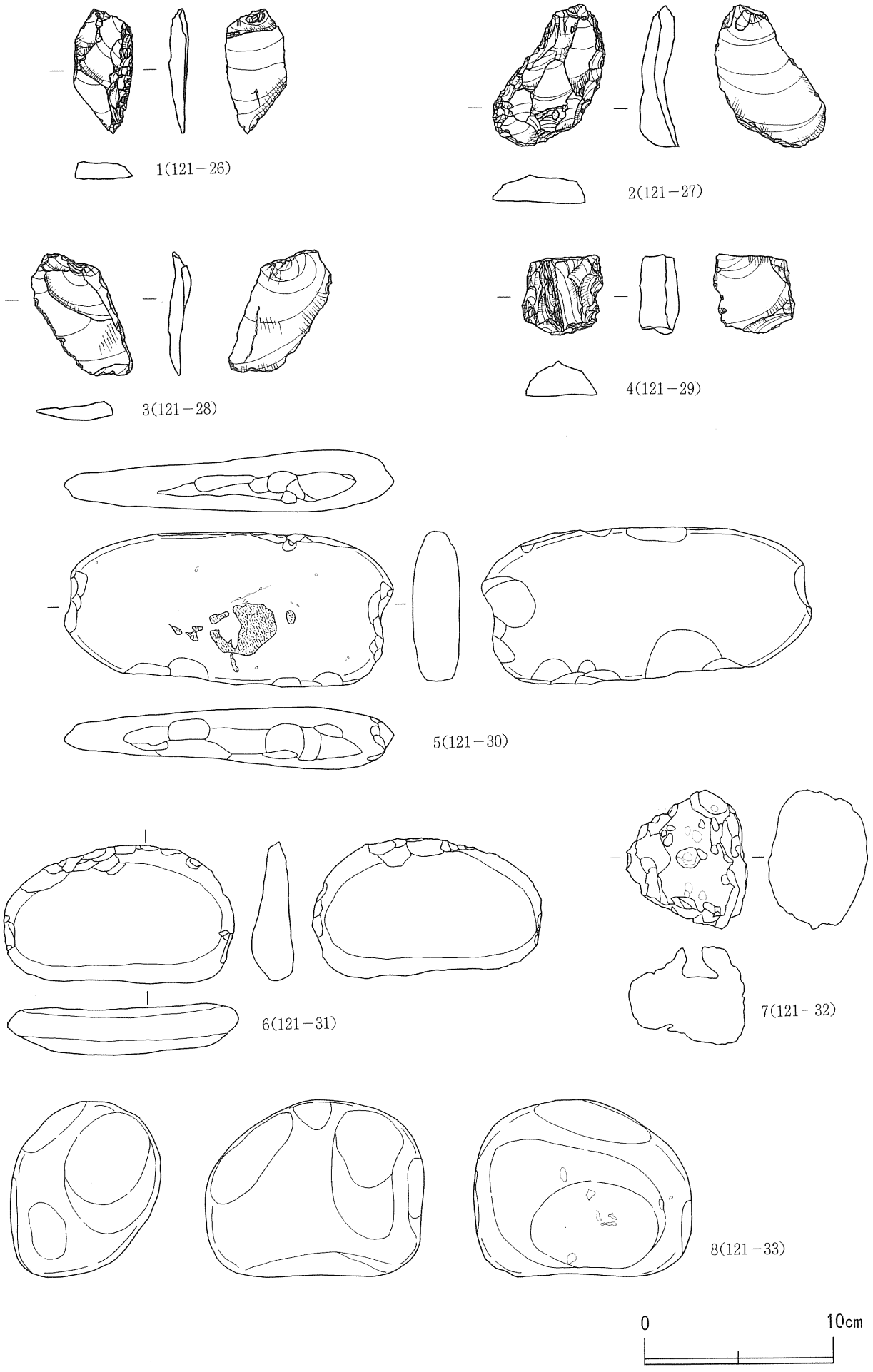
第314図　SI 121 竪穴住居跡かまど



第315図　SI 121 竪穴住居跡出土遺物（１）



第316図　SI 121 竪穴住居跡出土遺物（２）



第317図　SI 121 竪穴住居跡出土遺物（３）

が出土した。土師器坏は内黒（１）、高台付内黒（２）もある。３～10はロクロ整形で、３・４には底部に回転糸切り痕がある。10の底部には篦起こし痕がある。土師器甕には胴部外面を篦削り、内面を篦なでしたものが多いが底辺部に叩き目のあるもの（25）もある。底部が丸底風に篦削りしたもの（12）と平底に木葉痕（19）のあるものがある。鍋（24）はロクロ整形したものである。縄文時代の石器は削器(26・27)、微小剥離のある石器剥片（28・29)、半円状打製石器（30・31)、擦り石（33）である。

《構築時期》　大湯浮石層の堆積状況と出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　122　竪穴住居跡（第317図～第319図）

《位　　置》　ＭＯ72、ＭＰ71・72グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＫＦ 245フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規模と平面形》　東西壁長3.19ｍ×南北壁長3.08ｍ、深さ9㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　11層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　凹凸がある。縄文時代の遺構部分には地山土で貼床をしていた。

《か ま ど》　東側隅部に構築されていた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも確認できる。偏平な自然石を支脚としていた。煙道部は短く急角度で立ち上がる。

《柱　　穴》　壁下と床面に21カ所検出したが、主柱穴は不明。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　土師器の坏、甕のほか、縄文時代の石器なども出土した。土師器坏はロクロ整形で、高台付内黒（２）もある。土師器甕（３）の底部には木葉痕が見られる。縄文時代の石器は掻器（５・６）と削器（７）である。

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　123　竪穴住居跡（第320図・第321図）

《位　　置》　ＭＯ72・73、ＭＰ73グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＩ 143竪穴住居跡、ＳＫ 241土坑と重複している。

《規模と平面形》　東西壁長2.80ｍ×南北壁長2.46ｍ、深さ18㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　10層に分層した。自然堆積と思われるが、土層15は壁板の裏込め土と考えられる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸がある。縄文時代の遺構部分には地山土で貼床をしていた。

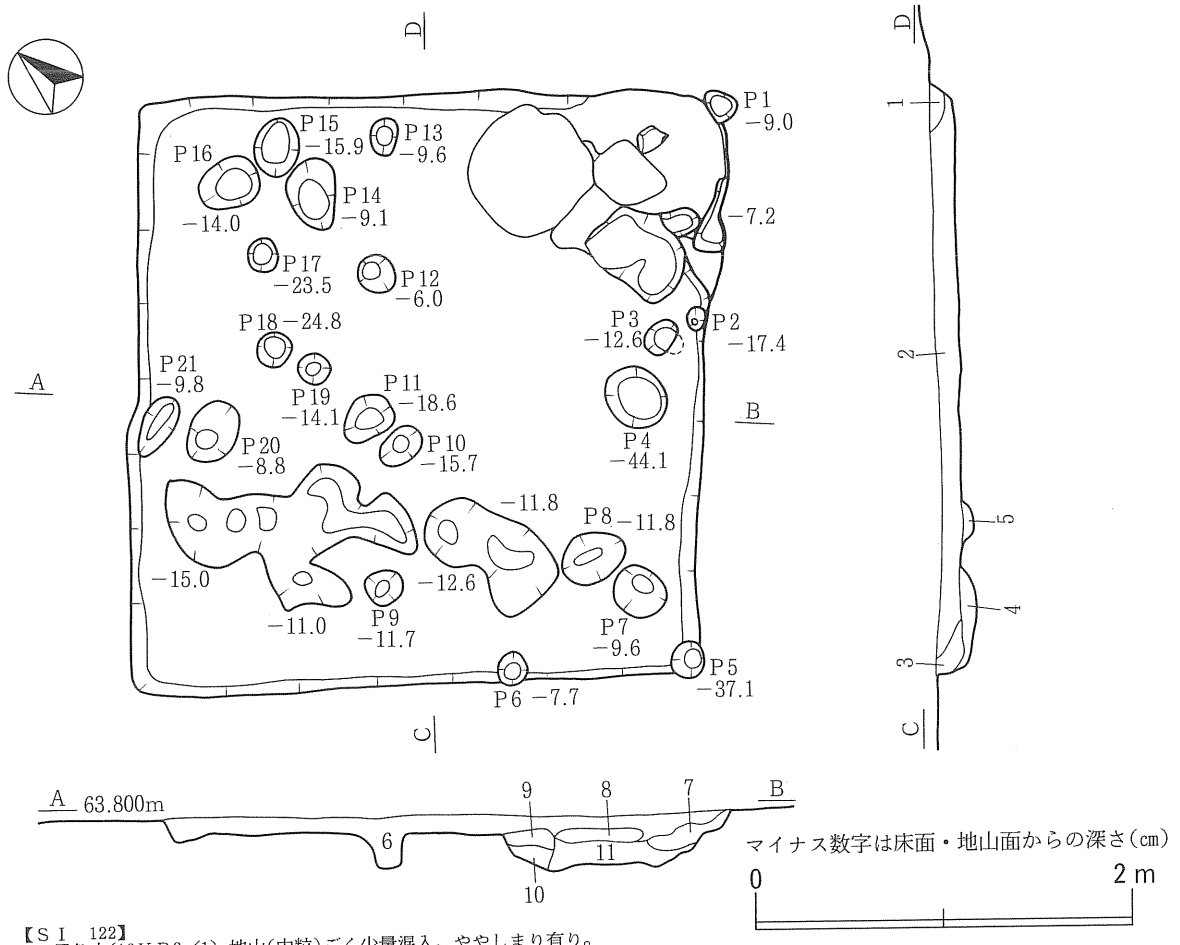
《か ま ど》　南東側壁の中央からやや南寄りに構築されていた。遺存状況は良好で両袖部、燃焼部が確認できた。燃焼部にほぼ立方体の自然石を支脚としていた。煙道部は長い。

《柱　　穴》　壁下と床面に７カ所検出した。

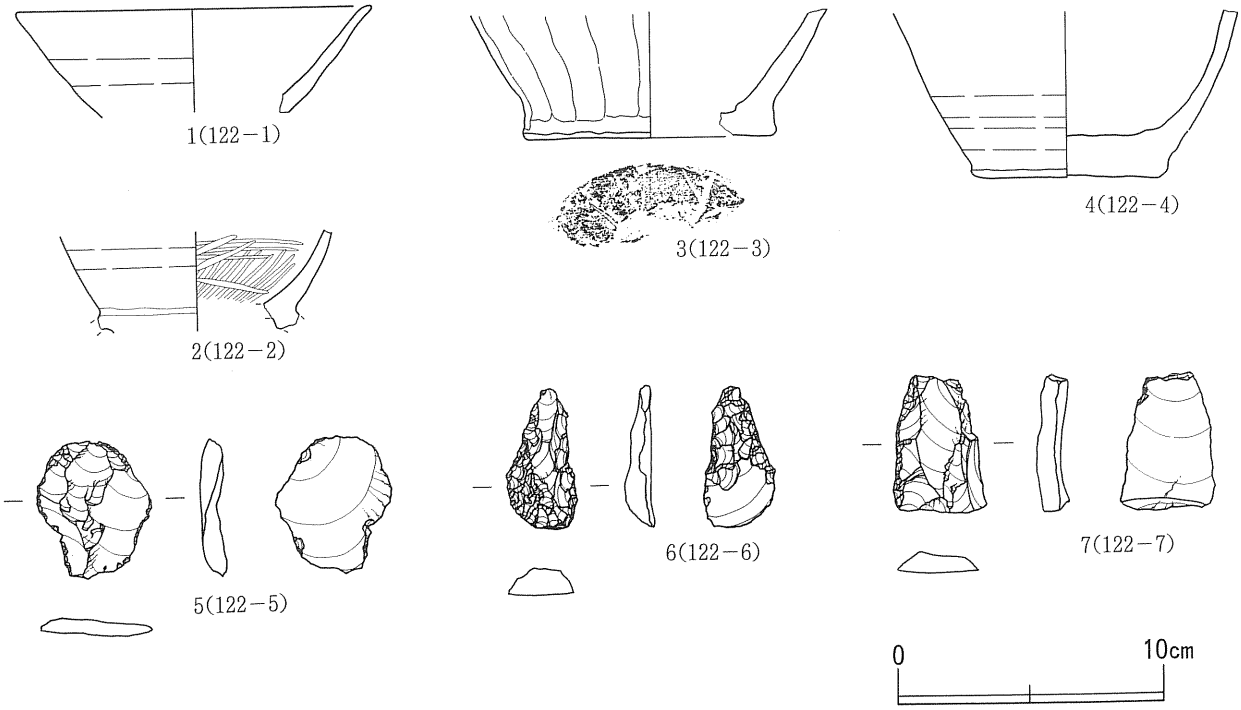
《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　土師器甕の底部破片１点と、縄文時代の基部を欠損する磨製石斧１点などが出土した。

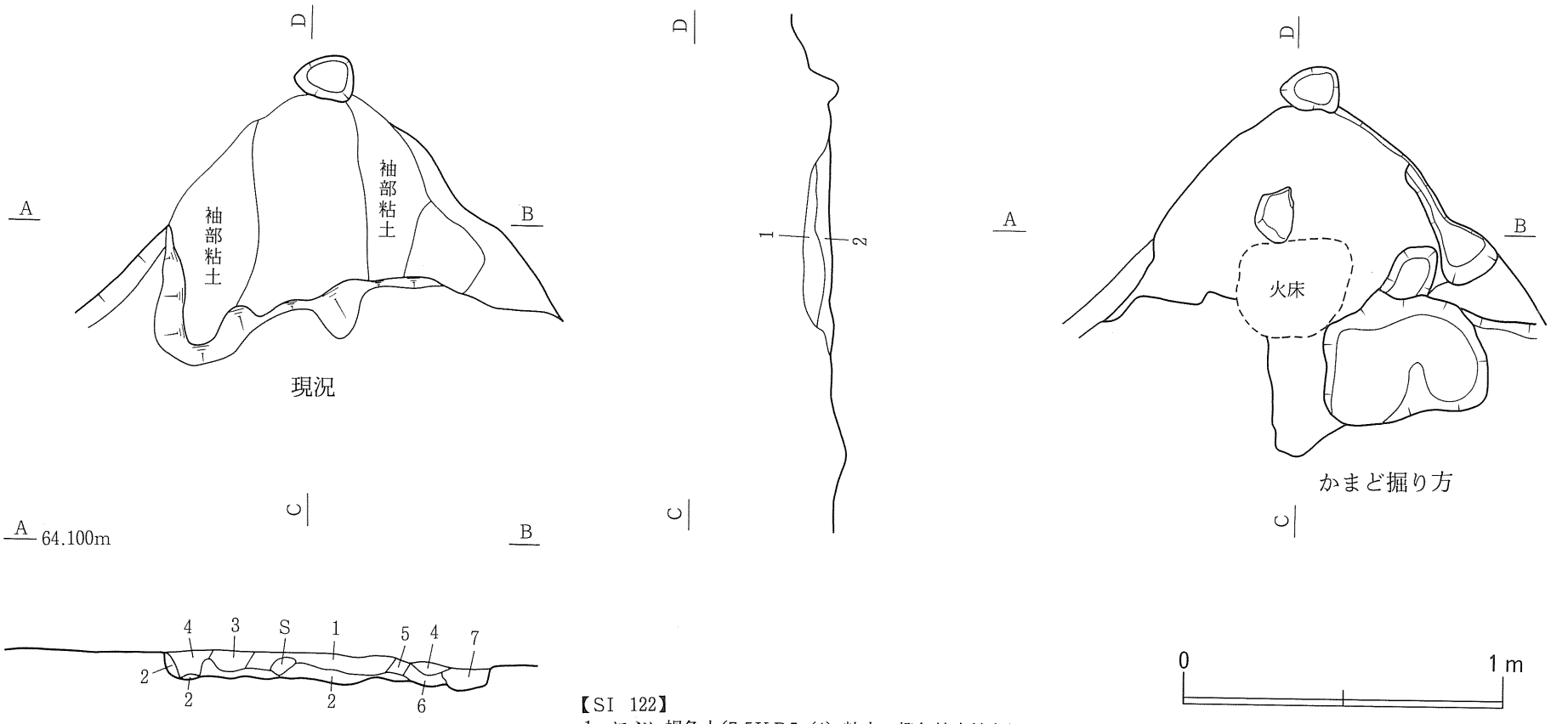
《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。



【ＳＩ　122】
1　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(中粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
2　黒色土(7.5ＹＲ2／1)　地山(大粒)少量混入。しまり有り。
3　黒色土(7.5ＹＲ2／1)　地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
4　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(大粒)ごく多量混入。ややしまり有り。
5　4に同じ。
6　2に同じ。
7　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山塊(小)中量混入。ややしまり有り。
8　黒色土(2.5Ｙ2／1)　地山(大粒)多量混入。しまり有り。
9　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山塊(中)中量混入。しまり有り。
10　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山塊(小)中量混入。ややしまり有り。
11　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(大粒)多量混入。ややしまり有り。

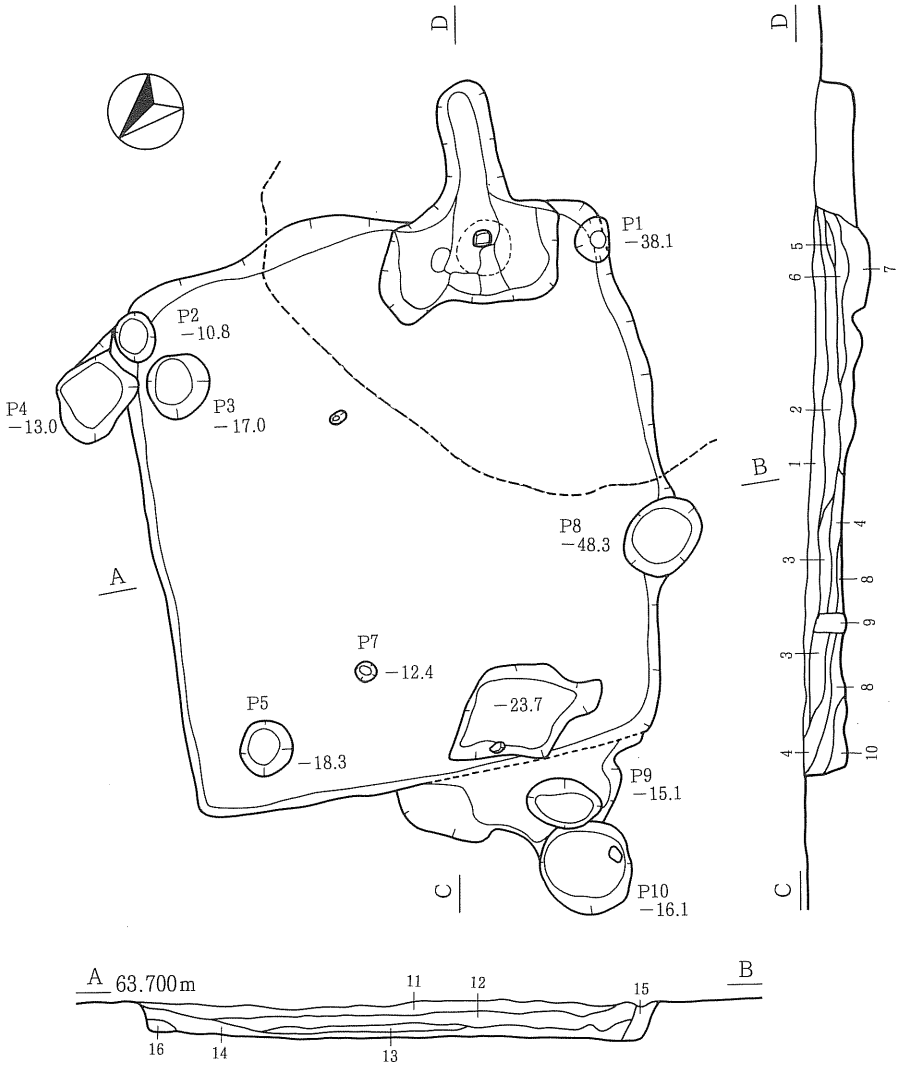


第318図　SI 122 竪穴住居跡とその出土遺物



【SI 122】
1　にぶい褐色土(7.5YR5／4) 粘土。橙色粘土粒多量混入。
2　黒褐色土(10YR2／3)
3　橙色土(7.5YR7／6) 袖部粘土
4　灰白色土(2.5YR8／1) 袖部粘土
5　黒褐色土(10YR3／2)
6　黒褐色土(10YR3／2) 粘土塊混入
7　暗褐色土(10YR3／4) 灰白色粘土塊混入

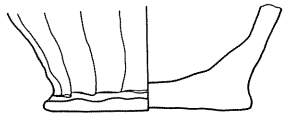
第319図　SI 122 竪穴住居跡かまど



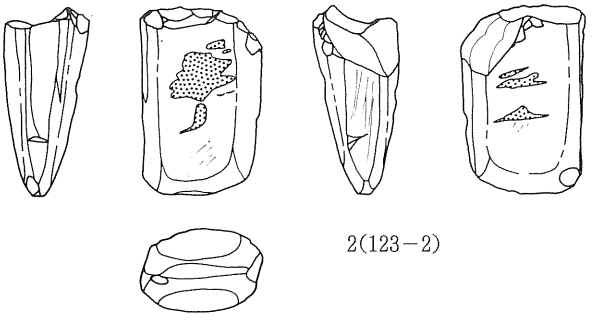
マイナス数字は床面・地山からの深さ(cm)

0　2m

【SI　123】
1　黒色土(10YR1.7／1) 地山(小粒)少量、地山(大粒)混入。ややしまり有り。
2　黒色土(10YR1.7／1) 地山(小粒)中量、地山(大粒)混入。しまり有り。
3　２に同じ。
4　黒色土(10YR2／1) 地山(大粒)中量混入。しまり有り。
5　黒色土(2.5Y2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。白色粘土混入。しまり有り。
6　黒色土(10YR2／1) 地山(中粒)中量、地山(大粒)混入。しまり、粘性有り。
7　黒色土(7.5YR1.7／1) 地山塊(小)中量混入。しまり有り。
8　６に同じ。
9　黒色土(10YR2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
10　黒褐色(10YR2／3) 地山(大粒)中量混入。ややしまり有り。
11　１に同じ。
12　３に同じ。
13　４に同じ。
14　８に同じ
15　オリーブ褐色(2.5Y4／3) 地山(中粒)少量混入。しまり有り。
16　黒褐色(10YR2／2) 地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。



1(123−1)



2(123−2)

0　10cm

第320図　SI 123 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　124　竪穴住居跡（第322図・第323図）

《位　　置》　ＭＮ73・74、ＭＯ73・74グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＩ 143竪穴住居跡と重複していた。１回の改築を確認できた。

《規模と平面形》　東西壁長3.16ｍ（2.90ｍ）×南北壁長2.87ｍ、深さ16㎝。方形を呈する。西側を20～30㎝縮小していた。

《埋　　土》　17層に分層した。自然堆積と思われる。西側には地山土を埋め戻した部分があり、改築したと判断した。

《　壁　》　わずかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　ほぼ平坦である。北東隅部近くに地山土で貼床した部分がみられる。

《か ま ど》　東側壁の中央からやや南寄りに構築されていたが、遺存状況は不良で、短い煙道部を確認しただけである。

《柱　　穴》　壁下と床面に９カ所検出したが、床面の東側に多い。

《壁　　溝》　南側壁下と西側壁下南半に検出した。

《遺　　物》　土師器の坏と甕の破片などが出土した。

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　125　竪穴住居跡（第324図・第325図）

《位　　置》　ＭＭ72・73、ＭＮ73グリッドに位置する。

《確　　認》　白色粘土の堆積のある方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＩ 143竪穴住居跡と重複していた。

《規模と平面形》東西壁長3.16ｍ×南北壁長2.87ｍ、深さ16㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　26層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　ほぼ平坦である。縄文時代の遺構部分には地山土で貼床をしていた。

《か ま ど》　西側壁の中央からやや北寄りに構築されていた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部が確認できた。燃焼部には土師器の坏（３）を倒立させて支脚としていた。火床は堅く焼き締まっていた。焚口の前は楕円形に掘り窪めていた。煙道部は短く急角度で立ち上がる。

《柱　　穴》　壁下と床面に９カ所検出したが、床面の東側に多い。

《壁　　溝》　西側壁を除いた壁下に検出した。

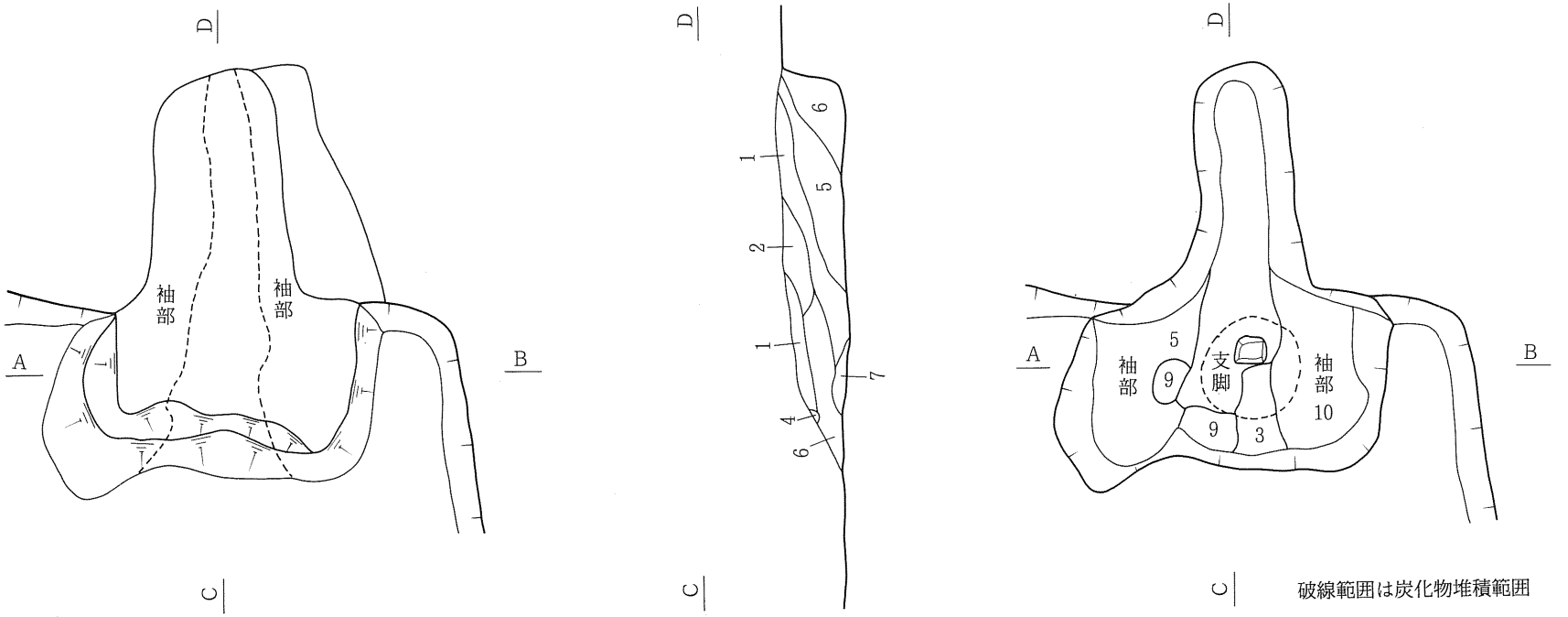
《遺　　物》　かまどから土師器の坏（３）と甕破片が、埋土中から土師器の坏（１・２）と甕（４・５）のほか、縄文土器片１点と基部を欠損する磨製石斧１点などが出土した。

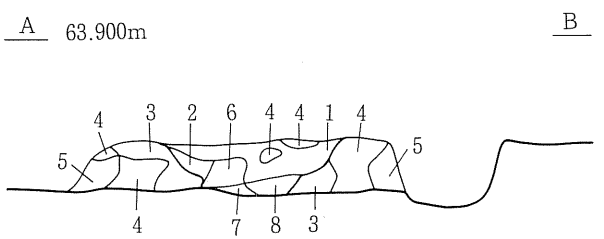
《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　126竪穴住居跡（第326図～第329図）

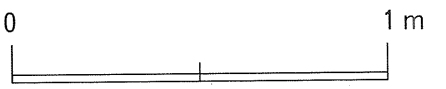
《位　　置》　ＭＫ74・75、ＭＬ74・75グリッドに位置する。

《確　　認》　炭化物を多く混入する方形の黒色土の落ち込みの中に大湯浮石層が円形に堆積しているのを確認した。

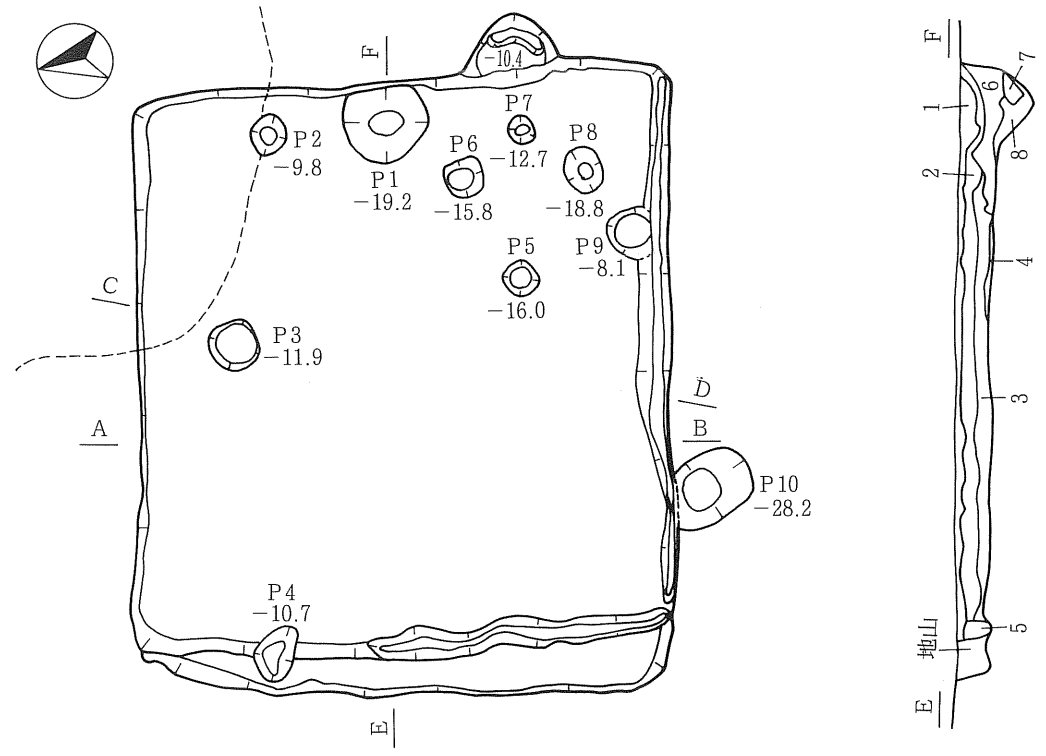


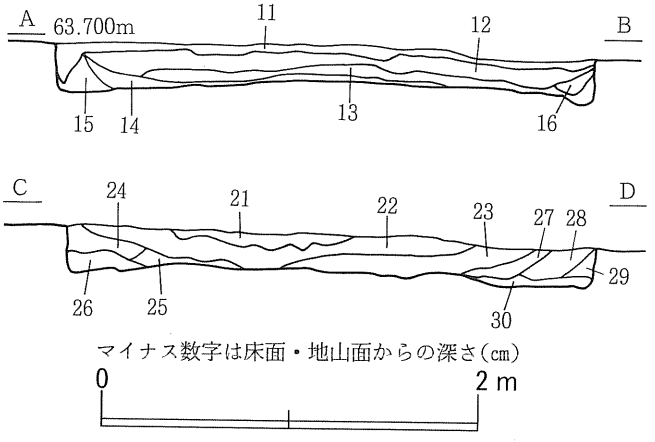


【SI　123】
1　黒褐色土(10ＹＲ3／1) 炭化物粒・にぶい黄橙色粘土塊混入。
2　灰黄褐色土(10ＹＲ5／2) にぶい黄橙色粘土粒多量混入。
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4／3) 黄橙色地山塊混入。
4　にぶい黄橙色土(10ＹＲ6／4) 粘土。
5　黒褐土(10ＹＲ2／3) 灰黄褐色粘土粒混入。
6　暗褐土(10ＹＲ3／3) 炭化物塊少量混入。
7　黒褐土(10ＹＲ2／3) 灰炭化物塊多量混入。
8　暗褐土(10ＹＲ3／4) 炭化物塊・粘土塊混入。
9　塼化した粘土塊。
10　黄褐色土(10ＹＲ5／8) 粘土混入。

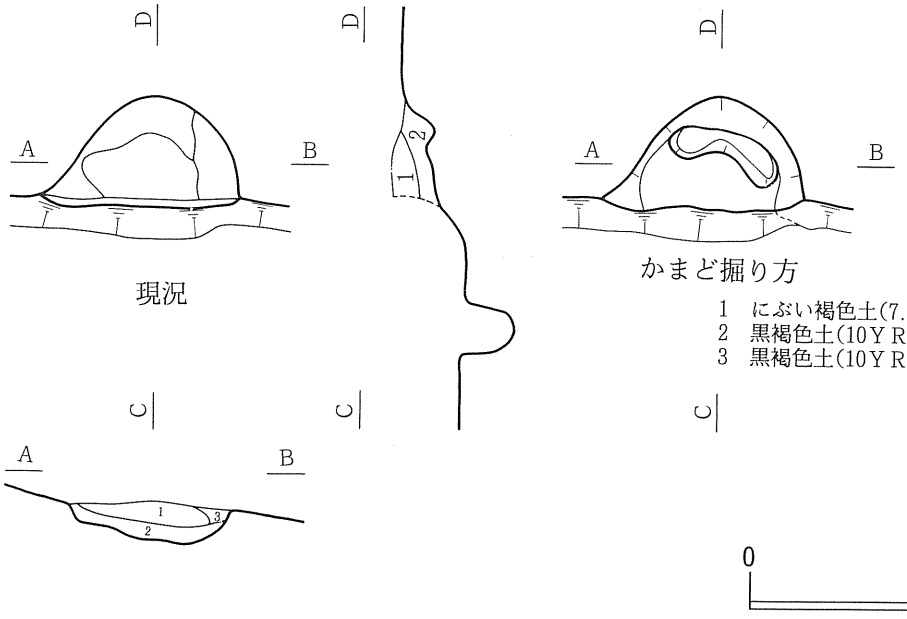


第321図　SI 123 竪穴住居跡かまど

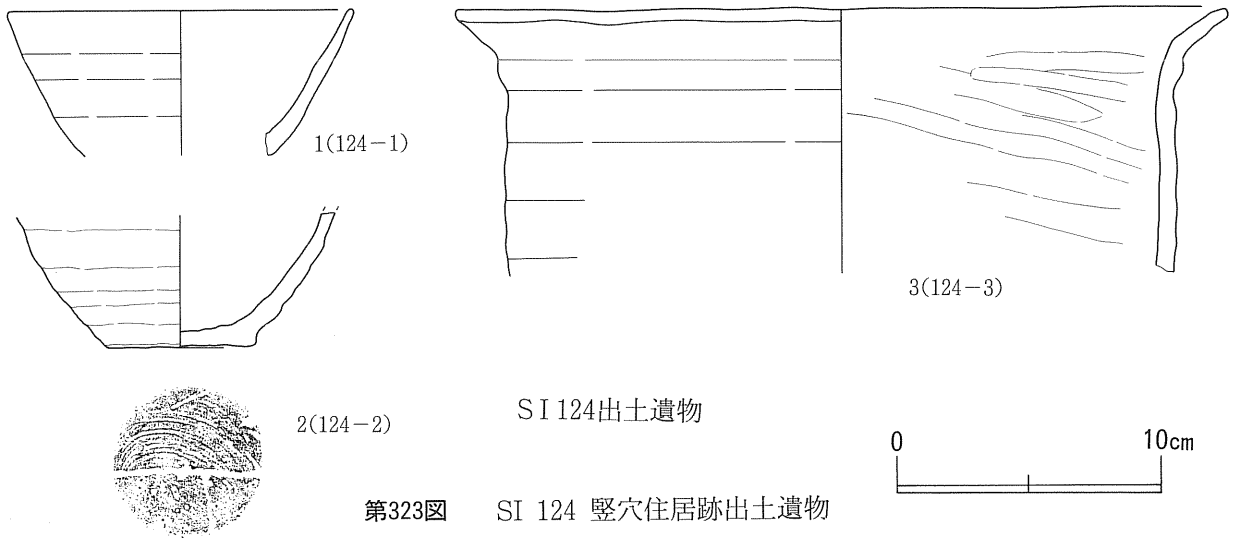




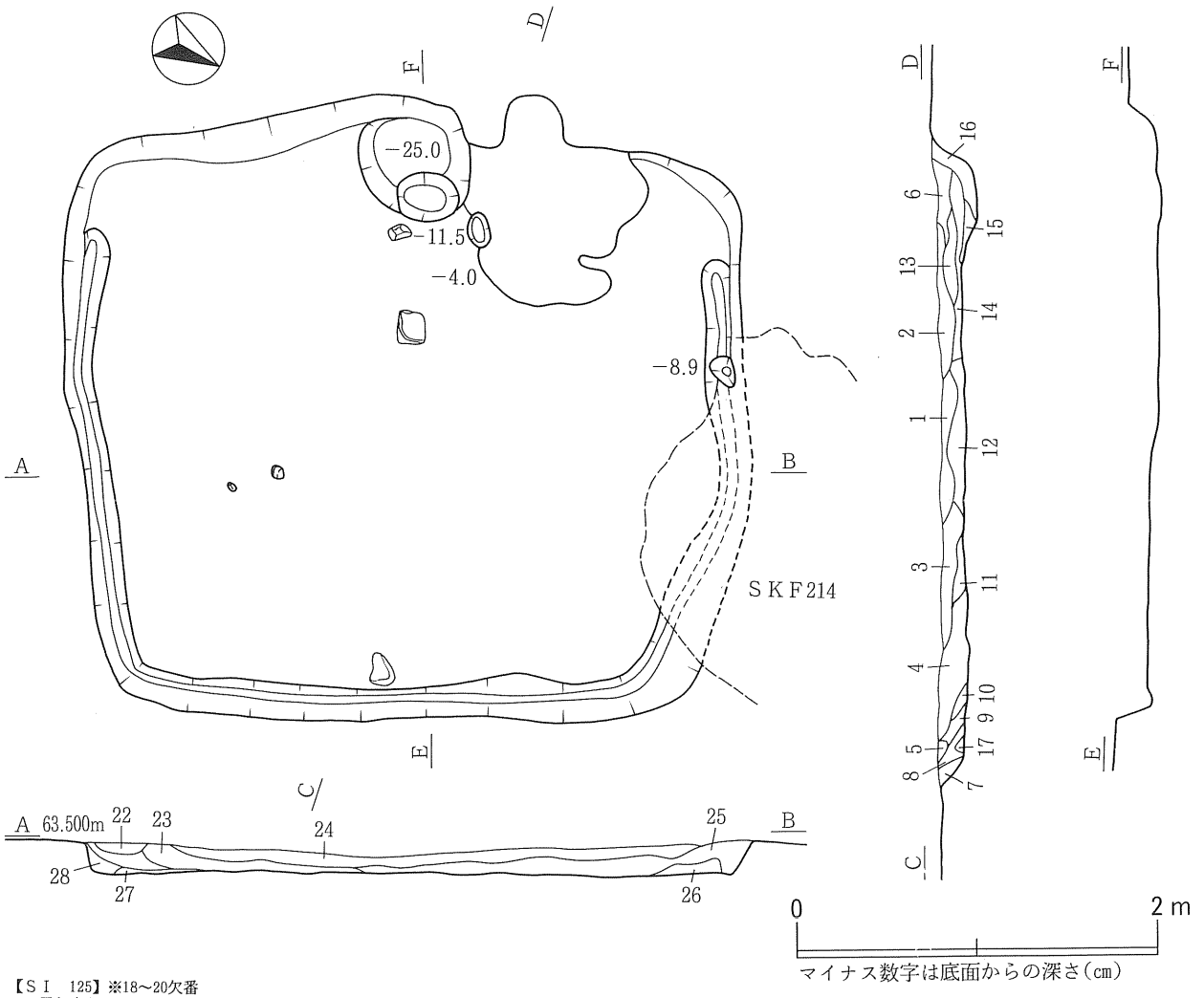
【ＳＩ　124】※9, 10, 17～20欠番
1　黒褐色土(2.5Ｙ3／1) 地山(中粒)中量、炭(小粒) 少量混入。ややしまり有り。
2　黒色土(2.5Ｙ2／1) 地山(大粒)中量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
3　黒褐色土(2.5Ｙ3／2) 地山(大粒)多量、炭(中粒) 少量混入。ややしまり有り。
4　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(中粒)中量、炭(中粒)多量混入。しまり有り。
5　黒褐色土(2.5Ｙ3／1) 地山(小粒)中量混入。
6　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(大粒)・炭(中粒)多量混入。ややしまり有り。
7　黒褐色土(10ＹＲ3／2) 地山(大粒) ごく少量、炭(中粒)混入。ややしまり有り。
8　黒褐色土(2.5Ｙ3／2) 地山 (大粒) 少量混入、炭(小粒)中量混入。ややしまり有り。
11　1に同じ。
12　2に同じ。
13　3に同じ。
14　4に同じ。
15　黒褐色土(2.5Ｙ3／2) 地山(大粒)少量混入。しまり有り。
16　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(中粒) 少量混入。しまり、粘性有り。
21　1に同じ。
22　2に同じ。
23　3に同じ
24　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(大粒)・炭(小粒)中量混入。ややしまり有り。
25　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(中量)少量混入。ややしまり有り。
26　黒褐色土(10ＹＲ2／1) 地山(中量)中量混入。ややしまり有り。
27　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(小粒)少量混入。
28　黒褐色土(10ＹＲ3／2) 地山(中粒)多量混入。ややしまり有り。
29　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。
30　黒褐色土(2.5Ｙ3／2) 地山(大粒)やや多量混入。しまり有り。



第322図　SI 124 竪穴住居跡・かまど

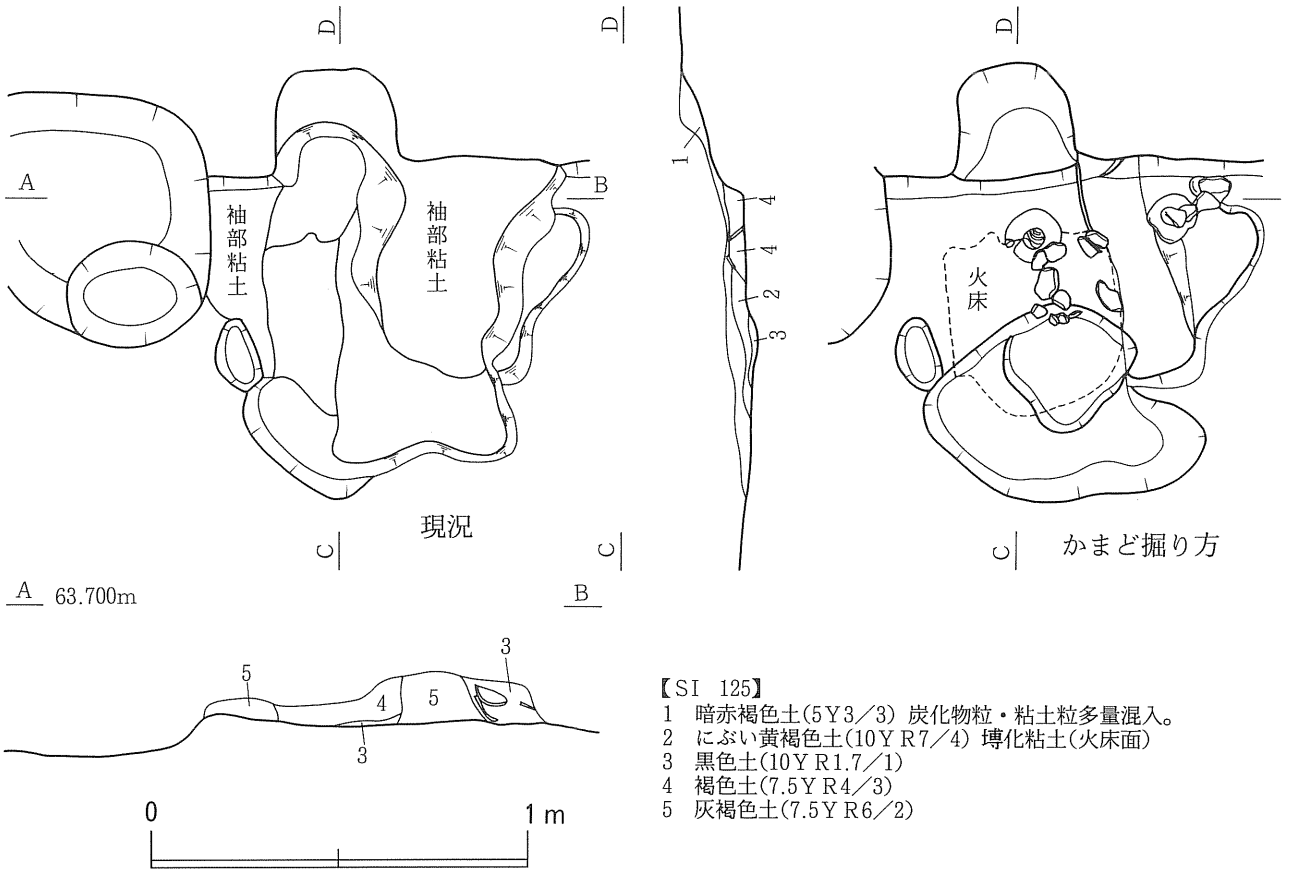


第323図　SI 124 竪穴住居跡出土遺物

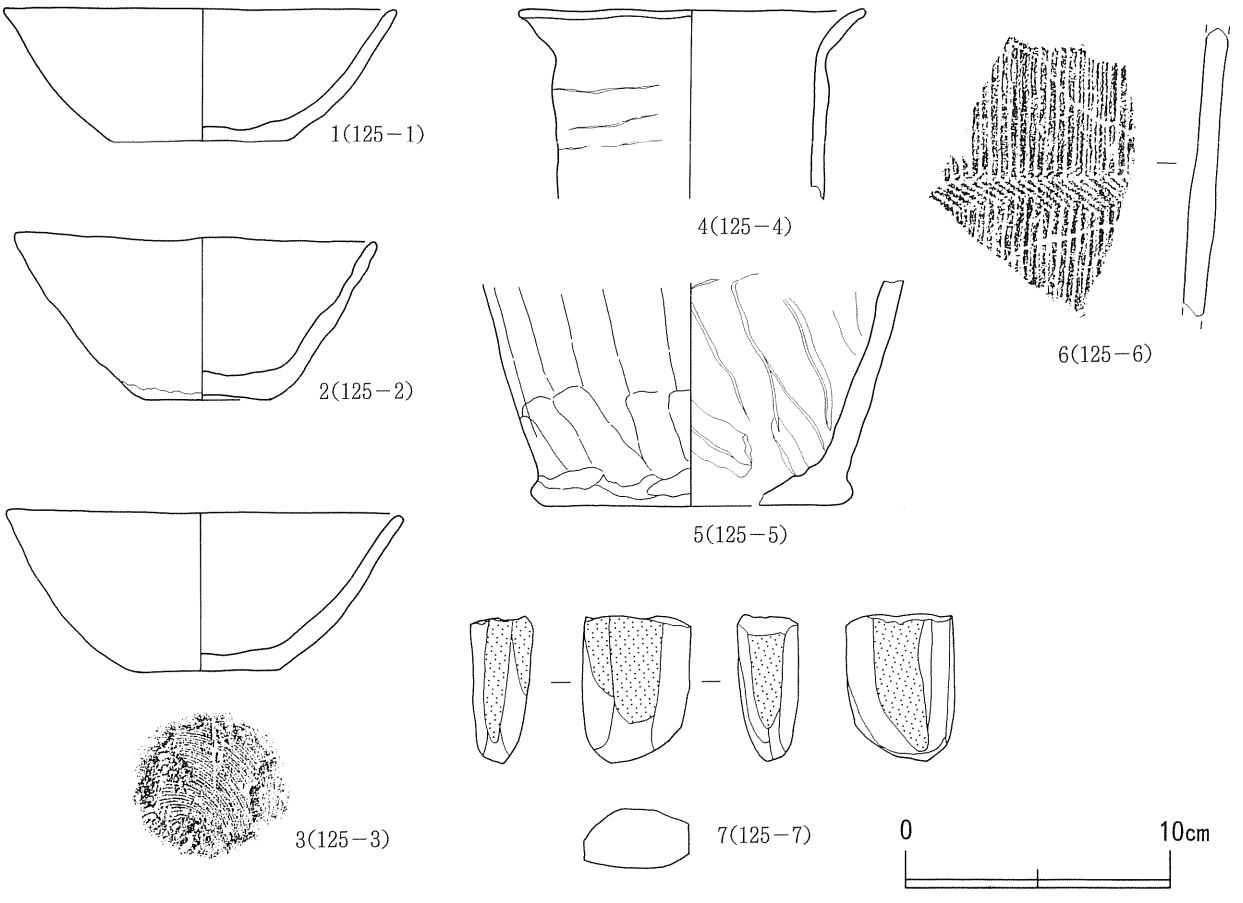


【ＳＩ　125】※18～20欠番
1　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(中粒)少量混入。しまり有り。
2　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(中粒)少量混入。白色粘土混入。しまり有り。
3　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(大粒)中量混入。しまり有り。
4　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(大粒)中量混入。しまり有り。
5　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(小粒)ごく少量混入。
6　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(小粒)少量混入。白色粘土混入。ややしまり有り。
7　黒褐色土(2.5Ｙ3／2) 地山(小粒)ごく少量、炭(小粒) 少量混入。しまり有り。
8　黒色土(7.5Ｙ1.7／1) 地山(中粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
9　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
10　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(小粒)ごく少量混入。しまり有り。
11　黒色土(7.5ＹＲ2／1) 地山(中粒)少量混入。
12　25に同じ。
13　にぶい黄褐色土(10ＹＲ6／3) 軽石(中粒)中量混入。しまり強い。＝白色粘土層＝
14　黒色土(7.5ＹＲ2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。しまり有り。
15　黒色土(7.5ＹＲ2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。白色粘土混入。しまり有り。
16　黒色土(7.5ＹＲ1.7／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
17　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(大粒)少量混入。ややしまり有り。
21　1に同じ。
22　黒褐色土(2.5Ｙ3／1) 地山(中粒) 中量混入。しまり有り。
23　黒色土(2.5Ｙ2／1) 地山(小粒) ごく少量混入。ややしまり有り。
24　黒褐色土(2.5Ｙ3／1) 地山(中粒)多量混入。
25　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(中粒)中量混入。しまり有り。
26　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(大粒)少量混入。
27　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(大粒)中量混入。
28　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(小粒)中量混入。

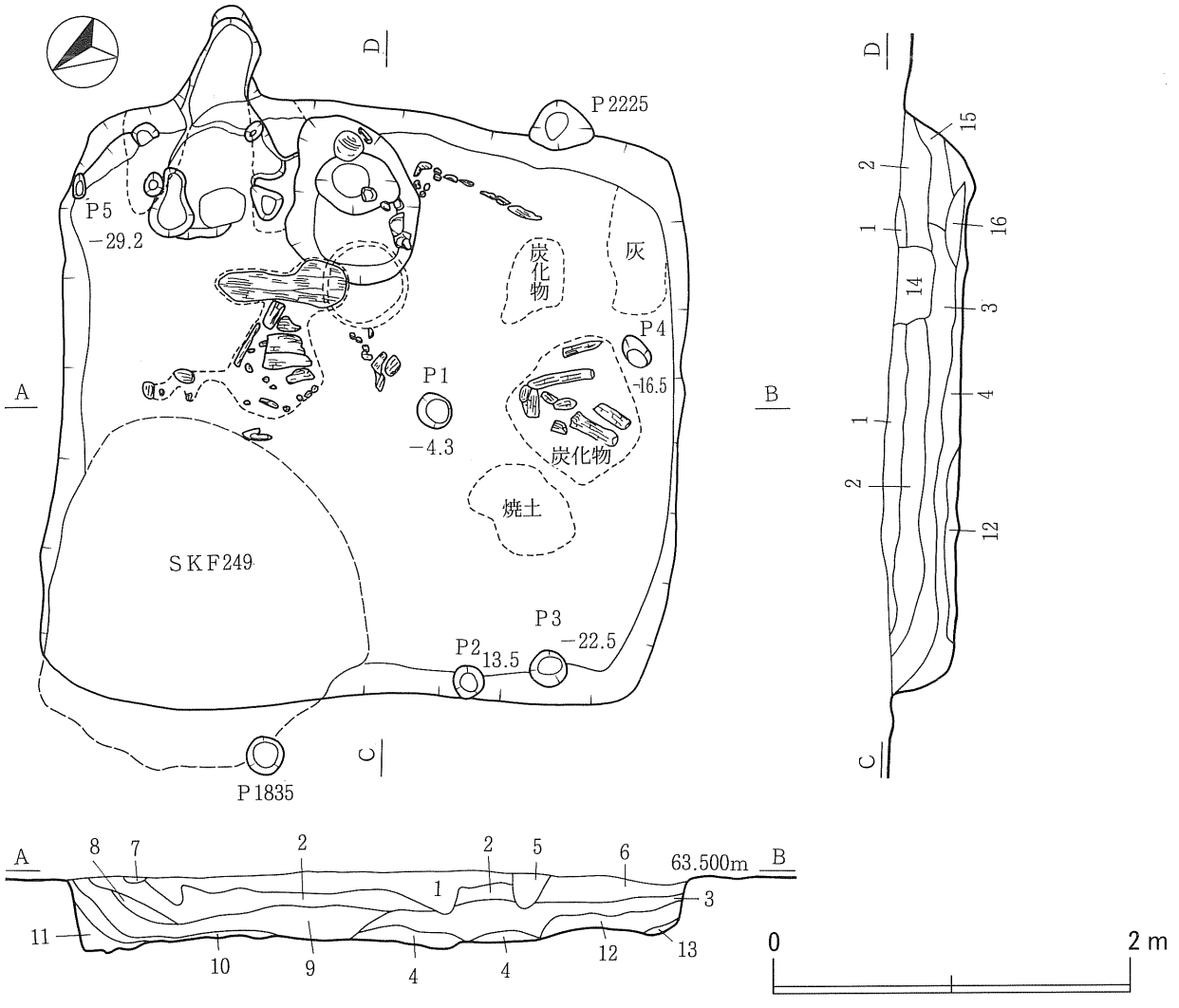
第324図　SI 125 竪穴住居跡



【SI 125】
1　暗赤褐色土(5Y3／3) 炭化物粒・粘土粒多量混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR7／4) 塼化粘土(火床面)
3　黒色土(10YR1.7／1)
4　褐色土(7.5YR4／3)
5　灰褐色土(7.5YR6／2)



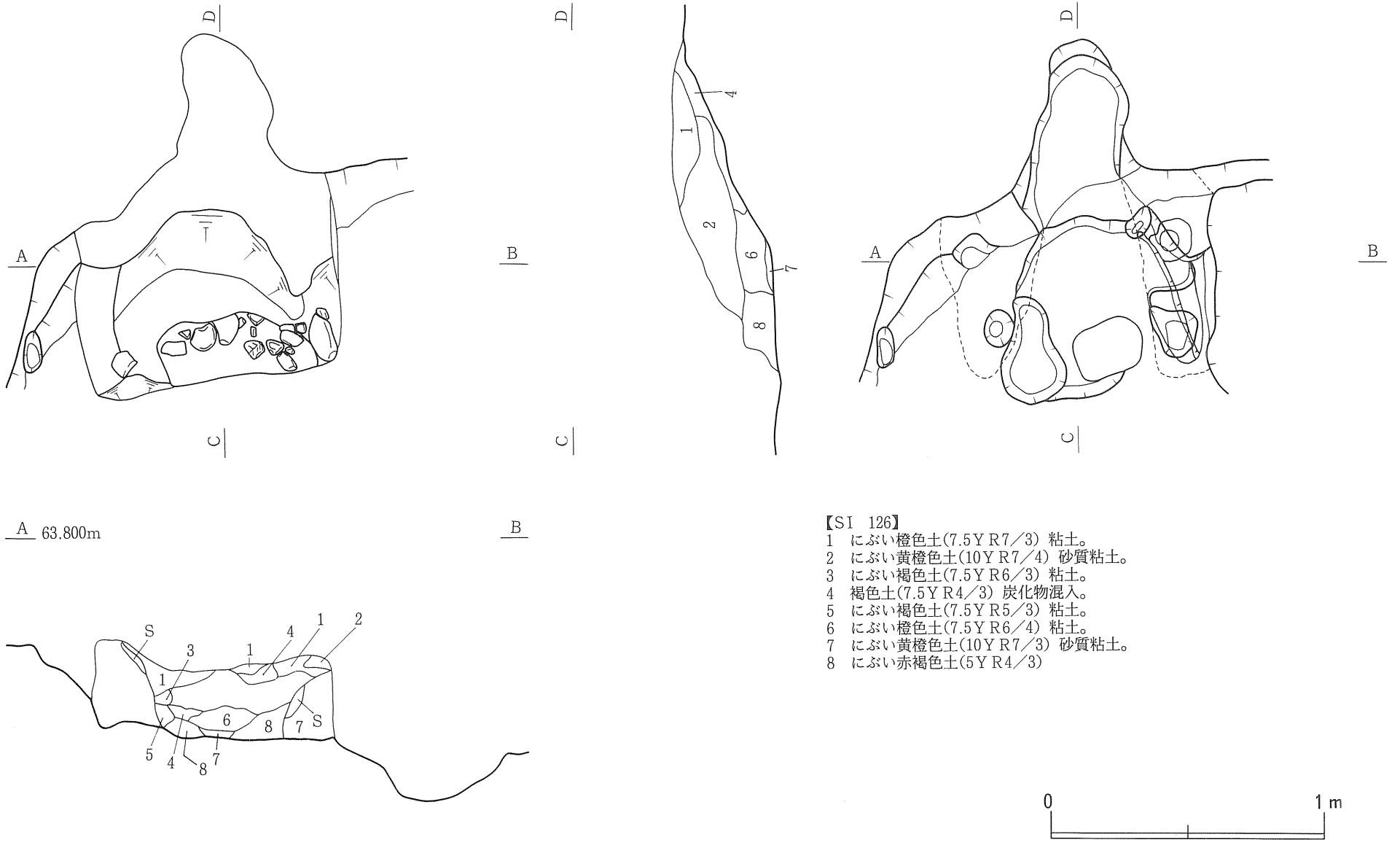
第325図　SI 125 竪穴住居跡かまど・竪穴住居跡出土遺物



マイナス数字は底面からの深さ(cm)

【SI 126】
1　オリーブ褐色土(2.5Y4／4) 大湯浮石多量混入。ややしまりあり。
2　黒色土(10YR2／1) 地山粒・炭化物少量混入。しまりあり。
3　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒多量・炭化物少量混入。ややしまりあり。
4　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒少量混入・炭化物多量混入。ややしまりあり。
5　黒色土(7.5YR1.7／1) 大湯浮石混入。ややしまりあり。
6　黒色土(7.5YR1.7／1) 地山粒混入。しまりあり。
7　黒色土(7.5YR1.7／1) 大湯浮石混入。ややしまりあり。
8　黒色土(7.5YR2／1) 地山粒少量混入。しまりあり。
9　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒多量、炭化粒少量混入。ややしまりあり。
10　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒少量混入。しまりなし。
11　黒色土(10YR1.7／1) 地山粒極少量、炭化物少量混入。ややボソボソしている。
12　黒色土(10YR2／1) 地山粒少量混入。ややしまりあり。
13　黒褐色土(7.5YR3／2) 地山粒極少量混入。しまりあり。
14　黒色土(10YR1.7／1) 炭化物・大湯浮石少量混入。ややボソボソしている。
15　黒色土(7.5YR1.7／1) 地山粒・炭化物少量混入。
16　暗褐色土(10YR3／4) 地山極少量混入。ややしまりあり。

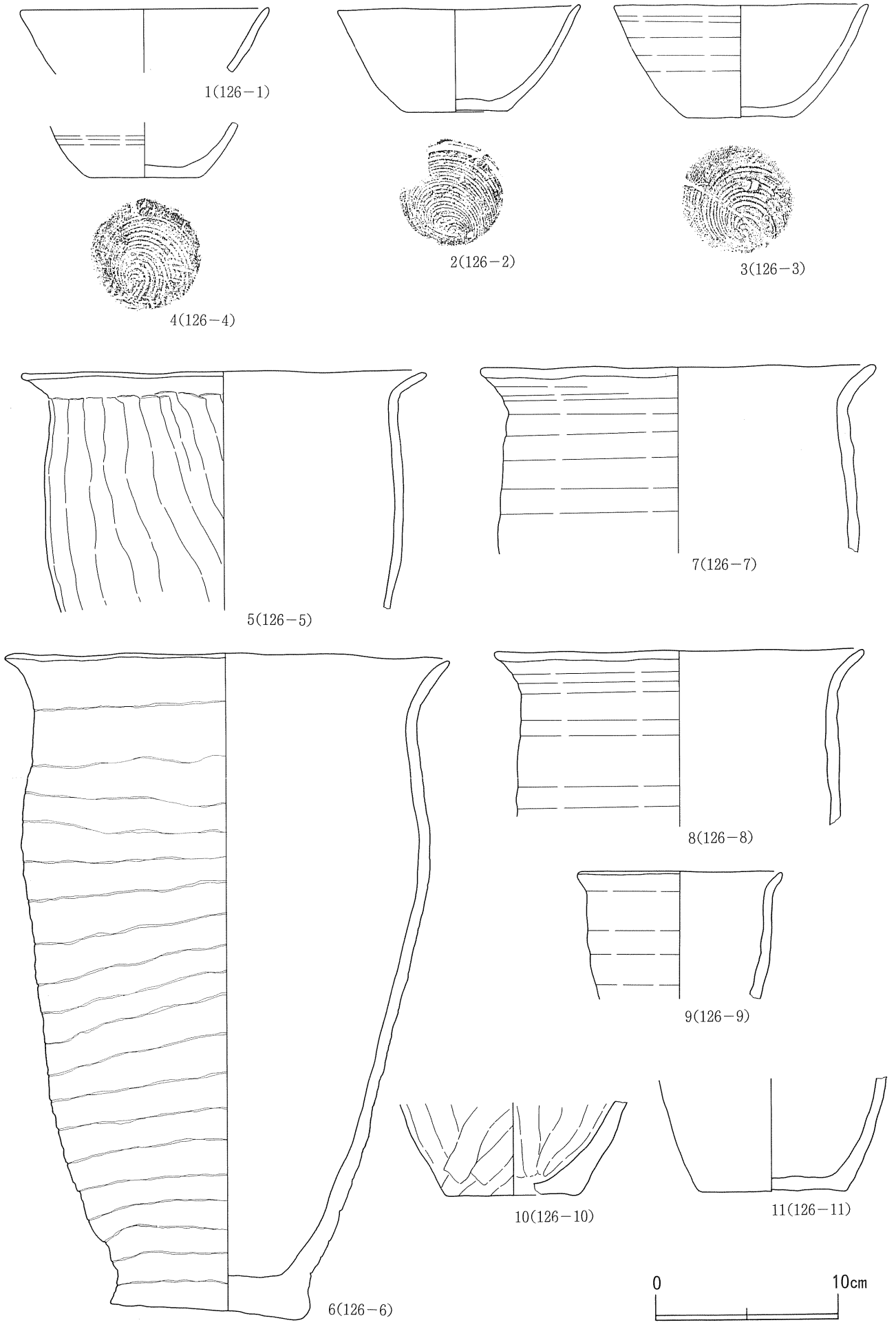
第326図　SI 126 竪穴住居跡



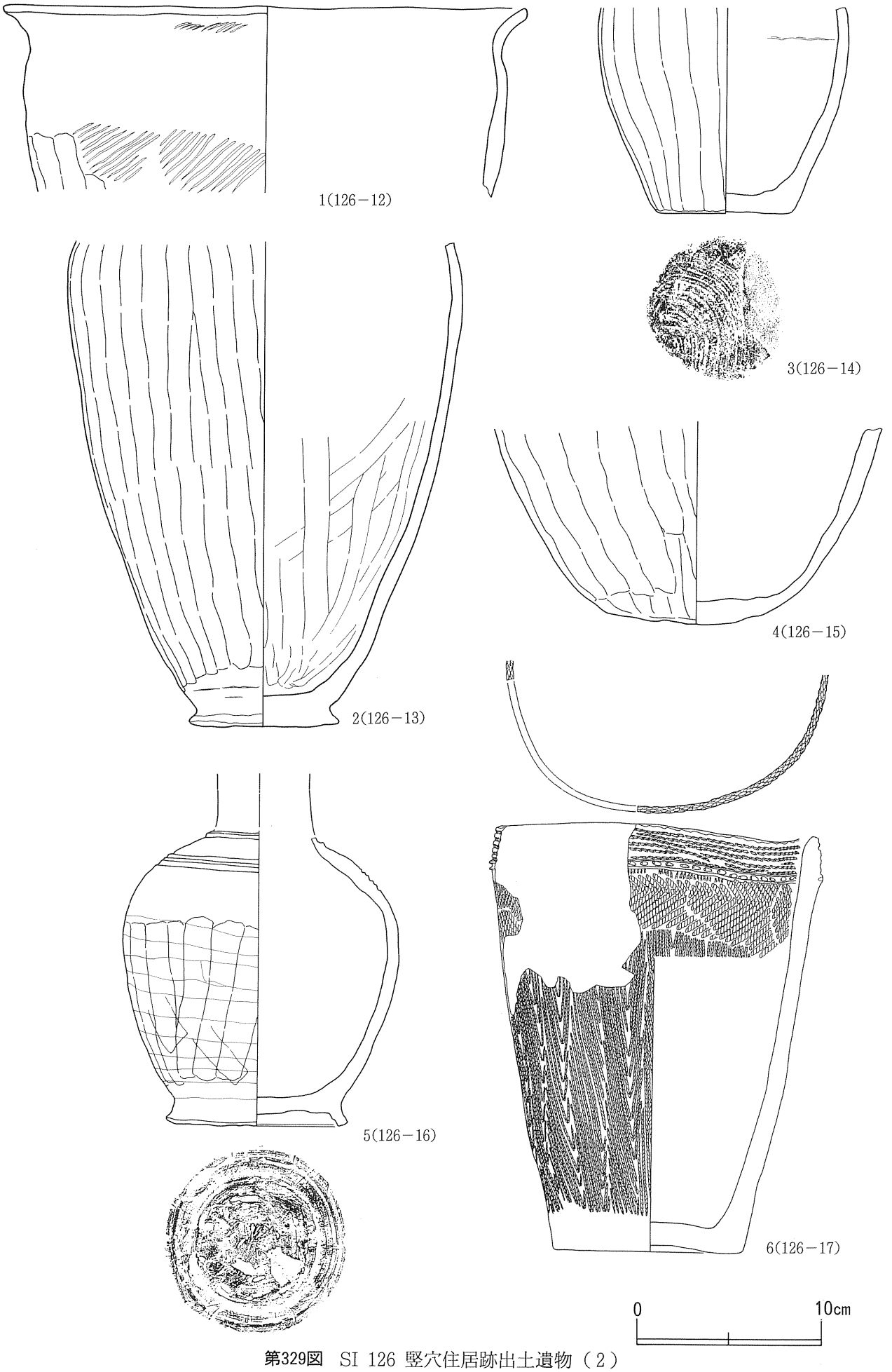
【SI 126】
1　にぶい橙色土(7.5YR7／3) 粘土。
2　にぶい黄橙色土(10YR7／4) 砂質粘土。
3　にぶい褐色土(7.5YR6／3) 粘土。
4　褐色土(7.5YR4／3) 炭化物混入。
5　にぶい褐色土(7.5YR5／3) 粘土。
6　にぶい橙色土(7.5YR6／4) 粘土。
7　にぶい黄橙色土(10YR7／3) 砂質粘土。
8　にぶい赤褐色土(5YR4／3)

0　1m

第327図　SI 126 竪穴住居跡かまど



第328図　SI 126 竪穴住居跡出土遺物（１）



第329図　SI 126 竪穴住居跡出土遺物（２）

《重　　複》　縄文時代のＳＫＦ 249フラスコ状土坑と重複している。

《規模と平面形》　東西壁長3.32ｍ×南北壁長2.96ｍ、深さ32㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　16層に分層した。自然堆積と思われるが、炭化物の混入が多い。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　ほぼ平坦である。床面上には焼土、炭化板材、炭化丸太材、炭化した禾本科植物が大量に厚く堆積していた。

《か ま ど》　南東側壁の中央からやや北寄りに構築されていた。遺存状況は良好で両袖部、燃焼部が確認できた。煙道部は長く緩やかに上昇する。焚口にこぶし大の自然石と土器片を出土した。

《柱　　穴》　壁中と床面に５カ所検出した。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　土師器の坏、甕、須恵器の長頸壷のほか、縄文土器、モモの核なども出土した。土師器坏は底部に回転糸切り痕がある。土師器甕は胴部を篦削りしているものが多いが、甕12には叩き目も見られる。甕14の底部には回転糸切り痕がある。甕15は胴部を篦削りし底部が丸底である。須恵器長頸壷（16）は口頸部を欠損しているが頸部に粘土紐を巡らし、肩部に３～４条の沈線を巡らしている。縄文土器（17）は縄文時代前期の深鉢である。

《構築時期》　大湯浮石層の堆積状況と出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　128　竪穴住居跡（第330図・第331図）

《位　　置》　ＭＬ75･76、ＭＭ75･76グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の暗褐色土の落ち込みとして確認したが、粗掘り時に西側を掘り過ぎていた。

《重　　複》　東側壁中央部で土坑様落ち込みと重複していた。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規模と平面形》　東西壁長3.86ｍ×南北壁長3.16ｍ、深さ22㎝。北側壁が南側壁に比べてやや短く台形を呈する。

《埋　　土》　粗掘り時に西側を掘り過ぎていたため、自然堆積か人為的堆積かは不明であるが、炭化物が混入していた。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸がある。かまど右前に長方形の窪みがあるが、時期に異なる土坑かどうか粗掘り時に西側を掘り過ぎていたため不明である。

《か ま ど》　北側壁の中央から西寄り、北西側隅の近くに構築されていた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも確認できた。煙道部は短く緩やかに立ち上がる。両袖部は灰黄色粘土で作っていたが、自然石を芯材として立てた窪みが右に２カ所、左１カ所ある。右奥１カ所には石が残っていた。燃焼部には自然石を使った支脚が残っていた。火床は固く焼き締まっていた。

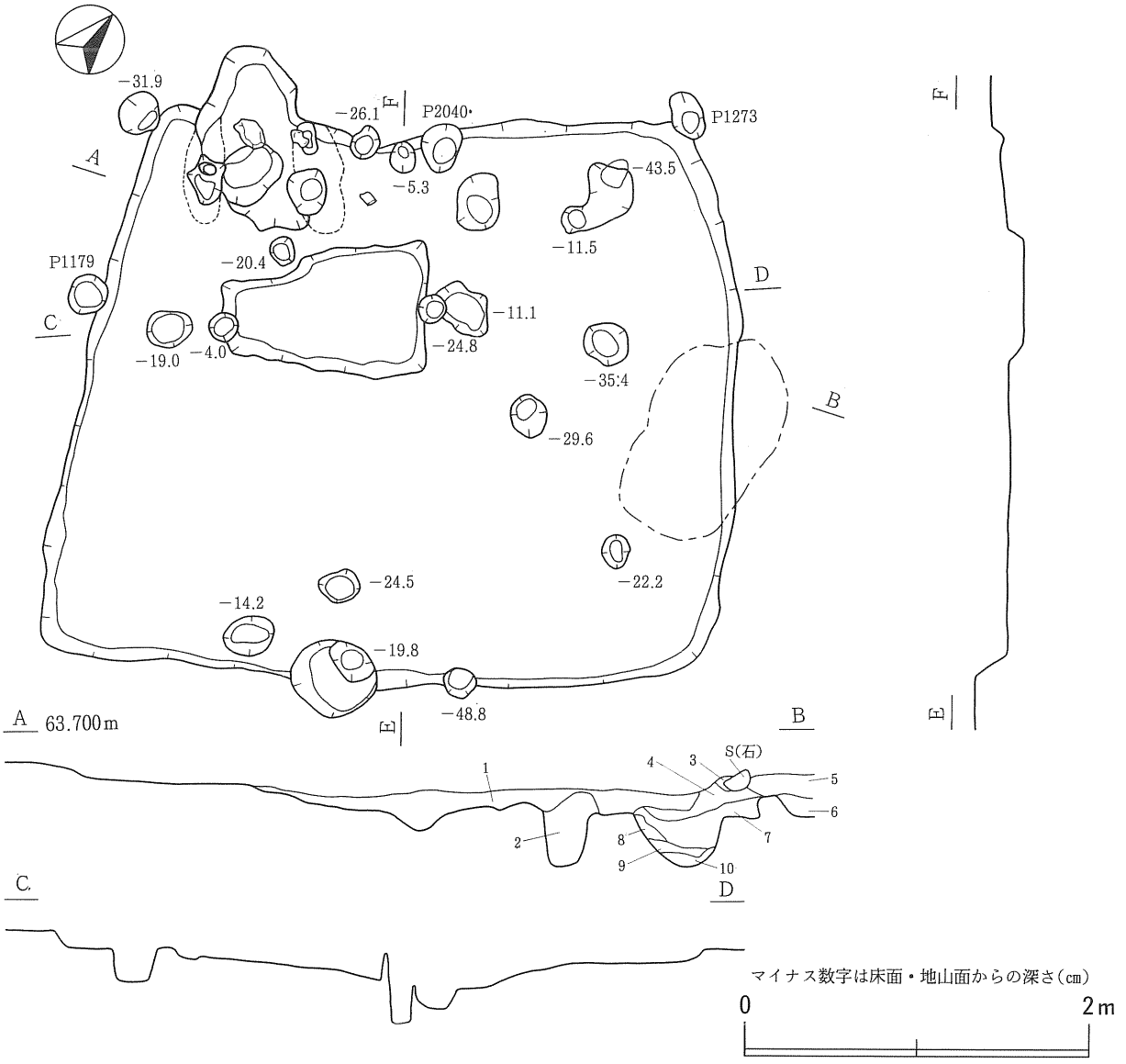
《柱　　穴》　壁下と床面に14カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　なし。

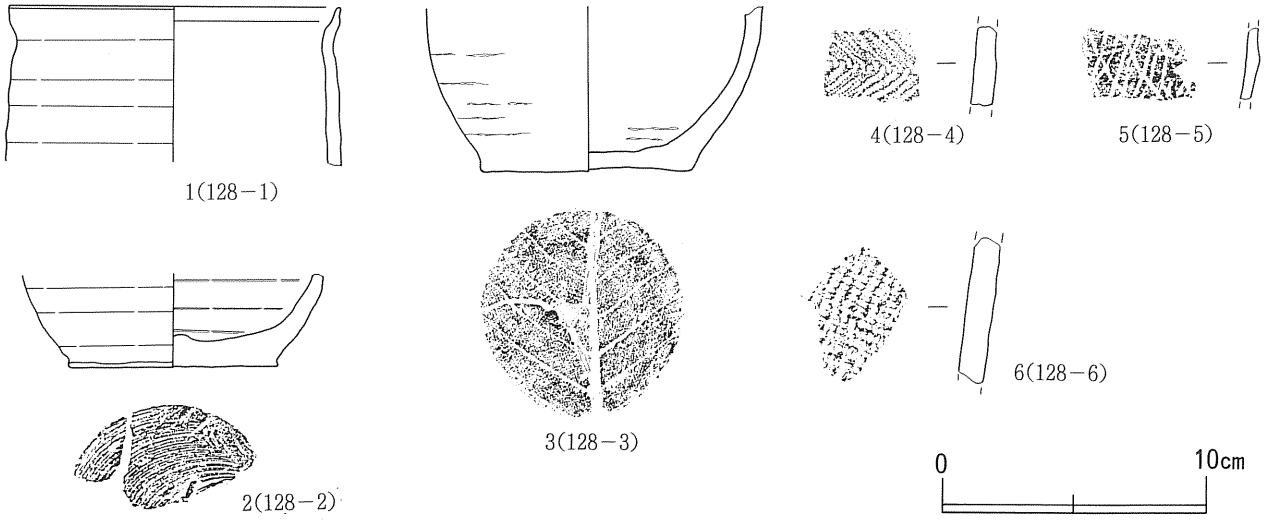
《遺　　物》　ろくろで製作した土師器の甕のほか、縄文土器片が出土した。土師器甕の底部には回転糸切り痕（２）、木葉痕（３）が見られる。

《構築時期》　出土した土師器から平安時代と推定した。

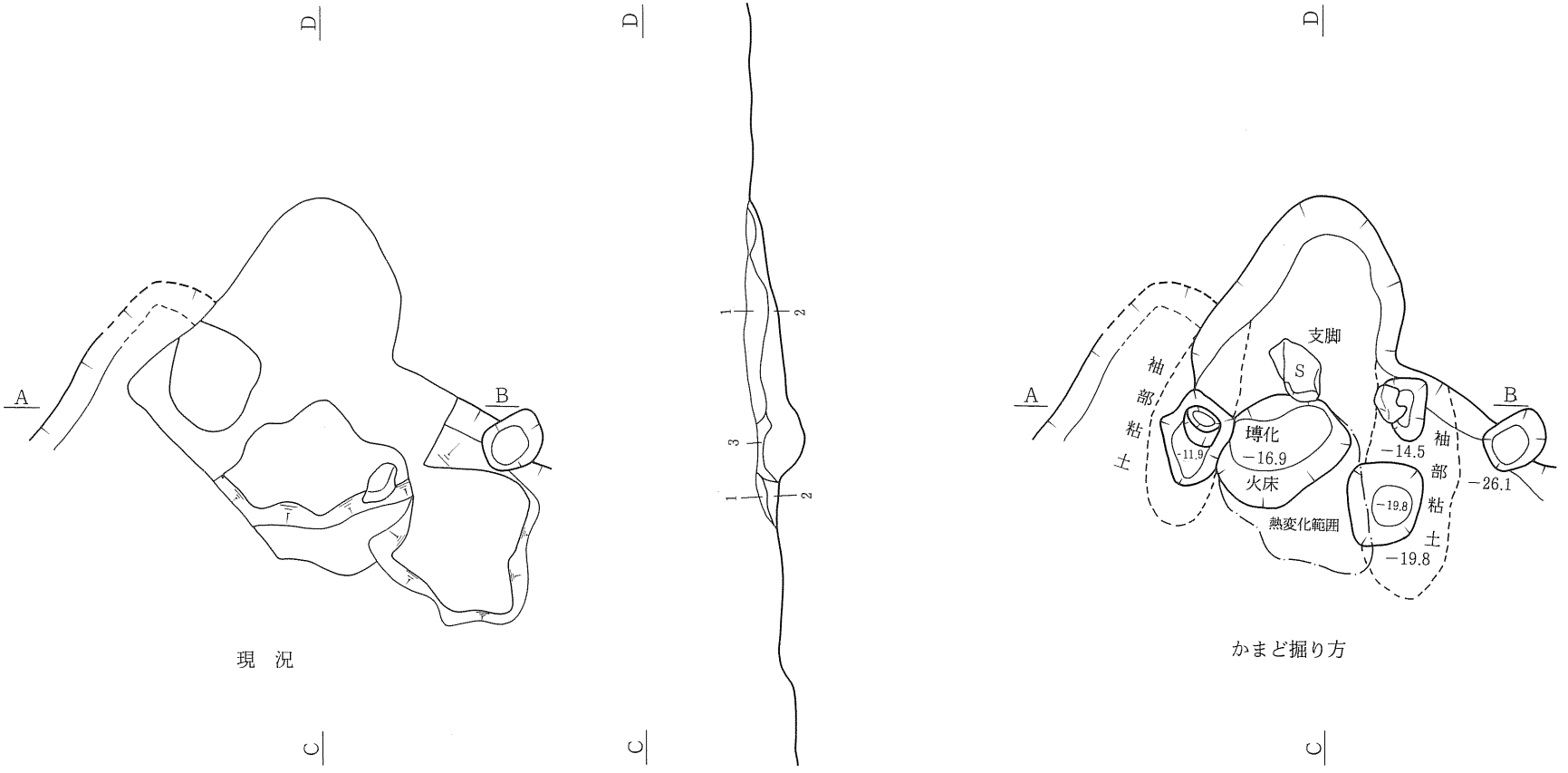
ＳＩ　129　竪穴住居跡（第332図～第335図）

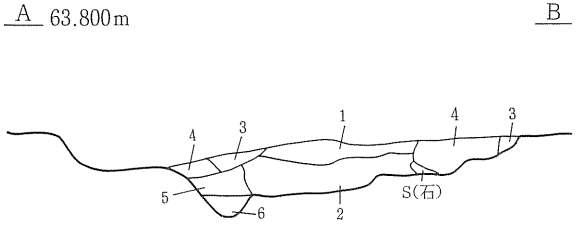


【SI　128】
1　暗褐色土(10YR3／3) 地山(大粒)やや多量、炭(中粒)混入。ややしまり有り。
2　黒褐色土(10YR2／2) 地山(小粒)ごく少量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
3　黒色土(10YR2／1) 地山(中粒)、炭(小粒)混入。白色粘土混入。しまり有り。
4　黒色土(10YR2／1) 地山(小粒)混入。しまり有り。
5　明黄褐色土(10YR6／6) 地山塊(小)、炭(中粒)混入。ややしまり有り。
6　黒褐色土(10YR3／2) 地山塊(小)混入。ややしまり有り。
7　1に同じ。
8　黒色土(10YR2／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
9　6に同じ。
10　黒褐色土(2.5Y3／2) 地山(大粒)混入。ややしまり有り。



第330図　SI 128 竪穴住居跡とその出土遺物





【SI　128】
1　にぶい橙色土(7.5YR7／4) 粘土(熱変化している)。
2　極暗褐色土(7.5YR2／3)。
3　黒色土(10YR2／1)。
4　灰黄色土(2.5YR7／2) 粘土。
5　暗褐色土(10YR3／3) 明黄褐色地山塊少量混入。
6　黒褐色土(10YR2／2) 明黄褐色地山塊多量混入。

マイナス数字は床面・地山面からの深さ(cm)

0　1m

第331図　SI 128 竪穴住居跡かまど

《位　　置》　ＭＪ75•76、ＭＫ75•76グリッド、縄文時代前期に捨て場が形成され埋没したＳＴ 156谷に位置する。

《確　　認》　黒褐色土のＳＴ 156谷埋土の中に炭化物が多く混入した黒色土が広がっているのに気づきプラン確認作業をしたところ、方形の黒色土の落ち込みと褐灰色の粘土範囲（かまど）を検出したので焼失した古代の竪穴住居跡と確認した。

《重　　複》　床下から上部を削平されたかまどを検出したので、現竪穴住居跡プランより小さなプランの竪穴住居跡が当初作られていたのを拡大•改築したと推定した。

《規模と平面形》　東西壁長4.65ｍ×南北壁長3.68ｍ、深さ19㎝。北西側壁が短く、台形を呈する。

《埋　　土》　９層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸がある。ＳＴ 156谷埋土部分は黒褐色土が踏み固められただけで、粘土質の地山土での貼床はしていなかった。西側壁下の床面には炭化材•焼土•炭化した禾本科植物が厚く堆積していた。また、その炭化物の堆積下に炭化した米、土器、自然石、モモの核などが出土した。

《か ま ど》　南側壁の中央からやや東寄りに構築されているかまど（かまどＢ）と、このかまどの左袖部手前の貼床の下から上部を削平されたかまど（かまどＡ）を検出した。かまどＢの遺存状況は良好で両袖部、燃焼部が確認できた。煙道部は短く、煙出孔にむかって底面が緩やかに上昇する。両袖部は粘土で作られているが、偏平な自然石を内傾気味に立てて芯材としていた。天井部分にも自然石を検出したが、天井架構のためのものか不明である。燃焼部には土師器の坏を倒立させて支脚としていた。火床は固く焼き締まっていた。かまどＡは上部を削平されたため、両袖部と煙道部は不明であるが、燃焼部の火床は固く焼き締まっていた。

《柱　　穴》　床面に２カ所検出したのみである。

《壁　　溝》　北東側壁北寄りと北西側壁東寄りの壁下に短い溝を検出した。

《遺　　物》　土師器の坏、甕のほか、炭化した木椀の破片、縄文時代の石器も出土した。土師器坏（２）の底部には篦起こし痕がある。土師器の甕は胴部に篦削り•篦なでしたものが多い。土師器の甕（９•15）はろくろで製作され、底部に回転糸切り痕があるが、切り離し後に篦なでしている。縄文時代の石器は、削器（16•18）、円形掻器（17）、磨製石斧（19）である。

《構築時期》　出土した土師器から平安時代と推定される。

ＳＩ　284　竪穴住居跡（第336図）

《位　　置》　ＯＡ43、ＯＢ42•43•44グリッドに位置する。

《確　　認》　第２次大戦後の杉植林時に削平されており、粗掘り中にかまど痕跡を検出し、周囲をていねいにプラン確認して壁溝と床の痕跡を確認した。

《重　　複》　なし。

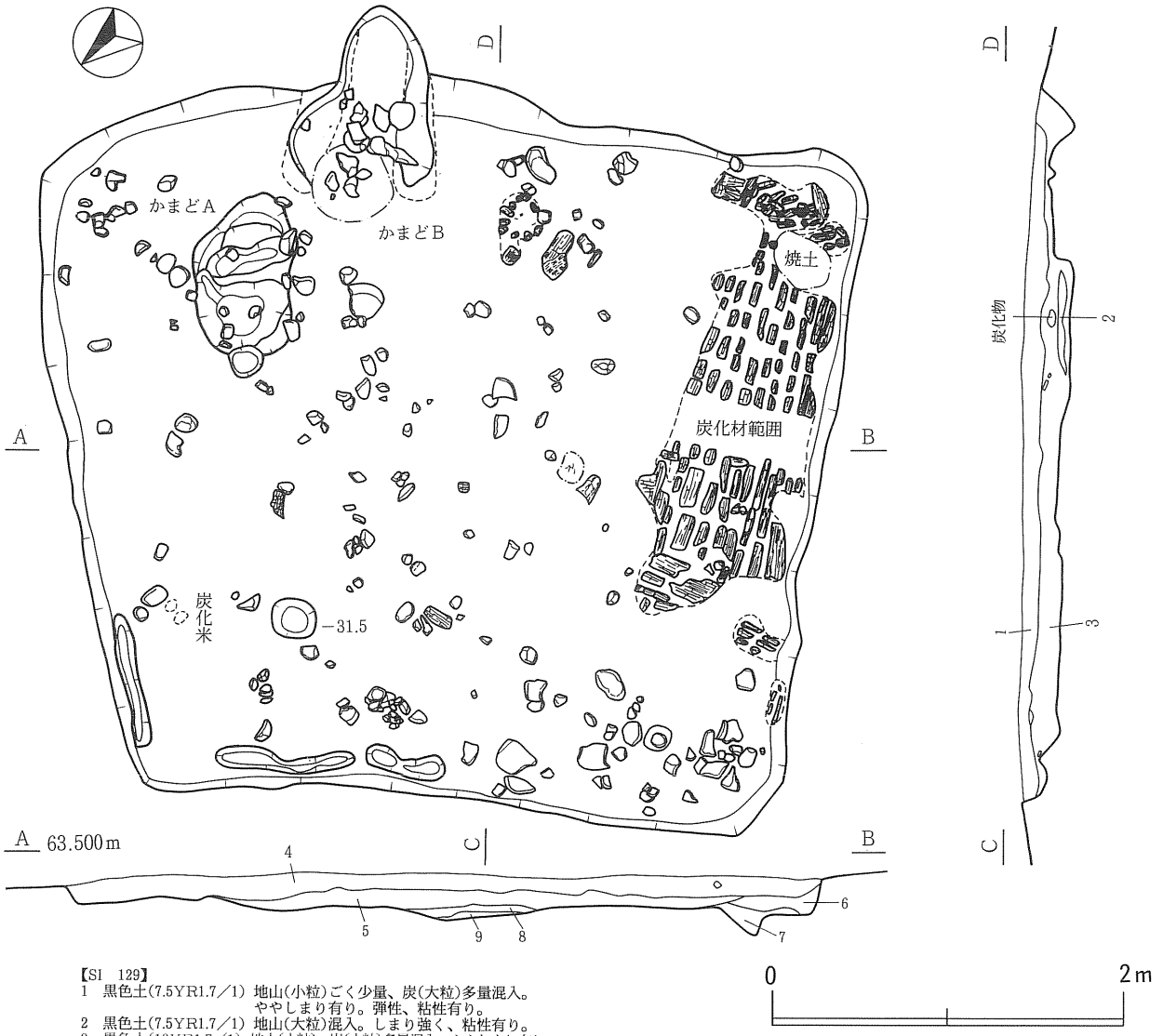
《規模と平面形》　東西壁長3.30ｍ×南北壁長3.07ｍ、深さ7㎝。方形を呈すると考えられる。

《埋　　土》　なし。

《　壁　》　削平されており、不明。

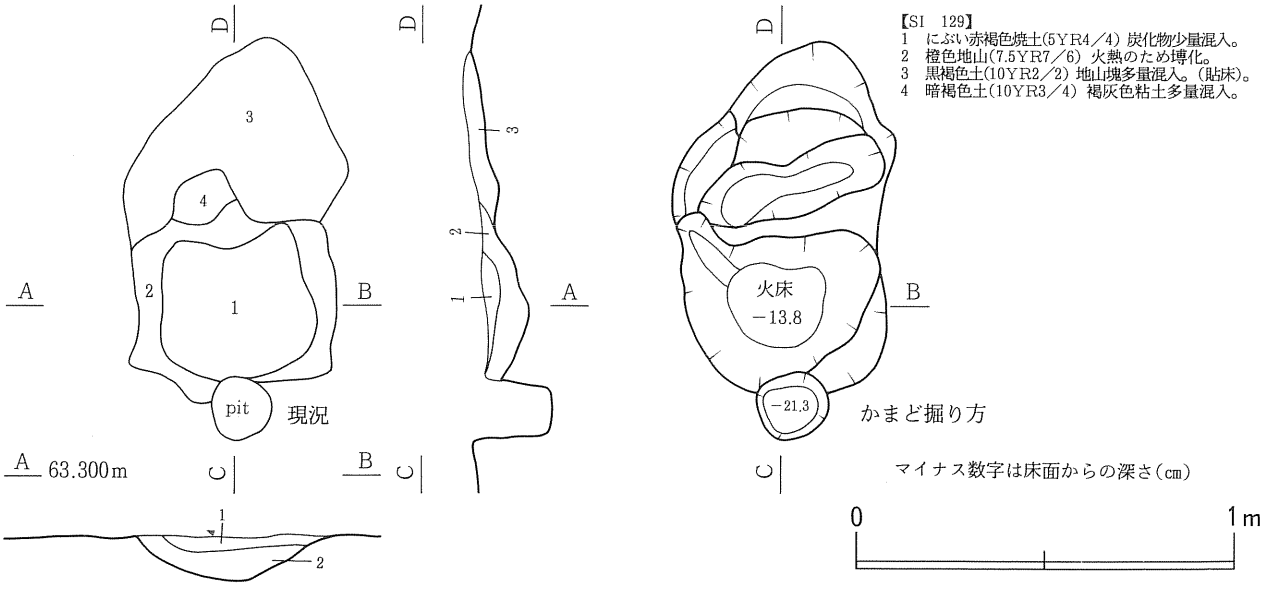
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《か ま ど》　北側壁の中央からやや東寄りに構築されている。遺存状況は不良で両袖部、燃焼部とも痕跡を確認できたのみで、煙道部は不明。



【SI　129】
1　黒色土(7.5YR1.7／1)　地山(小粒)ごく少量、炭(大粒)多量混入。
　　ややしまり有り。弾性、粘性有り。
2　黒色土(7.5YR1.7／1)　地山(大粒)混入。しまり強く、粘性有り。
3　黒色土(10YR1.7／1)　地山(小粒)、炭(大粒)多量混入。ややしまり有り。
4　1に同じ。
5　3に同じ。
6　黒色土(10YR2／1)　地山・炭(大粒)混入。ややしまり有り。
7　黒色土(10YR2／1)　地山(大粒)多量混入。ややしまり有り。
8　黒色土(10YR1.7／1)　地山(大粒)混入。しまり有り。
9　黒色土(10YR2／1)　地山(小粒)ごく少量混入。しまり有り。

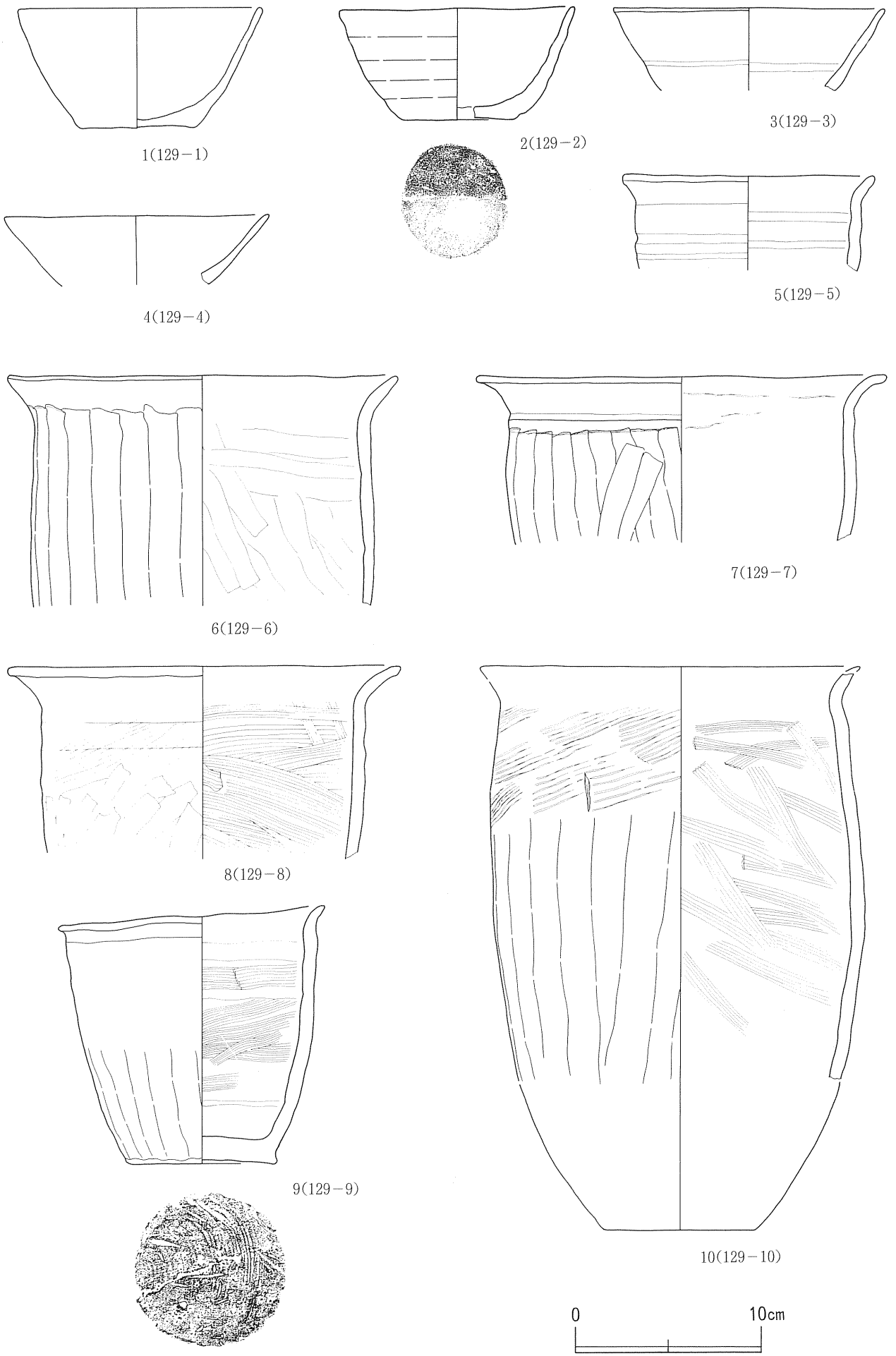
かまどA(貼床下検出)



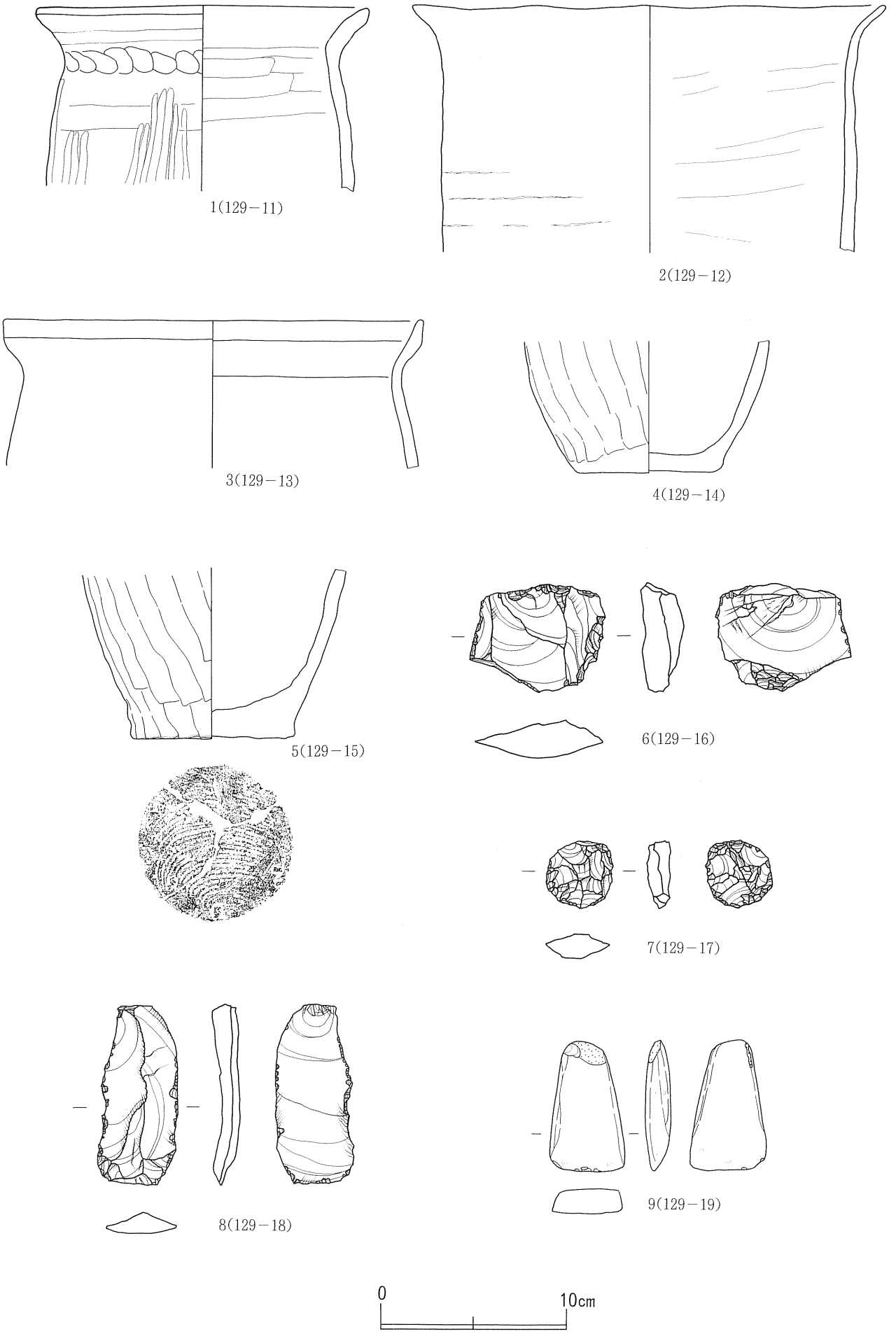
【SI　129】
1　にぶい赤褐色焼土(5YR4／4)　炭化物少量混入。
2　橙色地山(7.5YR7／6)　火熱のため塼化。
3　黒褐色土(10YR2／2)　地山塊多量混入。(貼床)。
4　暗褐色土(10YR3／4)　褐灰色粘土多量混入。

マイナス数字は床面からの深さ(cm)

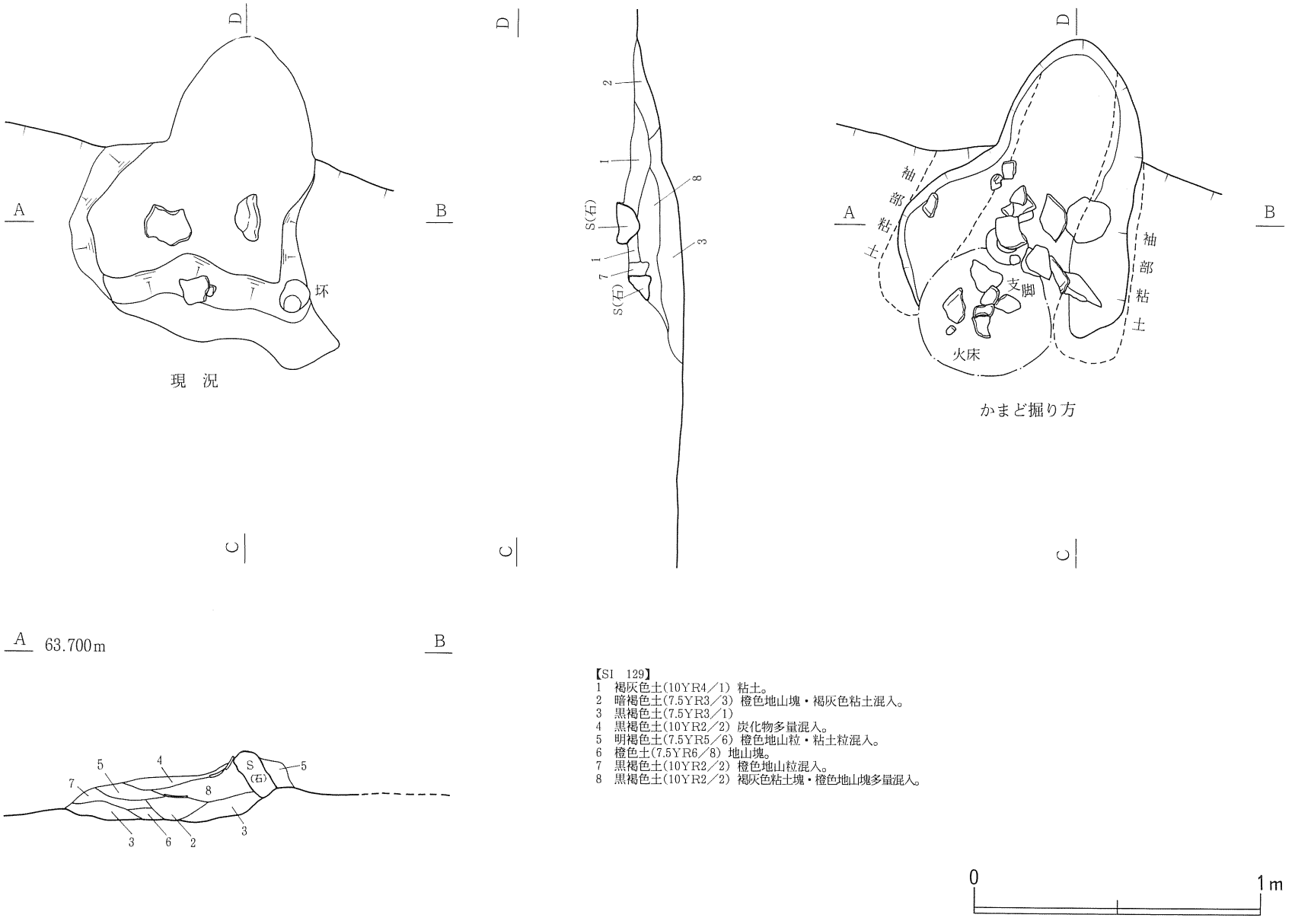
第332図　SI 129 竪穴住居跡・かまど（かまどA）



第333図　SI 129 竪穴住居跡出土遺物（１）



第334図　SI 129 竪穴住居跡出土遺物（２）



【SI　129】
1　褐灰色土(10YR4／1) 粘土。
2　暗褐色土(7.5YR3／3) 橙色地山塊・褐灰色粘土混入。
3　黒褐色土(7.5YR3／1)
4　黒褐色土(10YR2／2) 炭化物多量混入。
5　明褐色土(7.5YR5／6) 橙色地山粒・粘土粒混入。
6　橙色土(7.5YR6／8) 地山塊。
7　黒褐色土(10YR2／2) 橙色地山粒混入。
8　黒褐色土(10YR2／2) 褐灰色粘土塊・橙色地山塊多量混入。

第335図　SI 129 竪穴住居跡かまど（かまどB）

《柱　　穴》　床面に４カ所検出したが主柱穴は不明。

《壁　　溝》　北西側隅部と東側に部分的に存在する。

《遺　　物》　土師器の坏と縄文時代の半円状偏平打製石器が出土した。

《構築時期》　出土した土師器から平安時代と推定される。

ＳＩ　372　竪穴住居跡（第337図）

《位　　置》　ＭＴ54•55、ＮＡ54•55グリッドに位置する。

《確　　認》　黒土の不法採取により削平されており、暗褐色土の「シミ」状の浅い窪みと思われていたが、ていねいに「暗褐色土のシミ」を除去して方形の竪穴住居跡と確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＫ 425土坑•ＳＫ 426土坑と重複していた。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規模と平面形》　東西壁長2.84ｍ×南北壁長2.87ｍ、深さ５㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　地山粒や黒土塊を混入する暗褐色土が堆積していた。

《　壁　》　上部を削平されているため壁は低いが、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸がある。土坑部分には地山土による貼床がみられる。

《か ま ど》　東側壁の中央からやや北寄りに構築されていた。遺存状況は不良で、燃焼部の焼土を確認したのみである。

《柱　　穴》　かまどの南側の壁下に１カ所検出した。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　なし。

《構築時期》　形態から平安時代と推定した。

ＳＩ　395　竪穴住居跡（第338図•第339図）

《位　　置》　ＮＡ61•62、ＮＢ61•62、ＮＣ61•62グリッドに位置する。

《確　　認》　粗掘り時に掘り過ぎたが、方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＫ 424土坑•ＳＫＳ 435土壙墓と重複していた。

《規模と平面形》　東西壁長4.66ｍ×南北壁長4.86ｍ、深さ16㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　７層に分層された。粗掘り時に掘り過ぎたため、自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　土圧のためか内傾しながら立ち上がっている部分が多かった。かまどの西側の壁面には、竪穴住居掘り下げ時の道具痕（連続する鋤先痕）が残っていた。

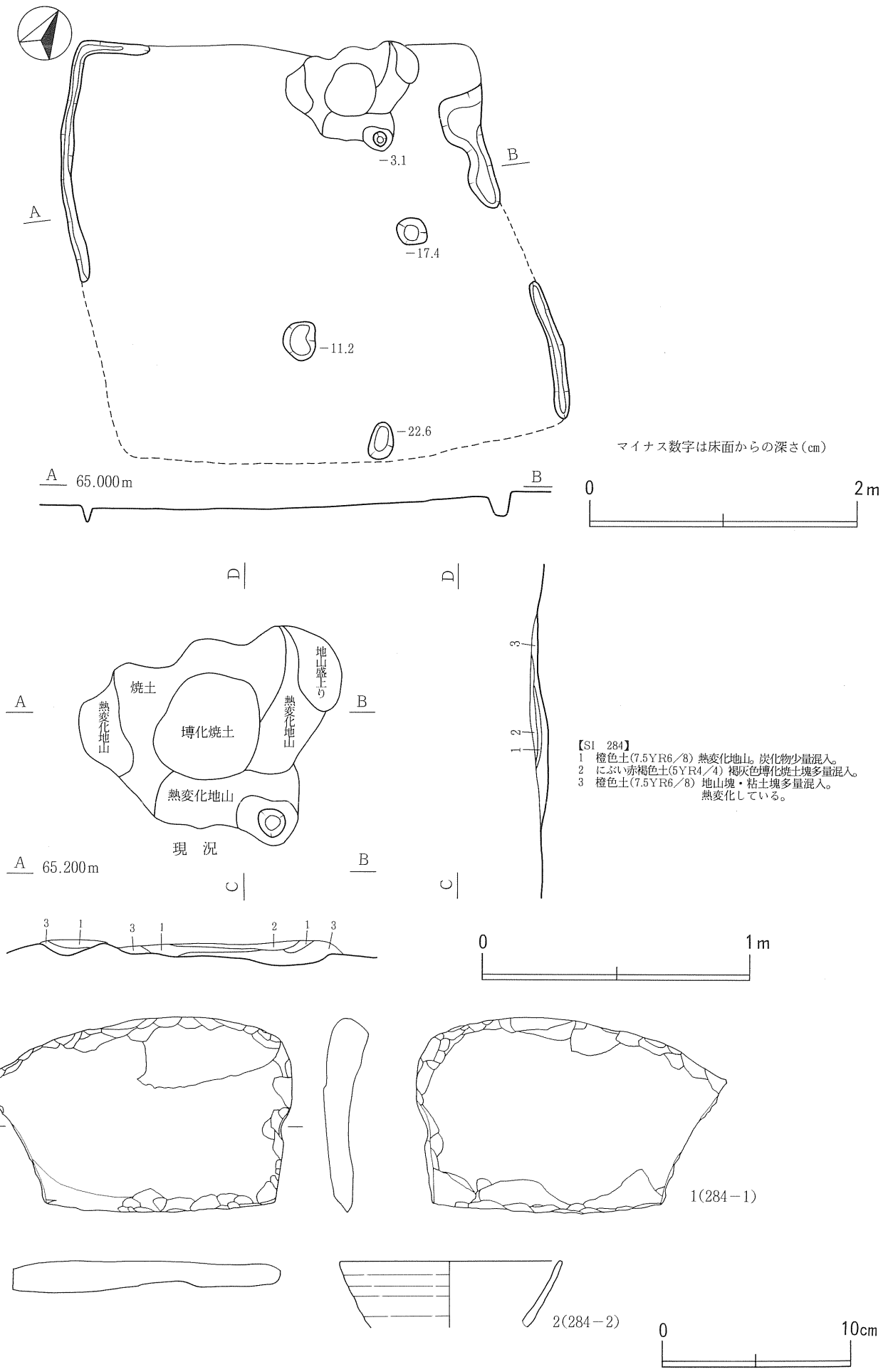
《床　　面》　やや凹凸がある。縄文時代の土坑•土壙墓には貼床していたが、やや落ち込んでいた。

《か ま ど》　南東側壁の中央からやや東寄りに構築されていた。遺存状況は不良で煙道部は確認できなかったが両袖部と燃焼部は確認できた。両袖部の底面には連結した２個の窪みがあった。連結した窪みの壁側は袖部に粘土を積み上げる際に芯材をいれた穴というよりも、粘土の位置がずれないように掘り下げた窪みで、焚き口側は石などのと芯材をいれた穴と推定した。

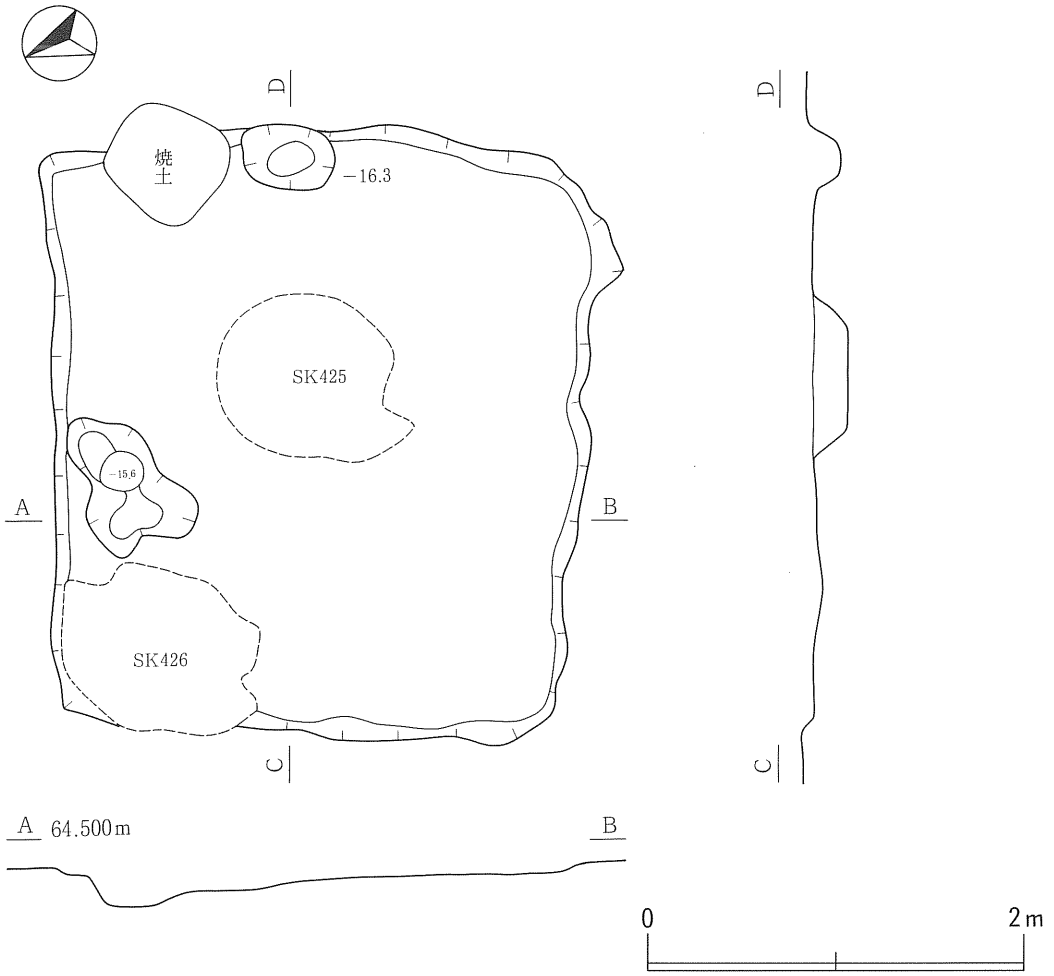
《柱　　穴》　壁下を巡る壁溝中と床面に22カ所検出したが、Ｐ２•Ｐ３•Ｐ15•Ｐ18が主柱穴と思われる。また、各壁隅部のＰ１•Ｐ４•Ｐ16•Ｐ17は隅柱穴と思われる。

《壁　　溝》　かまど構築部分を除き壁下を一巡する。

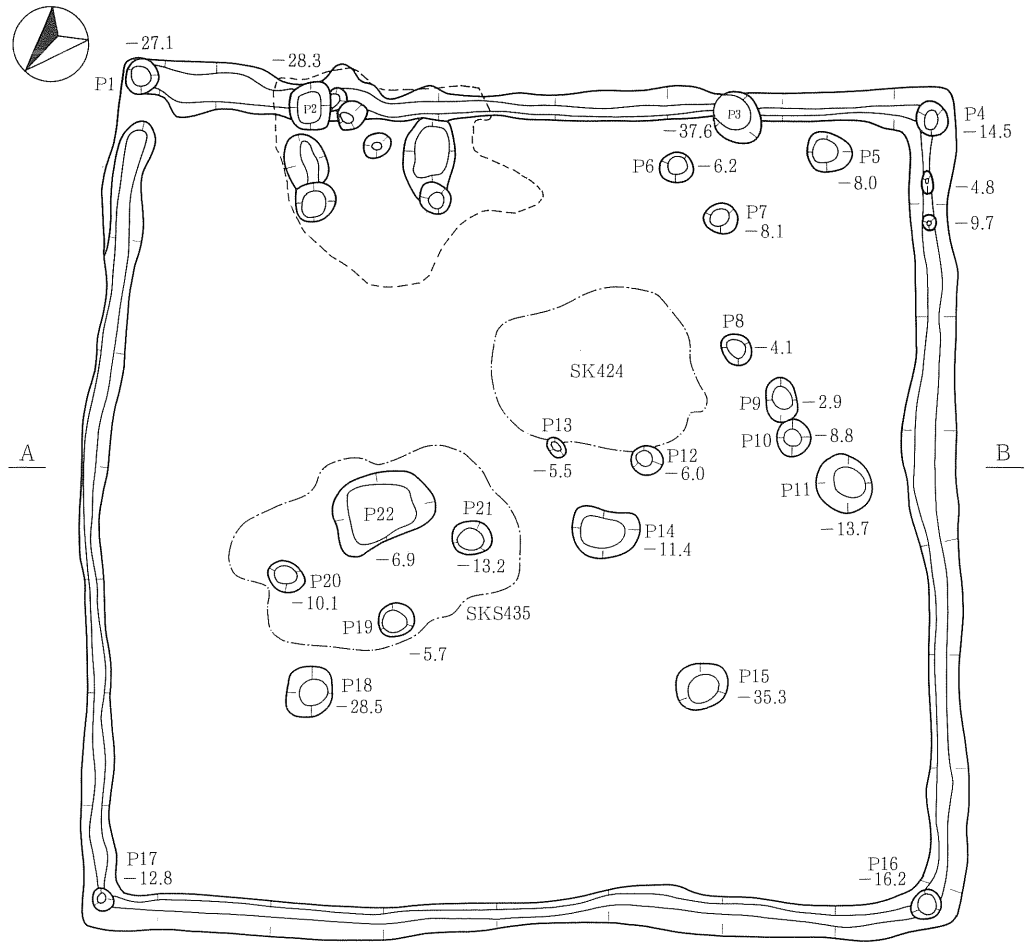
《遺　　物》　かまどの燃焼部中から土師器の坏、甕が出土した。土師器坏は底部に回転糸切り痕がある。土師器甕の胴部は箆削りしている。



第336図　SI 284 竪穴住居跡・かまど・出土遺物



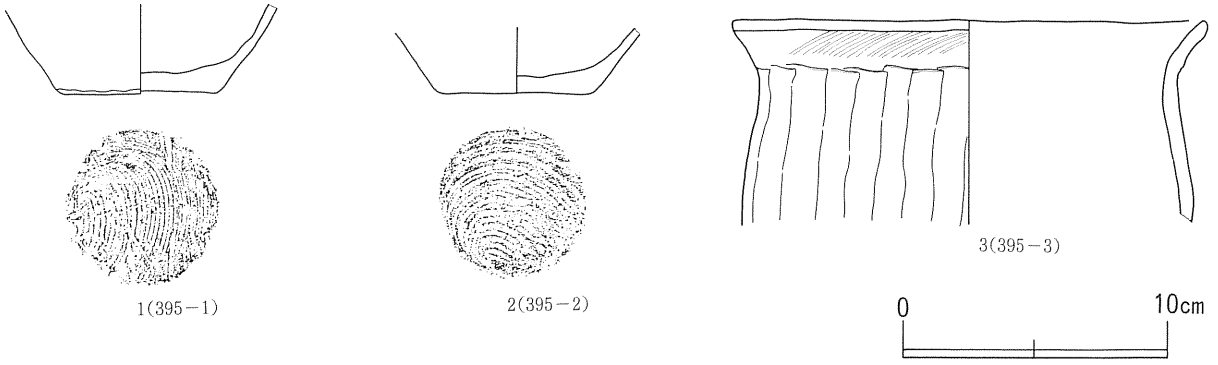
第337図　SI 372 竪穴住居跡



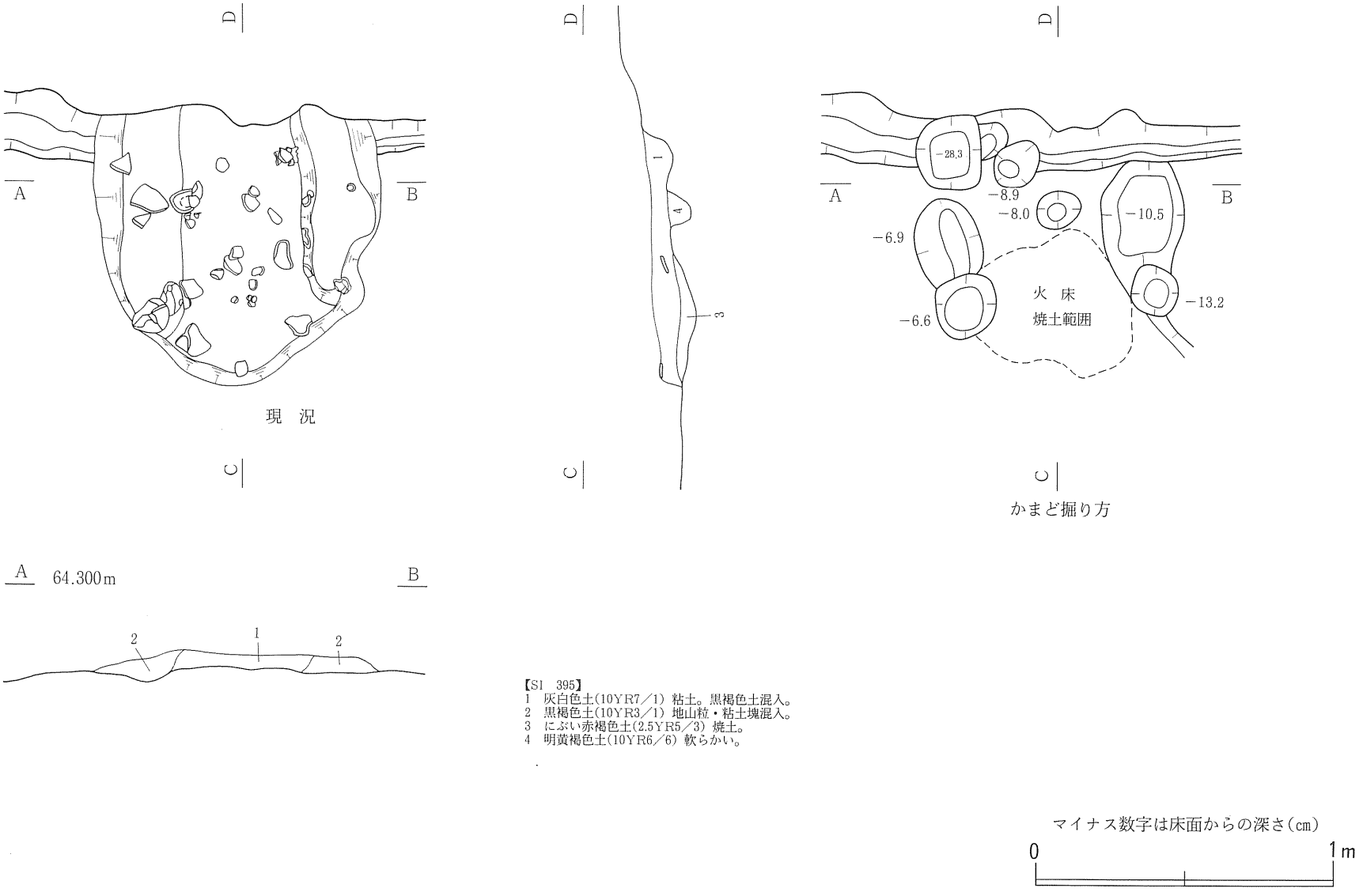
マイナス数字は床面からの深さ(cm)

0　2m

【SI 395】
1　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒混入。
2　黒褐色土(10YR3／1)
3　灰白色粘土(10YR7／1) かまど粘土の流入?
4　黒褐色土(10YR3／1) 地山粒少量混入。
5　黄褐色土(10YR5／8) 地山粒多量堆積。
6　暗褐色土(10YR3／3) 地山塊多量混入。
7　にぶい黄褐色土(10YR4／3) 地山粒多量混入。



第338図　SI 395 竪穴住居跡とその出土遺物



【SI　395】
1　灰白色土(10YR7／1) 粘土。黒褐色土混入。
2　黒褐色土(10YR3／1) 地山粒・粘土塊混入。
3　にぶい赤褐色土(2.5YR5／3) 焼土。
4　明黄褐色土(10YR6／6) 軟らかい。

第339図　SI 395 竪穴住居跡かまど

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定される。

ＳＩ　423　竪穴住居跡（第340図～第343図）

《位　　置》　ＭＳ62、ＭＴ61･62、ＮＡ61･62グリッドに位置する。

《確　　認》　ほぼ方形に大湯浮石層が堆積しているのを確認した。南側の壁にかまど煙道部らしき張り出しを２カ所（のちにかまどＡとかまどＢとした）検出したので、重複かあるいは改築が行われた竪穴住居跡と判断した。

《重　　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長2.90ｍ×南北壁長3.14ｍ、深さ24㎝。方形を呈するが北側壁の両隅が突起状に張り出していた。

《埋　　土》　８層に分層されたが、上位の堆積層は大湯浮石層である。竪穴住居の廃棄後に自然堆積したと推定した。

《　壁　》　外傾しながら立ち上がるが、土圧のためか内傾しながら立ち上がっていた部分もあった。

《床　　面》　ほぼ平坦である。かまどＡの主体部（両袖部と燃焼部、焚き口部）のあった所には貼床していた。

《か ま ど》　南側壁の中央からやや東寄り（かまどＢ）と西寄り（かまどＡ）に構築されていた。かまどＡを廃棄･破壊した後、かまどＢを構築していた。

かまどＢの遺存状況は不良で両袖部は確認できなかったが、燃焼部（火床）は確認できた。煙道部は長く底面が煙出孔に向かって緩やかに上昇していた。

かまどＡは両袖部と燃焼部、焚き口部の部分は改築のため破壊されていたが、隅丸方形に床面を掘り窪めてからかまど主体部の構築をしていたのかあるいは破壊するときに広く掘り窪めてから貼床したのか不明である。煙道部は長く、煙出孔に向かって底面が下降する。

《柱　　穴》　壁下を巡る壁溝中と床面に７カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　かまど構築部分も含め壁下をほぼ一巡する。

《遺　　物》　土師器の坏、甕、須恵器の壷、鉄製品のほか、縄文時代の石器も出土した。土師器坏の底部には回転糸切り痕がある。土師器甕には胴部に成形時の粘土紐巻上痕が見られるもの（４･５）もある。６はロクロで製作されたものか。須恵器の広口壷８（８･９は同一個体か）は胴部下半を篦削りしていた。縄文時代の石器は磨製石斧で、側面には擦切痕が残っていた。

《構築時期》　大湯浮石層の堆積状況と出土した土器から平安時代と推定される。

ＳＩ　610　竪穴住居跡（第344図～第346図）

《位　　置》　ＭＨ55･56･57、ＭＩ56グリッドに位置する。

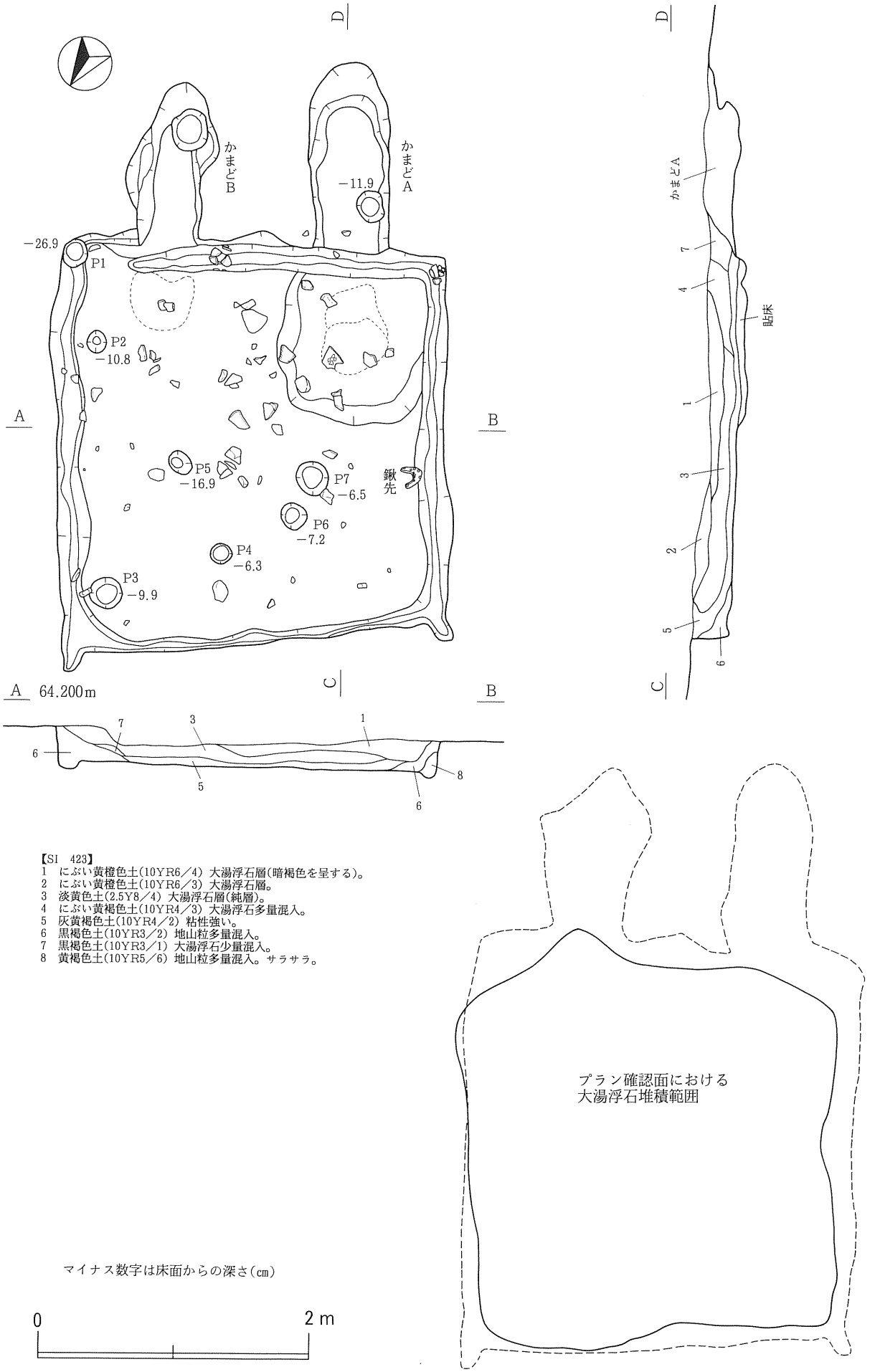
《確　　認》　方形に大湯浮石層が堆積しているのを確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＫＳ 809土壙墓と東側の壁面中央部で重複している。

《規模と平面形》　東西壁長3.90ｍ×南北壁長3.64ｍ、深さ40㎝。方形を呈する。北東隅部の東側壁が浅くわずかに張り出していたが、拡幅や改築とは考えられなかった。

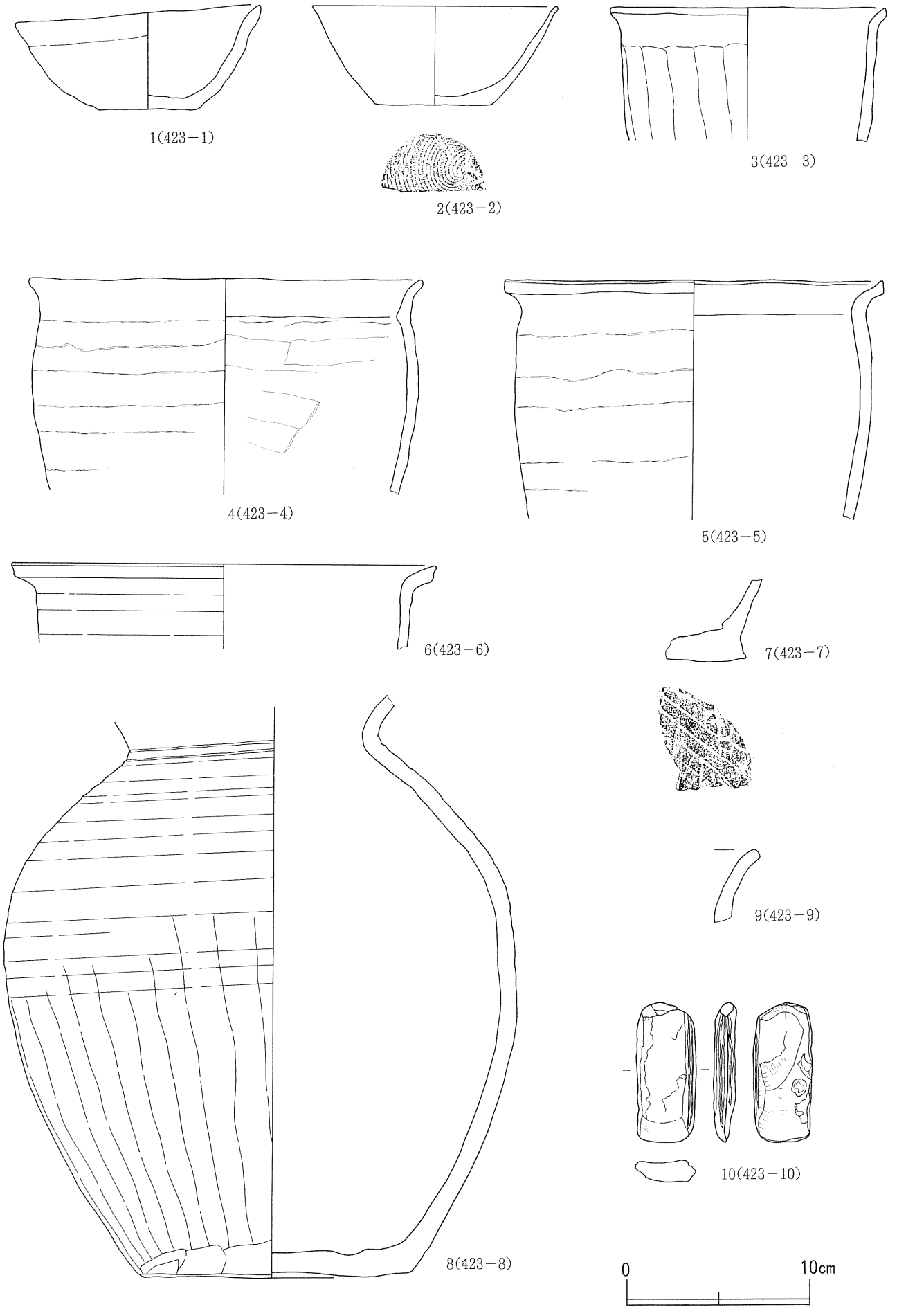
《埋　　土》　16層に分層したが、廃棄され壁下方の床面が埋没してから大湯浮石層が自然堆積したと思われる。

《　壁　》　外傾しながら立ち上がるが、土圧のためか内傾しながら立ち上がる部分もある。

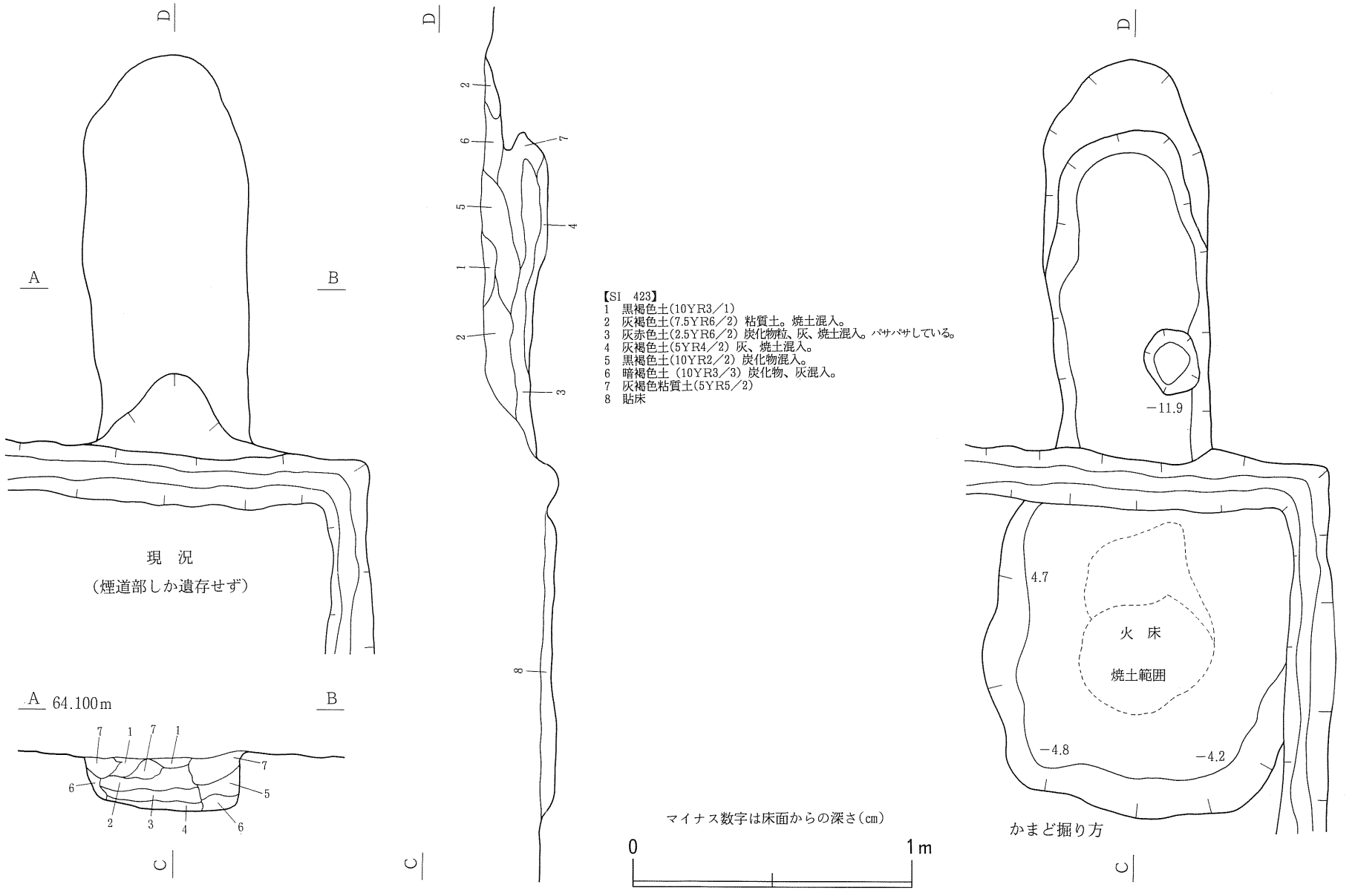


【SI 423】
1 にぶい黄橙色土(10YR6／4) 大湯浮石層(暗褐色を呈する)。
2 にぶい黄橙色土(10YR6／3) 大湯浮石層。
3 淡黄色土(2.5Y8／4) 大湯浮石層(純層)。
4 にぶい黄褐色土(10YR4／3) 大湯浮石多量混入。
5 灰黄褐色土(10YR4／2) 粘性強い。
6 黒褐色土(10YR3／2) 地山粒多量混入。
7 黒褐色土(10YR3／1) 大湯浮石少量混入。
8 黄褐色土(10YR5／6) 地山粒多量混入。サラサラ。

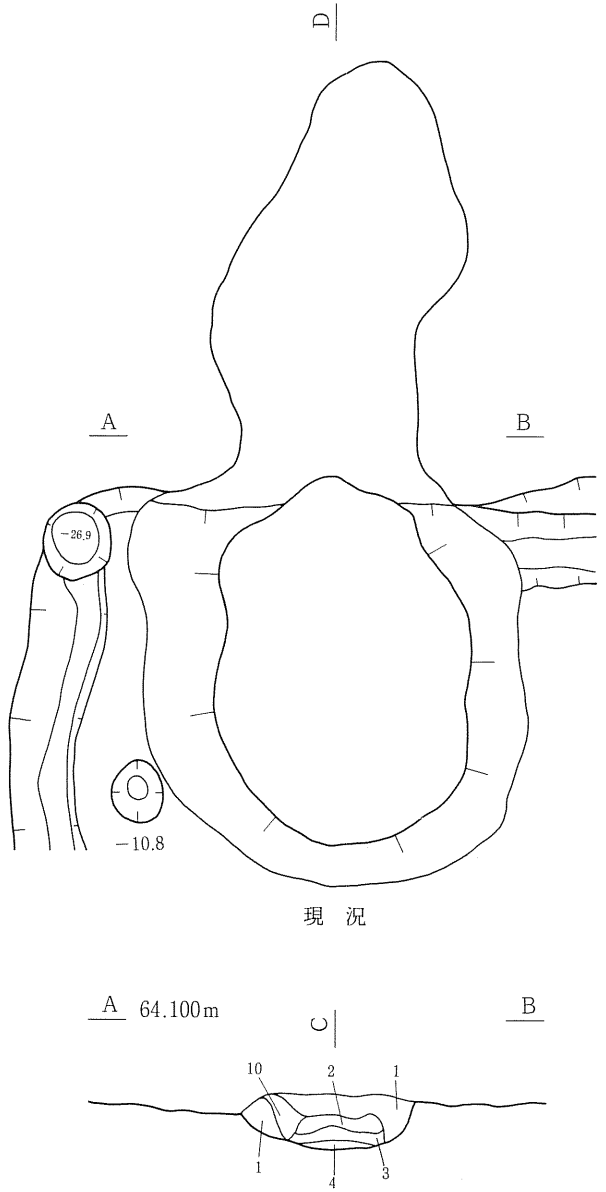
第340図　SI 423 竪穴住居跡

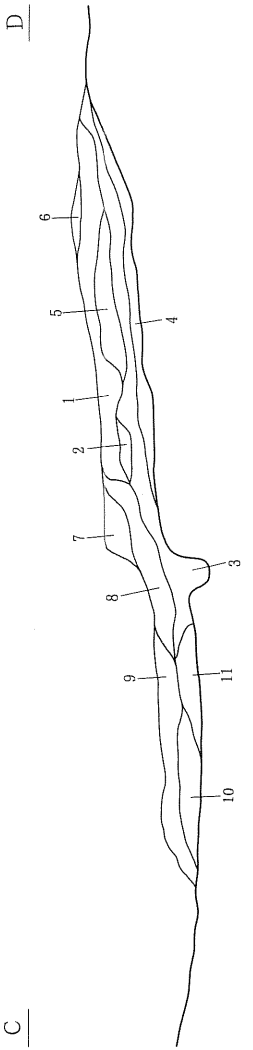


第341図　SI 423 竪穴住居跡出土遺物

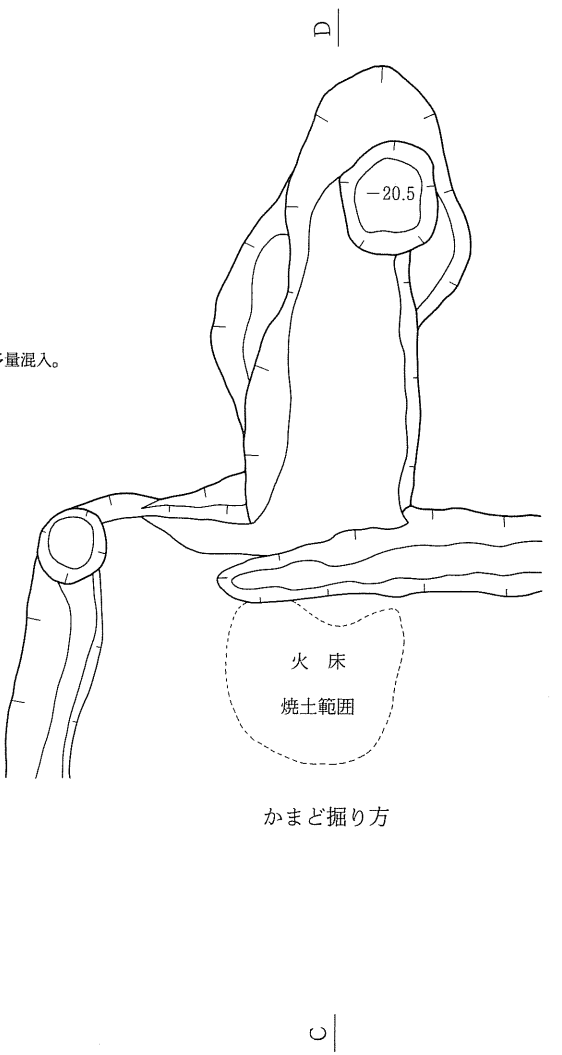


第342図　SI 423 竪穴住居跡かまど（かまどA）



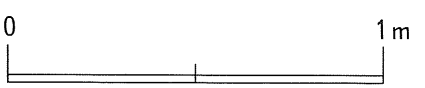


【SI　423】カマド断面
1　灰白色粘土(7.5YR8／2)
2　黒色土(10YR1.7／1)
3　灰褐色土(7.5YR6／2) 焼土、灰混入。
4　黒褐色土(10YR2／2) 炭化物混入。
5　黒褐色土(10YR2／2) 粘質土粒混入。
6　黒褐色土(10YR3／1)
7　焼土塊
8　灰褐色土(7.5YR6／2) 炭化物、粘質土粒多量混入。
9　黒褐色土(10YR3／1) 大湯浮石多量混入。
10　黒褐色土(10YR3／1) 炭化物、灰混入。
11　焼土



かまど掘り方

マイナス数字は床面からの深さ(cm)



第343図　SI 423 竪穴住居跡かまど（かまどB）

《床　　面》　ほぼ平坦である。北東隅と北西隅に貼床部分がみられた。

《か ま ど》　南東側壁の中央からやや東寄りに構築されていた。遺存状況は良好で両袖部、燃焼部が確認できた。両袖部の底面を溝状に掘り窪め、偏平な自然石を内傾させて立てていた。燃焼部の火床の奥に円形の窪みがあるが、支脚を据える穴と考えられた。煙道部は長く煙出孔に向かって底面が緩やかに上昇する。

《柱　　穴》　床面に２カ所検出したが、主柱穴は不明。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　土師器の坏と甕、須恵器の壷のほか、縄文時代の石器も出土した。土師器坏（３）は底辺部を横方向に篦削りし、底部には回転糸切り痕がある。土師器甕の胴部には篦削り、底部には木葉痕がみられる。須恵器の壷は広口壷（10•11は同一個体）と長頸壷（12）の２個体である。長頸壷は糸切り後に高台を付けたものである。縄文時代の石器は、石鏃と磨製石斧基部の２点である。

《構築時期》　大湯浮石層の堆積状況と出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　612　竪穴住居跡（第347図～第349図）

《位　　置》　ＭＪ55•56、ＭＫ55•56グリッドに位置する。

《確　　認》　縄文時代のＳＩ611竪穴住居跡のプラン確認作業中に地山粒が混入した黒褐色土の方形な落ち込みを確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＩ611竪穴住居跡の埋土を掘り込んで作っていた。また、床面にも東側壁下の溝に平行して掘られた溝があるので、拡幅•改築したと考えた。

《規模と平面形》　東西壁長4.20ｍ×南北壁長3.66ｍ、深さ14㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　２層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　床面の２／３はＳＩ611竪穴住居跡埋土の上に黒褐色土塊混りの地山を踏み固めて床としていたが、地山を掘り下げた床に比べて３～５㎝下がっていた。また、地山を掘り下げた床面にも東側壁下の溝に平行して掘られた溝を境に段差が認められた。

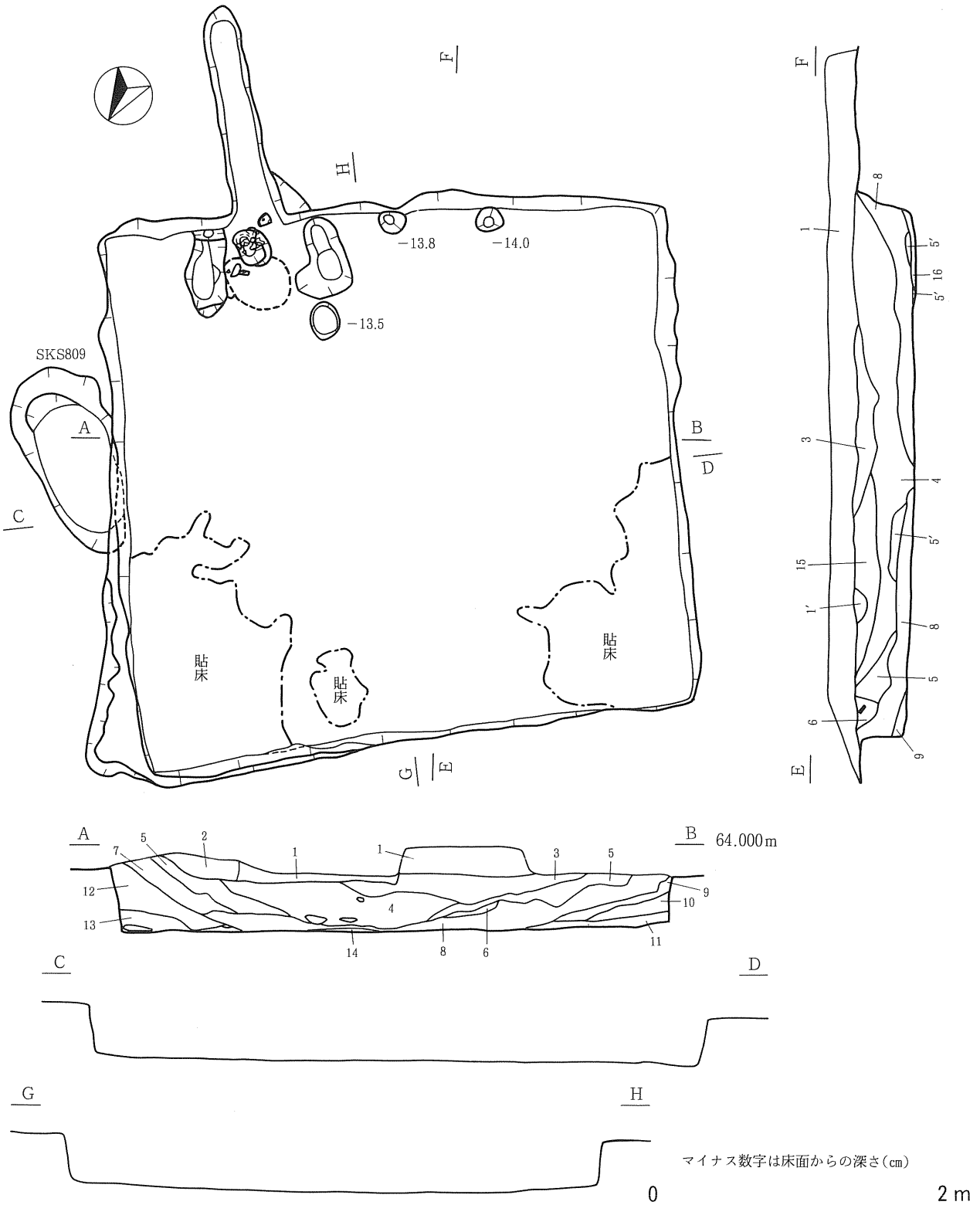
《か ま ど》　南側壁の中央から西寄りに構築されていた。遺存状況は不良で両袖部、燃焼部、煙道部とも明確でなかった。

《柱　　穴》　壁下を巡る壁溝中と床面に11カ所検出した。Ｐ１•Ｐ２•Ｐ３•Ｐ４•Ｐ６が拡幅•改築前の柱穴と思われる。拡幅•改築後の柱穴はＰ２•Ｐ５以外は不明。

《壁　　溝》　北側•東側•西側の地山を掘り下げた壁下と、東側壁から80㎝中央寄りに平行して存在した。黒褐色土塊混りの地山を踏み固めて床とした部分では、床面を掘り過ぎてしまい、検出できなかった。

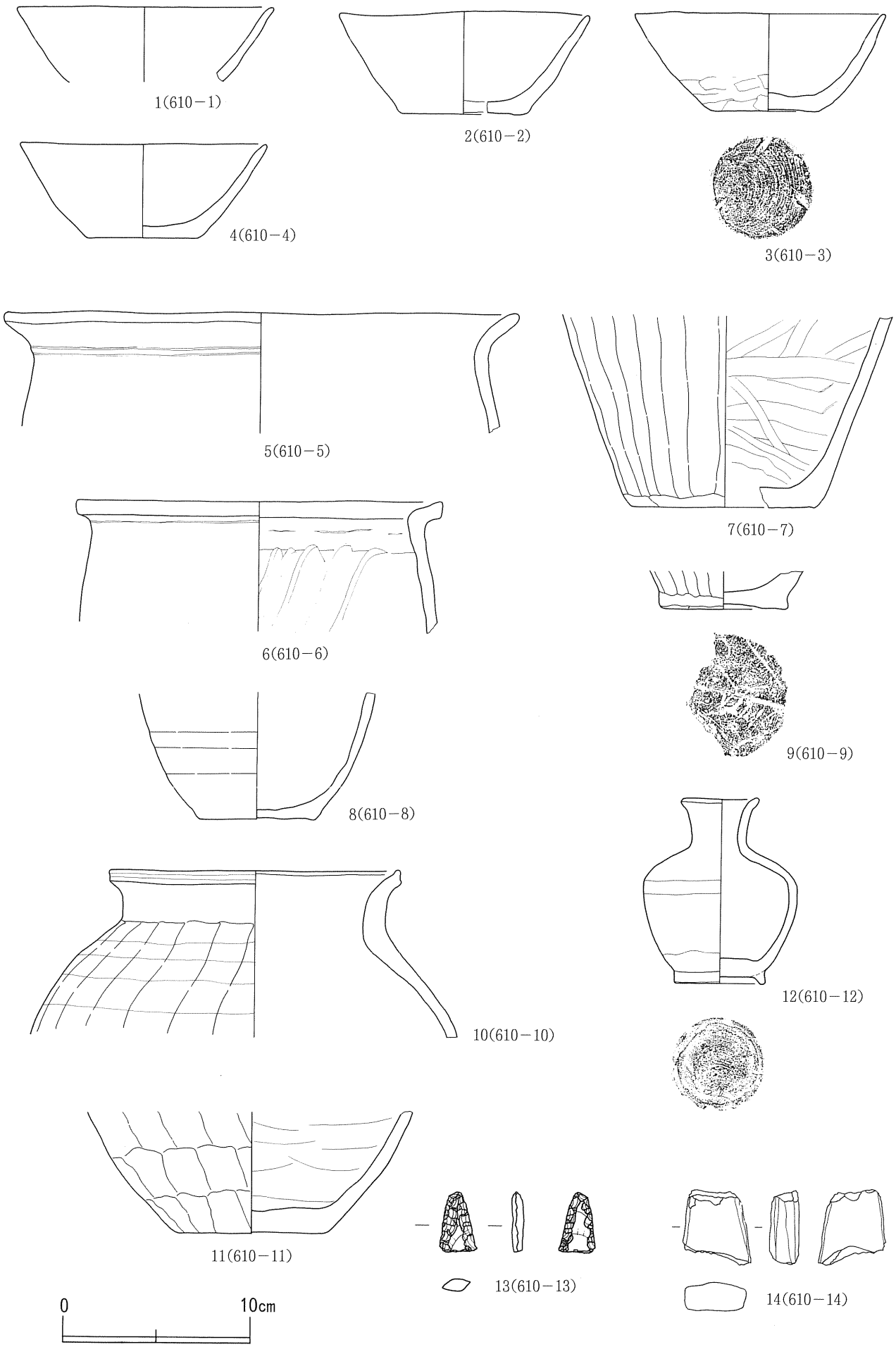
《遺　　物》　土師器の坏（１～５）、甕（７～12）、須恵器の坏（６）、砥石（20）のほか、縄文土器片（13～16）、石器（17～19•21）も出土した。土師器坏の底部には回転糸切り痕がある。土師器甕（７～10）の胴部は篦削り・篦なでされているが、甕（10•11）には胴部下半に叩き目がある。須恵器の坏には所謂火襷がみられる。石器は17が掻器、18が削器、19が擦切磨製石斧の刃部破片、21が石皿である。

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

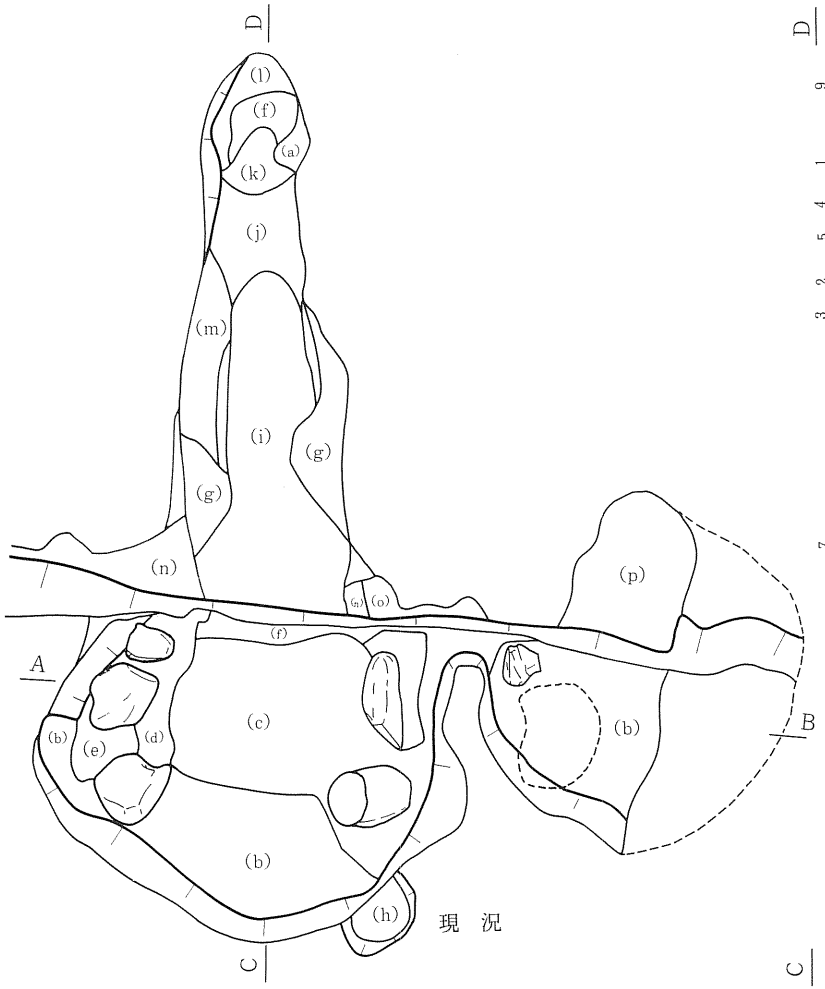


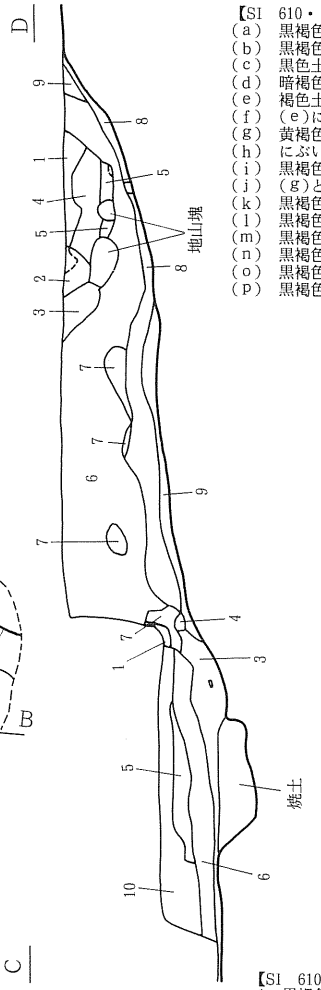
【SI 610】
1　黒褐色土(10YR2／2) しまり有り。(耕作土)
2　褐色土(10YR4／4) 地山粒微量、大湯浮石15%混入。しまりやや有り。
3　黒褐色土(10YR2／3)
4　黒褐色土(10YR3／2) 土と大湯浮石との混合土。
5　にぶい黄橙色土(10YR6／3) 大湯浮石層。
5′　にぶい黄橙色土(10YR6／3) 大湯浮石層。(５より粒子細かい)
6　褐色土(10YR4／6) 地山粒主体。軟らかい。
7　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒微量、大湯浮石粒20%混入。
8　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒15%、大湯浮石粒微量混入。軟らかい。
9　暗褐色土(10YR2／3) と大湯浮石の混合土。サラサラしている。
10　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒・大湯浮石粒微量混入。
11　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒少量混入。しまり、粘性共やや有り。
12　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒少量混入。しまり、粘性共やや有り。
13　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒微量混入。しまり、粘性やや有り。
14　にぶい黄橙色土(10YR6／4) と黒色土の混合土。(部分的な貼り床)
15　暗褐色土(10YR3／4) 地山粒10%、大湯浮石粒15%混入。しまりやや有り。
16　黒褐色土(10YR2／2) しまりなし。

第344図　SI 610 竪穴住居跡

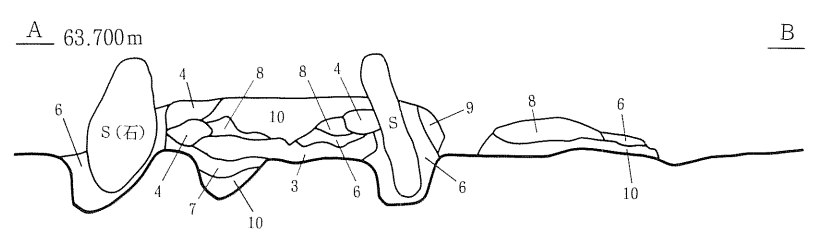


第345図　SI 610 竪穴住居跡出土遺物





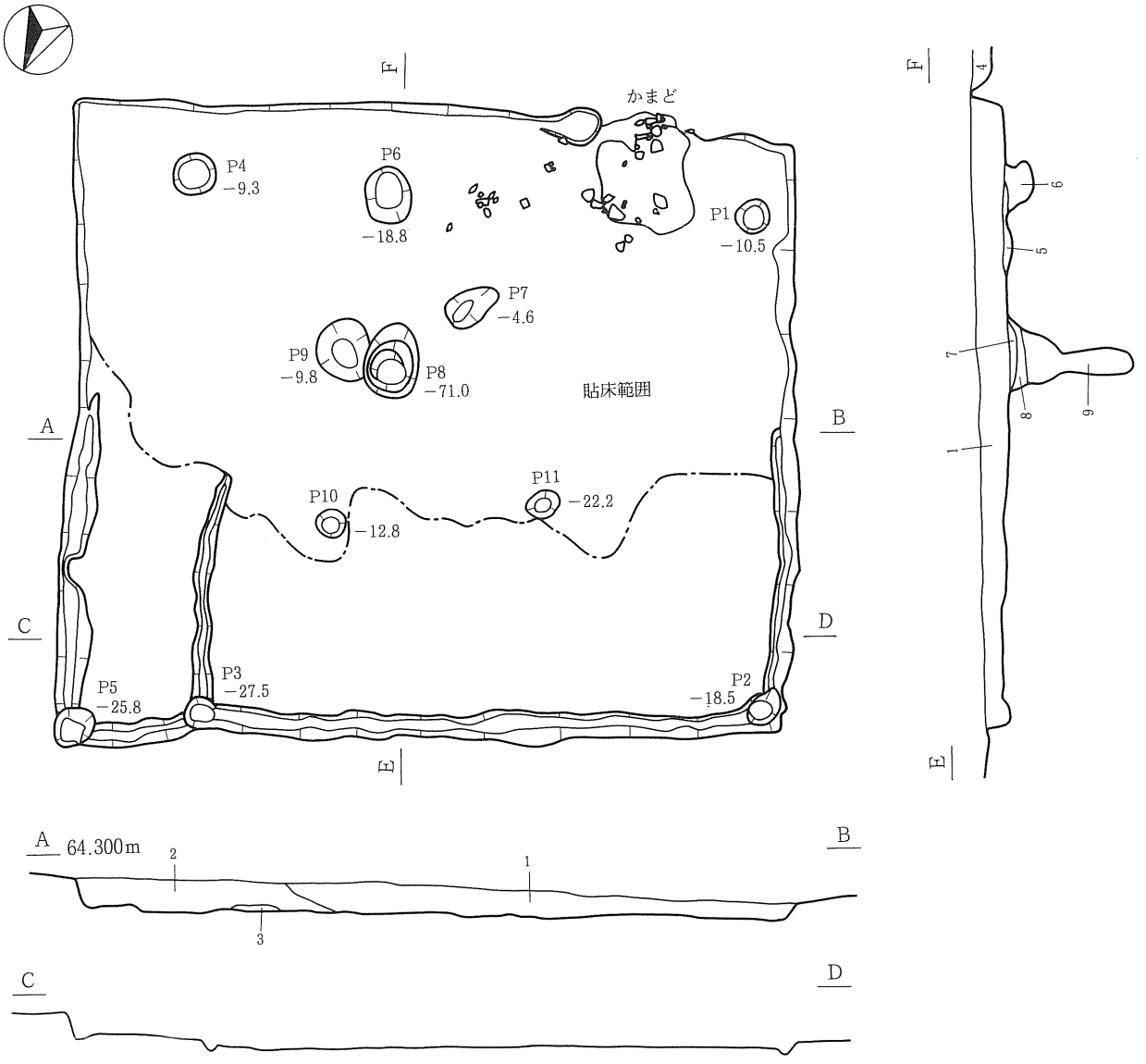
【SI　610・カマド平面図】
（a）　黒褐色土(10YR2／3)　地山粒20%、炭化物粒微量混入。
（b）　黒褐色土(10YR2／2)　大湯浮石細粒30～35%混入。良くしまる。
（c）　黒色土(10YR2／1)　大湯浮石・地山粒・炭化物を合わせて15%含む。良くしまる。
（d）　暗褐色土(10YR3／3)　地山粒・焼土粒10%混入。焼土塊微量混入。軟らかい。
（e）　褐色土(10YR4／6)　地山主体。暗褐色土塊・焼土粒15～20%混入。
（f）　（e）に同じ（（e）より地山の混入度高く、明るい）
（g）　黄褐色土(10YR5／6)　パミス。大湯浮石主体。ややしまり有り。
（h）　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　粘土。しまり、粘性共強い。（床直上の粘土）
（i）　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒10%、炭化物粒微量混入。しまり普通。
（j）　（g）と地山、暗褐色土の混合土層。
（k）　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒10%混入。しまり普通。
（l）　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒・大湯浮石粒・焼土粒20%混入。
（m）　黒褐色土(10YR2／3)
（n）　黒褐色土(10YR2／2)
（o）　黒褐色土(10YR2／3)
（p）　黒褐色土(10YR2／3)　地山粒10%混入。



【SI　610カマド断面】
1　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒微量混入。しまり、粘性共普通。
2　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒、暗褐色(10YR3／3)シルト40%混入。しまり、粘性共弱い。
3　褐色土(10YR4／6)　焼土混じりの灰。下部が赤みが増す。しまり、粘性共弱い。
4　黒褐色土(10YR3／2)　地山粒10%混入。しまり、粘性共弱い。
5　黒褐色土(10YR2／3)　地山粒微量混入。しまり、粘性共弱い。
6　褐色土(10YR4／4)と黒褐色(10YR2／2)の混合土。しまり、粘性共弱い。
7　黒褐色土(10YR2／3)　地山粒微量混入。しまり、粘性共弱い。
8　黒褐色土(10YR3／2)　地山粒10%混入。しまり、粘性共弱い。
9　黒褐色土(10YR3／2)　地山粒10%混入。しまり、粘性共弱く、8より軟らかい。
10　黒褐色土(10YR3／2)　5に同じ（5より地山の混入が少ない）

0　1m

第346図　SI 610 竪穴住居跡かまど

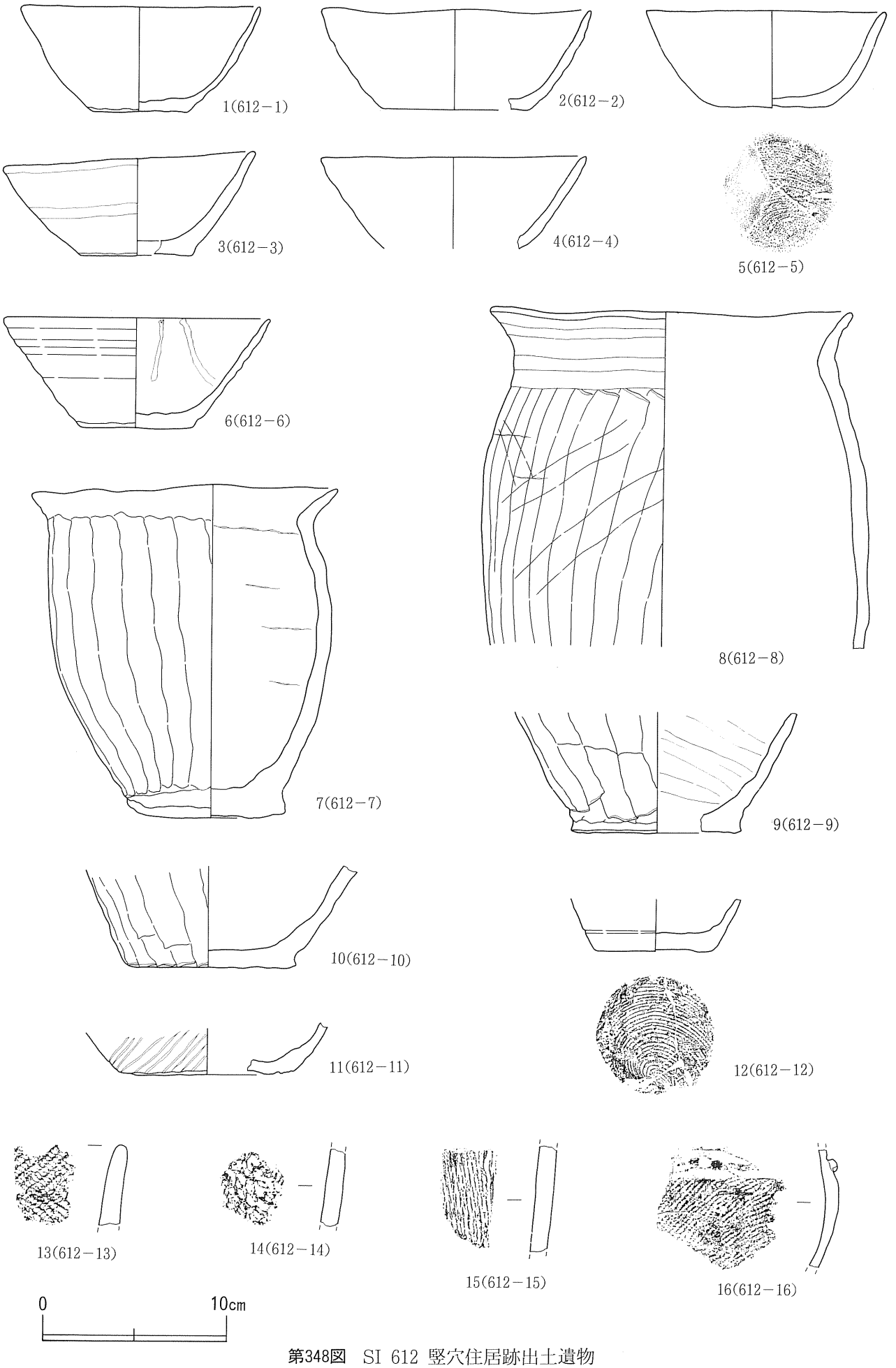


マイナス数字は床面からの深さ(cm)

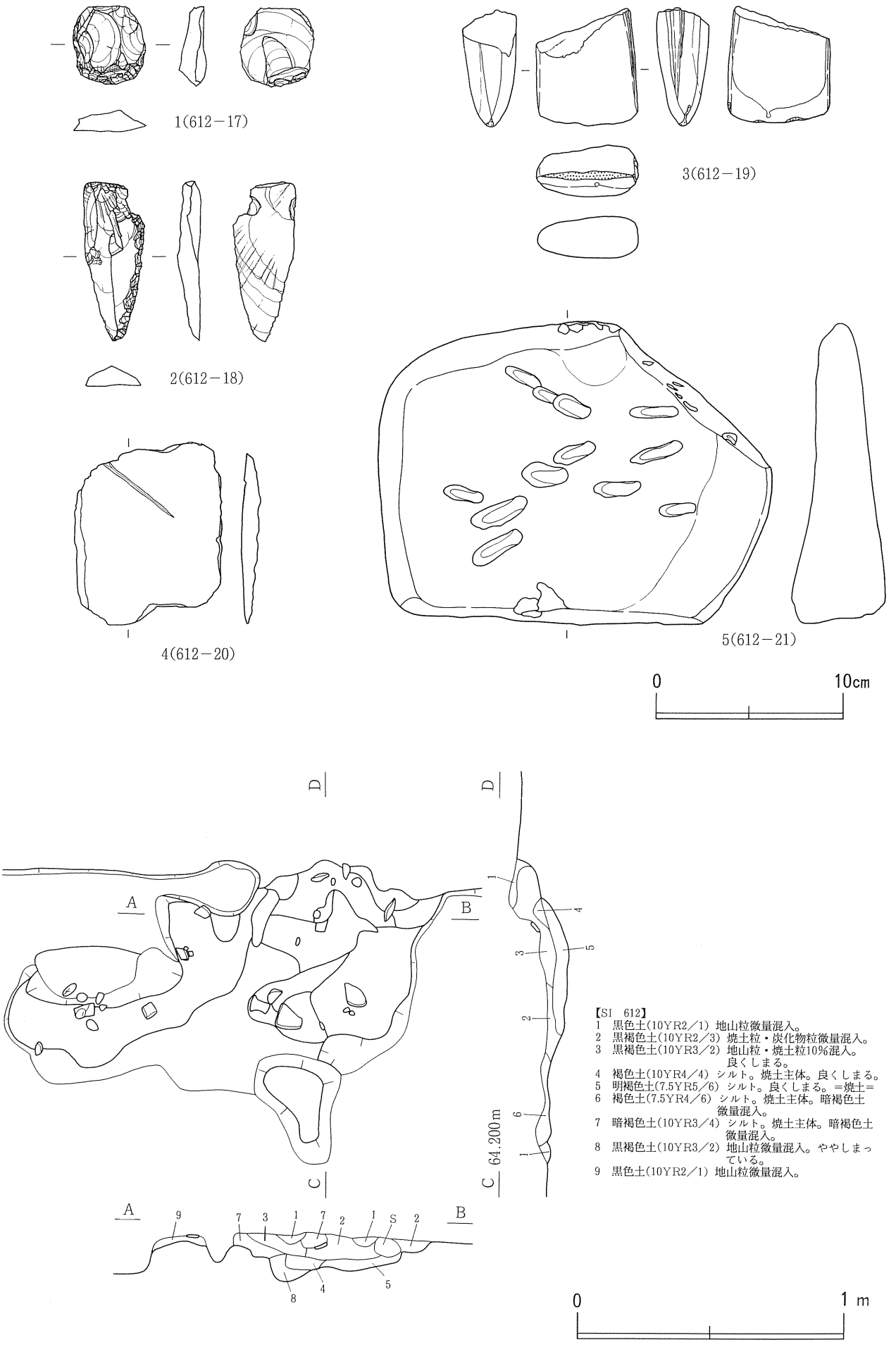
0　2m

【SI　612】
1　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒微量混入。
2　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒20%混入。
3　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒10%混入。
4　黒色土(10YR2／1)
5　褐色土(10YR4／4) シルト。焼土主体に地山・暗褐色土混入。
6　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒30%混入。
7　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒多量混入。
8　地山に黒褐色土(10YR2／2)10%混入。しまり非常に強い。
9　黒褐色土(10YR2／2) 7より軟らかい。

第347図　SI 612 竪穴住居跡



第348図　SI 612 竪穴住居跡出土遺物



第349図　SI 612 竪穴住居跡出土遺物・かまど

ＳＩ　624　竪穴住居跡（第350図）

《位　　置》　ＭＩ56•57、ＭＪ56•57グリッドに位置する。

《確　　認》　上部を黒土採取のために削平されていたため、プラン確認が遅れ、埋土をほとんど掘り下げてしまっていた。

《重　　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長3.76ｍ×南北壁長2.84ｍ、深さ10㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　掘り過ぎのため、わずかに黒褐色土層が部分的に残るのみであった。

《　壁　》　削平されているが外傾しながら立ち上がると思われた。

《床　　面》　凹凸があり、貼床部分もみられた。

《か ま ど》　検出できなかった。

《柱　　穴》　壁下を巡る壁溝中と床面に７カ所検出した。壁面に接するように穿たれていたＰ１•Ｐ２•Ｐ３•Ｐ６•Ｐ７が主柱穴と考えられた。

《壁　　溝》　北側•東側•南側の壁下の一部に検出したのみであった。

《遺　　物》　出土しなかった。

《構築時期》　形態から平安時代と推定した。

ＳＩ　665　竪穴住居跡（第351図～353図）

《位　　置》　ＭＨ68•69、ＭＩ68•69グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ 666 竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡がＳＩ 666 竪穴住居跡に貼床して作っていたので新しい。

《規模と平面形》　東西壁長3.40ｍ×南北壁長3.31ｍ、深さ12㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　12層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。貼床部分もある。

《か ま ど》　南東側壁の中央からやや西寄りに構築されている。遺存状況は比較的良好で両袖部、燃焼部が確認できた。両袖部には底面に窪みが作られ、芯材と思われる自然石が散乱していた。燃焼部には自然石の支脚が残っていた。煙道部は短く、その底面は煙出孔にむかって上昇していた。

《柱　　穴》　壁下と床面に９カ所検出したが、主柱穴は不明である。

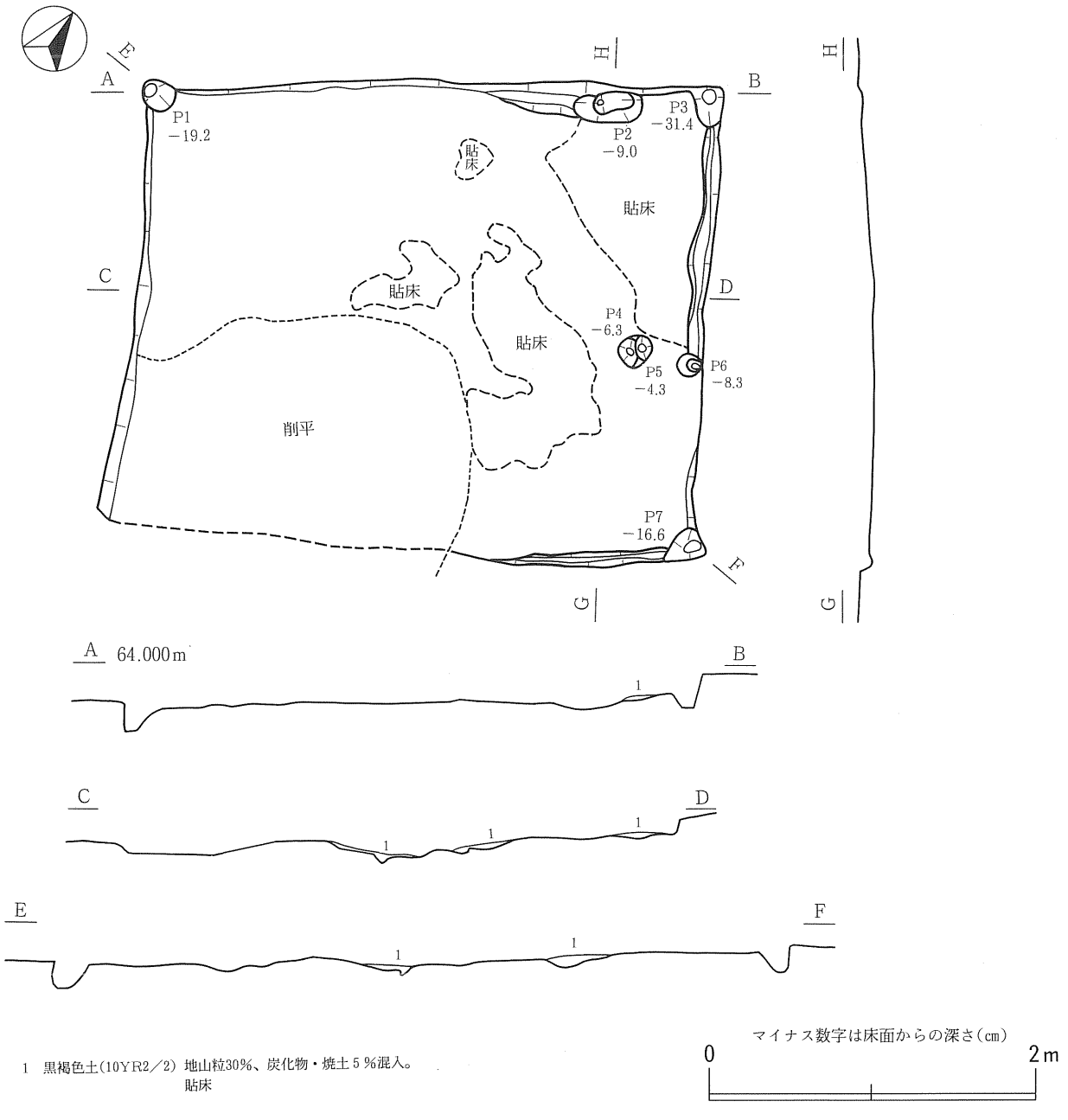
《壁　　溝》　北東側壁下の一部に検出したのみである。

《遺　　物》　土師器の坏（１•２）、甕（３～７•９•10）、壷（８）が出土した。土師器坏（２）の底部には篦起こし痕がある。土師器甕（４•５）の底部には静止糸切り痕がある。甕（３•６）と壷（８）の胴部は篦削りされている。堅く焼き締まっている甕（９•10）の胴部下半には叩き目がある。

《構築時期》　出土した土師器から平安時代と推定した。

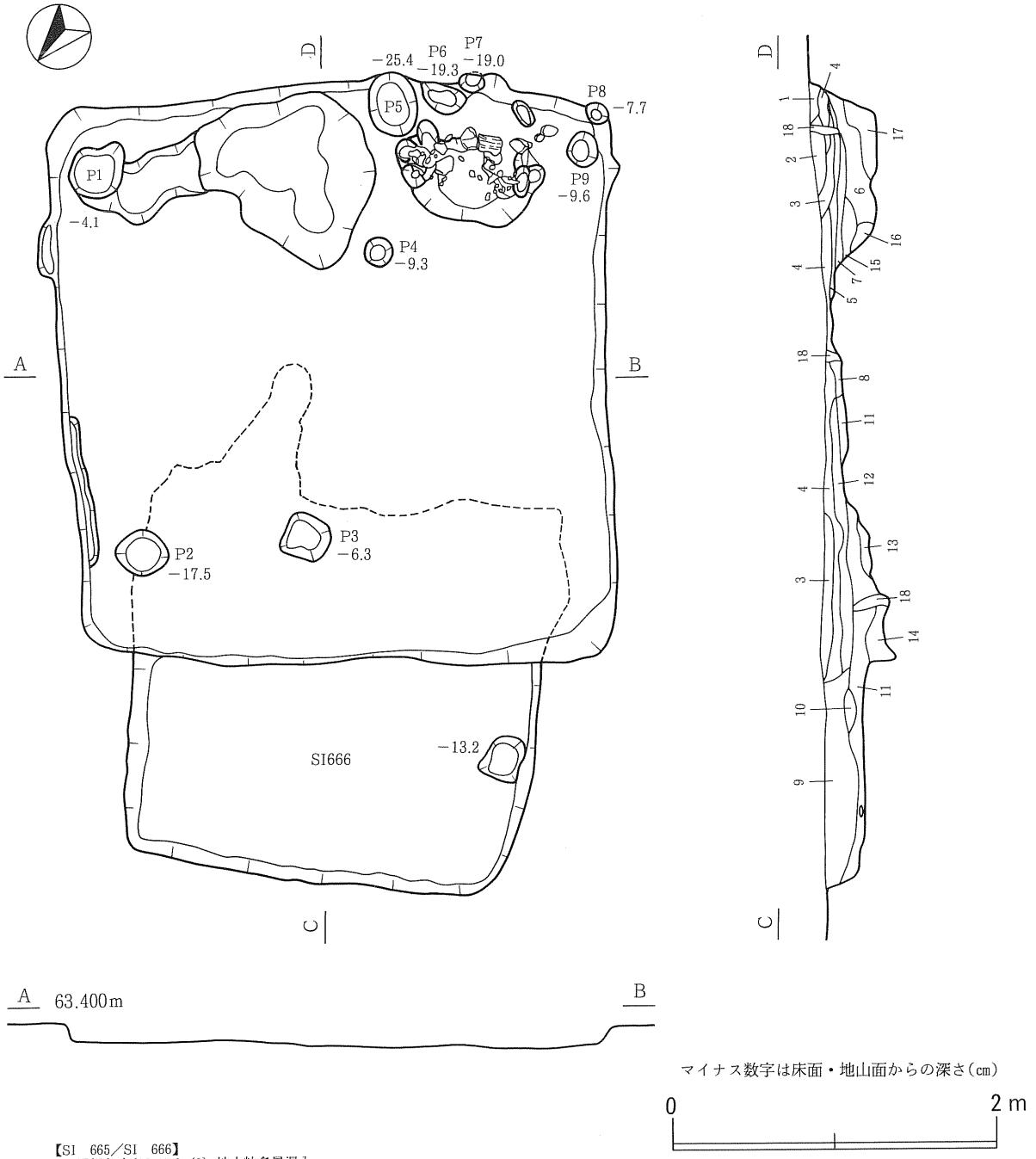
ＳＩ　666　竪穴住居跡（第354図•第355図）

《位　　置》　ＭＨ69、ＭＩ69グリッドに位置する。



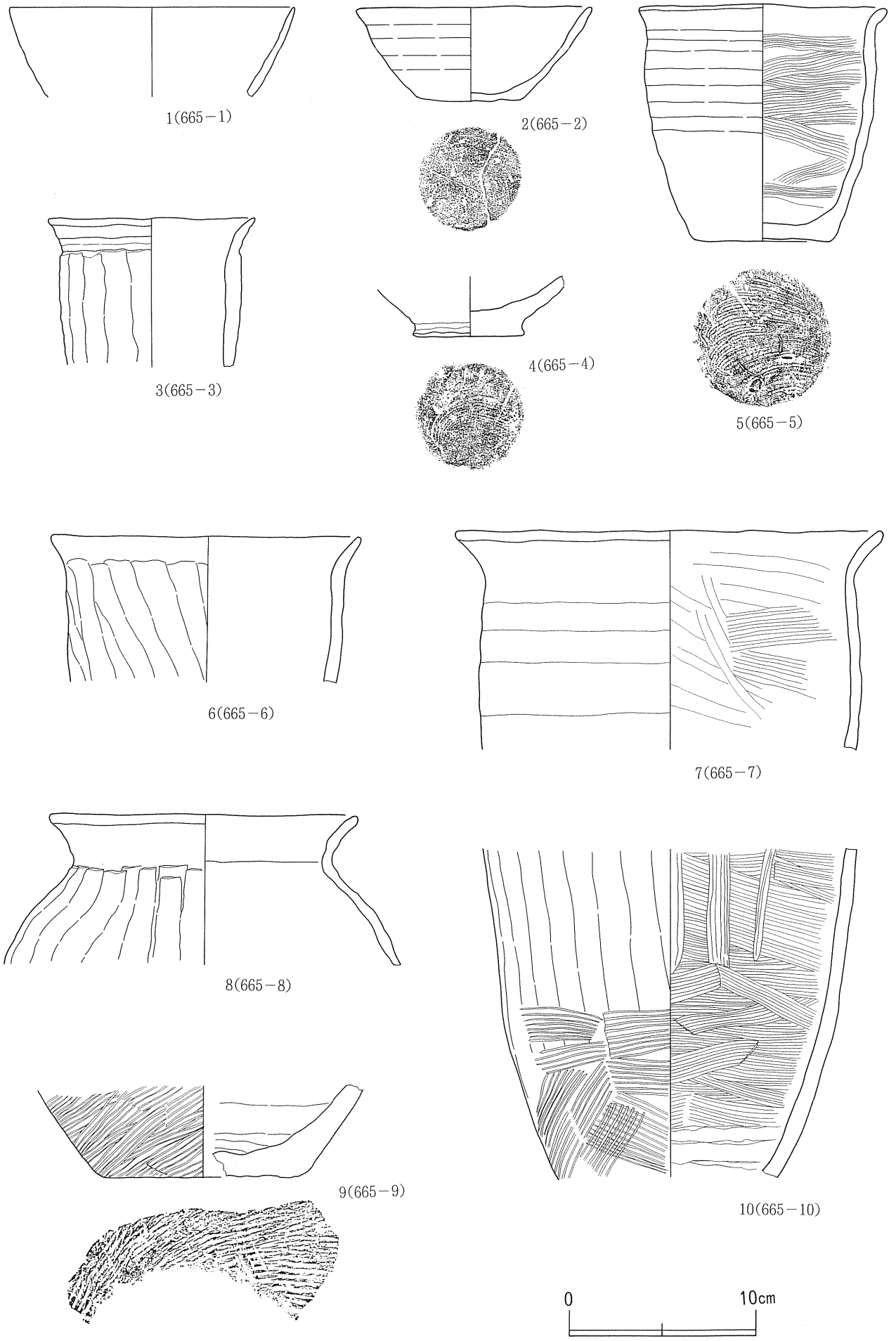
1　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒30%、炭化物・焼土５%混入。
貼床

第350図　SI 624 竪穴住居跡

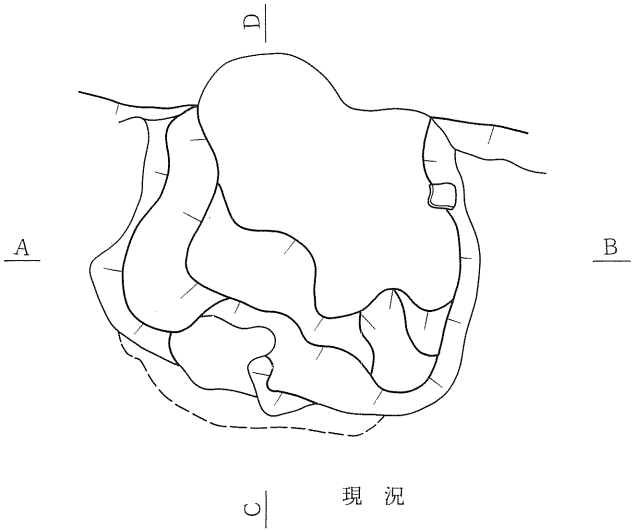


【SI　665／SI　666】
1　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒多量混入。
2　黒褐色土(10YR3／1) 地山粒多量混入。サラサラしている。
3　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒・地山ブロック多量混入。
4　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒・地山ブロック少量混入。
5　灰褐色土(5YR4／2) 粘質土。(貼床)
6　暗褐色土(10YR3／4) 地山粒多量混入。粘性弱い。
7　黒色土(10YR2／1) 地山小ブロック混入。
8　黒褐色土(10YR2／2) 地山小ブロック混入。
9　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒・地山小ブロック多量混入。
10　黒褐色土(10YR2／2) 地山小ブロック若干混入。固くしまっている。
11　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒少量混入。やや軟らかい。
12　明黄褐色土(10YR6／6) 地山粒・地山ブロック多量混入。(貼床)。
13　にぶい赤褐色土(5YR5／3) 粘土。炭化物少量混入。(かまど右袖粘土)。
14　黒褐色土(10YR3／1) 地山粒・地山ブロック多量混入。
15　にぶい黄橙色土(10YR7／4) シラスブロック。
16　にぶい黄褐色土(10YR5／4) シラス。ブロック多量混入。
17　にぶい黄橙色土(10YR7／4) シラス。
18　木根による攪乱。

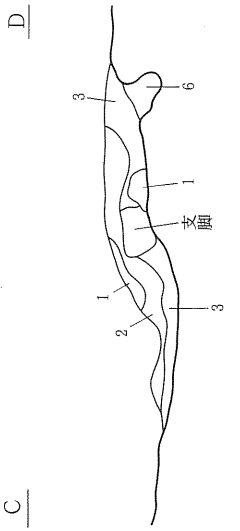
第351図　SI 665 竪穴住居跡

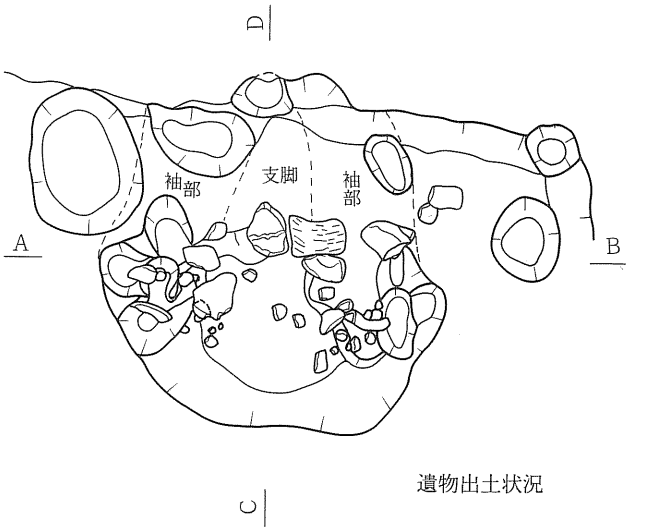


第352図　SI 665 竪穴住居跡出土遺物

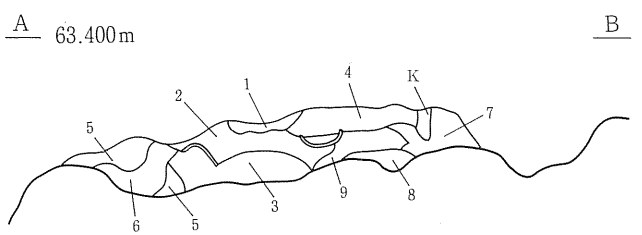


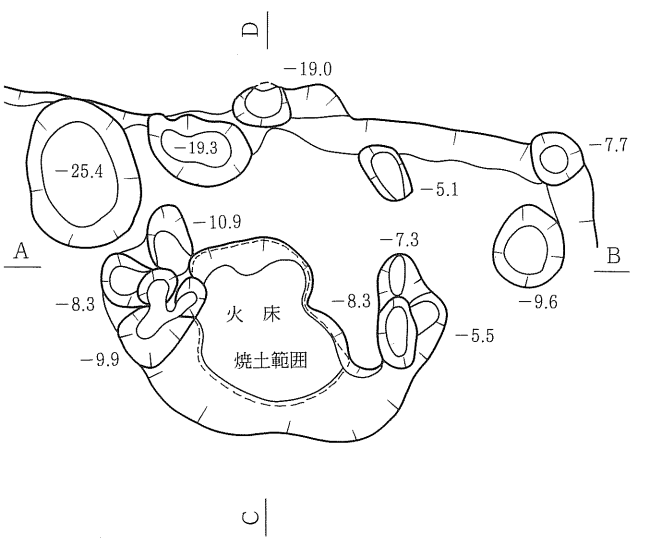
現　況





遺物出土状況





【SI　665】
1　黒褐色土(10YR3／1) しまりなし。
2　浅黄色土(2.5Y7／3) 粘土。
3　明赤褐色土(5YR5／6) 焼土。しまりなし。
4　灰白色土(10Y8／1) 粘土。
5　灰黄色土(2.5Y7／2) 粘土。
6　黒褐色土(10YR3／1) 地山粒・地山ブロック多量混入。
7　明褐灰色土(7.5YR7／2) 灰白色粘土小ブロックを多く混入する。
8　黒褐色土(10YR2／3) しまりなくサラサラしている。
9　にぶい褐色土(7.5YR5／4) 粘土。
K　攪乱

第353図　SI 665 竪穴住居跡かまど

《確　　認》　埋土がＳＴ 642谷の谷頭部分の埋没土と同じ色調であったのと、南側半分をＳＩ 665竪穴住居跡構築時に削平・貼床されていたため確認が遅れた。ＳＩ 665竪穴住居跡の床面精査中にその所在を確認した。

《重　　複》　ＳＩ 665竪穴住居跡の北側に構築していたが、南側半分をＳＩ 665竪穴住居跡構築時に削平・貼床されていた。

《規模と平面形》　東西壁長2.50ｍ×南北壁長2.28ｍ、深さ28㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　５層に分層したが、自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　南側には貼床部分もみられ凹凸もあるが、北側はほぼ平坦である。

《か ま ど》　南側壁の中央から東寄りに構築されていたが、主体部は原形を留めず粘土・炭・焼土が薄く堆積していただけであった。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも確認できた。両袖部の底面には連結した窪みを掘り込んでいた。燃焼部の火床はあまり焼き締まっていなかった。煙道部は長く煙出孔に向かって底面が下降していた。

《柱　　穴》　西側壁下の床面に２カ所検出した。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　土師器の坏（１～５）、高台付坏（６）、甕（７～15）が出土した。土師器坏（４）の底部には静止糸切り痕が、（４）には回転糸切り痕がある。高台付坏（６）は内黒である。土師器甕の胴部は箆なで・箆削りがある。

《構築時期》　出土した土師器から平安時代と推定した。

ＳＩ　713　竪穴住居跡（第356図）

《位　　置》　ＭＱ66・67、ＭＲ66・67グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　縄文時代のＳＫＳ 822土壙墓・ＳＫＳ 824土壙墓の上部を削平して構築していた。

《規模と平面形》　東西壁長5.08ｍ×南北壁長4.65ｍ、深さ15㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　５層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があり貼床部分もみられた。床面中央に焼土が薄く堆積していた。

《か ま ど》　遺存状況は不良で、主体部・煙道部とも検出できなかったが、焼き締まった焼土の堆積位置から南東側壁の中央からやや西寄りに構築されていたと推定した。

《柱　　穴》　壁下を巡る壁溝中と床面に17カ所検出した。Ｐ３・Ｐ16・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ９・Ｐ10が主柱穴である。壁下のＰ１・Ｐ６・Ｐ８・Ｐ14・Ｐ16は副柱穴と思われた。

《壁　　溝》　推定かまど構築部分を除き壁下を一巡する。

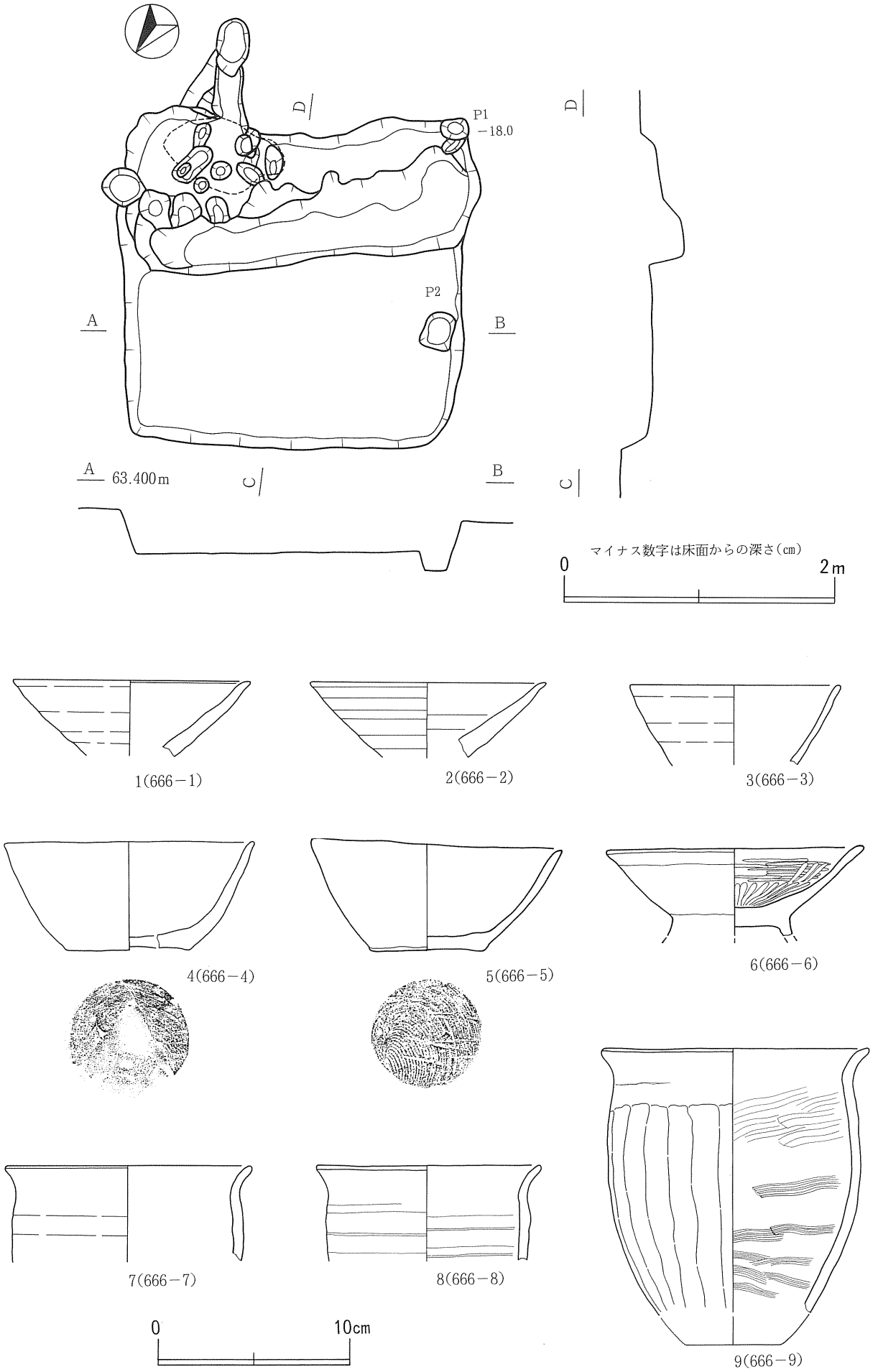
《遺　　物》　土師器の坏と縄文土器片が出土した。土師器坏の底部には回転糸切り痕がある。

《構築時期》　出土した土師器から平安時代と推定した。

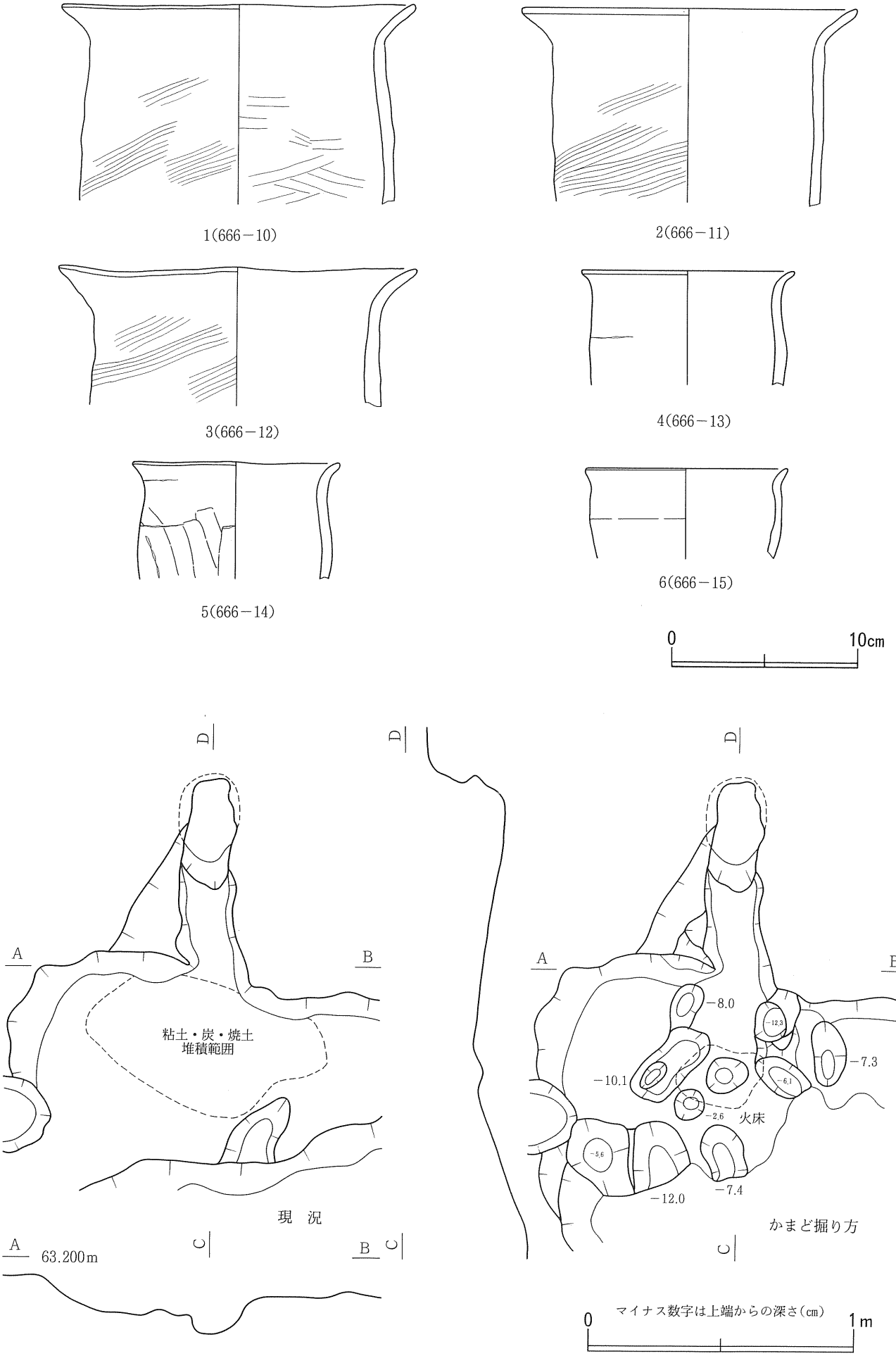
ＳＩ　720　竪穴住居跡（第357図・第358図）

《位　　置》　ＭＴ63・64、ＮＡ63・64グリッドに位置する。

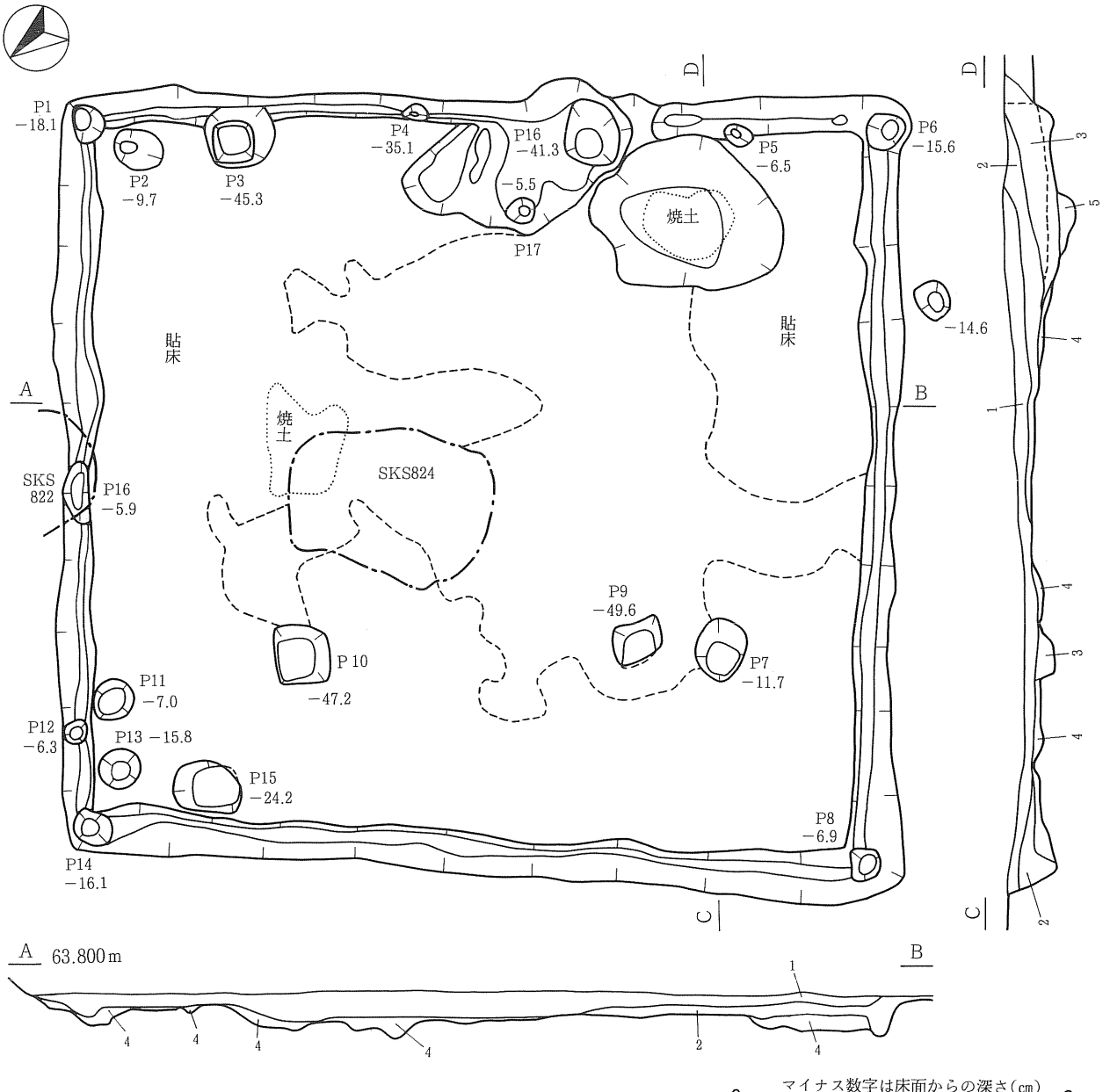
《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。



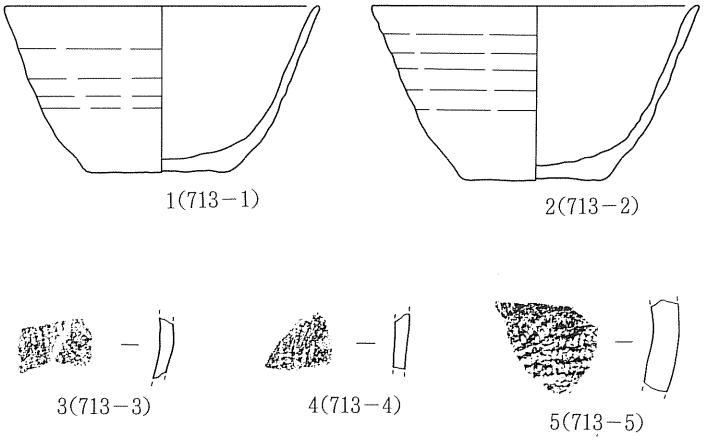
第354図　SI 666 竪穴住居跡とその出土遺物



第355図　SI 666 竪穴住居跡出土遺物・かまど



【SI　713】
1　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒多量混入。しまりあり。
2　暗褐色土(10YR3／4) 地山粒少量混入。
3　褐色土(10YR4／4) 地山粒多量混入。
4　貼床
5　焼土



第356図　SI 713 竪穴住居跡とその出土遺物

《重　　複》　縄文時代のＳＩ 719竪穴住居跡・ＳＫＳ 819土壙墓・ＳＫＦ 823・ＳＫＦ 1014フラスコ状土坑と重複していた。

《規模と平面形》　東西壁長3.45ｍ×南北壁長3.12ｍ、深さ24㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　10層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がるが一部で土圧のためか内傾していた。

《床　　面》　やや凹凸があり、縄文時代の遺構部分には貼床していた。

《か ま ど》　南東側壁の中央からやや東寄りに構築されていた。遺存状況は不良であるが両袖部、燃焼部とも不明確であった。両袖部の位置には窪みがあり、偏平な自然石を検出した。煙道部は長く煙出孔に向かって底面が下降する。煙道部の土層断面から、煙道を短く作り替えたと判断した。かまど左側の床面に焚き口天井部に架けたと考えられる長大な自然石が１個転がっていた。

《柱　　穴》　なし。

《壁　　溝》　かまど構築部分を除き壁下を一巡する。

《遺　　物》　土師器の坏（１～４）と縄文土器破片（５）が出土した。土師器坏（２）は内黒である。土師器坏（３・４）の底部には回転糸切り痕がある。

《構築時期》　出土した土師器から平安時代後半と推定した。

ＳＩ　722　竪穴住居跡（第359図～第362図）

《位　　置》　ＭＱ63・64、ＭＲ63・64・65、ＭＳ63・64グリッドに位置する。

《確　　認》　方形の黒褐色土の落ち込みの中に大湯浮石層が霜降り状に混入しているのを確認した。

《重　　複》　なし。改築・拡張していた。

《規模と平面形》　改築前：東西壁長5.02ｍ×南北壁長4.28ｍ、深さ41㎝。長方形を呈する。
改築後：東西壁長5.38ｍ×南北壁長5.06ｍ、深さ53㎝。方形を呈する。

《埋　　土》　14層に分層した。貼床より上は自然堆積と思われる。

《　壁　》　土圧のためか内傾しながら立ち上がる。

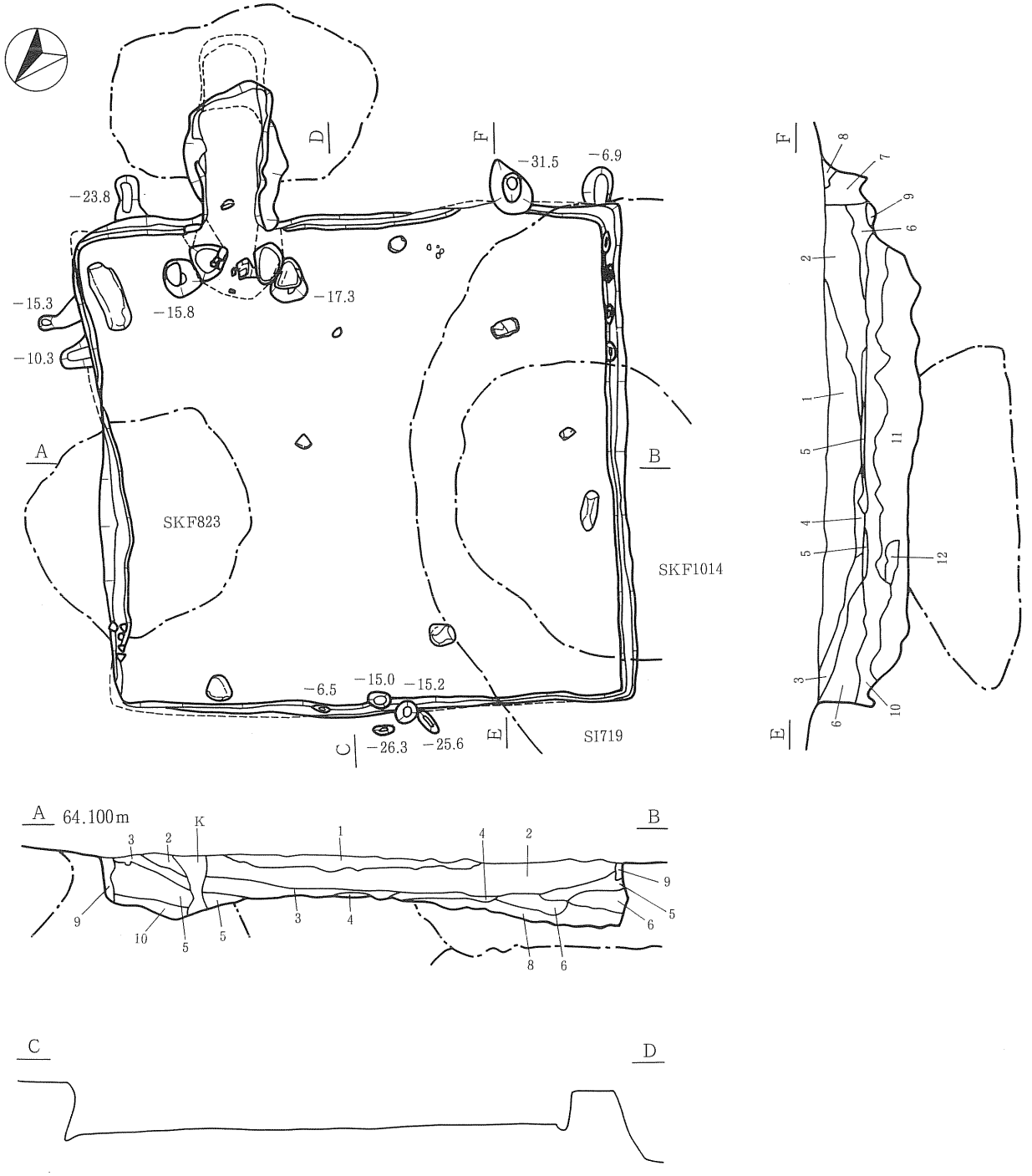
《床　　面》　改築前：凹凸が激しい。
改築後：地山部分はほぼ平坦である。貼床部分はやや凹凸がある。

《か ま ど》　改築前：南側壁中央からやや東寄りにあったと思われるが、同一場所での改築のため不明。
改築後：南側壁の中央からやや東寄りに構築されていた。遺存状況は良好であったが掘り過ぎて形態を不確実にしてしまった。自然石と土師器甕の破片を積み重ねて袖部の芯材としていた。燃焼部の火床は軟弱であった。　煙道部は長く煙出孔に向かって底面が上昇していた。

《柱　　穴》　改築前：壁下を巡る壁溝中９カ所（Ｐ28・Ｐ22・Ｐ30～Ｐ32・Ｐ34～Ｐ37）と床面５カ所（Ｐ９・Ｐ10・Ｐ11・Ｐ18・Ｐ20）を検出した。
改築後：壁下を巡る壁溝中19カ所（Ｐ１・Ｐ２・Ｐ３・Ｐ４・Ｐ７・Ｐ８・Ｐ15～Ｐ17・Ｐ23・Ｐ24・Ｐ33・Ｐ38～Ｐ44）と床面８カ所（Ｐ12～Ｐ15・Ｐ19・Ｐ21・Ｐ26・Ｐ27・Ｐ29）を検出した。

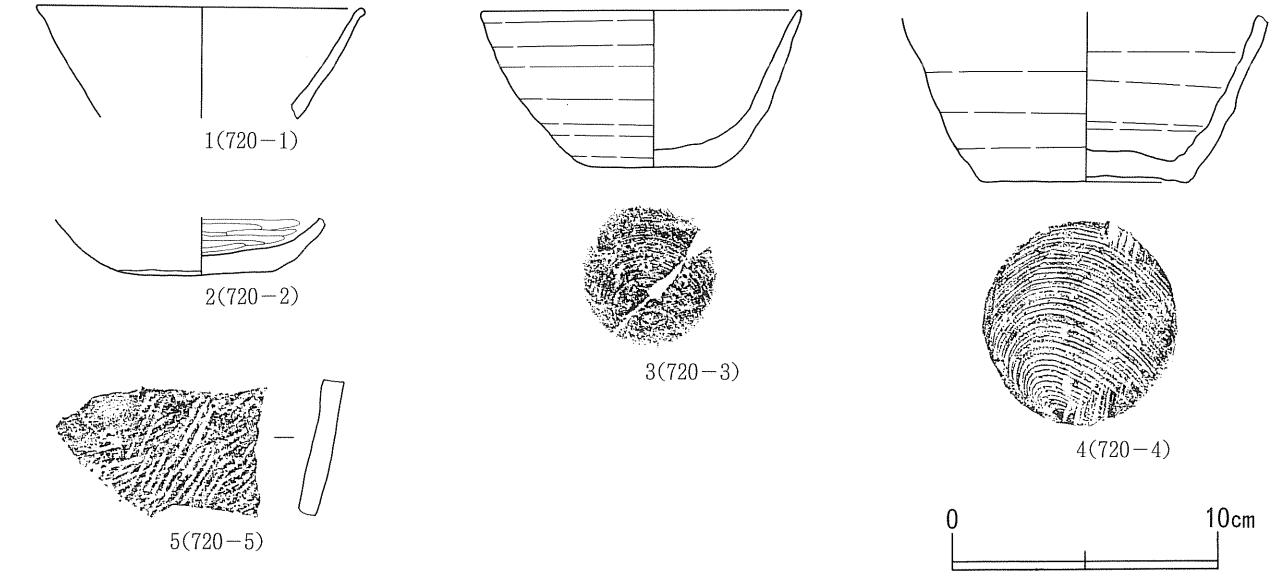
《壁　　溝》　かまど構築部分を除き壁下を一巡する。

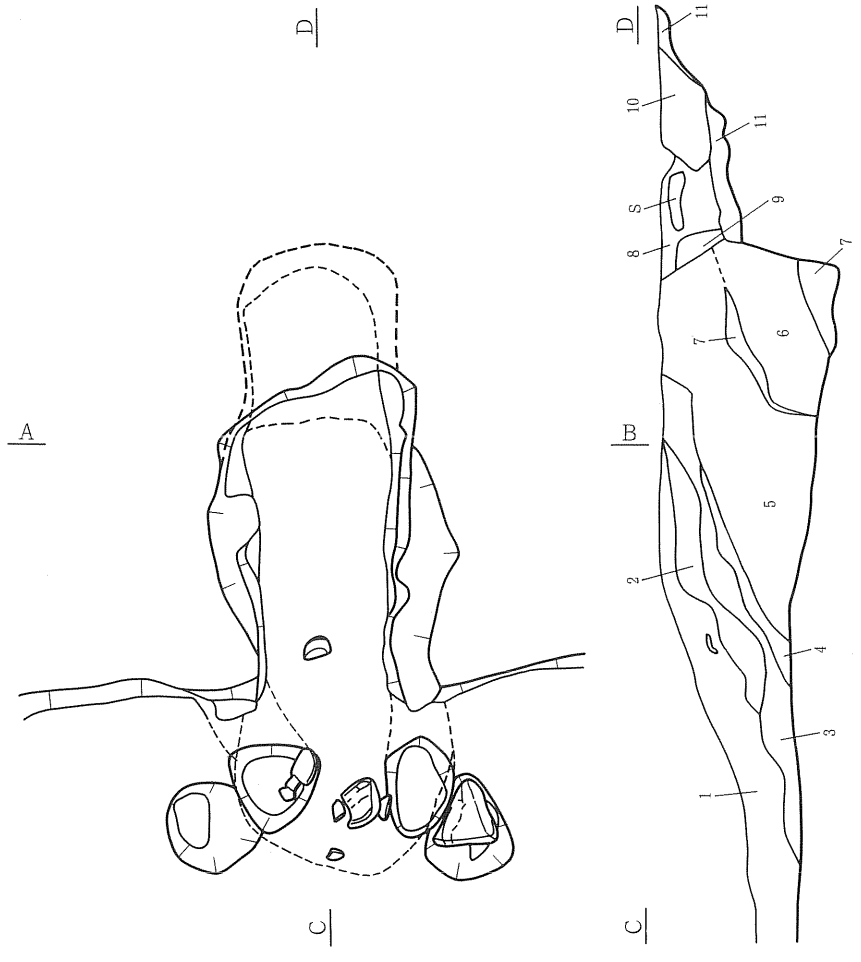
《遺　　物》　土師器の坏、甕のほか縄文土器片、石器も出土した。土師器坏（１・２）は内黒である。



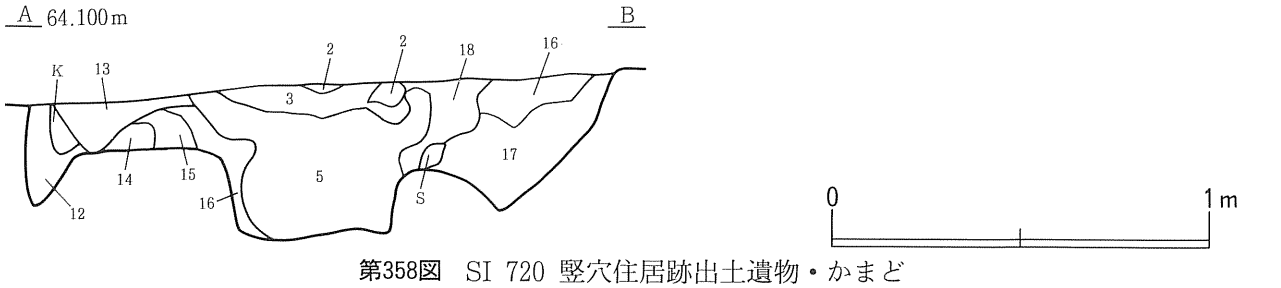
【SI 720】
1　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒20%混入。しまり弱い。
2　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒10%混入。しまり普通。
3　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒30%混入。しまり普通。
4　明黄褐色土(10YR6／6) シルト。地山主体で褐色土微量混入。硬くしまる。−貼り床−
5　黒色土(10YR2／1) 地山粒・地山塊40%混入。しまり普通。
6　黒褐色土(10YR2／3) 地山塊(小)40%混入。しまり普通。
7　明黄褐色土(10YR6／6) シルト。
8　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒10%混入。しまり弱く、ボソボソしている。
9　黒褐色土(10YR2／2) 軟らかい。
10　暗褐色土(10YR3／4) 地山粒15%混入。しまり強い。
11　褐色土(10YR4／4) しまり強い。(SI 719 埋土)
12　褐色土(10YR4／4) シルト。地山粒・黒色土粒10%混入。しまり強い。地山主体で暗褐色土50%混入。
K　攪乱

第357図　SI 720 竪穴住居跡

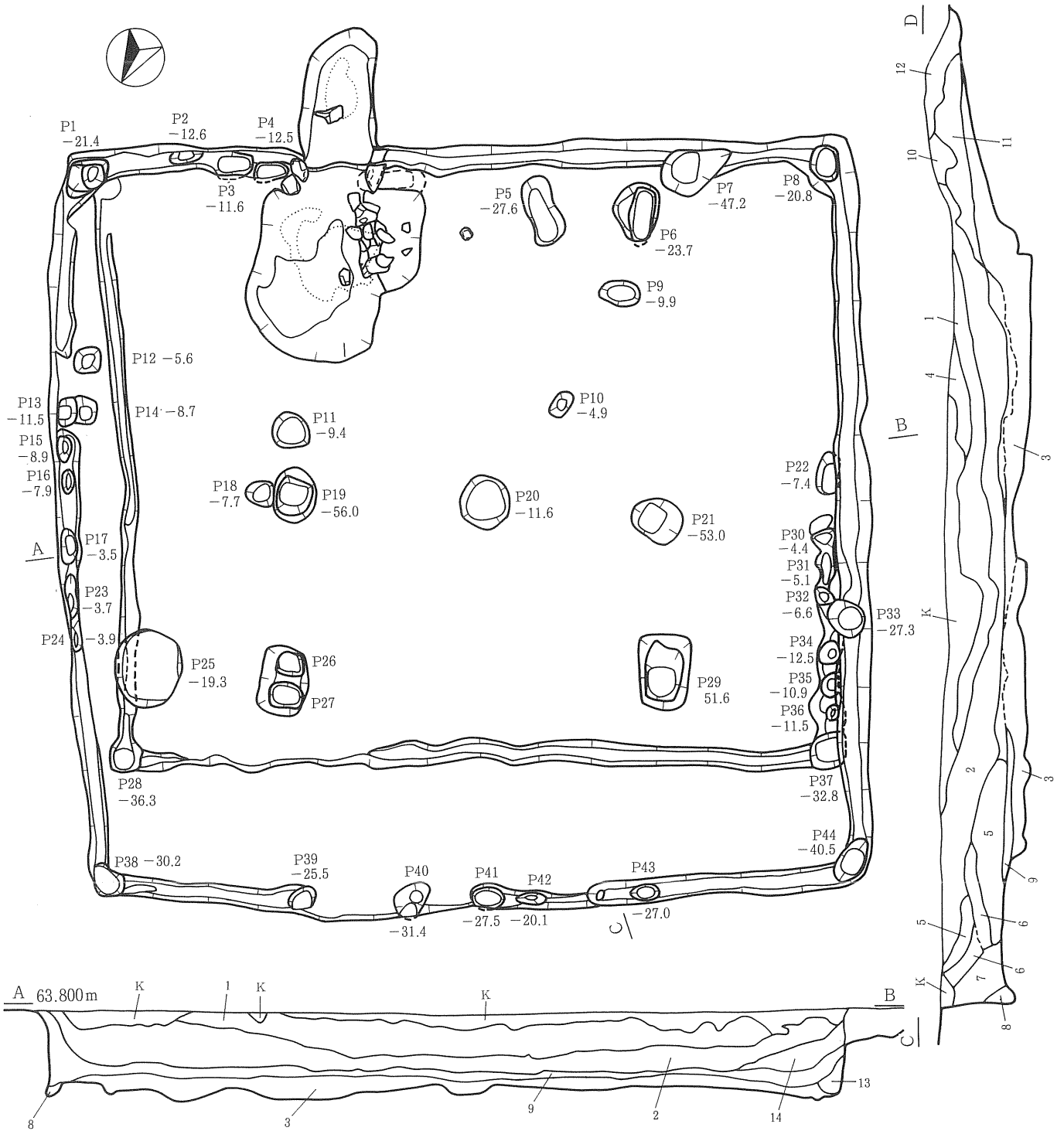




【SI　720】
1　黒褐色土(10YR2／3)　地山粒５～10㎜の厚さで部分的に斑状に混入。しまり普通。
2　にぶい黄橙色土(10YR6／4)　地山土。しまり普通。
3　褐色土(10YR3／4)　シルト。部分的に地山(10YR6／4)微量混入。しまり普通。粘性強い。＝焼土＝
4　暗褐色土(10YR3／4)　地山粒微量混入。しまり普通。
5　暗褐色土(10YR3／4)　地山粒40％、黒色土微量混入。しまり普通。
6　暗褐色土(10YR3／4)　地山粒10％混入。ボソボソしている。しまり弱い。
7　黒色土(10YR2／1)　地山粒微量混入。
8　暗褐色土(10YR3／4)　地山粒微量混入。しまり普通。
9　褐色土(10YR4／6)　地山粒微量混入。ボソボソしている。しまり弱い。
10　暗褐色土(10YR3／4)　地山粒微量混入。ボソボソしている。しまり弱い。
11　褐色土(10YR4／6)　シルト。地山塊(小)10％混入。しまり普通。
12　褐色土(10YR4／6)　シルト。地山粒50％混入。しまり普通。
13　褐色土(10YR4／4)　地山粒・黒色土粒15％混入。しまり弱い。
14　明黄褐色土(10YR6／6)　シルト。地山・褐色土塊(小)20％混入。しまり弱い。
15　黒褐色土(10YR2／3)　地山粒10％混入。しまり弱い。
16　褐色土(10YR4／6)　シルト。地山粒20％混入。しまり弱い。
17　地山(10YR6／4)　褐色土20％混入。しまり、粘性共有り。
S　石
K　攪乱



第358図　SI 720 竪穴住居跡出土遺物・かまど

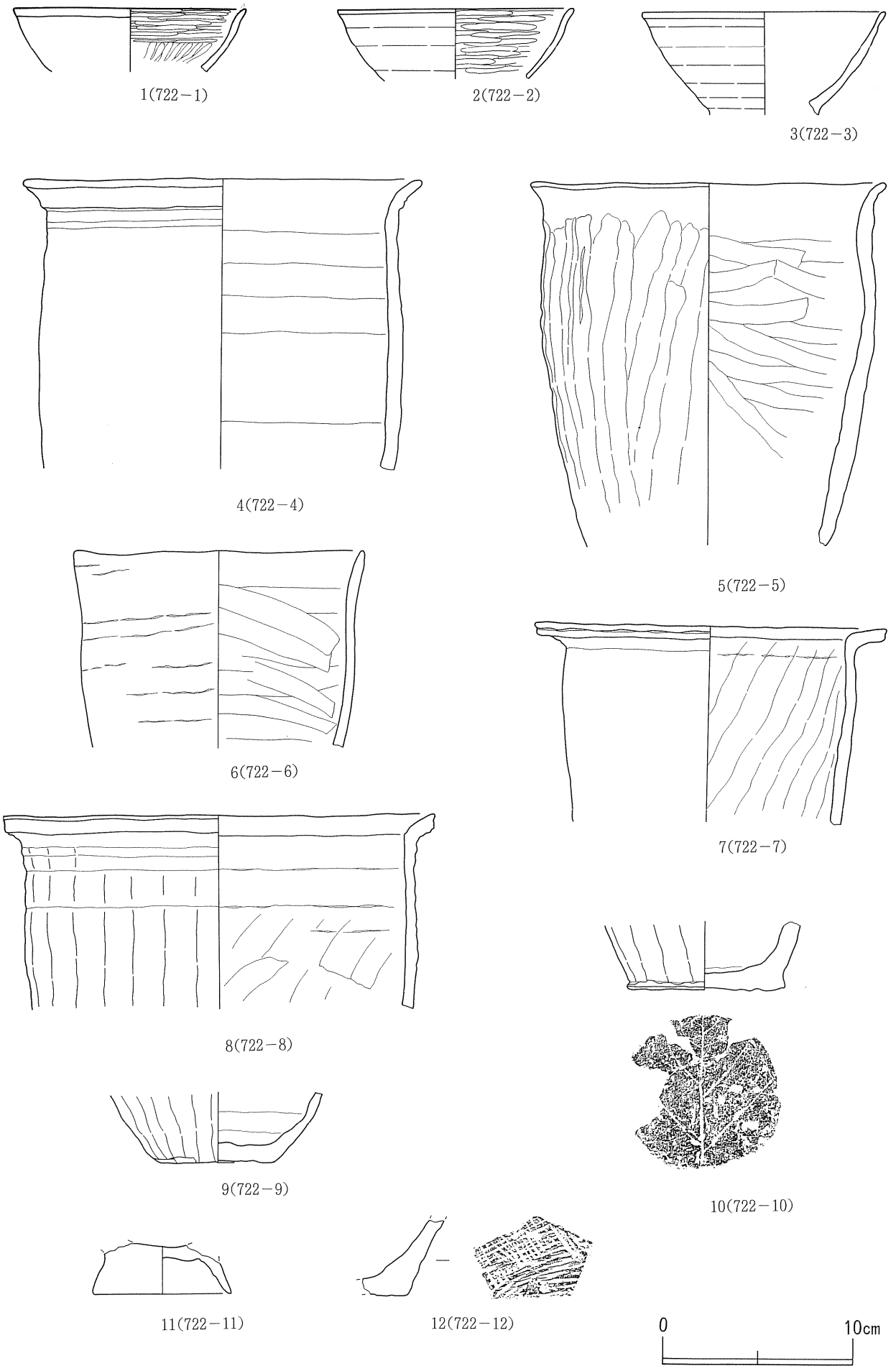


【SI 722】
1　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山粒・浮石粒少量混入。しまりやや悪く、粘性有り。
2　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山粒・地山塊(小)少量、軽石粒多量混入。しまり有り、粘性あまりなし。
3　にぶい黄褐色土(10YR4／3)　シルト。炭化材・焼土粒・地山粒よりなる。しまりやや悪く、粘性あまりなし。
4　黒色土(10YR1.7／1)　地山塊(小)・浮石粒少量混入。しまり、粘性共有り。
5　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　大湯浮石粒多量混入。しまり悪く、粘性なし。
6　黒褐色土(10YR3／2)　シルト～砂。地山塊(小)・炭・焼土粒少量、浮石粒多量混入。しまり有り、粘性あまりなし。
7　黒色土(10YR2／1)　シルト。地山塊多量混入。しまりやや悪く、粘性有り。
8　黒色土(10YR2／1)　シルト。地山粒やや多量混入。しまりやや悪く、粘性有り。
9　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山塊多量混入。しまり、粘性有り。貼り床。
10　黒褐色土(10YR2／3)　シルト。焼土粒多く混入。しまり悪く、サラサラしている。
11　にぶい黄褐色土(10YR4／3)　シルト～粘土。焼土粒・炭混入。カマド構築材の一部。
12　黒色土(10YR1.7／1～2／1)　シルト。地山塊(小)少量混入。しまり、粘性共有り。
13　黒褐色土(10YR2／3)　シルト。地山塊やや多量混入。しまり悪く、粘性有り。
14　黒色土(10YR1.7／1)　シルト。浮石粒多量混入。しまり有り、粘性なし。
K　攪乱

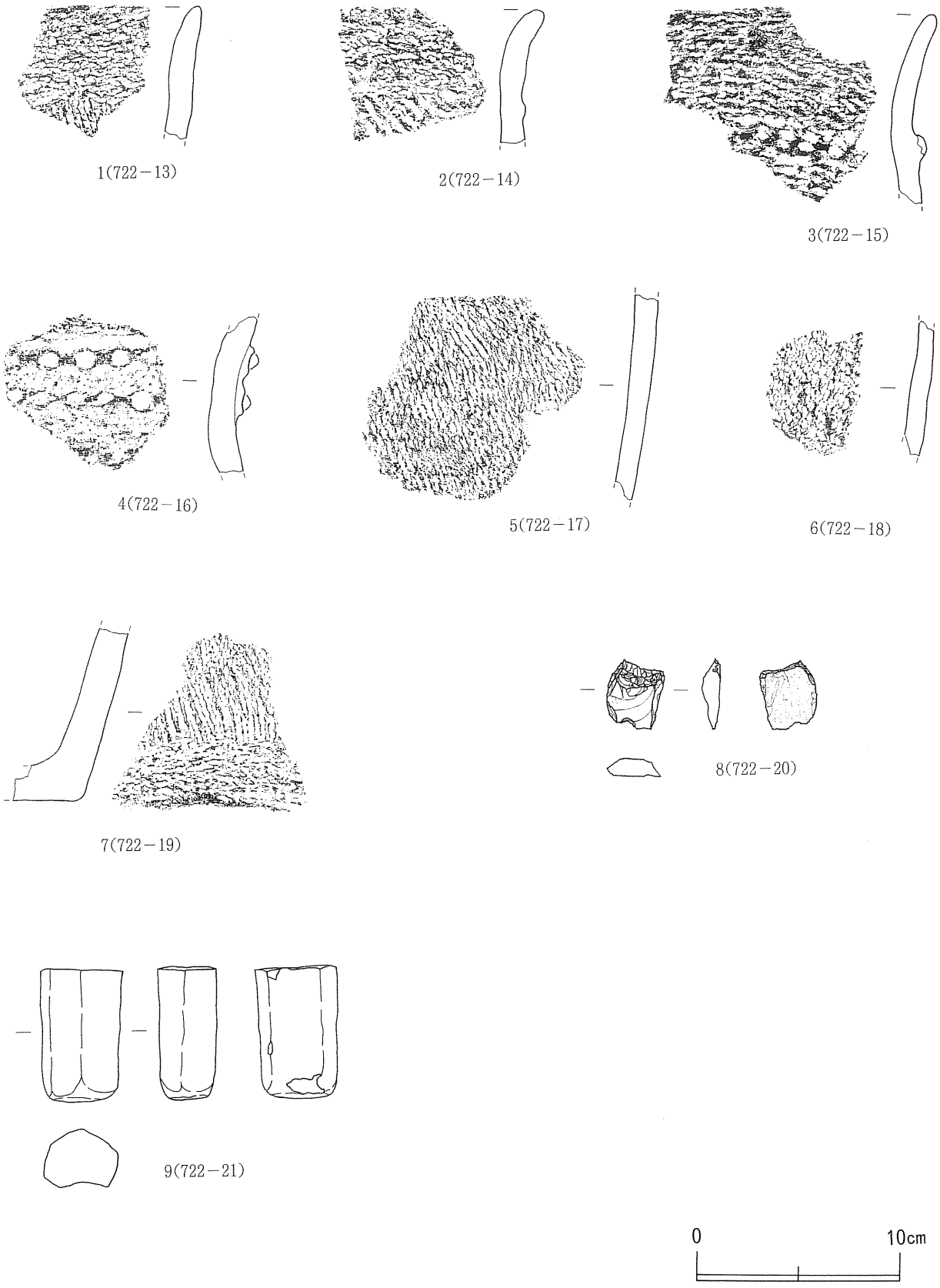
マイナス数字は床面からの深さ(cm)

0　2m

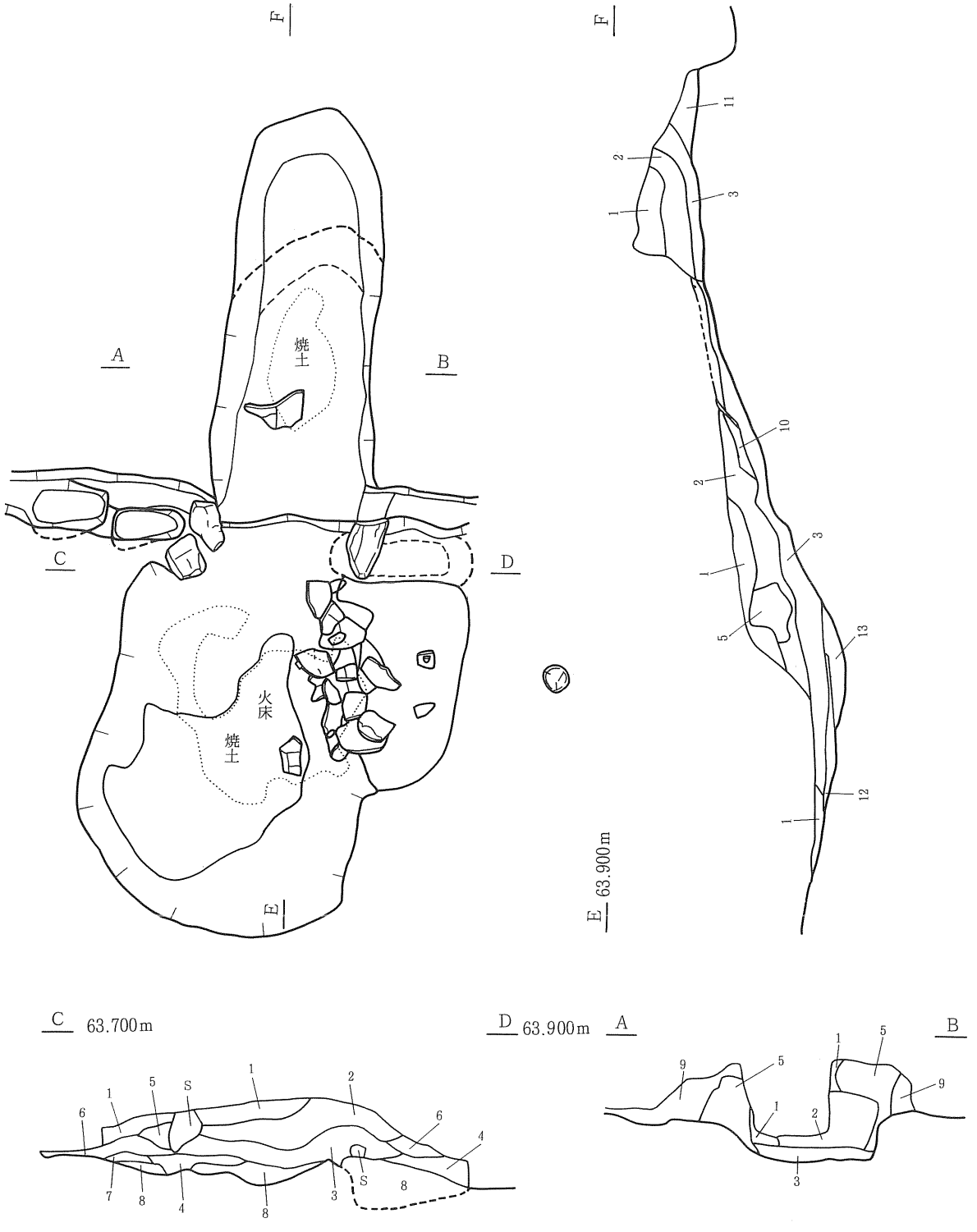
第359図　SI 722 竪穴住居跡



第360図　SI 722 竪穴住居跡出土遺物（１）



第361図　SI 722 竪穴住居跡出土遺物（２）



【SI　722】
1　黒褐色土(10YR3／2)　シルト。地山粒少量混入。
2　暗褐色土(10YR3／3)　シルト。白色粘土多量、地山粒少量混入。しまりやや悪く、粘性有り。
3　暗褐色土(10YR3／4)　シルト。焼土粒多量、白色粘土・地山粒少量混入。しまり、粘性共有り。
4　にぶい黄橙色土(10YR6／4)　地山塊(小)多量混入。しまり有り、粘性あまりなし。
5　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　粘土。しまり有り。粘性なし。
6　黒褐色土(10YR3／1)　シルト。地山粒・白色粘土少量混入。しまり、粘性共有り。
7　黒色土(10YR2／1)　シルト。地山塊(小)やや多量混入。しまり、粘性共有り。
8　黄橙色土(10YR8／6)　粘土。硬質。粘性なし。
9　黒褐色土(10YR2／3)　シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性共有り。
10　褐色土(7.5YR4／6)　シルト。焼土粒多量混入。しまり有り、粘性あまりなし。
11　黒褐色土(10YR3／2)　シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性共なし。
12　塼化焼土
13　焼土、地山の熱変化。
S　石

0　1m

第362図　SI 722 竪穴住居跡かまど

坏（３）は高台付の可能性もある。土師器甕（４～10）は胴部を篦なで・篦削りしているが、堅く焼き締まった甕（12）には叩き目がある。（11）の高台部は坏のものと思われる。８は一端を剥離調整し、（９）は柱状節理の石材の一端を研磨した擦り石である。

《構築時期》　大湯浮石層の堆積状況と出土した土器から平安時代と推定した。

ＳＩ　938　竪穴住居跡（第363図）

《位　　置》　ＮＮ47・48、ＮＯ47・48グリッドに位置する。

《確　　認》　長方形の暗褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長2.79ｍ×南北壁長3.88ｍ、深さ17㎝。長方形を呈する。

《埋　　土》　プラン確認の際掘り過ぎたため、自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　凹凸があるがほぼ平坦である。

《か ま ど》　なし。

《柱　　穴》　床面に20カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　土師器の甕の胴部破片が出土した。

《構築時期》　出土した土器から平安時代と推定した。

土　坑

古代の土坑は６基検出した。土坑の平面形状は、張出し部のある方形（１基）、隅丸長方形（３基）、不整円形（１基）、不整な楕円形（１基）である。隅丸長方形の３基は、調査区東側の南西側に張り出す小さな舌状台地にまとまっている。６基の土坑の中には遺物が出土せず、古代とは確定できないものもある。

ＳＫ　63　土坑（第364図）

《位　置》　ＮＮ55・56、ＮＯ55・56グリッドに位置する。

《確　認》　黒土採取のため上部を削平され、黒色土の張出し部をもつ方形の落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　方形部：南北辺2.04ｍ、東西辺1.98ｍ、深さ11㎝。張出し部：幅1.06ｍ、奥行1.10ｍ。

《平面形》　張出し部をもつ方形である。

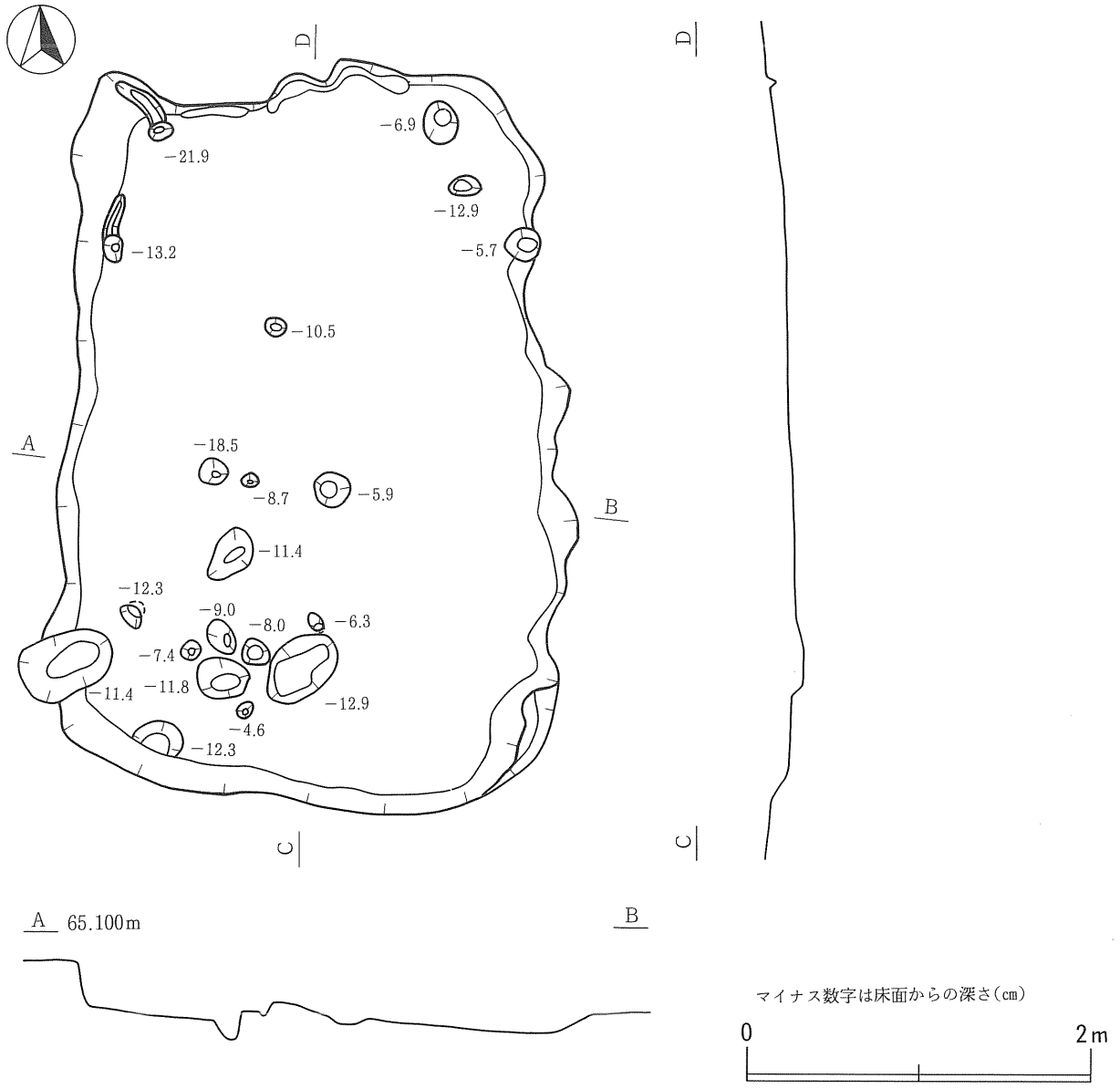
《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。

《埋　土》　７層に分層した。炭化物、地山粒を混入する。張出し部の埋土には酸化鉄粒が混入する。

《底　面》　やや凹凸がある。方形部の南東側底面には長軸1.16ｍ、短軸0.94ｍの不整な楕円形で、深さ27㎝の掘り込みがある。

《遺　物》　底面から甕形土師器の底部破片（木葉痕）１点、礫４点が出土した。

《時　期》　出土した土師器片から平安時代と思われる。



第363図　SI 938 竪穴住居跡

ＳＫ　116　土坑（第364図）

《位　置》　ＮＳ51、ＮＴ51グリッドに位置する。

《確　認》　黒色土の不整な円形の落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径2.10ｍ、短径1.92ｍ、深さ14㎝。

《平面形》　不整な円形を呈する。

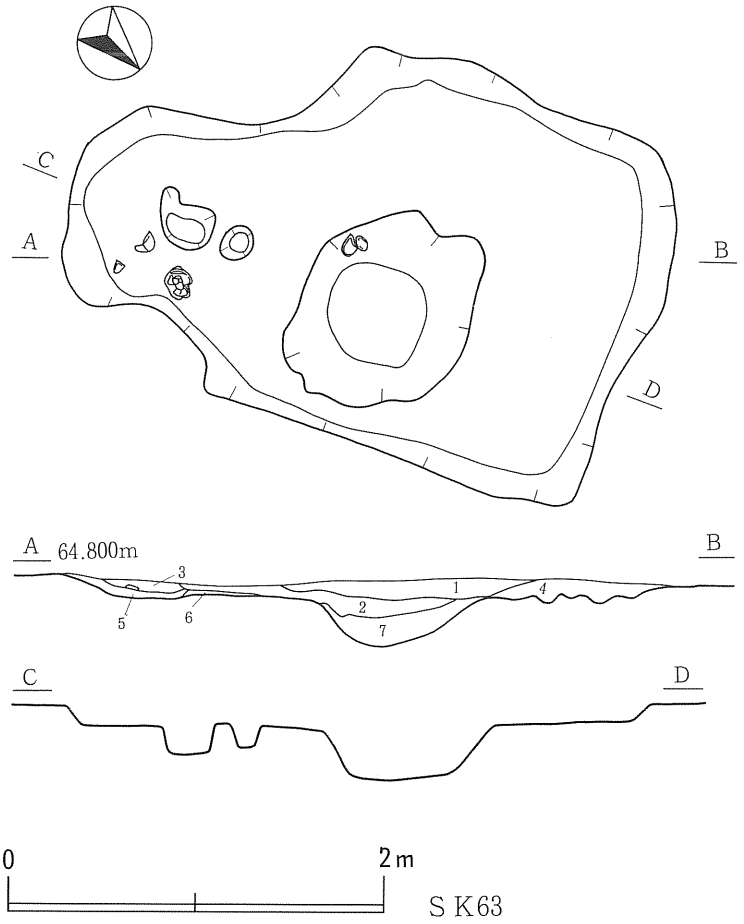
《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。

《埋　土》　３層に分層した。

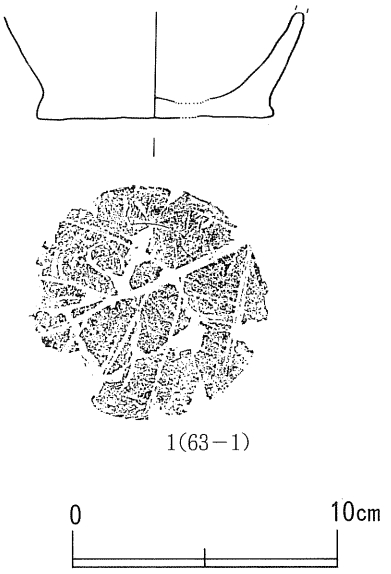
《底　面》　凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《遺　物》　埋土中から坏形土師器が１個体出土した。

《時　期》　出土した坏形土師器から平安時代と思われる。

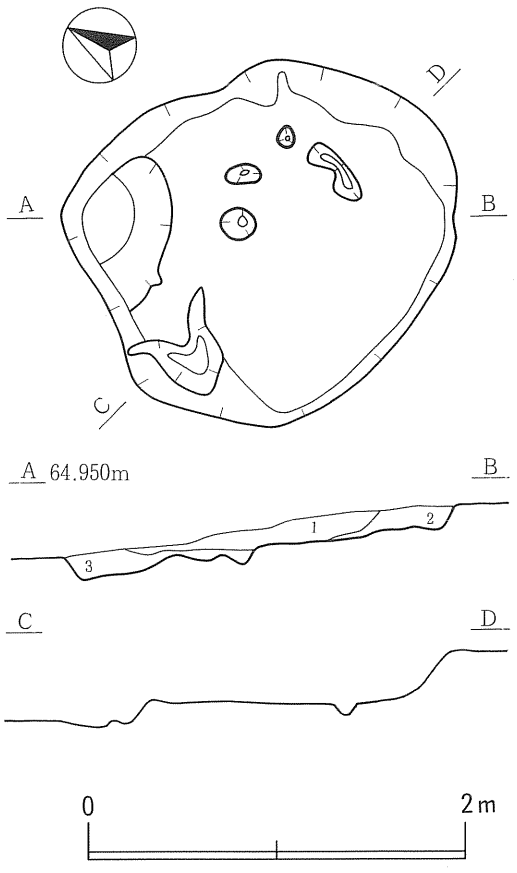


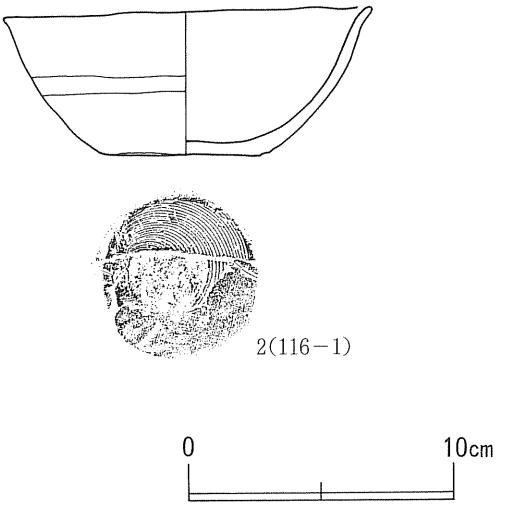
SK63



【SK　63】
1　黒色土(10ＹＲ1.7／1)　地山(大粒)ごく少量、炭(中粒)少量混入。しまり強く、弾性有り。
2　黒色土(10ＹＲ1.7／1)　地山(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4／3)　地山(中粒)・炭(中粒)少量混入。酸化鉄混入。しまり強い。
4　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(大粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり強い。
5　暗褐色土(10ＹＲ3／3)　地山(中粒)中量混入。しまり有り。
6　暗褐色土(10ＹＲ3／3)　地山(大粒)ごく少量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
7　黒色土(10ＹＲ1.7／1)　地山(大粒)多量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。

SK116





【SK　116】
1　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(小粒)中量混入。ややしまり有り。
2　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3)　地山(小粒)・炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
3　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山(大粒)多量混入。ややしまり有り。

第364図　SK 63・SK 116 土坑とその出土遺物

ＳＫ　328　土坑（第365図）

《位　置》　ＮＪ13グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認された。

《重　複》　なし。

《規　模》　長辺2.02ｍ、短辺1.08ｍ、深さ34㎝。

《平面形》　隅丸長方形である。

《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。

《埋　土》　３層に分層した。炭化物を多く混入する。

《底　面》　緩やかな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

《遺　物》　なし。

《時　期》　平面形状は現代の肥え溜めに類似するが、モルタル層がなく、炭化物層があるなど肥え溜めとは異っており平安時代と思われる。

ＳＫ　329　土坑（第365図）

《位　置》　ＮＪ14グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認された。

《重　複》　なし。

《規　模》　長辺1.71ｍ、短辺0.92ｍ、深さ12㎝。

《平面形》　隅丸長方形である。

《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。

《埋　土》　２層に分層した。炭化物を多く混入する。

《底　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《遺　物》　なし。

《時　期》　平面形状は現代の肥え溜めに類似するが、モルタル層がなく、炭化物層があるなど肥え溜めとは異っており平安時代と思われる。

ＳＫ　331　土坑（第365図）

《位　置》　ＮＦ15･16グリッドに位置する。

《確　認》　暗褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長辺2.26ｍ、短辺1.26ｍ、深さ44㎝。

《平面形》　隅丸長方形である。

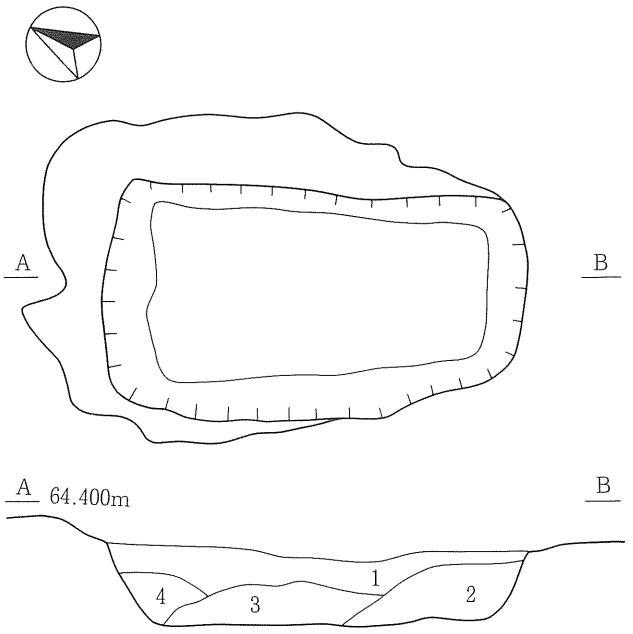
《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。

《埋　土》　４層に分層した。炭化物層が見られる。人為的堆積と思われる。

《底　面》　わずかに凹凸があるが、ほぼ平坦である。

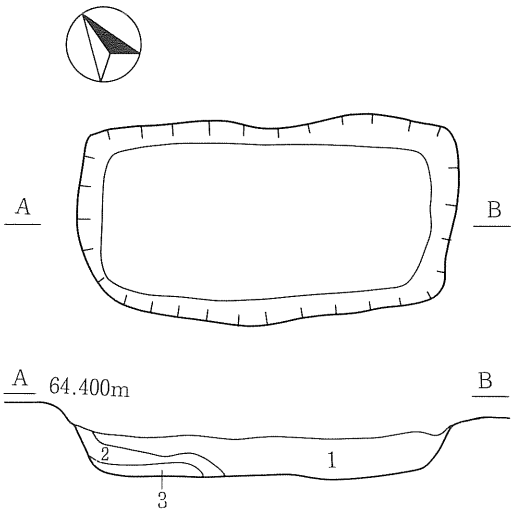
《遺　物》　なし。

《時　期》　平面形状は現代の肥え溜めに類似するが、モルタル層がなく、炭化物層があるなど肥え溜めとは異っており平安時代と思われる。



【SK　331】
全体にしまりが弱く、根が多く入りこんでいる。人為的堆積と考えられる。
1　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 地山粒、少量含む。
2　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 1層より地山粒、混入少ない。
3　褐色土(10ＹＲ4／6) ～暗褐色(10ＹＲ3／4) 地山粒・同小ブロックが主体の層。
4　黒色土(10ＹＲ1.7～1) 炭化物・材層(1.1㎝前後)。ボソボソ。

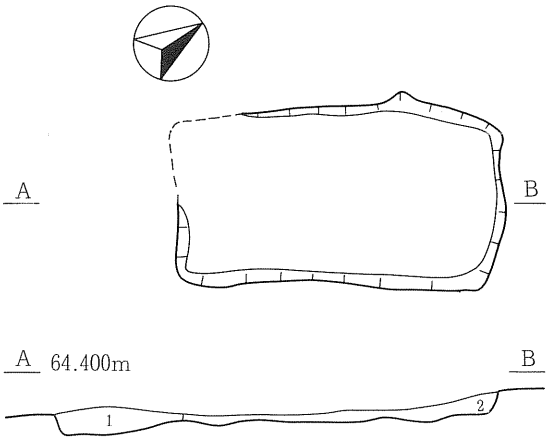
ＳＫ331



【SK　328】
1　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 炭化物をやや多く含む。
2　黒色土(10ＹＲ2／1) 炭化物層。
3　暗褐色土(10YR3／3) 炭化物を含む。

ＳＫ328

ＳＫ329



【SK　329】
1　黒色土(10ＹＲ2／1) 細かい炭化物を多く含む。しまりやや弱い。
2　地山漸移層。

0　2 m

第365図　SK 328・SK 329・SK 331 土坑

ＳＫ　735　土坑（第365図）

《位　置》　ＭＧ66•67グリッドに位置する。

《確　認》　黒色土の不整な楕円形の落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径1.08ｍ、短径0.76ｍ、深さ30㎝。

《平面形》　不整な楕円形である。

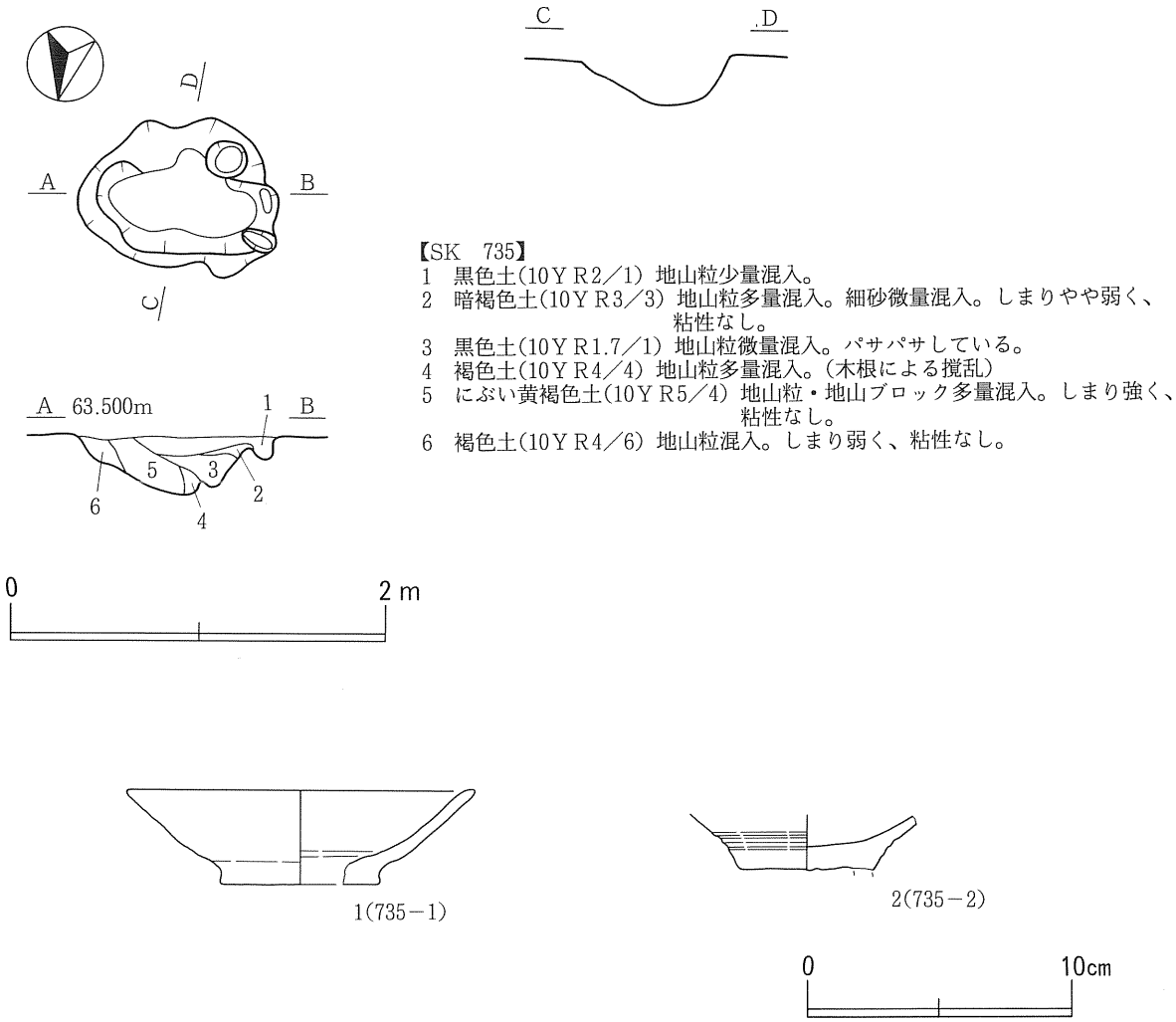
《断面形》　不整なＵ字形を呈する。

《埋　土》　６層に分層した。地山粒•塊の混入が多い。

《底　面》　凹凸が激しい。

《遺　物》　埋土中から内黒の坏形土師器が２個体分出土した。

《時　期》　出土した坏形土師器から平安時代と思われる。



【SK　735】
1　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山粒少量混入。
2　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 地山粒多量混入。細砂微量混入。しまりやや弱く、粘性なし。
3　黒色土(10ＹＲ1.7／1) 地山粒微量混入。パサパサしている。
4　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山粒多量混入。(木根による撹乱)
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5／4) 地山粒・地山ブロック多量混入。しまり強く、粘性なし。
6　褐色土(10ＹＲ4／6) 地山粒混入。しまり弱く、粘性なし。

第366図　SK 735 土坑とその出土遺物

焼土遺構

焼土遺構は13基検出した。焼土遺構には遺構外に焼土が堆積したもの、地山等が高熱を受けて固く焼け締まったものの２種がある。地山等が高熱を受けて固く焼け締まった遺構の中には、何らかの焼成遺構の底面と思われるものもある。大湯浮石層の混入した遺構もあるが、遺物の出土がないため時代・時期の特定は難しい。このため、ＳＮ 64・96・97・98・99・102の６焼土遺構については、残留磁気測定による年代測定をおこなっている。

ＳＮ　64　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＮＬ56グリッドに位置する。

《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がり（痕跡）として確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径58cm、短径48cm、厚さ0.8cm。

《平面形》　不整な円形である。

《断面形》　地山が高熱を受けて固く焼け締まったものでわずかに凹んでいる。

《埋　土》　なし。

《底　面》　わずかに凹んでいる。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土が無いので不明。

ＳＮ　96　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＮＤ63グリッドに位置する。

《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がりとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長さ46cm、幅40cm、厚さ1.4cm。

《平面形》　不整形である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《堆積土》　焼土層に軽石粒（大湯浮石層）が混入していた。

《底　面》　やや凹みがある。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土は無いが大湯浮石層が混入していたことから平安時代と思われる。

ＳＮ　97　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＮＤ63・ＮＥ63グリッドに位置する。

《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がりとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長さ64cm、幅54cm、厚さ1.5cm。

《平面形》　不整形である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《堆積土》　焼土層に軽石粒（大湯浮石層）が混入していた。

《底　面》　やや凹みがある。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土は無いが大湯浮石層が混入していたことから平安時代と思われる。

ＳＮ　98　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＮＧ60•61、ＮＨ60•61グリッドに位置する。

《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がりとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径56㎝、幅20㎝、厚さ2.7㎝。

《平面形》　不整形（Ｃ字形）である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《堆積土》　焼土層に軽石粒（大湯浮石層）が混入していた。

《底　面》　やや凹凸がある。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土は無いが大湯浮石層が混入していたことから平安時代と思われる。

ＳＮ　99　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＮＩ60、ＮＪ60グリッドに位置する。

《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がりとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径58㎝、短径56㎝、厚さ１.8㎝。

《平面形》　円形である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《堆積土》　焼土層に軽石粒（大湯浮石層）と炭化物が混入していた。

《底　面》　やや凹みがある。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土は無いが大湯浮石層が混入していたことから平安時代と思われる。

ＳＮ　102　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＮＫ58グリッドに位置する。

《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がりとして確認した。

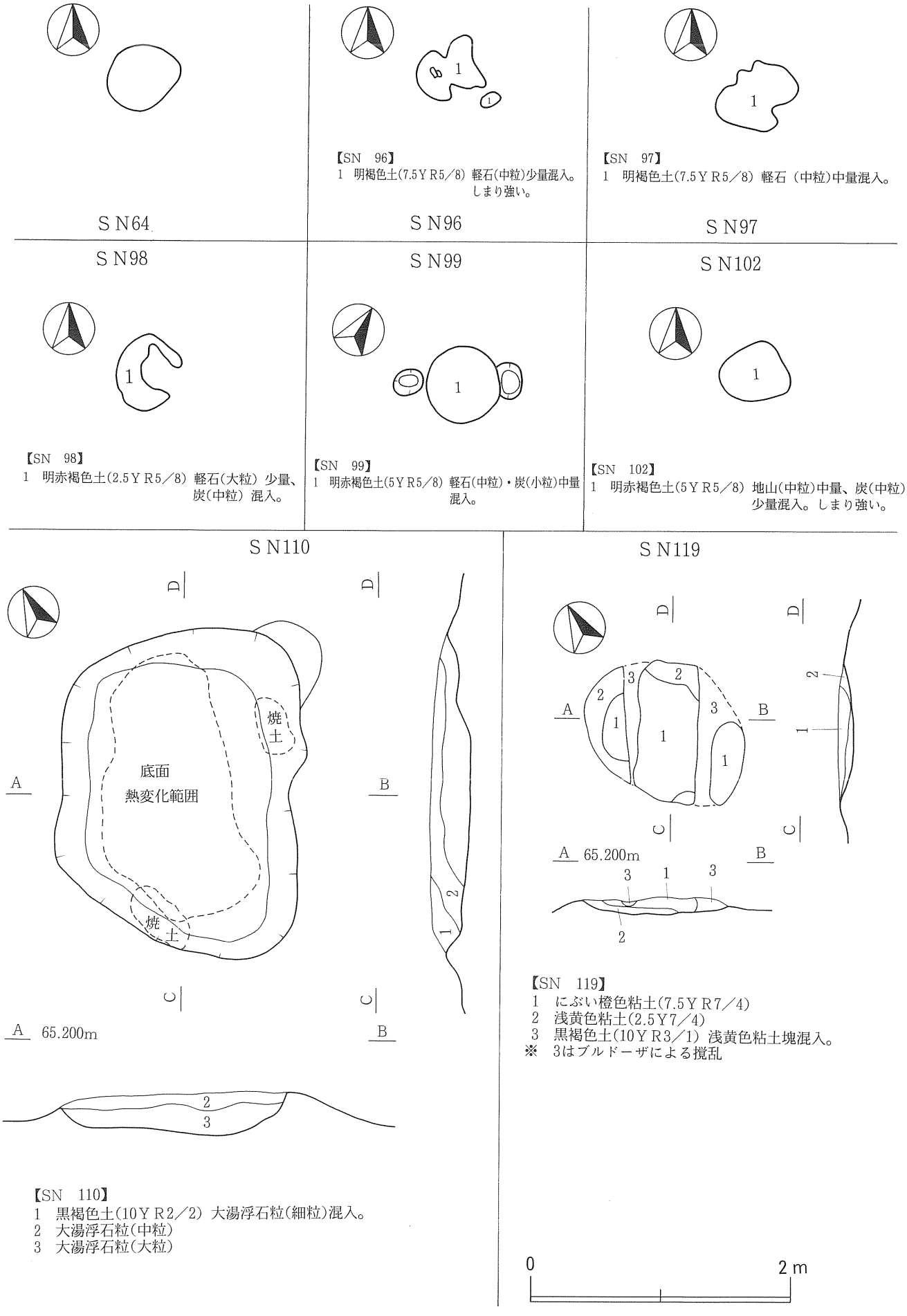
《重　複》　なし。

《規　模》　長径50㎝、短径42㎝、厚さ2.9㎝。

《平面形》　不整な円形である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《堆積土》　焼土層に炭化物が混入し、固く締まっていた。



第367図　SN 64・SN 96～99・SN 102・SN 110・SN 119 焼土遺構

《底　面》　やや凹みがある。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土が無いので不明。

ＳＮ　110　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＮＰ37•38グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土中に焼土と大湯浮石層の広がりとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径2.44ｍ、短径1.74ｍ、厚さ12㎝。

《平面形》　不整な隅丸長方形である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《埋　土》　３層に分層した。第２・３層は大湯浮石層の純層である。

《底　面》　ほぼ平坦であるが、底面の大部分が高温による熱変化を起こして固く締まっていた。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土は無いが大湯浮石層が堆積していることから平安時代と思われる。

ＳＮ　119　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＮＴ37グリッドに位置する。

《確　認》　ブルドーザで撹乱されていたが黒褐色土中に粘土がドーナツ状に堆積しているのを確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径1.32ｍ、短径1.04ｍ、厚さ14㎝。

《平面形》　楕円形である。

《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《埋　土》　３層に分層した。

《底　面》　中華鍋底状に中央部が深くなっている。底面の中央部が高温による熱変化を起こして固く締まっていた。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土が無いので不明確であるが、ＳＮ 110と類似していることから平安時代と思われる。

ＳＮ　648　焼土遺構（第367図）

《位　置》　ＭＳ56グリッドに位置する。

《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がり（かまどか？）として確認した。中央部に炭化物と焼土粒の混入する黒色土が堆積し、その周囲を焼土•赤色硬化焼土が堆積しているように見えた。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径1.56ｍ、短径1.50ｍ、厚さ10㎝。

《平面形》　不整形である。

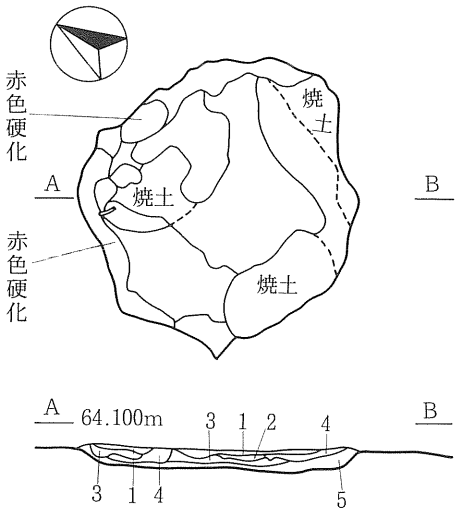
《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《堆積土》　５層に分層した。
《底　面》　中華鍋底状を呈する。
《遺　物》　なし。
《時　期》　遺物の出土が無いので不明。

ＳＮ　651　焼土遺構（第368図）
《位　置》　ＭＱ56グリッドに位置する。
《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がりとして確認した。
《重　複》　なし。
《規　模》　長さ74㎝、幅44㎝、厚さ4㎝。
《平面形》　不整形である。
《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。
《堆積土》　３層に分層した。
《底　面》　やや凹凸がある。
《遺　物》　なし。
《時　期》　遺物の出土が無いので不明。

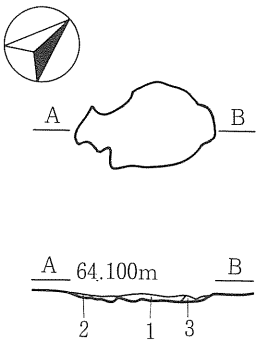
ＳＮ　652　焼土遺構（第368図）
《位　置》　ＭＯ55グリッドに位置する。
《確　認》　黒土採取のため上部を削平されていたが焼土の広がりとして確認した。
《重　複》　なし。
《規　模》　長径42㎝、短径40㎝、厚さ6㎝。
《平面形》　円形である。
《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。
《堆積土》　固く締まった焼土である。
《底　面》　中華鍋底状に中央部が深くなっている。
《遺　物》　なし。
《時　期》　遺物の出土が無いので不明。

ＳＮ　653　焼土遺構（第368図）
《位　置》　ＭＬ53グリッドに位置する。
《確　認》　焼土の広がりとして確認した。
《重　複》　なし。
《規　模》　長径92㎝、短径46㎝、厚さ16㎝。
《平面形》　不整な長楕円形である。
《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。
《堆積土》　５層に分層した。
《底　面》　やや凹凸がある。



【SN　648】
1　黒色土(10ＹＲ2／1) 焼土粒・炭化物粒20％混入。
2　黒褐色土(10ＹＲ2／3)
3　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山と黒褐色(10ＹＲ3／1) との混合土。
4　明褐色土(7.5ＹＲ5／6) シルト。しまり、粘性共有り。＝焼土＝
5　黒色土(10ＹＲ1.7／1) シルト。しまり強く、粘性有り。

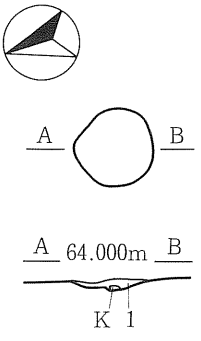
S N648



【SN　651】
1　黒褐色土(10ＹＲ3／2) 地山粒・焼土粒・炭多く、粘土塊少量混入。
　　しまりやや強い。
2　赤褐色土(5ＹＲ4／8) 焼土。しまり強い。
3　黄褐色土(10ＹＲ5／6) 地山粒・地山塊・焼土粒・炭混入。しまり強い。

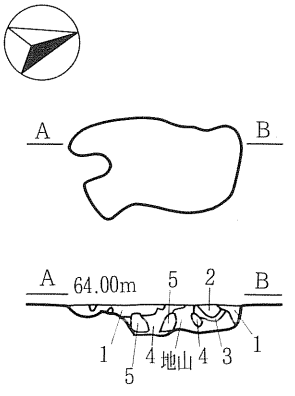
S N651

S N652



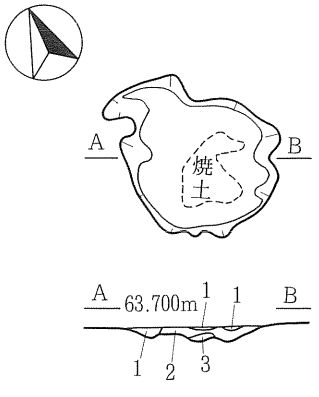
【SN　652】
1　明赤褐色土(5ＹＲ5／8) 焼土。しまり強い。
K　撹乱

S N653

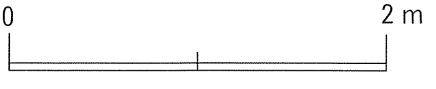


【SN　653】
1　黒褐色土(10ＹＲ2／3) 地山粒・炭化物多く混入。しまり弱く、
　　粘性若干有り。
2　暗褐色土(7.5ＹＲ3／4) 地山粒多く、粘土塊少量混入。
　　しまり強く、粘性なし。
3　灰褐色土(7.5ＹＲ4／2) 粘土質。地山粒多く混入。
　　しまりやや有り、粘性なし。
4　灰黄褐色土(10ＹＲ4／2) 粘土質。しまり弱く、粘性有り。
5　にぶい黄橙色土(10ＹＲ6／4) 粘土質。しまり強く、粘性若干有り。

S N747



【SN　747】
1　黒色土(10ＹＲ1.7／1) 炭多く、焼土粒少量混入。
　　しまいやや有り。粘性なし。
2　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山粒・地山塊少量混入。
　　しまり強く、粘性若干有り。
3　明褐色土(7.5ＹＲ5／8) 焼土。しまり強い。



第368図　SN 648・SN 651・SN 652・SN 653・SN 747 焼土遺構

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土が無いので不明。

ＳＮ　747　焼土遺構（第368図）

《位　置》　ＭＯ63グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土中に焼土の広がりとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　長径68㎝、短径66㎝、深さ8㎝の不整なくぼみの埋土上に、焼土が長さ44㎝、幅34㎝、厚さ２㎝の不整なプランで堆積していた。

《平面形》　不整形である。

《断面形》　Ｕ字形を呈する。

《堆積土》　３層に分層した。

《底　面》　凹凸がある。

《遺　物》　なし。

《時　期》　遺物の出土が無いので不明。

第４節　近・現代の遺構と遺物

近・現代の遺構は、竪穴状遺構１基、土坑２基、柱列（柵列）４条、溝状遺構６条、神社跡１棟、薪棚跡２カ所である。竪穴状遺構は生魚の冷蔵用室、土坑は肥え溜め、柱列（柵列）は馬の競り市の馬囲い、溝状遺構は土地の境界と水田排水路、神社跡は八幡神社本殿が現在地に移転した跡、薪棚跡は薪を積んだ跡である。本節では生魚の冷蔵用室である竪穴状遺構と肥え溜めである土坑について図示・説明する。

ＳＫＩ　300　竪穴状遺構（第369図・第370図）

《位　置》　ＮＮ26・27、ＮＯ25・26・27、ＮＰ26・27グリッドに位置する。

《確　認》　地山塊を多量に混入する黒褐色土の大型の長方形落ち込みとして確認した。当初は縄文時代の大型住居跡と誤認した。

《重　複》　なし。

《規模と平面形》　東西壁長8.01ｍ×南北壁長5.28ｍ、深さ1.34ｍ。隅丸長方形を呈する。

《埋　土》　周りから人為的に埋め戻したとのことである。

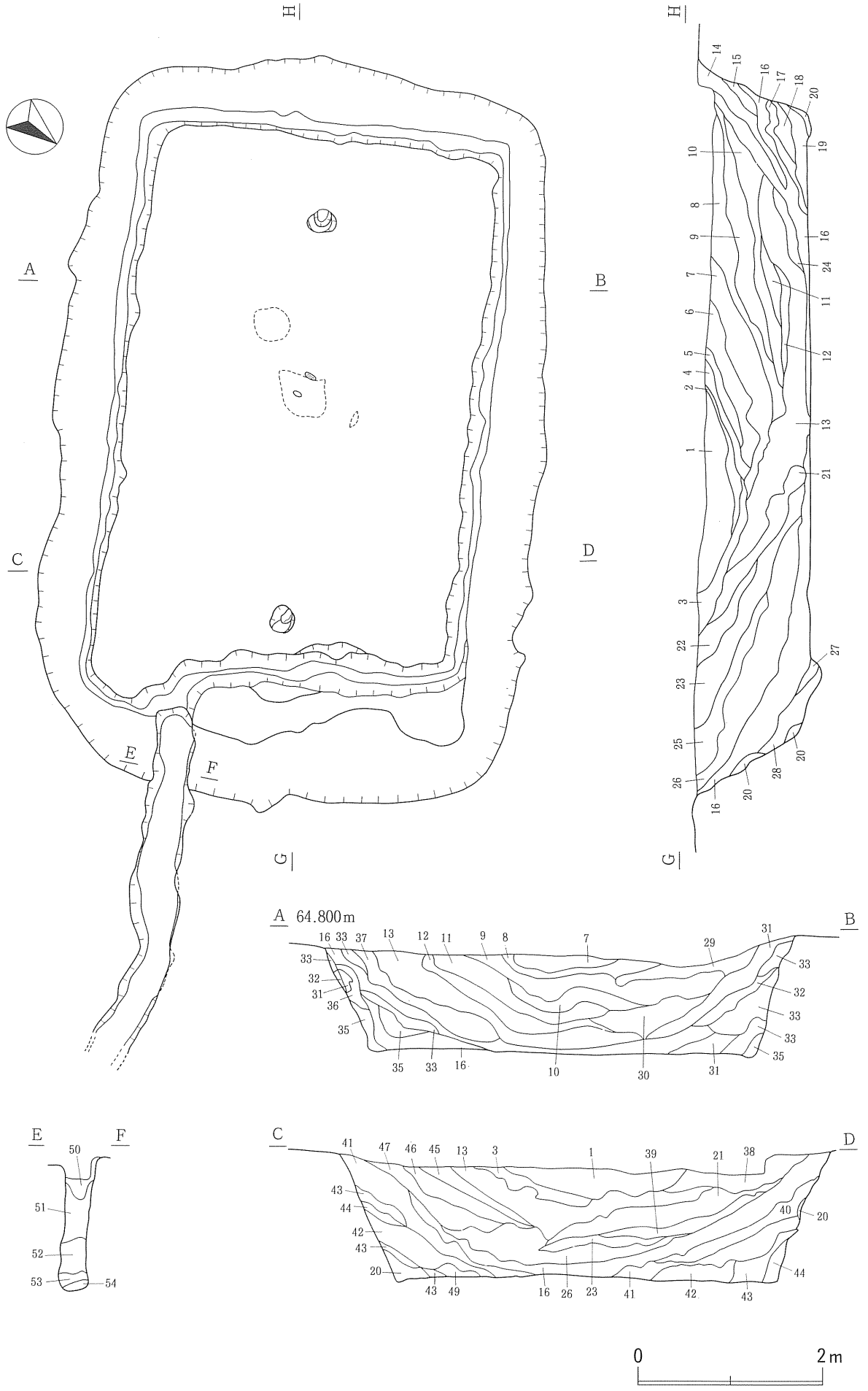
《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。東側に壁上面から底面まで上幅40㎝、下幅32㎝、深さ1.42ｍの溝状掘り込みがある。

《底　面》　やや凹凸があるものの、ほぼ平坦である。

《柱　穴》　底面中央の長軸上に２カ所検出した。

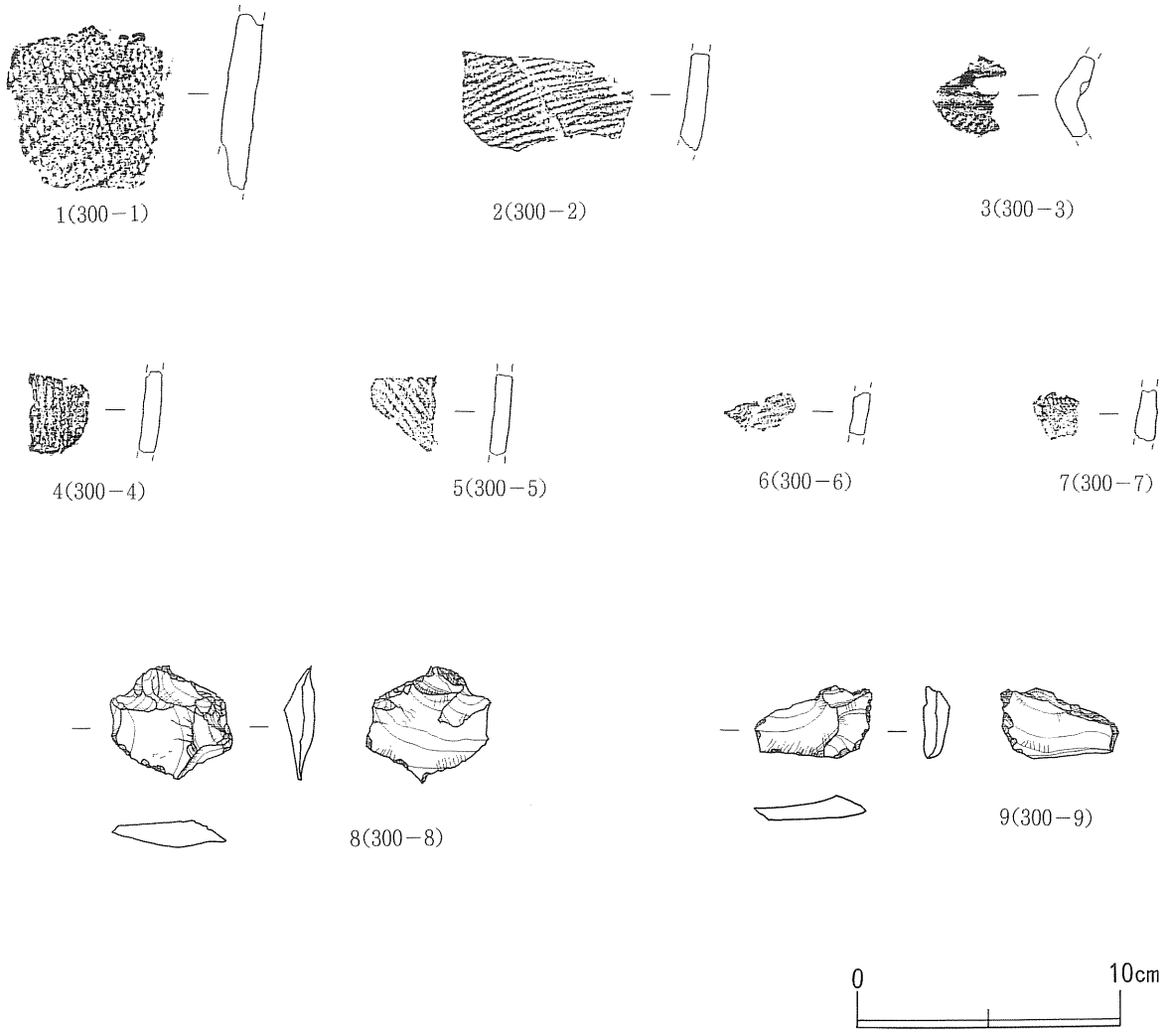
《壁　溝》　壁下を一巡し、東側の溝状掘り込みに接続していた。この溝状掘り込みは、底面が東側に傾斜している。排水溝として使用したものである。

《遺　物》　縄文土器片７点（１～７）、微小剥離痕のある石器剥片２点（８・９）、鉄製品（釘・針金・図示



第369図　SKI 300 竪穴状遺構

【SKI　300】
1　にぶい黄橙色土(10YR7／3)　シルト～粘土。地山粒、同ブロック多量混入。しまりよい。針金、ビー玉出土層。
2　褐灰色土(10YR5／1)　シルト。地山ブロック少量混入。しまりやや悪い。最近の金物類出土層。
3　黒色土(10YR2／1)　シルト。地山粒、同小ブロック混入。しまりよい。粘性なし。
4　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　粘土。地山ブロックと地山粒多量混入。脆い部分と硬質の部分がある。
5　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　粘土。４層より地山ブロックの混入少ない。
6　にぶい黄橙色土(10YR6／4)　シルト～粘土。地山粒と黒色土がほぼ同じ比率で混入。しまりやや悪い。
7　明黄褐色土(10YR7／6)　粘土。地山粒、地山大ブロックからなる層。全体にやや脆い。
8　にぶい黄橙色土(10YR7／3)　粘土～シルト。地山粒、同小ブロック混入。しまりやや悪い。
9　にぶい黄橙色土(10YR7／3)　粘土。８層より地山ブロックの混入少ない。しまりやや悪い。
10　にぶい黄橙色土(10YR7／3)　粘土～シルト。８層より黒色土の混入少ない。しまりやや悪い。
11　灰黄褐色土(10YR5／2)　粘土～シルト。地山粒、同小ブロック混入。しまりやや悪い。
12　にぶい黄褐色土(10YR6／3)　粘土～シルト。地山粒、同小ブロックの混入量が11層より多い。しまりやや悪い。
13　にぶい黄褐色土(10YR4／3～5／4)　粘土～シルト。地山粒、同小ブロックの混入量が11層より多い。しまりやや悪い。
14　にぶい黄橙色土(10YR7／3～4／7)　粘土～シルト。地山粒、同小ブロック混入。全体に脆い。
15　黄褐色土(10YR5／6)　粘土～シルト。地山粒多量混入。全体に脆い。
16　褐灰色土(10YR5／1)　シルト。地山粒、同ブロック混入。しまりやや悪い。
17　黒色土(10YR1.7／1)　シルト。しまりよい。粘性若干あり。
18　黄褐色土(10YR5／6)　粘土。地山粒、同ブロックからなる層。しまりよい。
19　にぶい黄橙色土(10YR6／4)　粘土。地山粒多量混入。しまりよく、粘性あり。
20　にぶい黄橙色土(10YR7／2)　粘土。壁の崩壊土。
21　にぶい黄橙色土(10YR7／3)　地山粒からなる層。しまりよい。
22　にぶい黄橙色土(10YR6／3)　粘土～シルト。地山粒、同小ブロック混入。全体脆い。
23　黒褐色土(10YR3／1)　粘土～シルト。地山粒、地山ブロック混入。
24　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　粘土。地山ブロック(大)多く混入。しまりよい。
25　灰黄褐色土(10YR4／2)　粘土～シルト。地山粒、同ブロック混入。全体に脆い。
26　浅黄橙色土(10YR8／4)　粘土。地山粒、同大ブロックからなる層。全体に脆い。
27　褐灰色土(10YR4／1)　シルト。地山粒少量混入。しまりあり。
28　黄褐色土(10YR6／5)　粘土～シルト。地山粒混入。しまりやや悪い。
29　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山粒を多く含み、小ブロック極少含む。
30　黄褐色土(10YR5／8)　シルト。地山崩壊土がブロック状に重なる。粘性なし。硬質。
31　褐色土(10YR4／6)　シルト～地山粒を多く含む。粘性無し。しまり無し。
32　黄褐色土(10YR5／8)　シルト～地山粒・ブロックを多く含む、漸移土。粘性無し。しまり無し。
33　黒褐色土(10YR2／2)　シルト～地山粒の中に少量の地山ブロックを含む。粘性無し。しまり無し。
35　明黄褐色土(10YR6／6)　シルト～地山層。粘性無し。しまり無し。
36　明黄褐色土(10YR6／8)　シルト～地山層。粘性なし。しまりやや有り。
37　明黄褐色土(10YR6／8)　シルト～地山土に地山崩壊ブロック、漸移土が少量混じる。粘性なし。しまり無し。
38　黒褐色土(10YR3／1)　シルト～粘土。地山粒、同小ブロック混入。全体に脆い。
39　浅黄橙色土(10YR8／3)　粘土。地山粒、同小ブロック混入。全体に脆い。
40　にぶい黄褐色土(10YR5／3)　粘土～シルト。地山粒、同小ブロック混入。全体に脆い。
41　にぶい黄褐色土(10YR5／3)　粘土～シルト。地山粒、同大ブロック全体に脆い。
42　黒褐色土(10YR2／2)　粘土～シルト。地山粒、同ブロック混入。全体に脆い。
43　明黄褐色土(10YR7／6)～黄橙色(10YR7／8)　粘土。地山ブロック混入。全体に脆い。
44　20に同じ。
45　黒褐色土(10YR3／1)　粘土～シルト。地山粒、同ブロック混入。しまり良い。
46　黒褐色土(10YR3／1)　粘土～シルト。45より地山粒多い。しまりやや悪い。
47　黒褐色土(10YR3／1)　粘土～シルト。45より地山ブロック大。しまりやや悪い。
48　黒色土(10YR1.7／1)　シルト。地山粒、同ブロック少量混入。しまりあり。粘性若干あり。
49　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　粘土。地山粒、同小ブロックからなる層。しまりやや悪い。
50　にぶい黄橙色土(10YR7／3)　シルト～粘土。地山粒、同ブロック混。脆い。
51　にぶい黄橙色土(10YR7／3)　シルト～粘土。地山粒、同小ブロック混。しまりなく脆い。
52　にぶい黄橙色土(10YR7／4)　粘土。地山粒、同ブロックからなる。しまりなく脆い。
53　黒褐色土(10YR3／2)　シルト。地山粒少量混入。しまりなく脆い。粘性若干あり。
54　にぶい黄橙色土(10YR6／4)　砂。しまり若干あり。



第370図　SKI 300 竪穴状遺構出土遺物

せず)、粗悪なレンガ（図示せず）などが出土した。

《時　期》　出土した遺物と調査中の聞き取りから現代(昭和30年代)と判明。

ＳＫ　20　土坑（第371図、図版69）

《位　置》　ＮＦ63•64グリッドに位置する。

《確　認》　褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　複》　縄文時代のＳＫＳ 19 土壙墓と重複していた。

《規　模》　開口部長径3.04ｍ、短径1.60ｍ、深さ28㎝、底面長径2.98ｍ、短径1.54ｍ。

《平面形》　長楕円形である。

《断面形》　土圧によりオーバーハングしていたが、緩やかなＵ字形を呈する。

《埋　土》　６層に分層した（第７層はＳＫＳ 19 の埋土)。図化していないが、壁面と底面には防水用に薄くセメント粉が塗布されモルタル化していた。

《底　面》　ほぼ平坦である。柱穴様ピットが中央長軸上に３カ所検出した。本土坑に伴う。

《遺　物》　底面からの縄文土器片６点が出土したが、ＳＫＳ 19土壙墓の遺物であったと思われる。

《時　期》　壁面と底面が防水用のモルタル化していたので現代と思われる。

ＳＫ　22　土坑（第371図）

《位　置》　ＮＧ64グリッドに位置する。

《確　認》　黒色～黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　開口部長径1.62ｍ、短径1.60ｍ、深さ50㎝、底面長径1.44ｍ、短径1.28ｍ。

《平面形》　隅丸方形である。

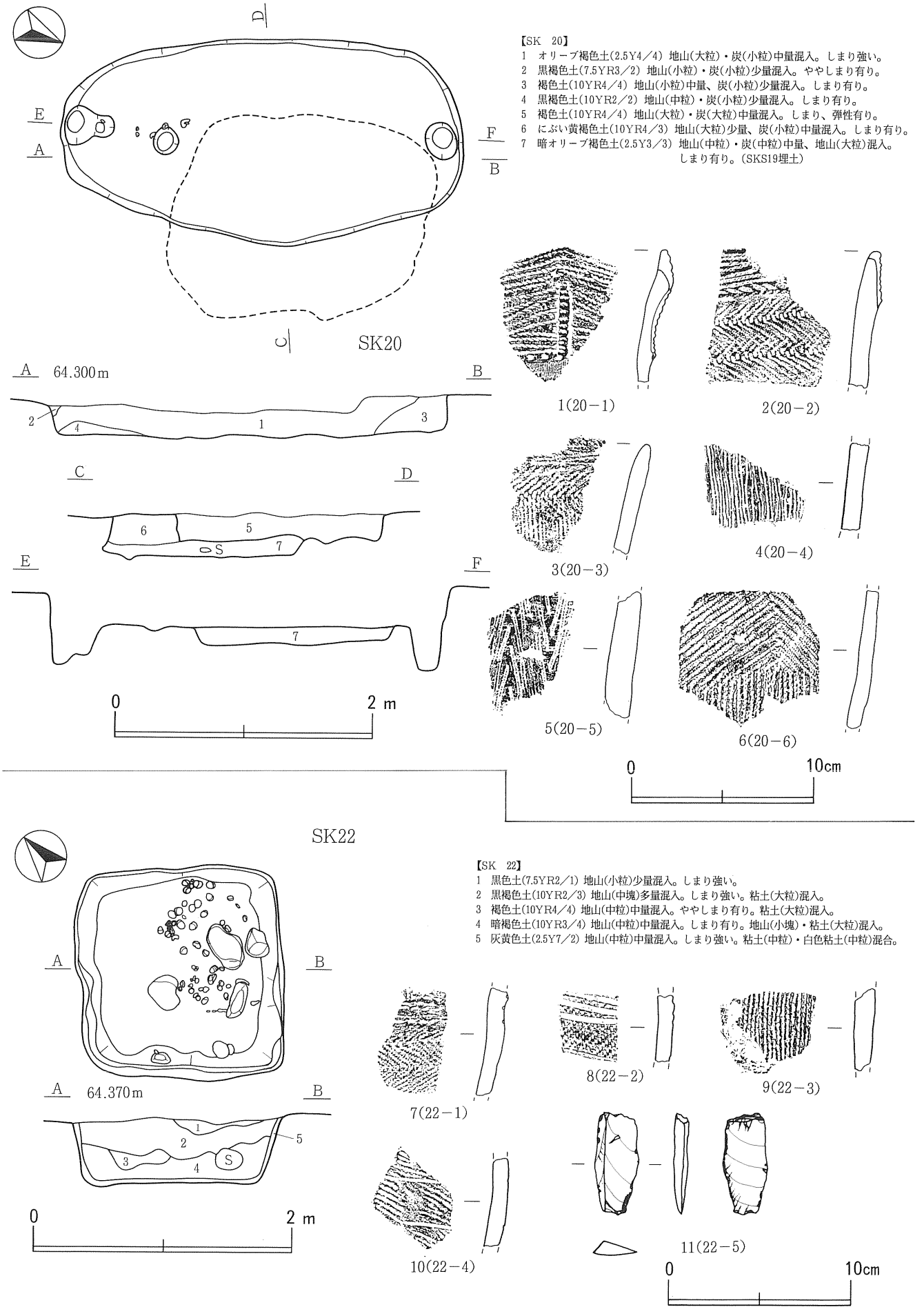
《断面形》　緩やかなＵ字形を呈する。

《埋　土》　５層に分層した。壁面と底面には防水用に３～５㎝の厚さでセメント粉が塗布されモルタル化していた。

《底　面》　ほぼ平坦である。

《遺　物》　底面から縄文土器片４点、石器剥片１点、魚骨（サメ）28点、人頭大の礫５点が出土した。

《時　期》　壁面と底面が防水用のモルタル化していたので現代と思われる。



【SK　20】
1　オリーブ褐色土(2.5Y4／4)　地山(大粒)・炭(小粒)中量混入。しまり強い。
2　黒褐色土(7.5YR3／2)　地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
3　褐色土(10YR4／4)　地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
4　黒褐色土(10YR2／2)　地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
5　褐色土(10YR4／4)　地山(大粒)・炭(大粒)中量混入。しまり、弾性有り。
6　にぶい黄褐色土(10YR4／3)　地山(大粒)少量、炭(小粒)中量混入。しまり有り。
7　暗オリーブ褐色土(2.5Y3／3)　地山(中粒)・炭(中粒)中量、地山(大粒)混入。しまり有り。(SKS19埋土)

【SK　22】
1　黒色土(7.5YR2／1)　地山(小粒)少量混入。しまり強い。
2　黒褐色土(10YR2／3)　地山(中塊)多量混入。しまり強い。粘土(大粒)混入。
3　褐色土(10YR4／4)　地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。粘土(大粒)混入。
4　暗褐色土(10YR3／4)　地山(中粒)中量混入。しまり有り。地山(小塊)・粘土(大粒)混入。
5　灰黄色土(2.5Y7／2)　地山(中粒)中量混入。しまり強い。粘土(中粒)・白色粘土(中粒)混合。

第371図　SK 20・SK 22 土坑とその出土遺物

第５節　時期不明の遺構と柱穴様ピット

性格不明遺構

性格の不明な遺構は５基検出した。遺物も出土しなかったため、時代•時期とも不明である。

ＳＸ　131　性格不明遺構（第372図）

《位　置》　ＭＰ74•75、ＭＱ74•75グリッドに位置する。

《確　認》　長方形の不明確な落ち込みとして確認した。

《重　複》　縄文時代のＳＩ 232 竪穴住居跡の上位に貼り床して構築していた。

《規　模》　北西－南東辺4.58ｍ、北東－南西辺2.22ｍ、深さ34㎝。

《平面形》　隅丸長方形である。

《断面形》　やや外傾しながら立ち上がっていた。

《埋　土》　３層に分層した。地山粒を混入する。地山を埋め戻したと考えた。

《底　面》　貼り床していたが、北側から南側に傾斜していた。

《遺　物》　なし。

《時　期》　不明。

ＳＸ　340　性格不明遺構（第373図）

《位　置》　ＮＥ17•18グリッドに位置する。

《確　認》　不整な長方形の不明確な落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　南北辺3.62ｍ、東西辺3.18ｍ、深さ36㎝。台地縁辺にあり、南側壁は検出できなかった。

《平面形》　不整な長方形である。

《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。

《埋　土》　３層に分層した。地山粒を混入する。地山を埋め戻したと考えた。

《底　面》　踏み固められ平坦である。

《遺　物》　なし。

《時　期》　不明。

ＳＸ　954　性格不明遺構（第373図）

《位　置》　ＮＬ40グリッドに位置する。

《確　認》　ＳＸ 955の掘り下げ中に落ち込みを確認した。

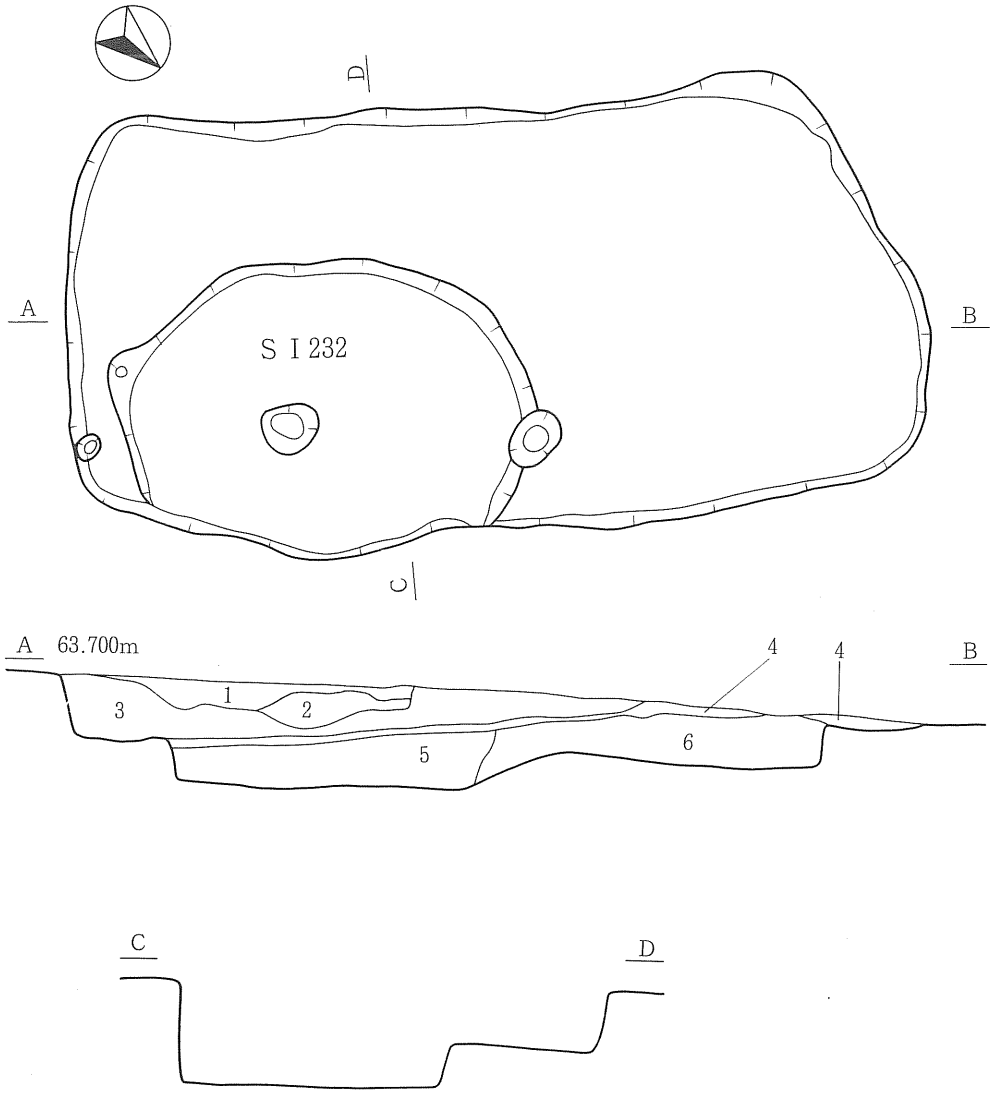
《重　複》　ＳＸ 955•ＳＸ 960性格不明遺構と重複する。新旧関係は不明。

《規　模》　長軸2.22ｍ、短軸1.86ｍ、深さ30㎝。

《平面形》　不整な楕円形である。

《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。

《埋　土》　地山を埋め戻したと考えられるにぶい黄褐色土。



【SX　131】
1　にぶい黄橙色土(10ＹＲ7／4)　地山ローム(軽石)混入。
2　木根による撹乱
3　にぶい黄橙色土(10ＹＲ6／3)　地山(軽石)再堆積層
4　明黄褐色土(10ＹＲ6／6)　貼床
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4／3)　軽石粒多量混入。
6　にぶい黄橙色土(10ＹＲ7／4)　地山(掘りすぎ)

0　2 m

第372図　SX 131 性格不明遺構

《底　面》　凹凸がある。

《遺　物》　なし。

《時　期》　不明。

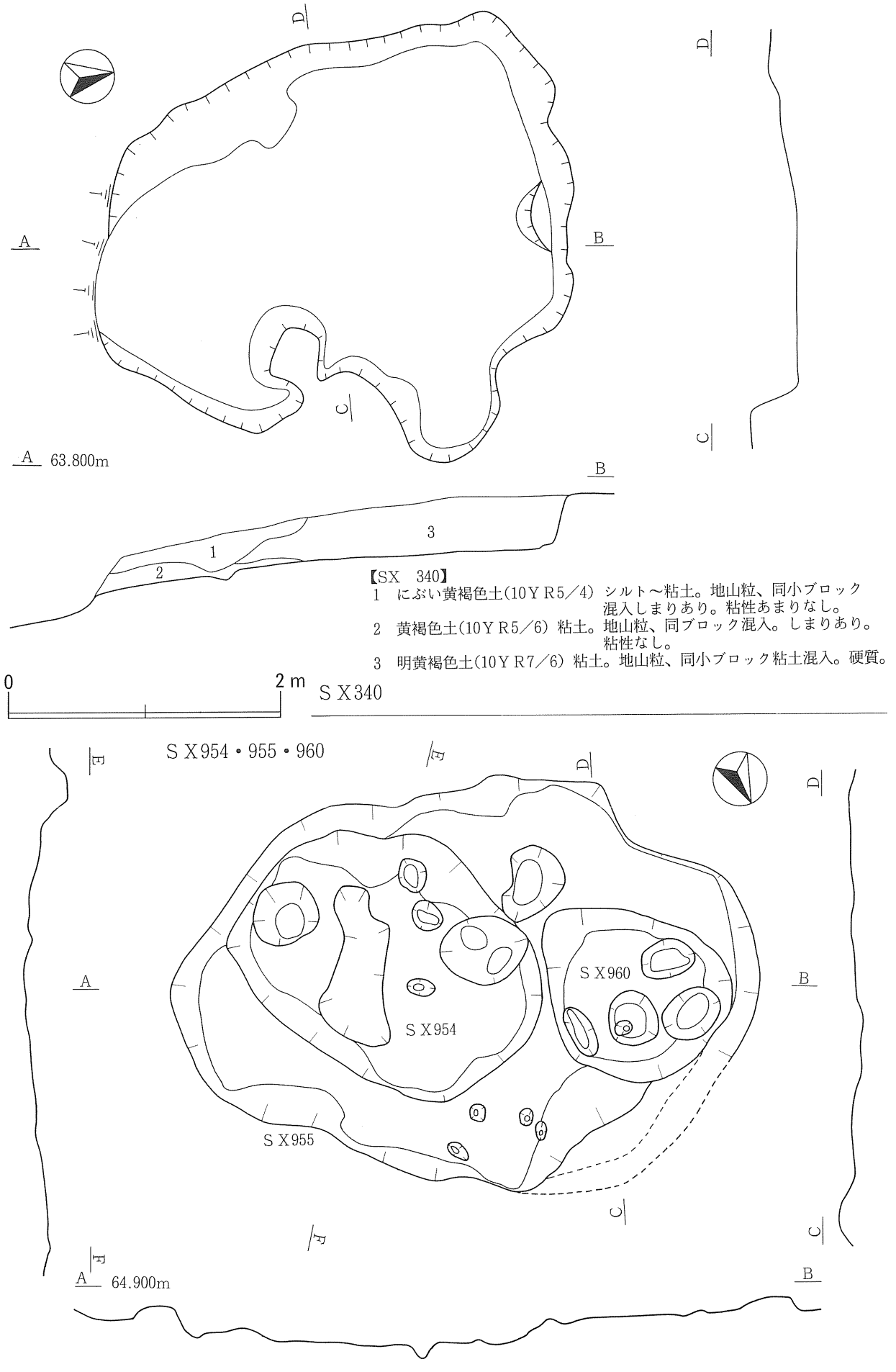
ＳＸ　955　性格不明遺構（第373図）

《位　置》　ＮＬ40･41、ＮＭ40･41グリッドに位置する。

《確　認》　にぶい黄褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　複》　ＳＸ 954･ＳＸ 960性格不明遺構と重複する。新旧関係は不明。

《規　模》　長軸4.34ｍ、短軸3.02ｍ、深さ20㎝。



第373図　SX 340・SX 954・SX 955・SX 960 性格不明遺構

《平面形》　不整な楕円形である。
《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。
《埋　土》　地山を埋め戻したと考えられるにぶい黄褐色土。
《底　面》　やや凹凸がある。
《遺　物》　なし。
《時　期》　不明。

ＳＸ　960　性格不明遺構（第373図）
《位　置》　ＮＬ40•41、ＮＭ41グリッドに位置する。
《確　認》　ＳＸ 955の掘り下げ中に落ち込みを確認した。
《重　複》　ＳＸ 954•ＳＸ 955性格不明遺構と重複する。新旧関係は不明。
《規　模》　長軸1.36ｍ、短軸1.20ｍ、深さ13㎝。
《平面形》　不整な楕円形である。
《断面形》　緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。
《埋　土》　地山を埋め戻したと考えられるにぶい黄褐色土。
《底　面》　凹凸がある。
《遺　物》　なし。
《時　期》　不明。

柱　穴

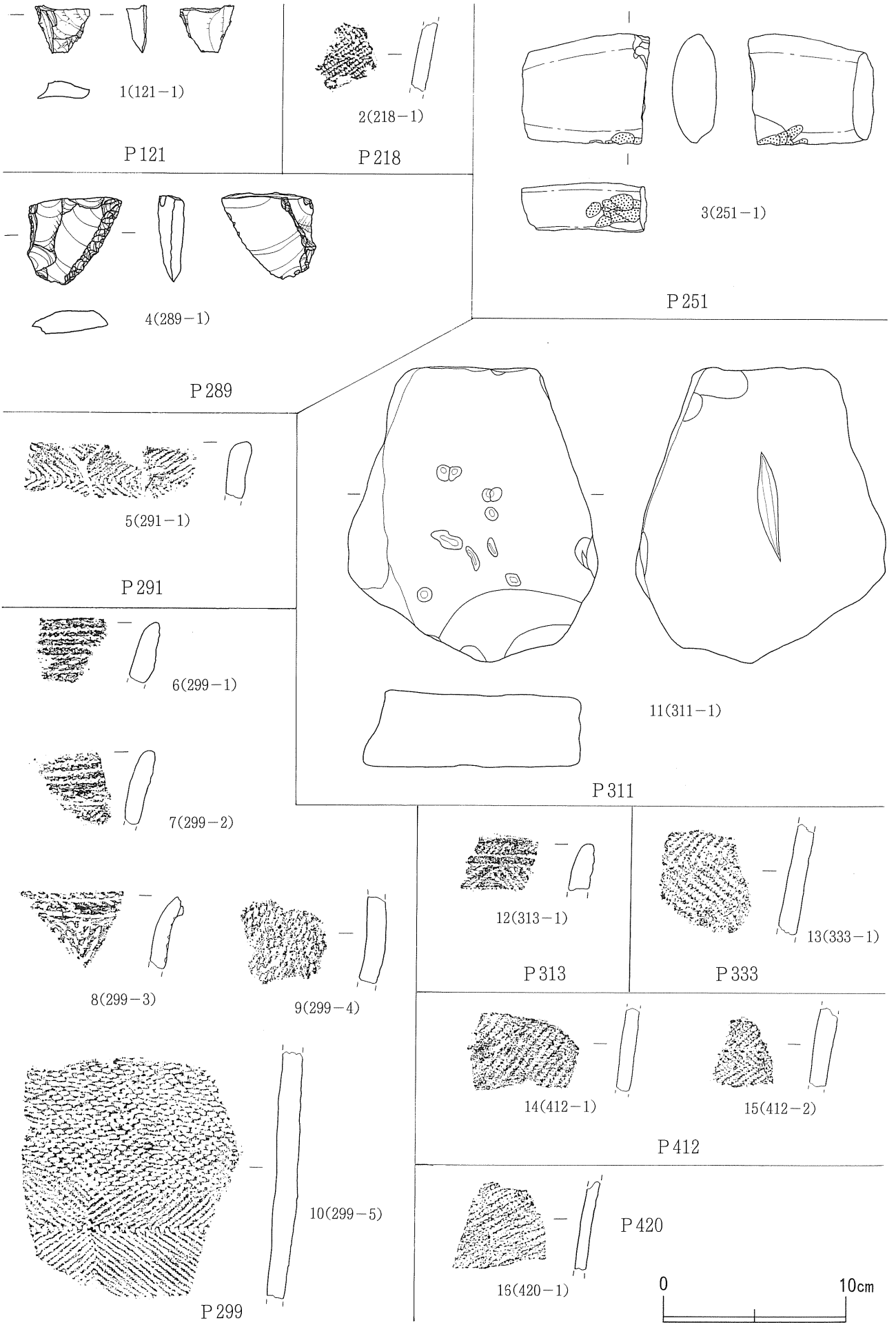
柱穴様ピットは、４年間で9,899カ所検出した。掘立柱建物跡の項でも記述した通り、個々のピットの記録を採っている（詳細な記録は次回報告書掲載予定）。

本項では、掘立柱建物跡の柱穴として縄張りされた433カ所を除いた柱穴様ピットから出土した遺物を記載する。

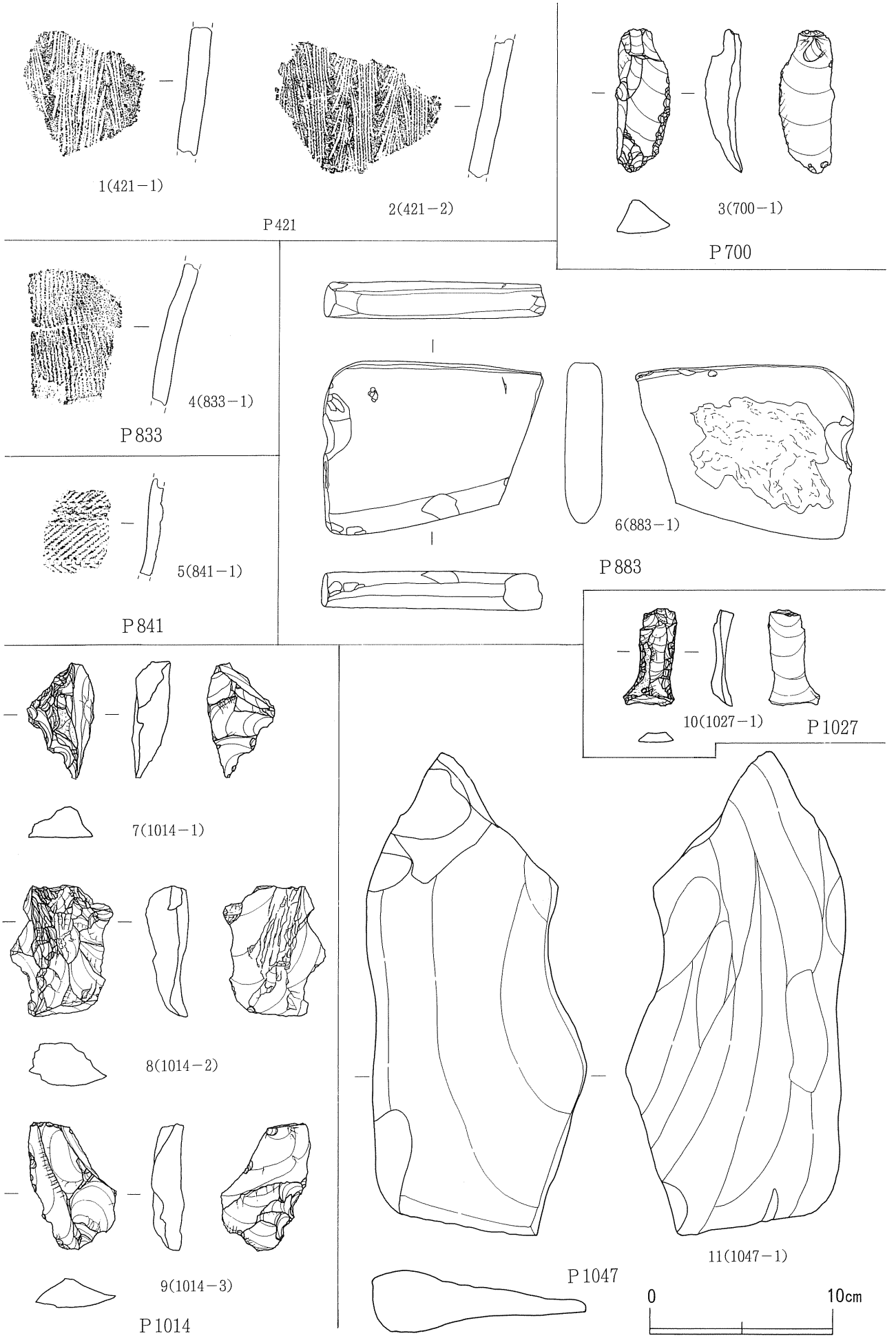
Ｐ　121 石器剥片１点（第374図１）
Ｐ　251 半円状偏平磨製石器破片１点（第374図３）
Ｐ　291 縄文土器片１点（第374図５）
Ｐ　311 石皿１点（第374図11）
Ｐ　333 縄文土器片１点（第374図13）
Ｐ　420 縄文土器片１点（第374図16）
Ｐ　700 削器（第375図３）
Ｐ　841 縄文土器片１点（第375図５）
Ｐ 1014 石器剥片３点（第375図７～９）
Ｐ 1047 石皿破片１点（第375図11）
Ｐ 1080 縄文土器片１点（第376図２）
Ｐ 1112 縄文土器片２点（第376図５・６）
Ｐ　218 縄文土器片１点（第374図２）
Ｐ　289 削器破片１点（第374図４）
Ｐ　299 縄文土器片５点（第374図６•10）
Ｐ　313 縄文土器片１点（第374図12）
Ｐ　412 縄文土器片２点（第374図14•15）
Ｐ　421 縄文土器片２点（第375図１・２）
Ｐ　833 縄文土器片１点（第375図４）
Ｐ　883 半円状偏平磨製石器破片１点（第375図６）
Ｐ 1027 石器剥片１点（第375図10）
Ｐ 1160 石器剥片１点（第376図１）
Ｐ 1061 縄文土器片２点（第376図３・４）
Ｐ 1129 縄文土器片１点（第376図７）

P 1171 縄文土器片１点（第376図８）　P 1179 縄文土器片１点（第376図９）
P 1232 掻器１点（第376図12）
P 1208 半円状偏平打製石器破片１点（第376図10）・縄文土器片１点（第376図11）
P 1236 石器剥片１点（第377図１）　P 1259 縄文土器片１点（第377図２）
P 1291 縄文土器片１点（第377図３）　P 1292 石器破片１点（第377図４）
P 1329 磨製石斧破片１点（第377図５）・篦状石器破片１点（第377図６）
P 1373 縄文土器片１点（第377図７）　P 1416 石器剥片１点（第377図８）
P 1457 縄文土器片１点（第377図９）　P 1479 縄文土器片１点（第377図10）
P 1486 縄文土器片１点（第377図11）　P 2117 縄文土器片１点（第377図12）
P 2155 削器１点（第378図１）　P 2250 石器剥片１点（第378図２）
P 2996 縄文土器片１点（第378図３）　P 3000 削器破片１点（第378図４）
P 3171 縄文土器片１点（第378図５）　P 3201 縄文土器片１点（第378図６）
P 3318 縄文土器片13点（第378図７～19）　P 3436 縄文土器片１点　（第378図20）
P 3448 縄文土器片１点（第378図21）　P 3449 石匙１点（第378図22）
P 3456 縄文土器片１点（第379図１）　P 3462 縄文土器片１点（第379図５）
P 3458 縄文土器片２点（第379図２・３）・削器１点（第379図４）
P 3482 縄文土器片１点（第379図６）　P 3490 篦状石器１点（第379図７）
P 3533 削器１点（第379図８）　P 3536 縄文土器片12点（第379図９～20）
P 3538 削器破片１点（第379図21）　P 3552 縄文土器片２点（第379図22・23）
P 3552 縄文土器片１点（第380図１）　P 3567 縄文土器片３点（第380図２～４）
P 3589 縄文土器片１点（第380図５）・磨製石斧１点（第380図６）
P 3598 縄文土器片１点（第380図７）　P 3621 縄文土器片１点（第380図８）
P 3630 縄文土器片２点（第380図９・10）・掻器破片１点（第380図11）
P 3643 石器剥片１点（第380図12）　P 3659 縄文土器片２点（第380図13・14）
P 3657 縄文土器片１点（第380図15）・半円状偏平打製石器破片１点（第380図16）
P 3933 石槍１点（第380図17）・石器剥片（第380図18）　P 3963 縄文土器片１点（第381図１）
P 3981 縄文土器片１点（第381図２）　P 3998 縄文土器片１点（第381図３）
P 4009 縄文土器片２点（第381図４・５）　P 4044 縄文土器片１点（第381図６）
P 4058 縄文土器片１点（第381図７）　P 4080 篦状石器１点（第381図８）
P 4082 縄文土器片１点（第381図15）　P 4126 縄文土器片１点（第381図16）
P 4083 縄文土器片５点（第381図９～12・14）・くぼみ石（第381図13）
P 4219 円盤状石製品(線刻)（第381図22）　P 4203 縄文土器片５点（第381図17～21）
P 4246 縄文土器片２点（第382図１・２）・石器剥片（第382図３）
P 4270 縄文土器片１点（第382図４）　P 4325 縄文土器片２点（第382図５・６）
P 4328 縄文土器片１点（第382図７）　P 4339 縄文土器片１点（第382図10）
P 4330 縄文土器片１点（第382図８）・削器（第382図９）
P 4655 縄文土器片１点（第382図11）　P 4839 縄文土器片１点（第382図12）
P 4852 縄文土器片１点（第382図13）　P 4881 縄文土器片６点（第382図14～19）

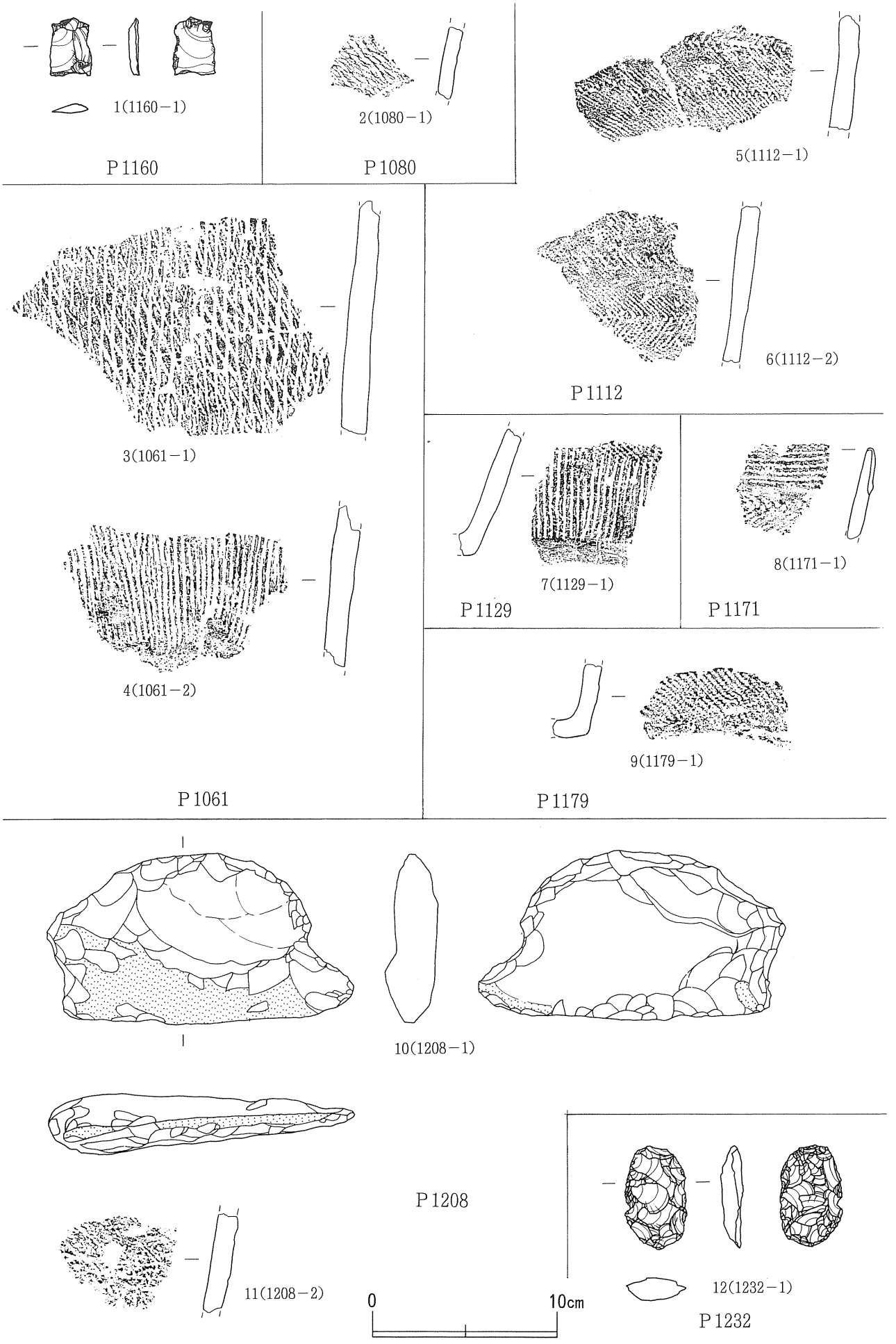
Ｐ 4937 削器（第382図20）
Ｐ 5021 縄文土器片１点（第382図21）
Ｐ 5050 石鏃１点（第382図22）
Ｐ 5061 縄文土器片２点（第382図23•24）
Ｐ 5108 縄文土器片１点（第383図１）•石器剥片（第383図２）
Ｐ 5135 縄文土器片６点（第383図３～８）•石器剥片（第383図９）
Ｐ 5198 偏平自然石１点（第383図14）
Ｐ 5202 縄文土器片４点（第383図10～13）
Ｐ 5233 長頸壷形須恵器破片（第383図15）
Ｐ 5234 擦り石（第384図１）
Ｐ 5280 半円状偏平磨製石器破片１点（第384図10）
Ｐ 5304 縄文土器片８点（第384図２～９）
Ｐ 5339 縄文土器片５点（第384図11～15）
Ｐ 5342 縄文土器片１点（第384図16）
Ｐ 5348 縄文土器片１点（第384図17）
Ｐ 5396 縄文土器片４点（第385図１～４）
Ｐ 5431 縄文土器片１点（第385図６）
Ｐ 6513 石錘１点（第385図５）
Ｐ 7131 削器（第385図７）
Ｐ 7587 篦状石器（第385図８）
Ｐ 7616 石器剥片（第385図９）
Ｐ 8265 擦り石（第385図12）
Ｐ 8728 掻器（第385図10）
Ｐ 8782 石匙（第385図11）
Ｐ 9330 石器剥片（第385図13）



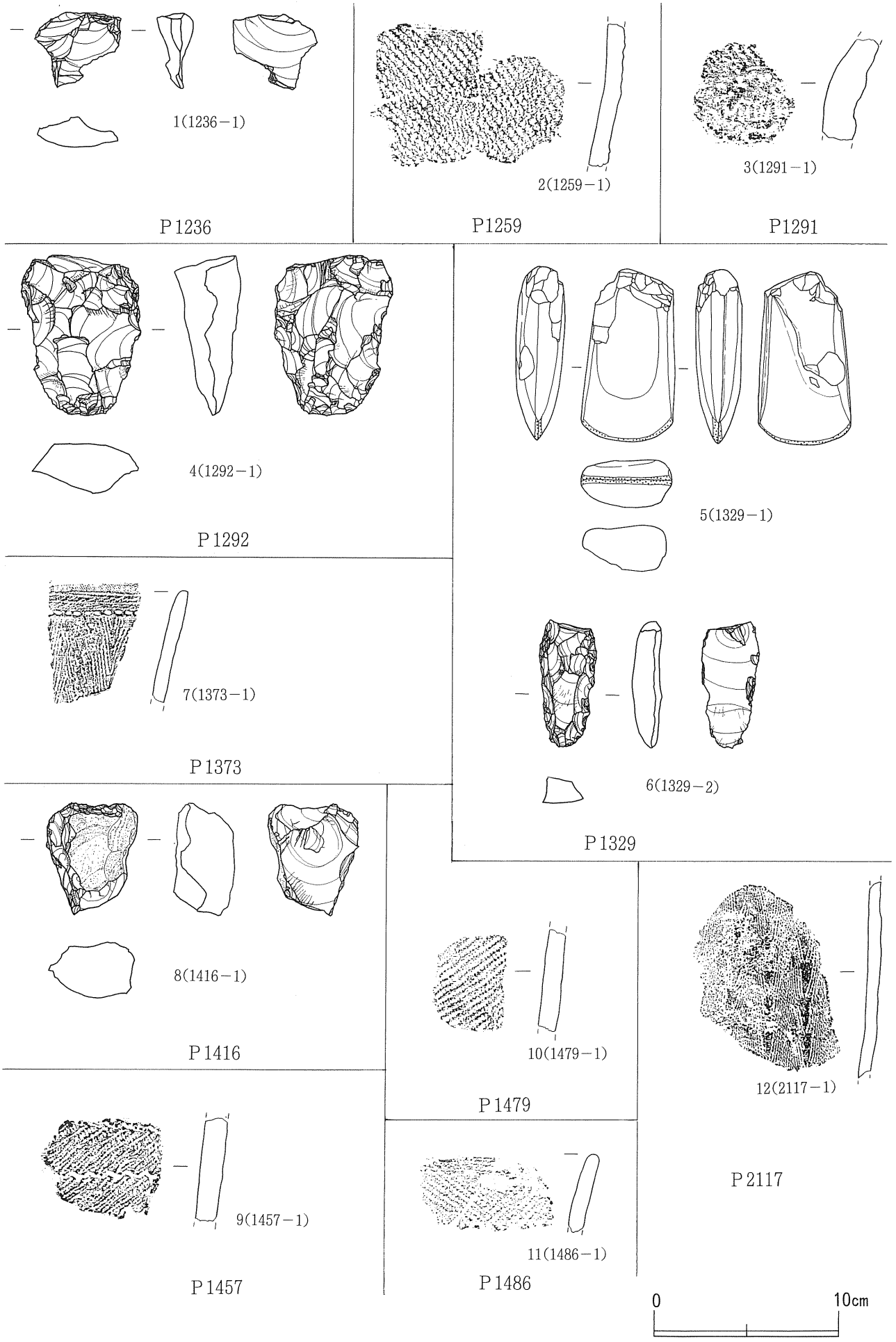
第374図　柱穴出土遺物（１）（P121～P420）



第375図　柱穴出土遺物（２）（P421～P1047）

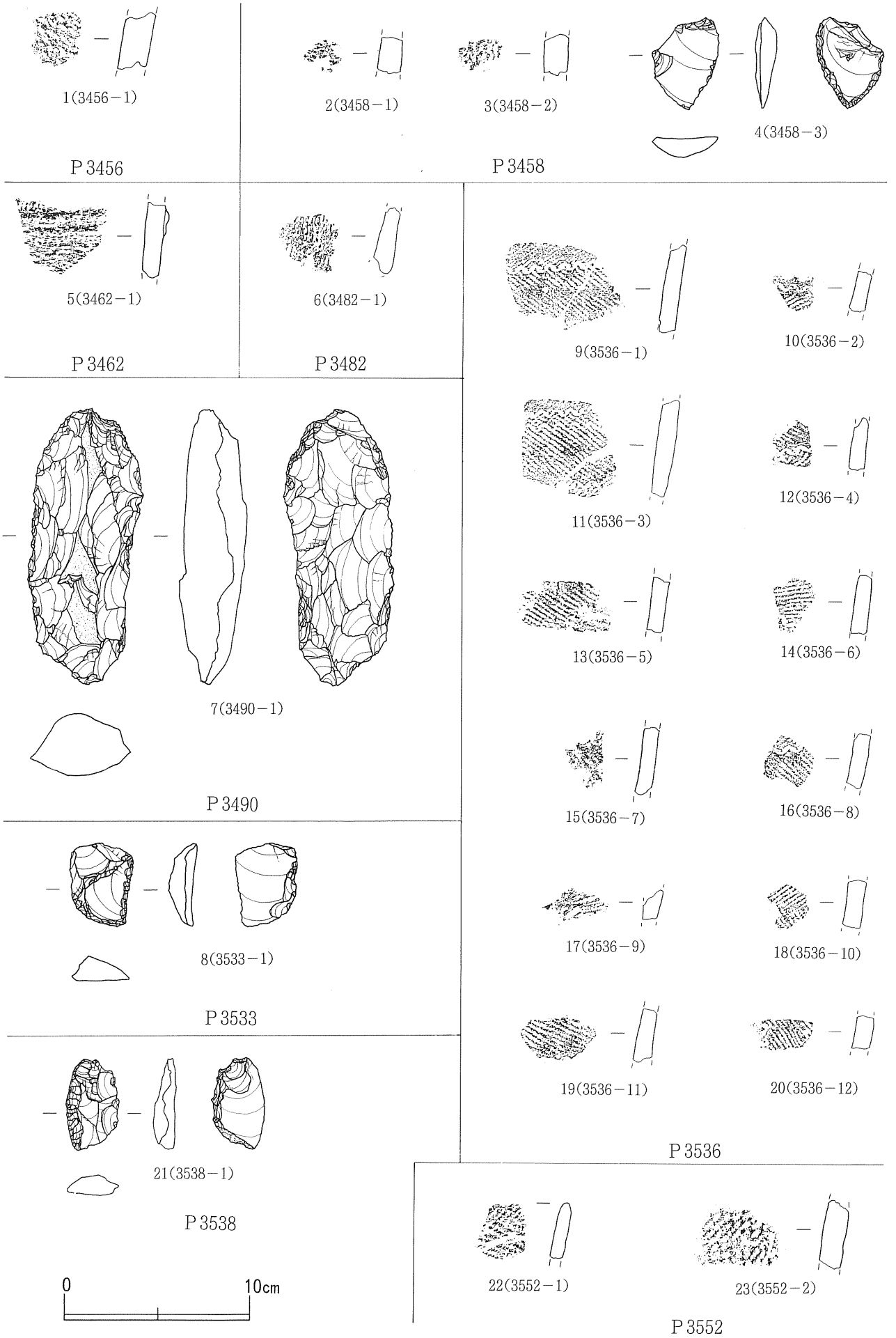


第376図　柱穴出土遺物（３）（P1160～P1232）

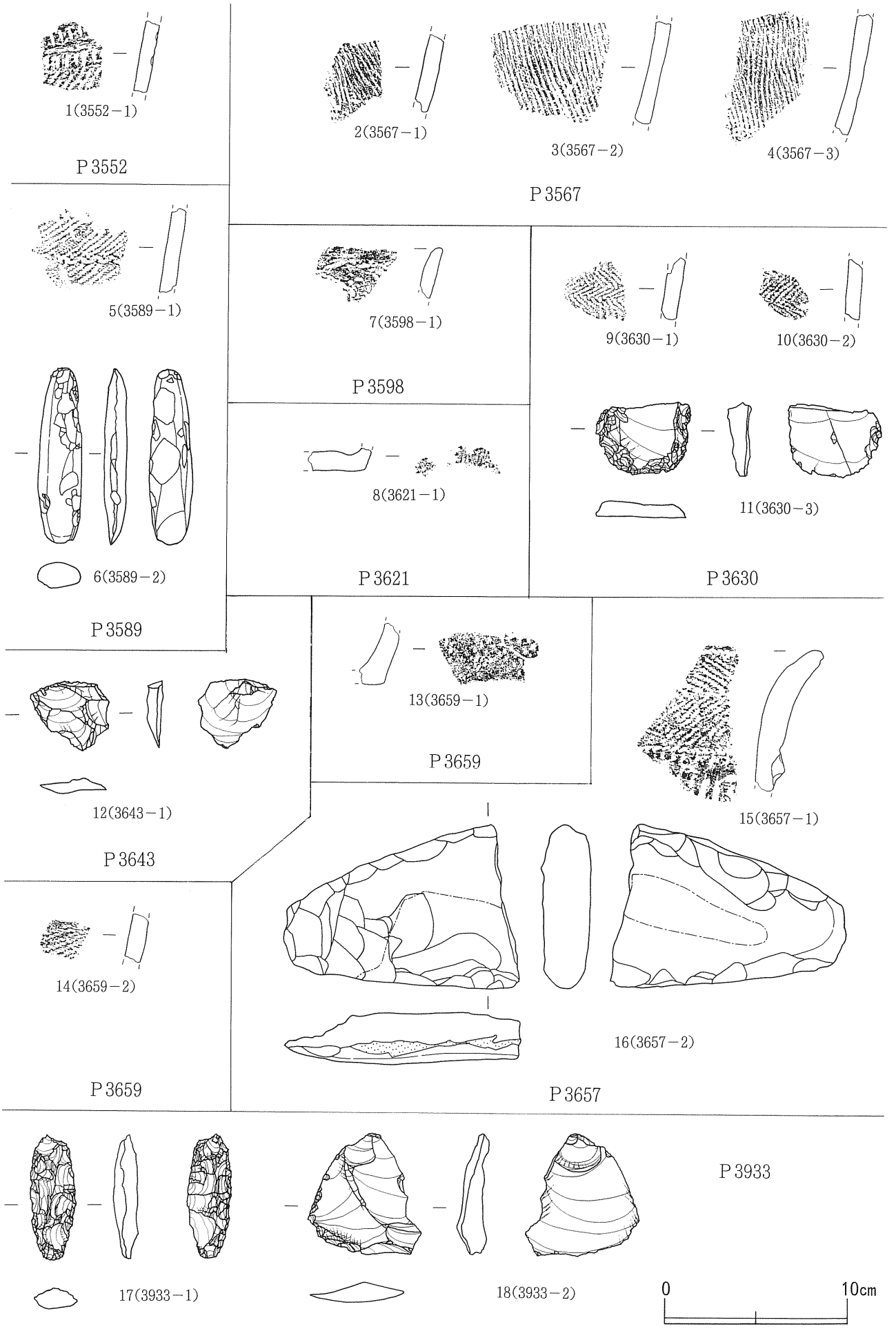


第377図　柱穴出土遺物（４）（P1236～P2117）

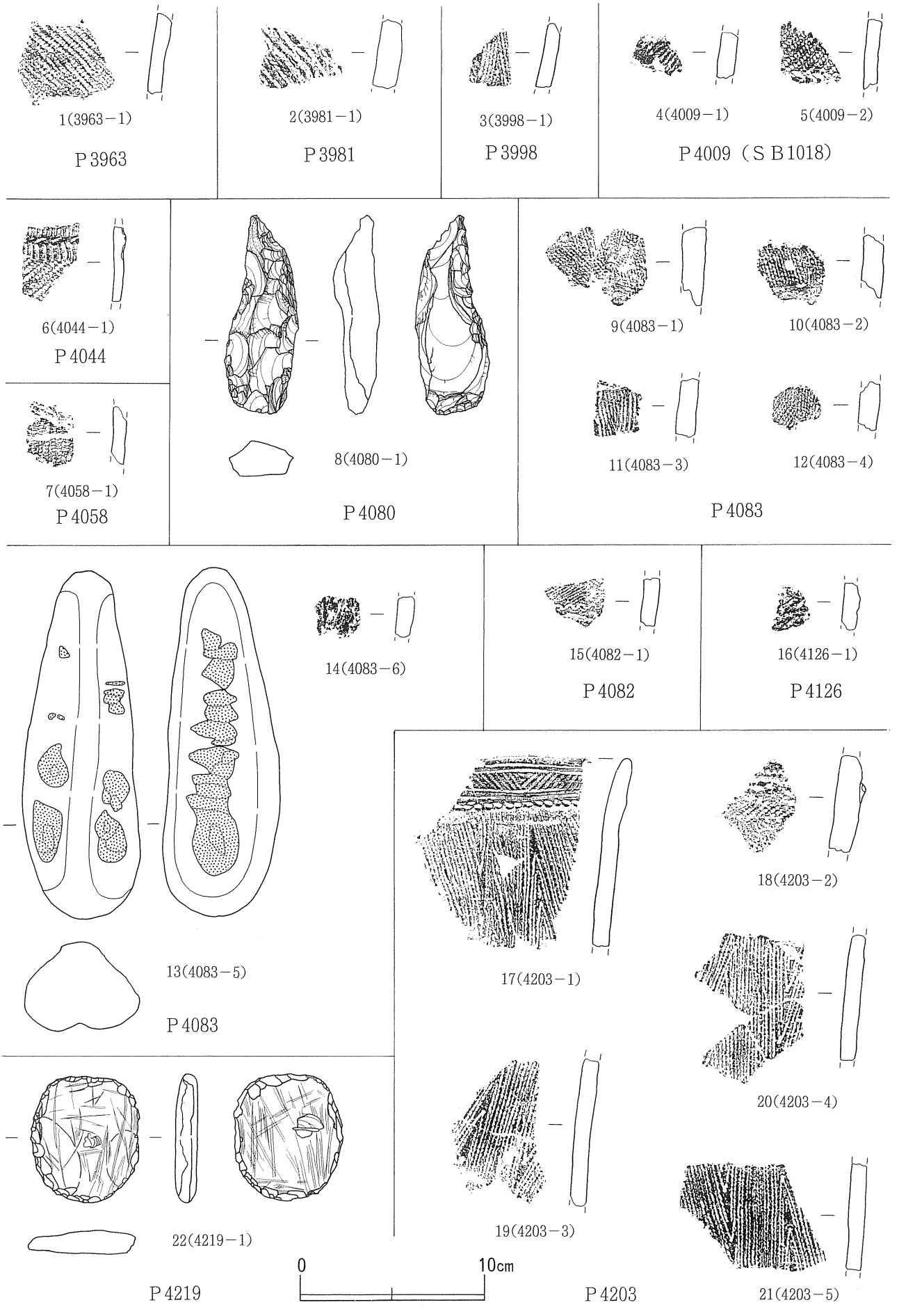
第378図　柱穴出土遺物（５）（P2155～P3449）



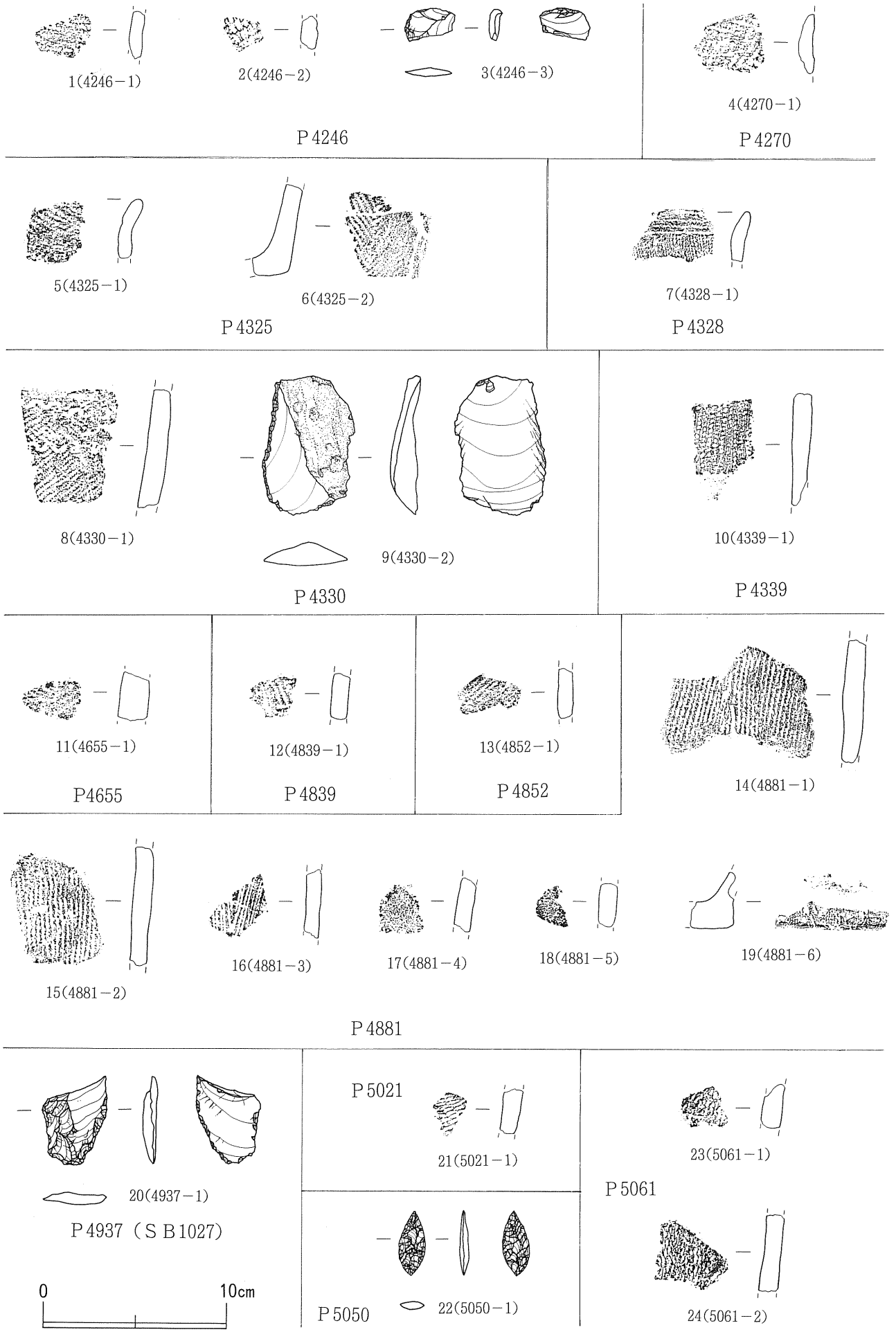
第379図　柱穴出土遺物（６）（P3456～P3552）



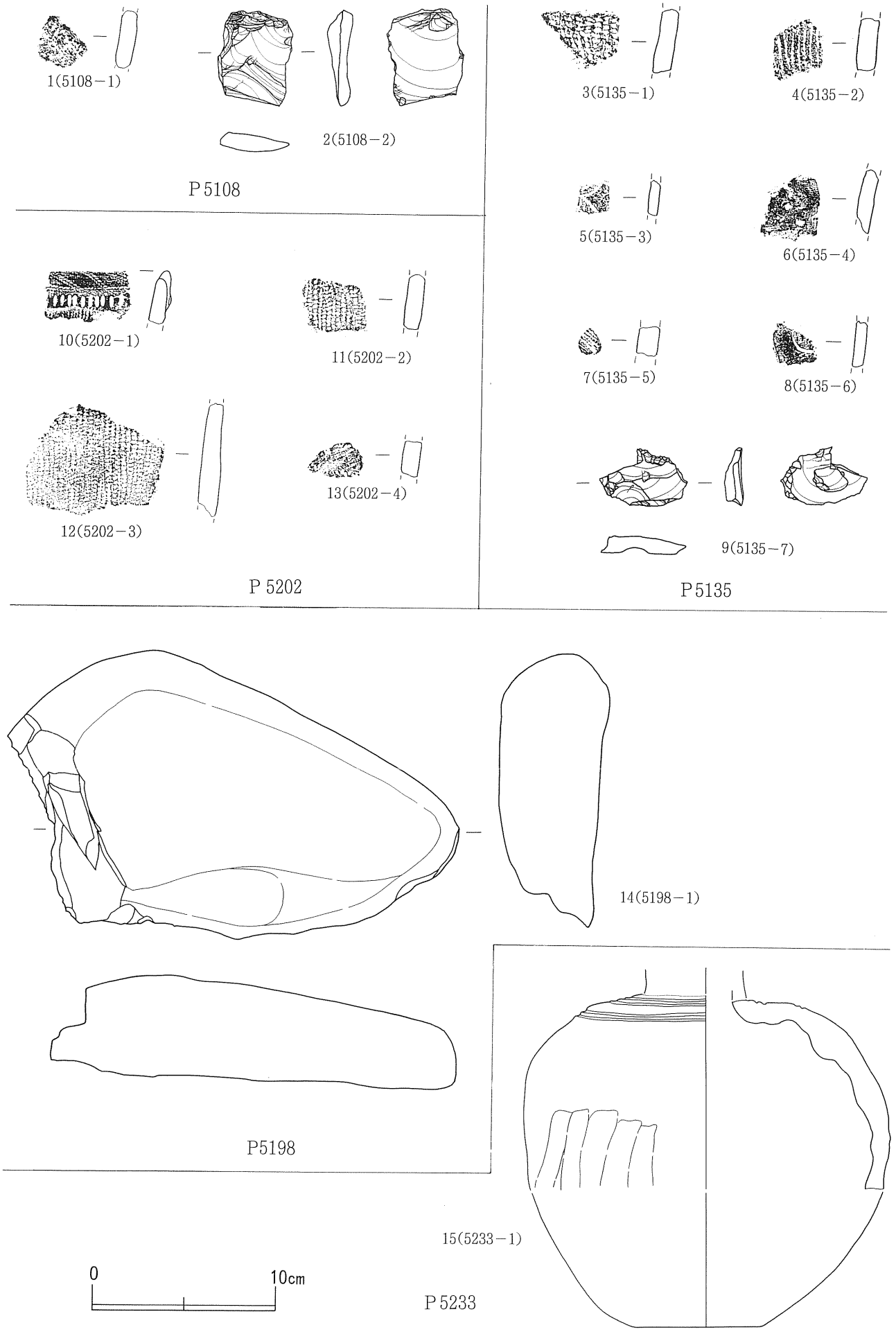
第380図　柱穴出土遺物（７）（P3552～P3933）



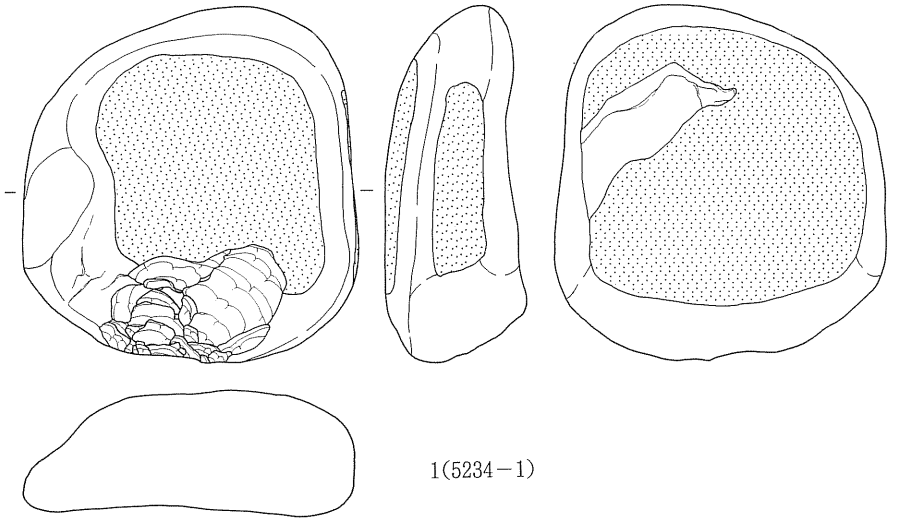
第381図　柱穴出土遺物（８）（P3963～P4203）



第382図　柱穴出土遺物（９）（P4246～P5061）

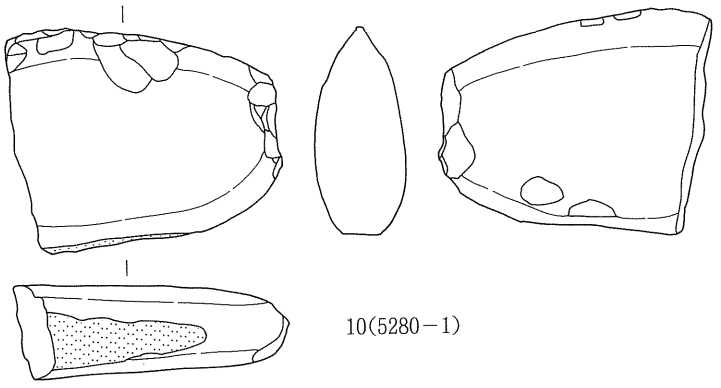


第383図　柱穴出土遺物（10）（P5108～P5233）



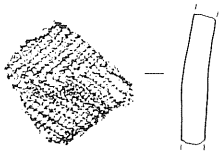
1(5234－1)

P 5234



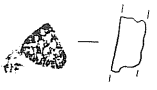
10(5280－1)

P 5280



11(5339－1)

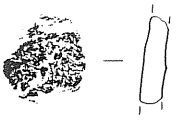
12(5339－2)



13(5339－3)

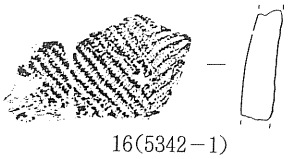
12(5339－2) は
P 5335出土破片と接合した

14(5339－4)



15(5339－5)

P 5339

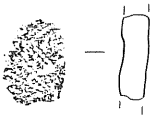


16(5342－1)

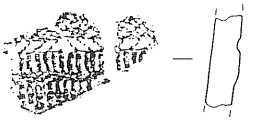
P 5342（ＳＢ1029）

17(5348－1)

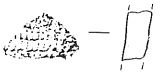
P 5348



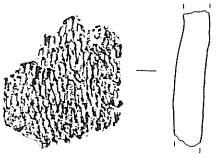
2(5304－1)



3(5304－2)



4(5304－3)

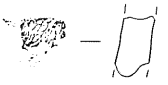


5(5304－4)

6(5304－5)

7(5304－6)

P 5304



8(5304－7)

9(5304－8)

0　10cm

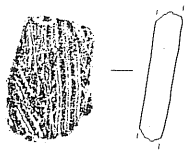
第384図　柱穴出土遺物（11）（P5234～P5348）

1(5396－1)　2(5396－2)　3(5396－3)　4(5396－4)

P 5396

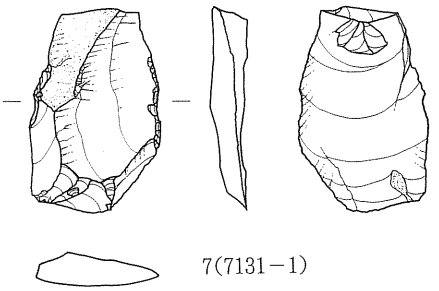
5(6513－1)

P 6513



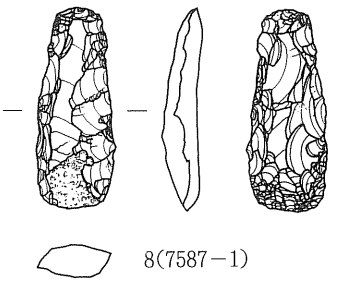
6(5431－1)

P 5431



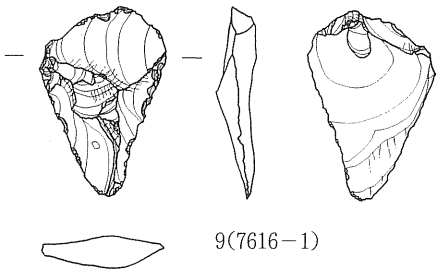
7(7131－1)

P 7131



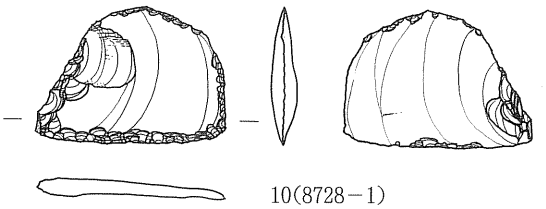
8(7587－1)

P 7587（ＳＢ1079）



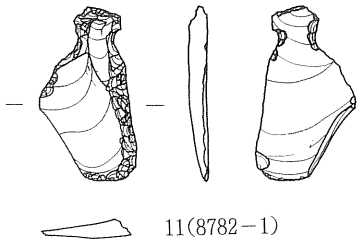
9(7616－1)

P 7616



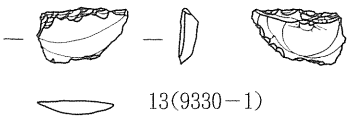
10(8728－1)

P 8728（ＳＢ1045）



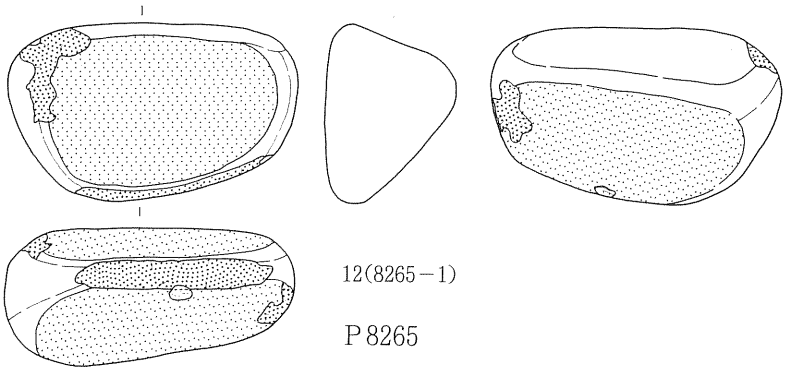
11(8782－1)

P 8782



13(9330－1)

P 9330



12(8265－1)

P 8265

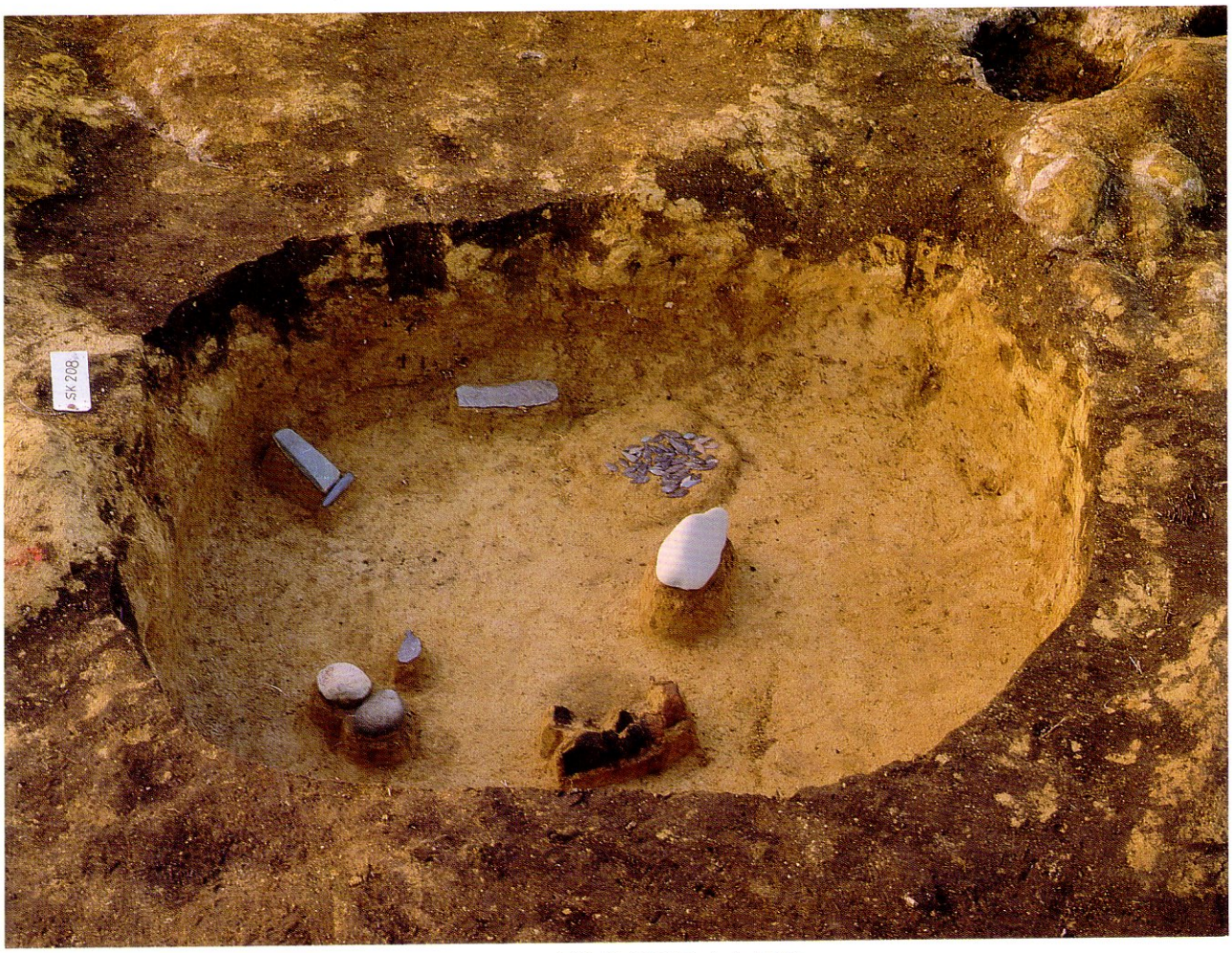
0　10cm

第385図　柱穴出土遺物（12）（P5396～P9330）

SI 141 竪穴住居跡完掘状況

SI 141 竪 穴 住 居 跡
「垂木尻」据え穴検出状況

SI 141 竪穴住居跡
「土壇」検 出 状 況



SKS 208 土壙墓副葬品出土状況

SKS 208 土壙墓出土副葬品

SKS 386 土壙墓副葬品出土状況

SKS 408 土壙墓副葬品出土状況

SKS 386 土壙墓出土副葬品

SKS 408 土壙墓出土副葬品

SKF 733　フラスコ状土坑遺物出土状況

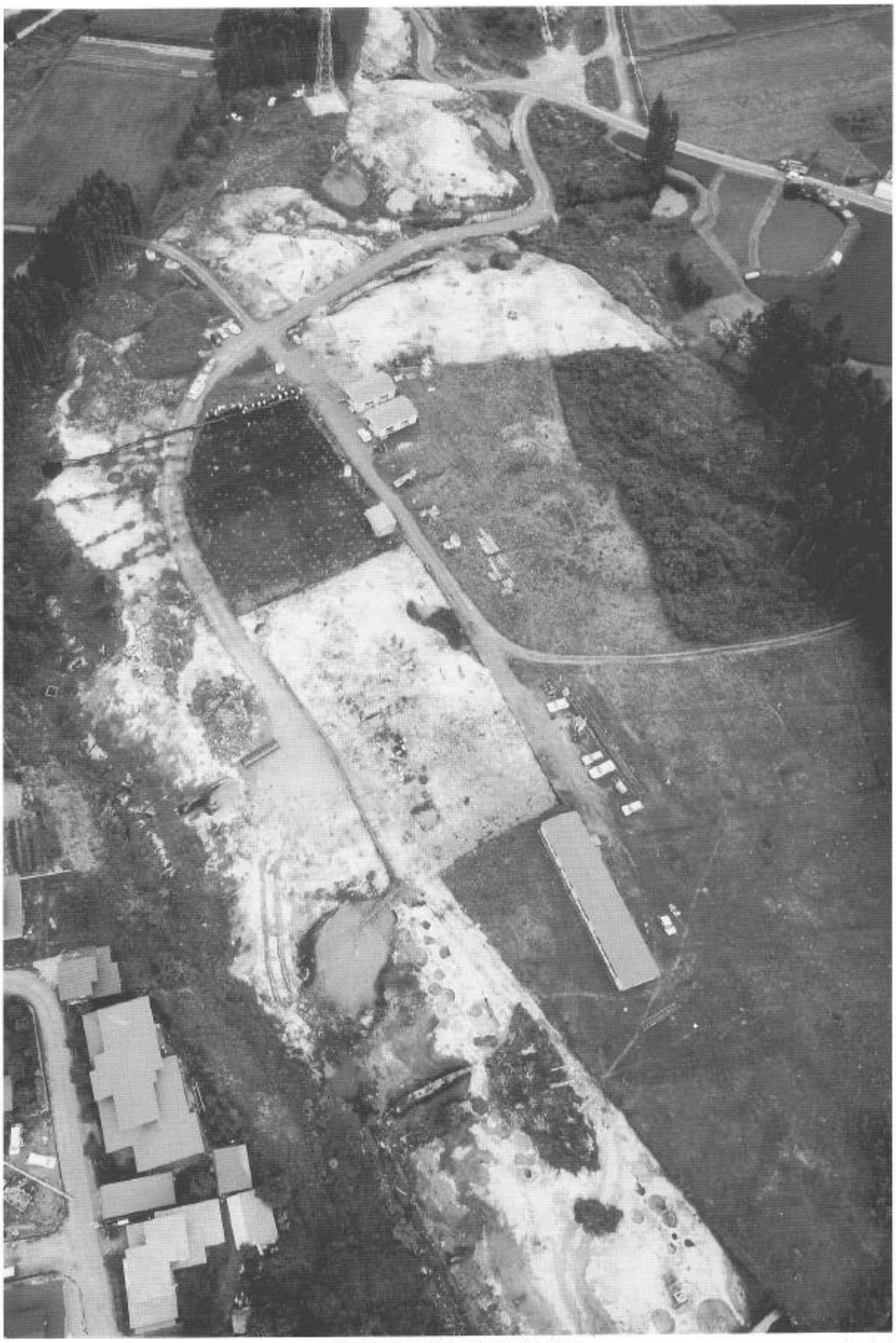
SKF 733 フラスコ状土坑出土遺物

池内遺跡遠景（西側から撮影、中央の建物後方が遺跡）

池内遺跡遠景（東南側から撮影）

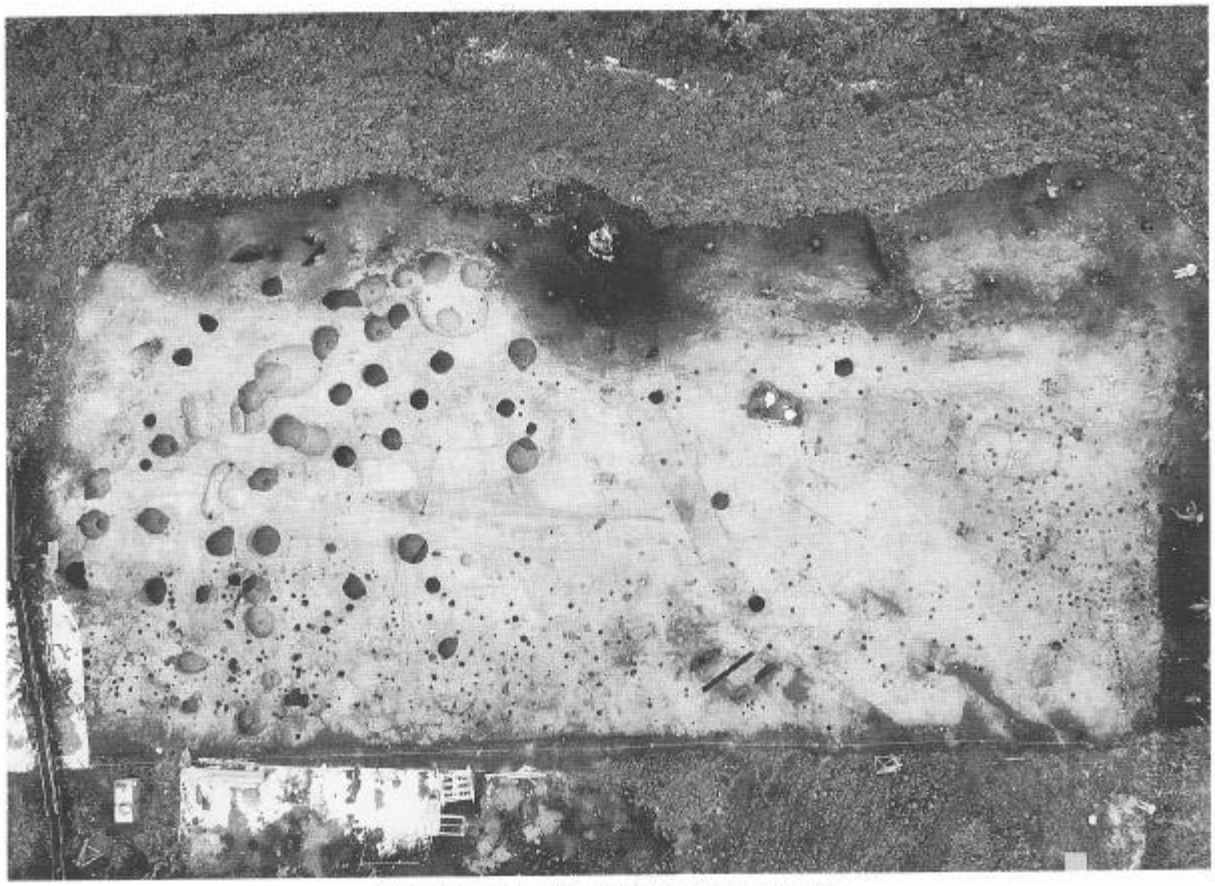
図版2

平成4年度調査開始時の現況（上・下とも）



平成5年度調査終了時の遺跡全景

図版4

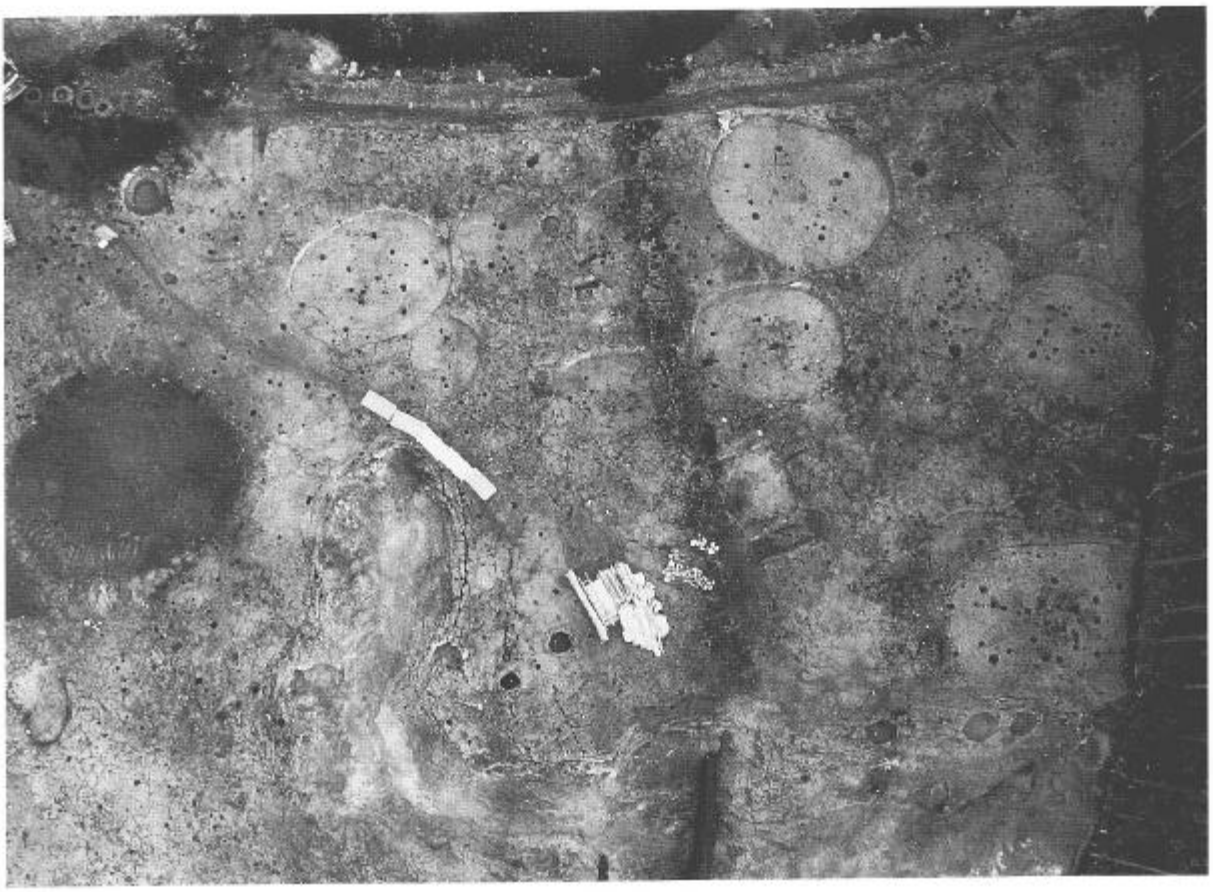


平成4年度調査終了時の空中写真（A区）

平成6年度調査時の空中写真（B区・E区）

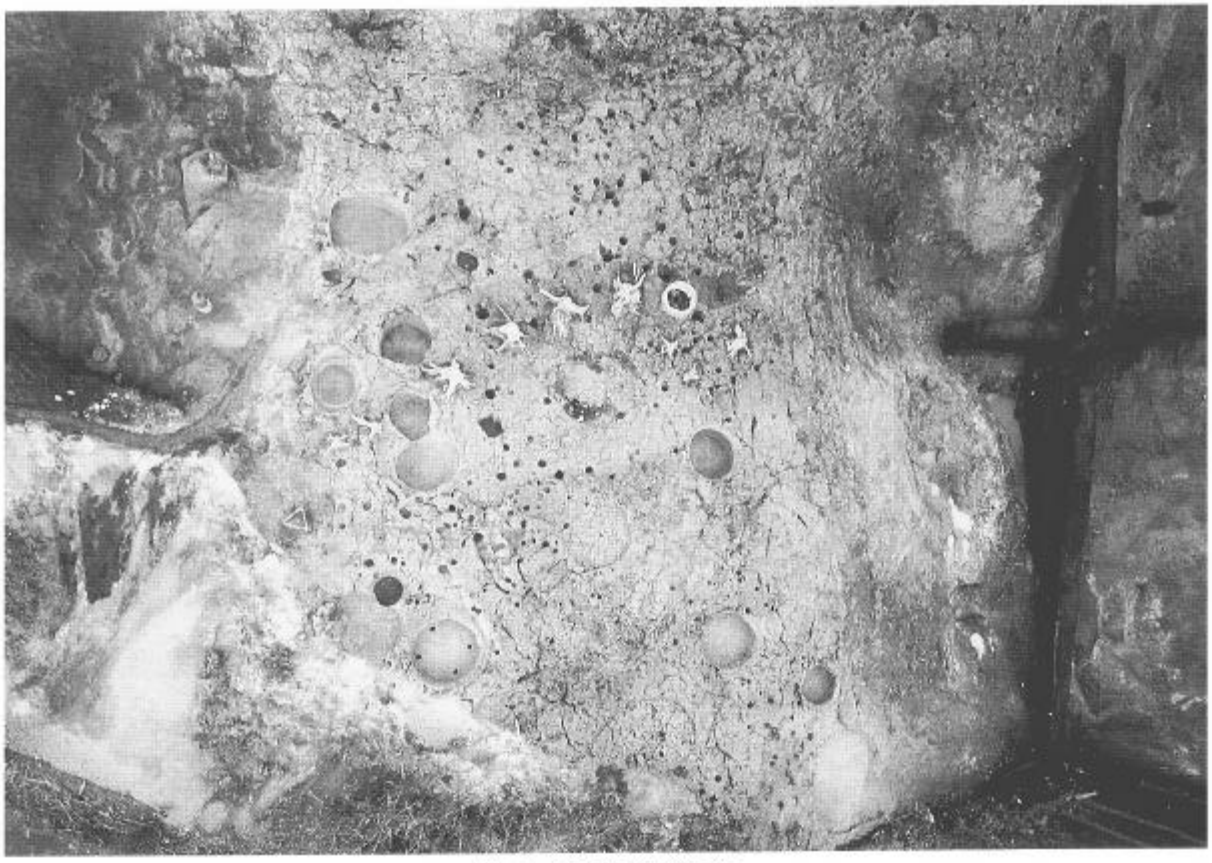
平成6年度調査時のB区（竪穴住居跡密集部分）

図版6



平成6年度調査時のB区竪穴住居跡密集部分の空中写真

平成６年度調査時のＢ区完掘状況（南西部分）



同上の空中写真

図版8

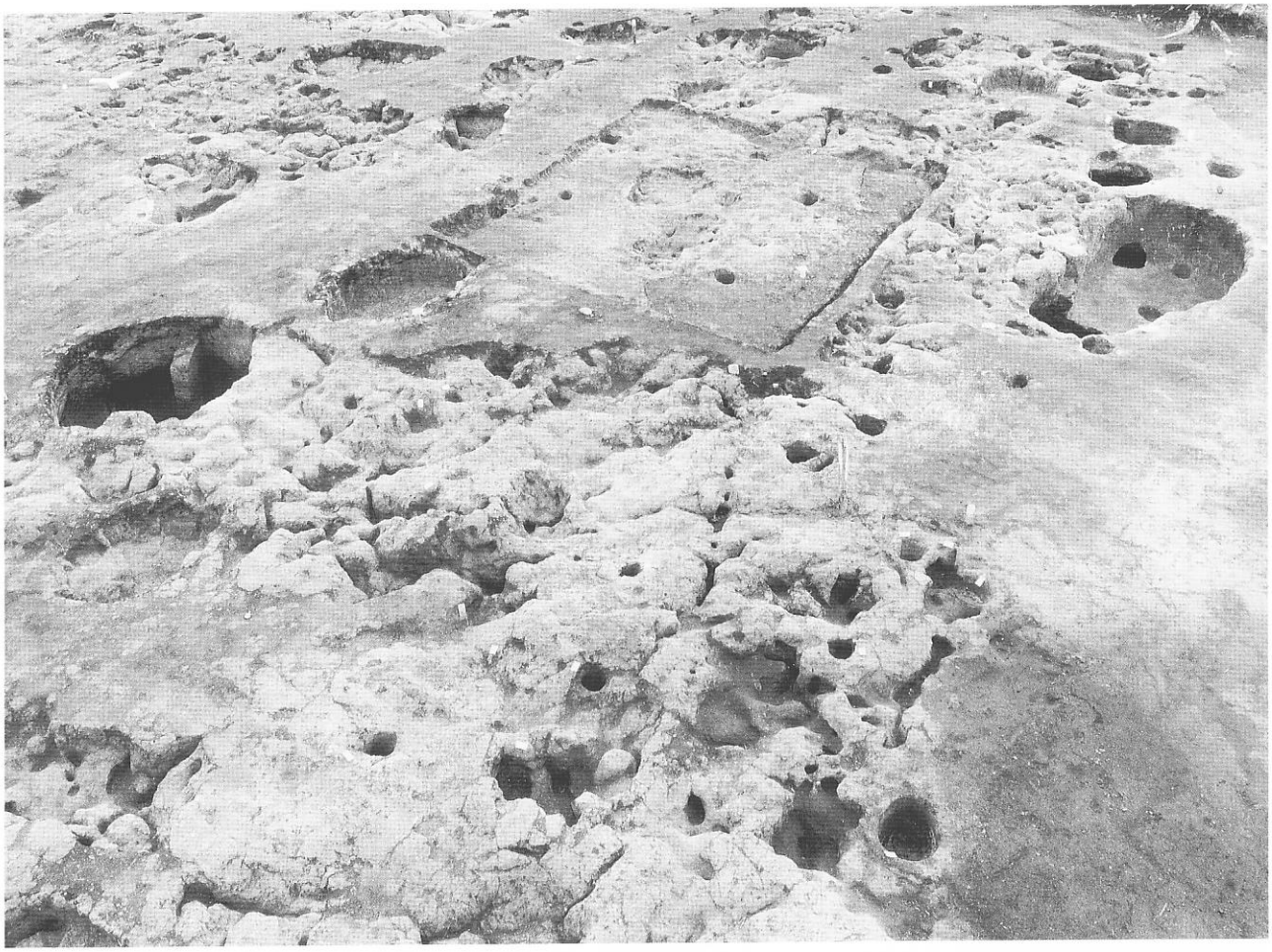
平成6年度調査時のB区完掘状況（北側及び北西部分）（上・下とも）

平成５年度調査終了時の空中写真（Ｃ区）

平成５年度調査時のＣ区（部分）完掘状況

平成5年度調査完了状況（C区・部分）（上・下とも）

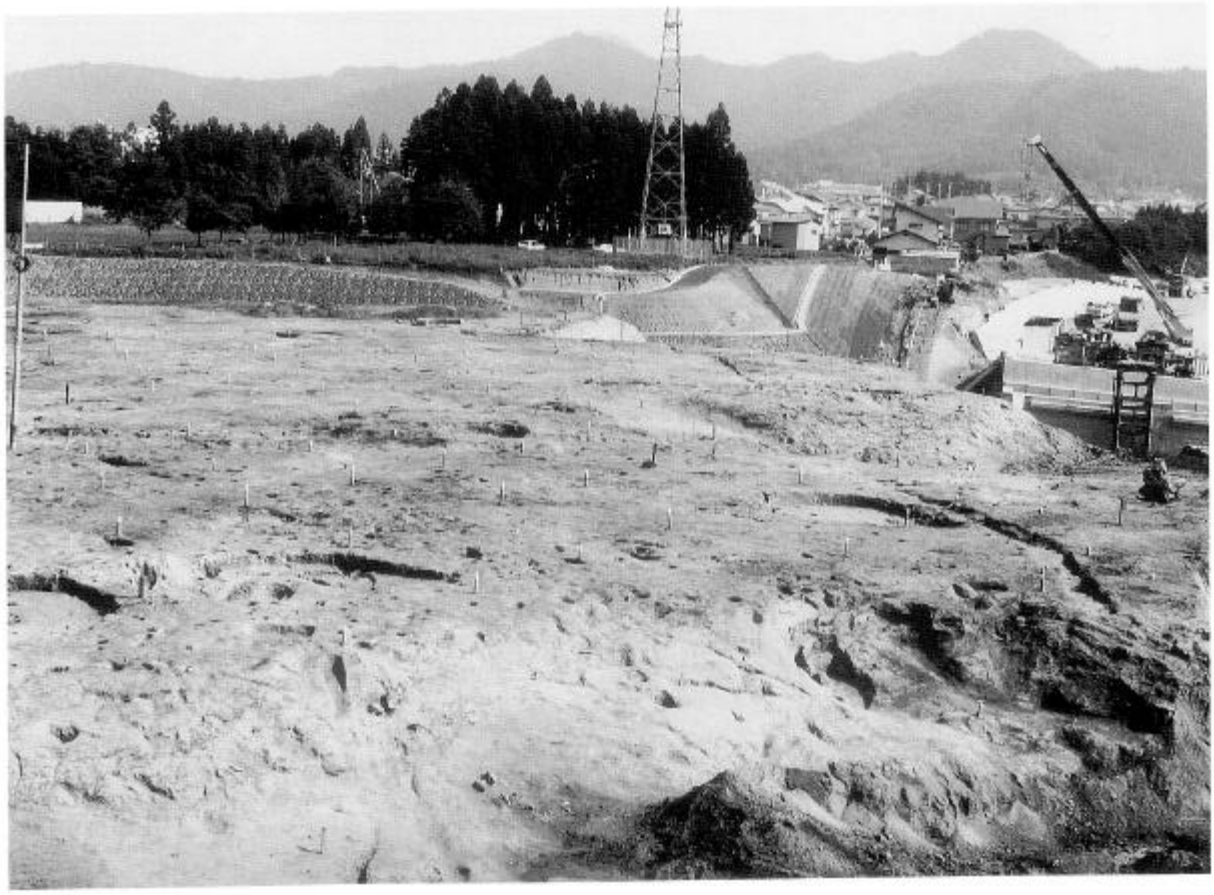
平成５年度調査時のＤ区完掘状況（空中写真）



平成５年度調査時のＤ区完掘状況（部分）（上・下とも）

平成７年度調査終了時のＦ区完掘状況（部分）（上・下とも）

図版14

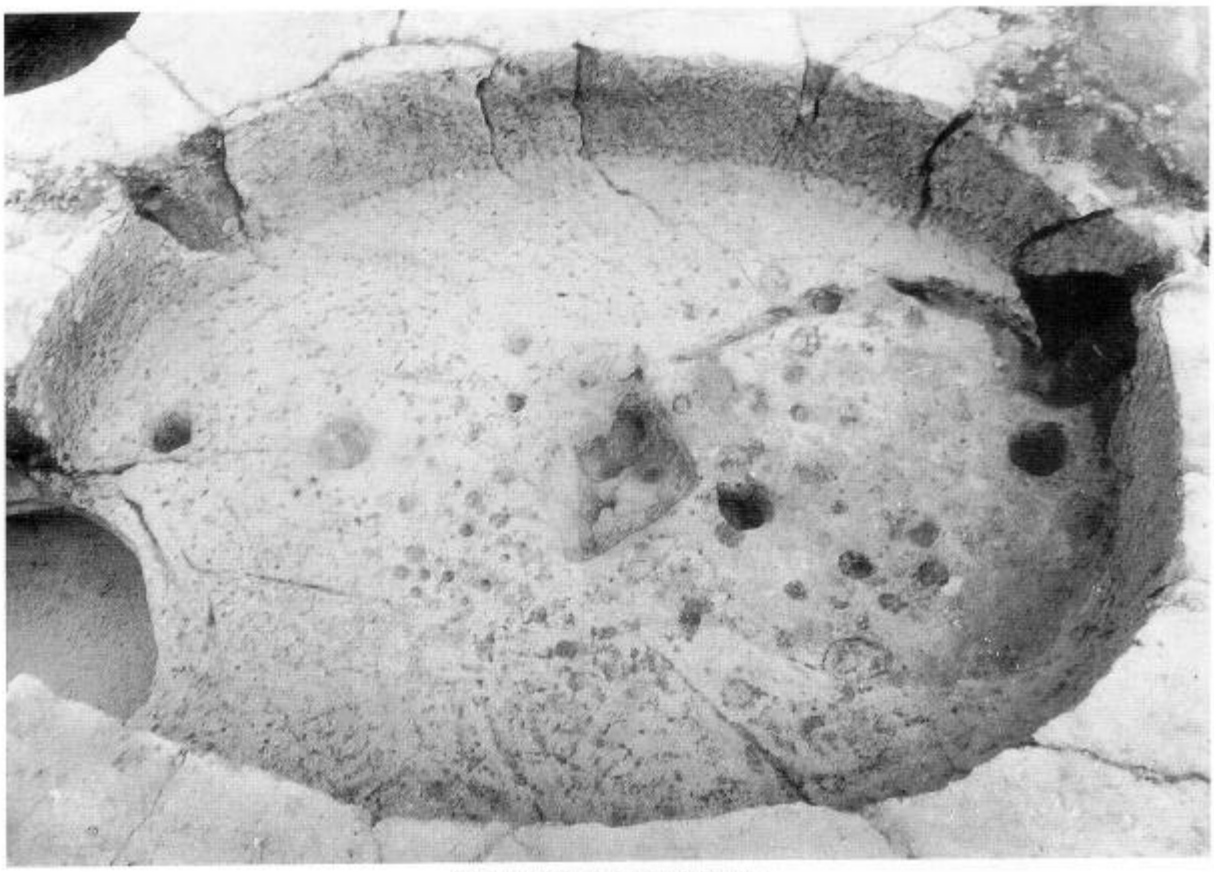


平成７年度調査時のＦ区完掘状況（部分）（上・下とも）

横方向に波状を呈する面が埋没林の地表面

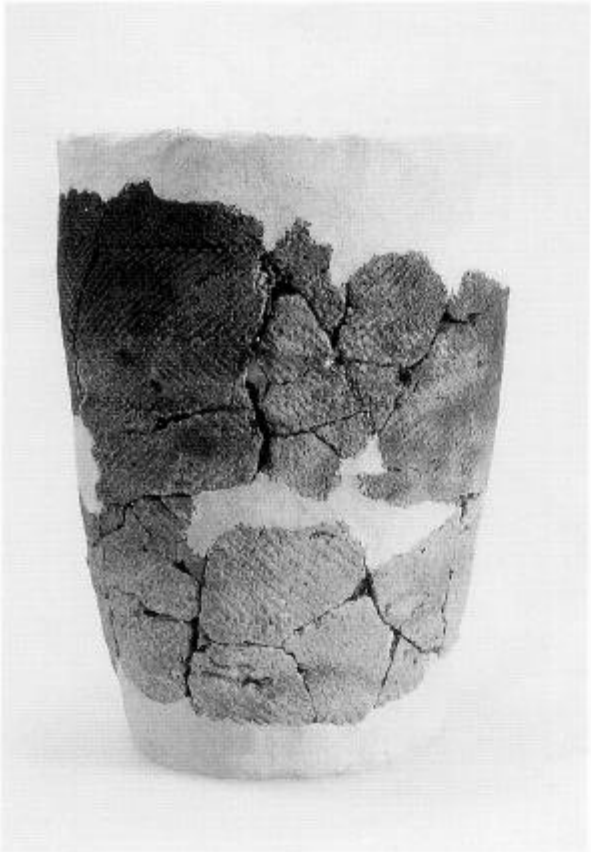
← 埋没林

遺跡の所在する上野台地(仮称)の地質(断面)



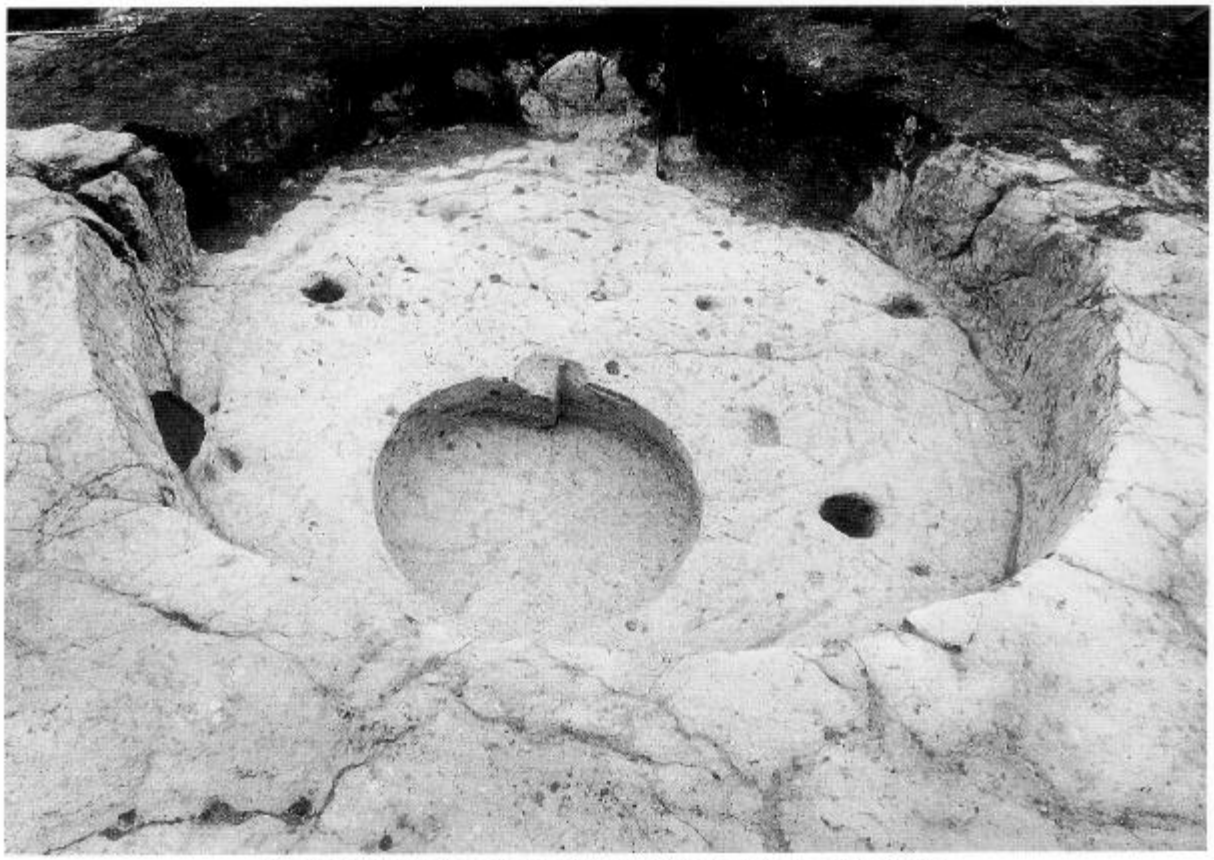
SI 25 竪穴住居跡完掘状況

SI 25 竪穴住居跡埋土中土器出土状況



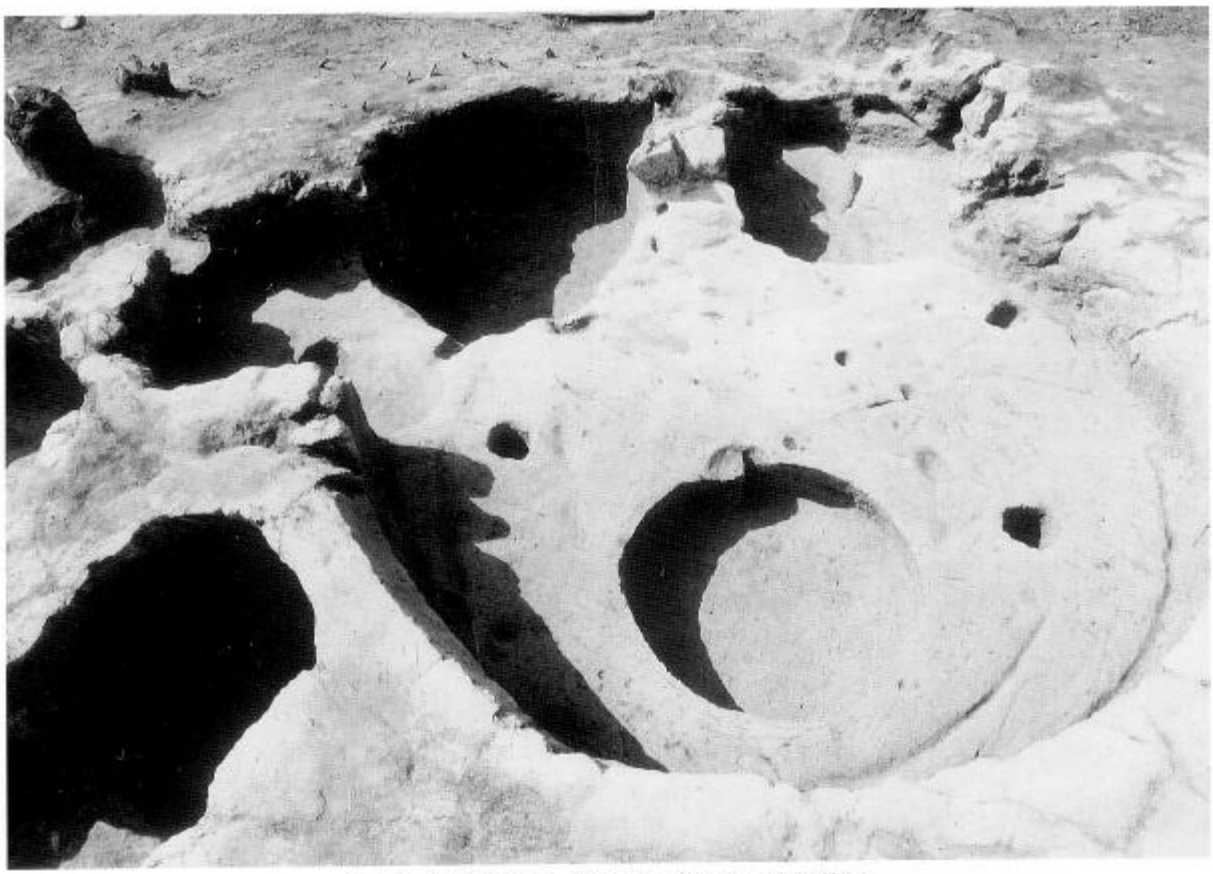
SI 25 竪穴住居跡出土土器

SI 30 竪穴住居跡出土土器



SI 30 竪穴住居跡完掘状況（床面にSKF88フラスコ状土坑）

図版18



SI 30 竪穴住居跡・SKF88～SKF91 完掘状況

SI 30 竪穴住居跡・SKF90・91 フラスコ状土坑重複状況

SI 136 竪穴住居跡完掘状況

SI 141 竪穴住居跡完掘状況

SI 141 竪穴住居跡東側「土壇」

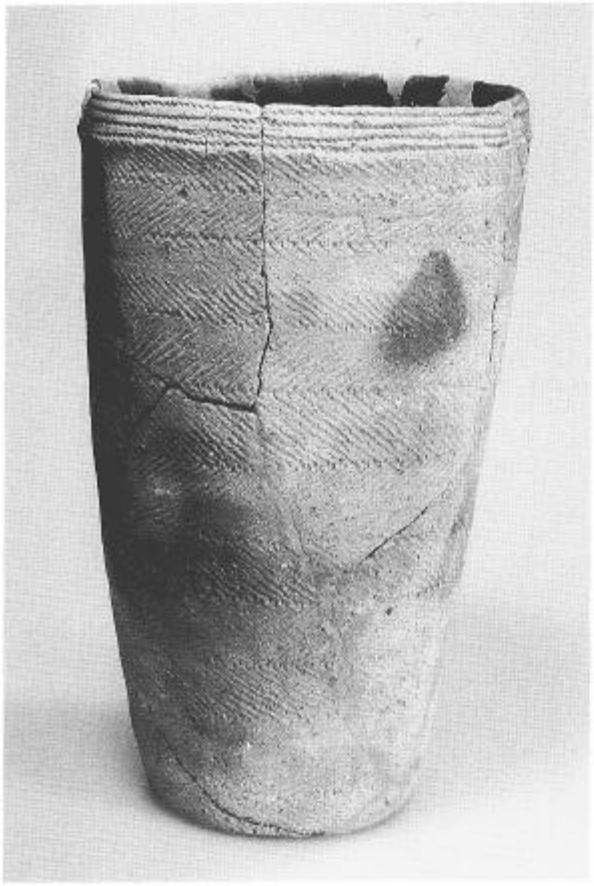
SI 141 竪穴住居跡北西側埋土中の礫出土状況

SI 141 竪穴住居跡西側壁面上縁の「垂木尻」穴

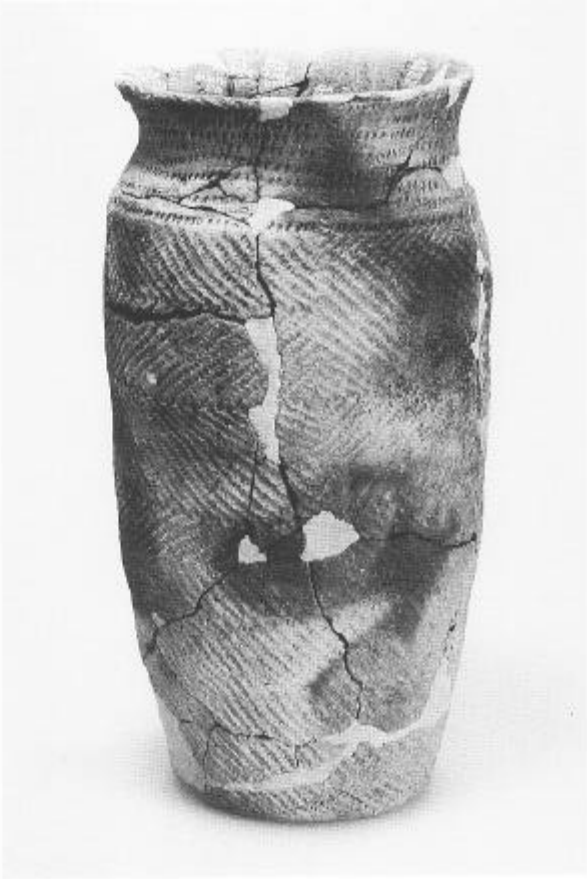
同 上 拡 大

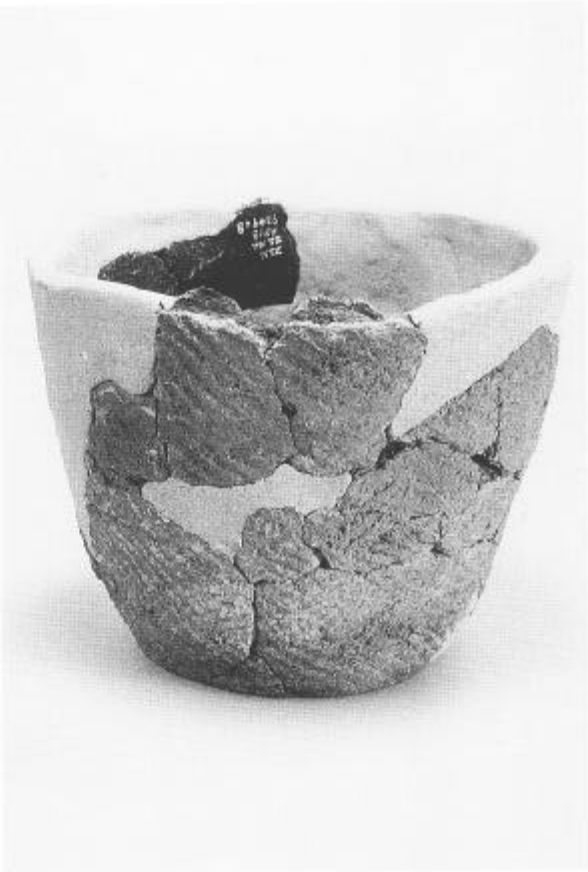
SI 141 竪穴住居跡出土土器（集合写真）

SI 144 竪穴住居跡出土土器（集合写真）



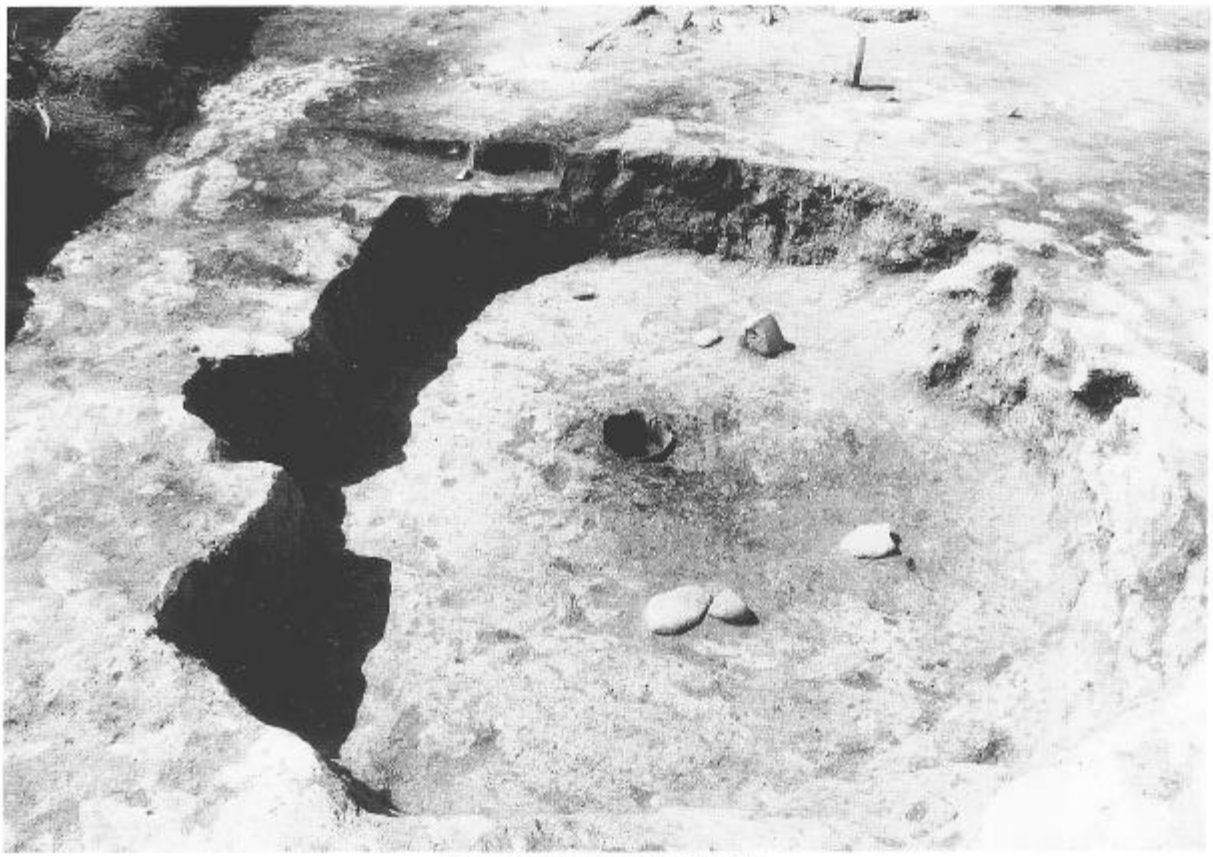
SI 141 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）





SI 144 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

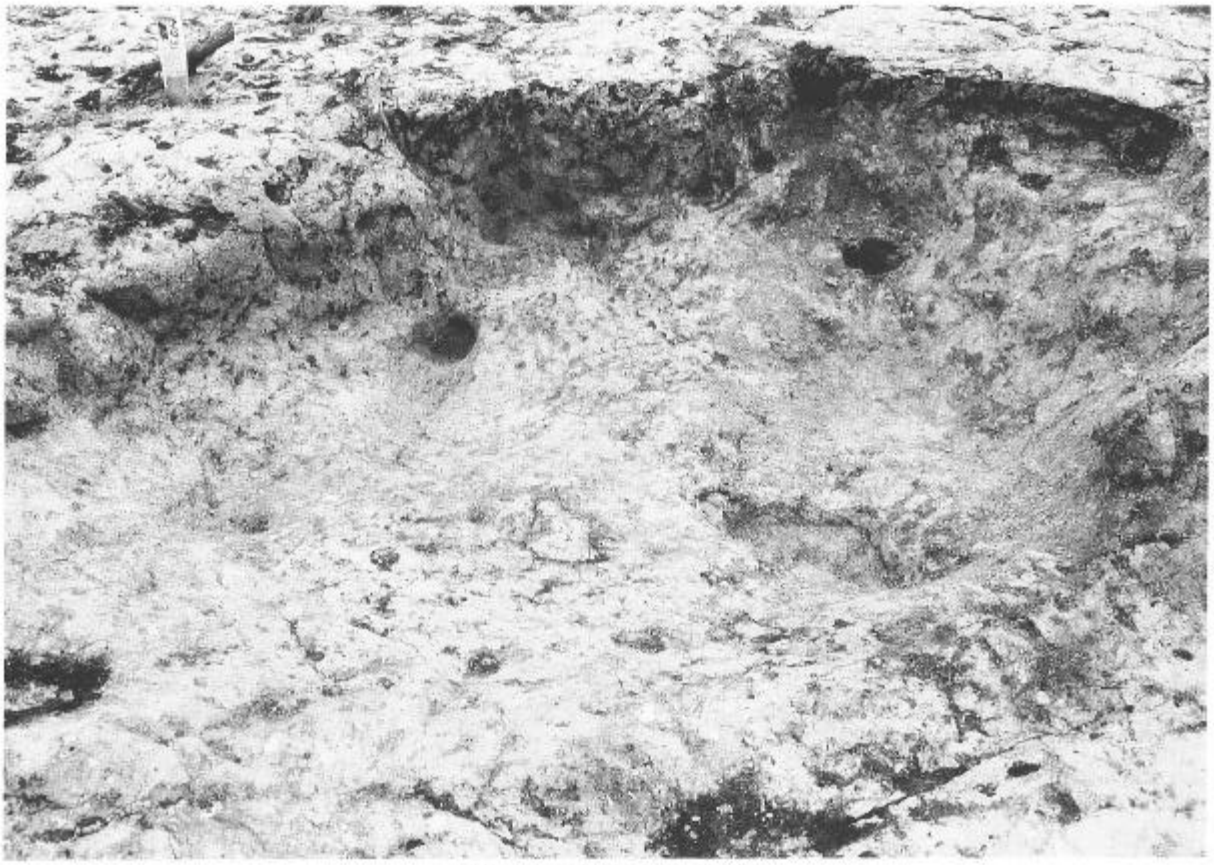
SI 144 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）



SI 154 竪穴住居跡完掘状況

SI 154 竪穴住居跡床面埋設土器出土状況

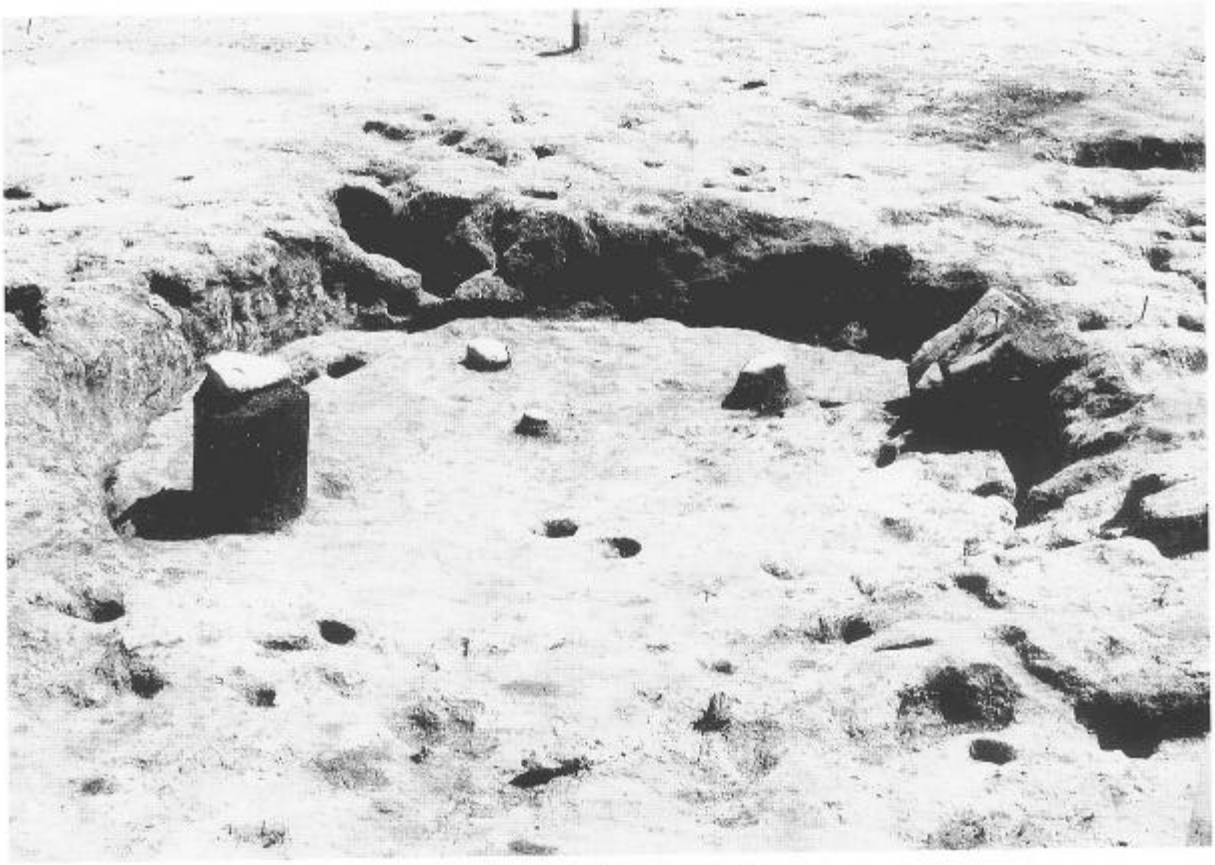
同上　土器



SI 307 竪穴住居跡完掘状況

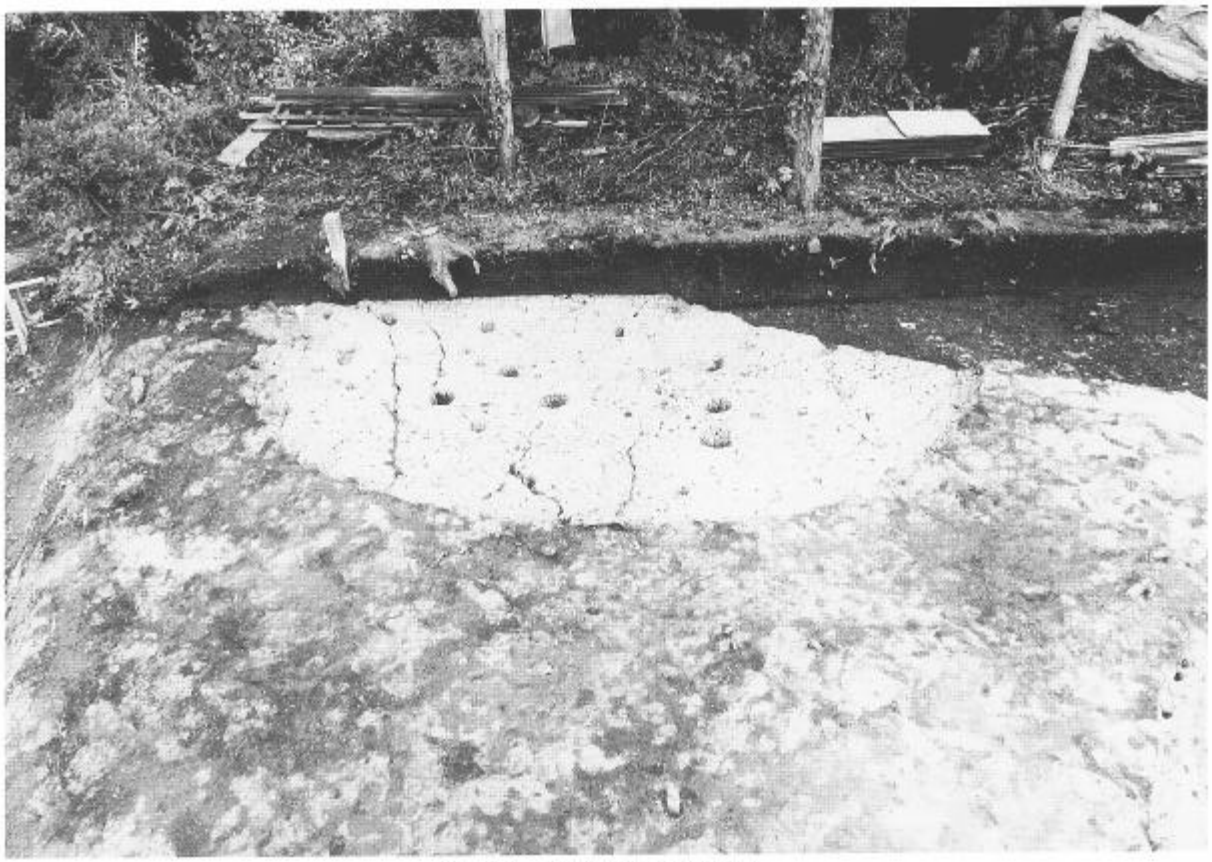
SI 312 竪穴住居跡完掘状況

SI 315 竪穴住居跡完掘状況

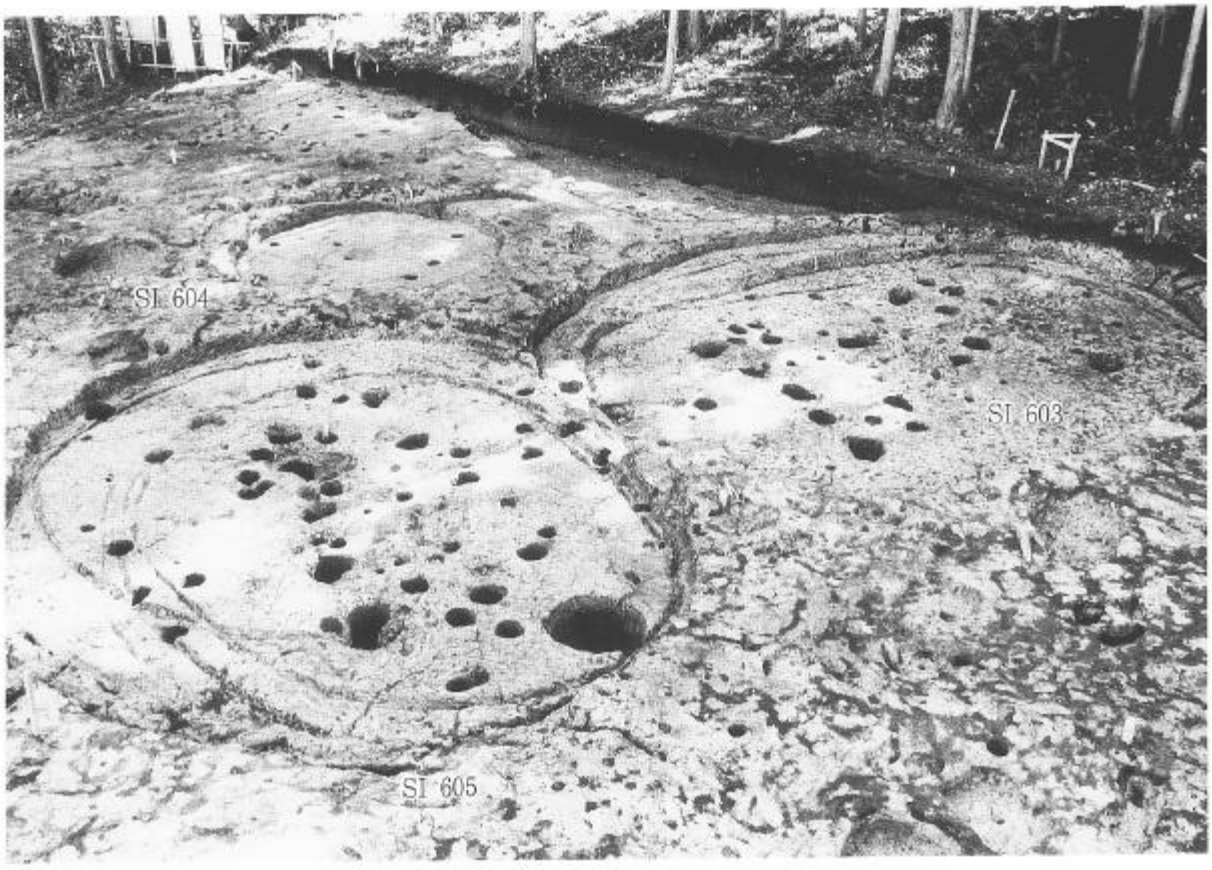


SI 341 竪穴住居跡完掘状況

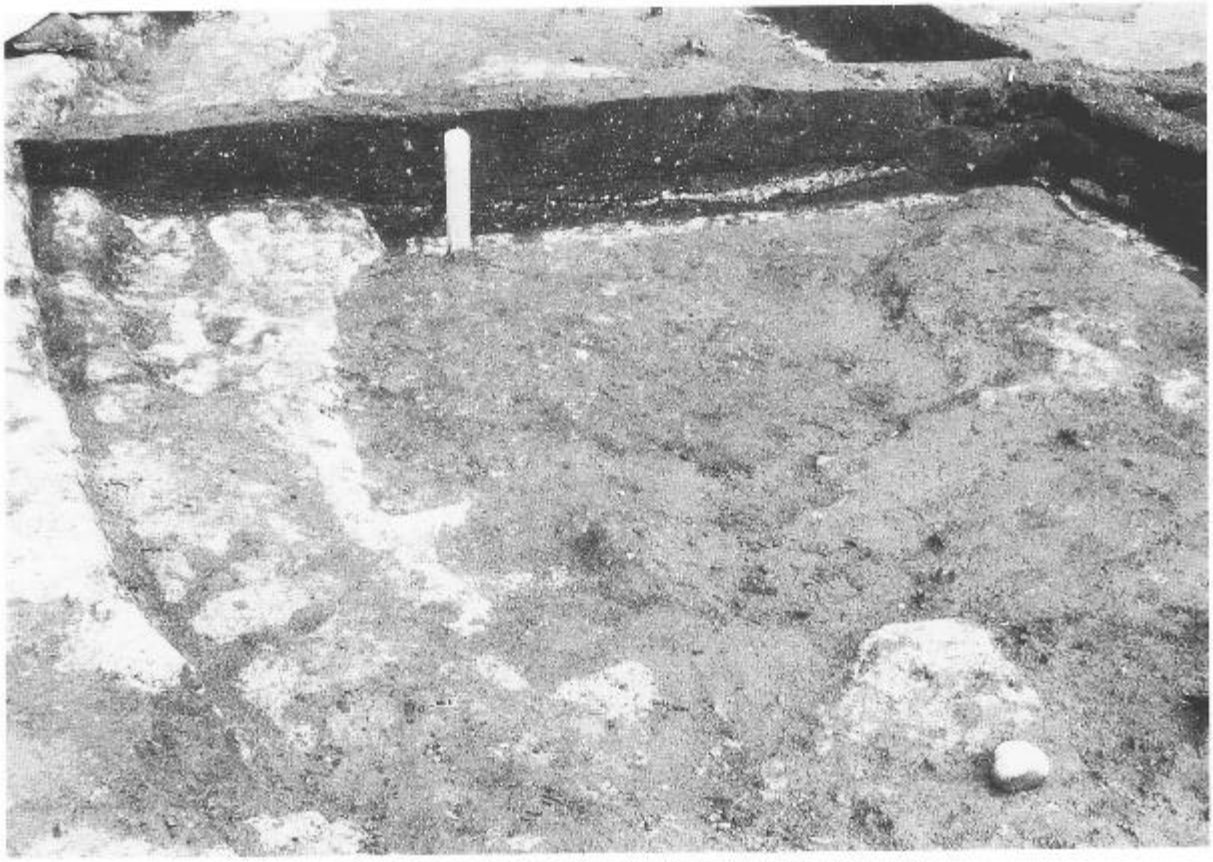
SI 503 竪穴住居跡完掘状況



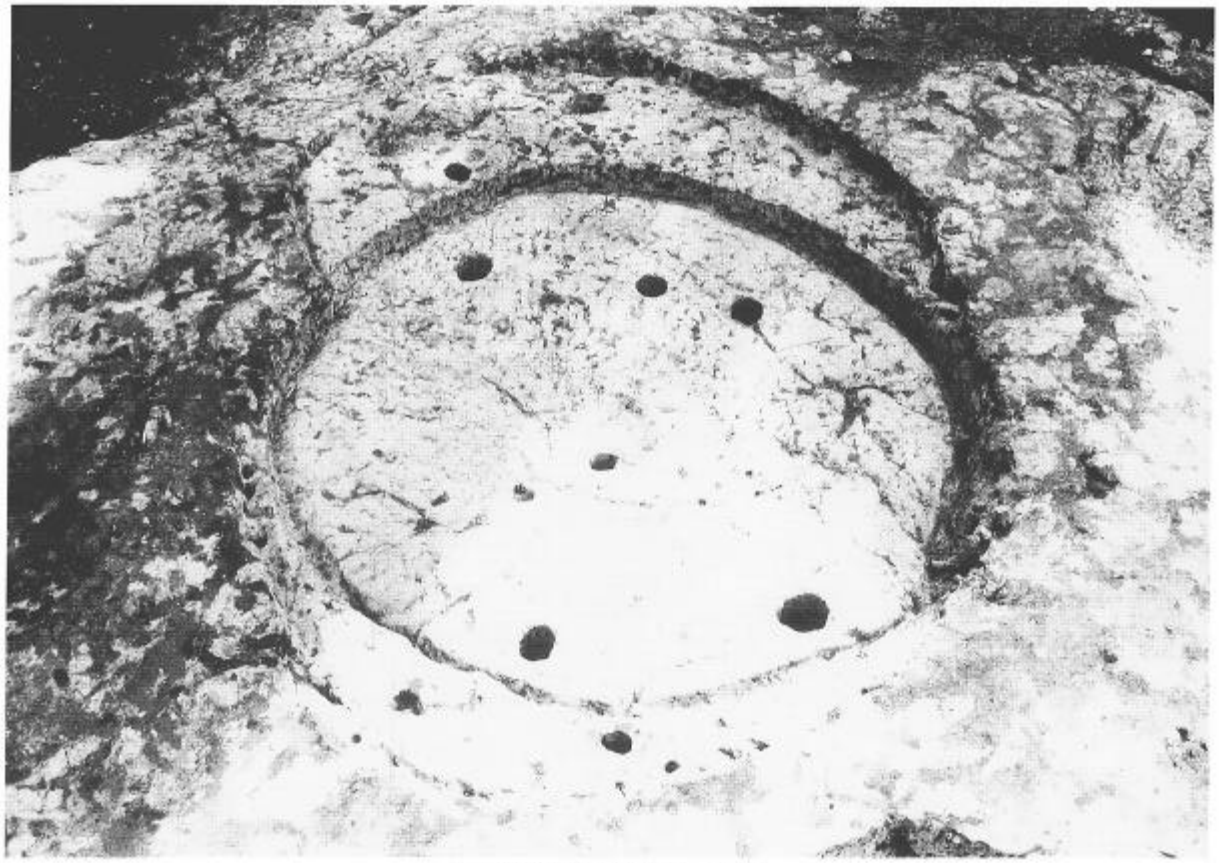
SI 601 竪穴住居跡完掘状況



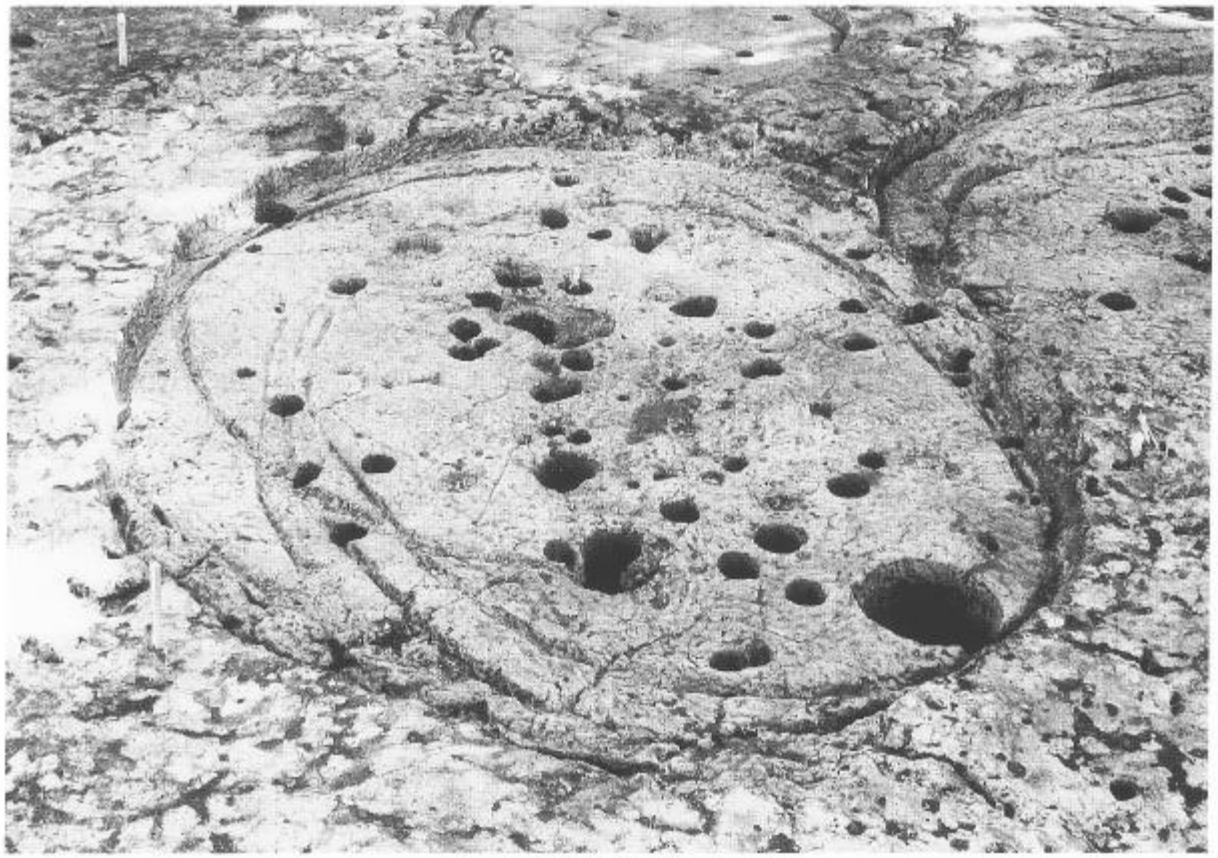
SI 603 ～ SI 605 竪穴住居跡完掘状況



SI 603 竪穴住居跡貼床確認状況（断面の白い部分）



SI 604 竪穴住居跡完掘状況

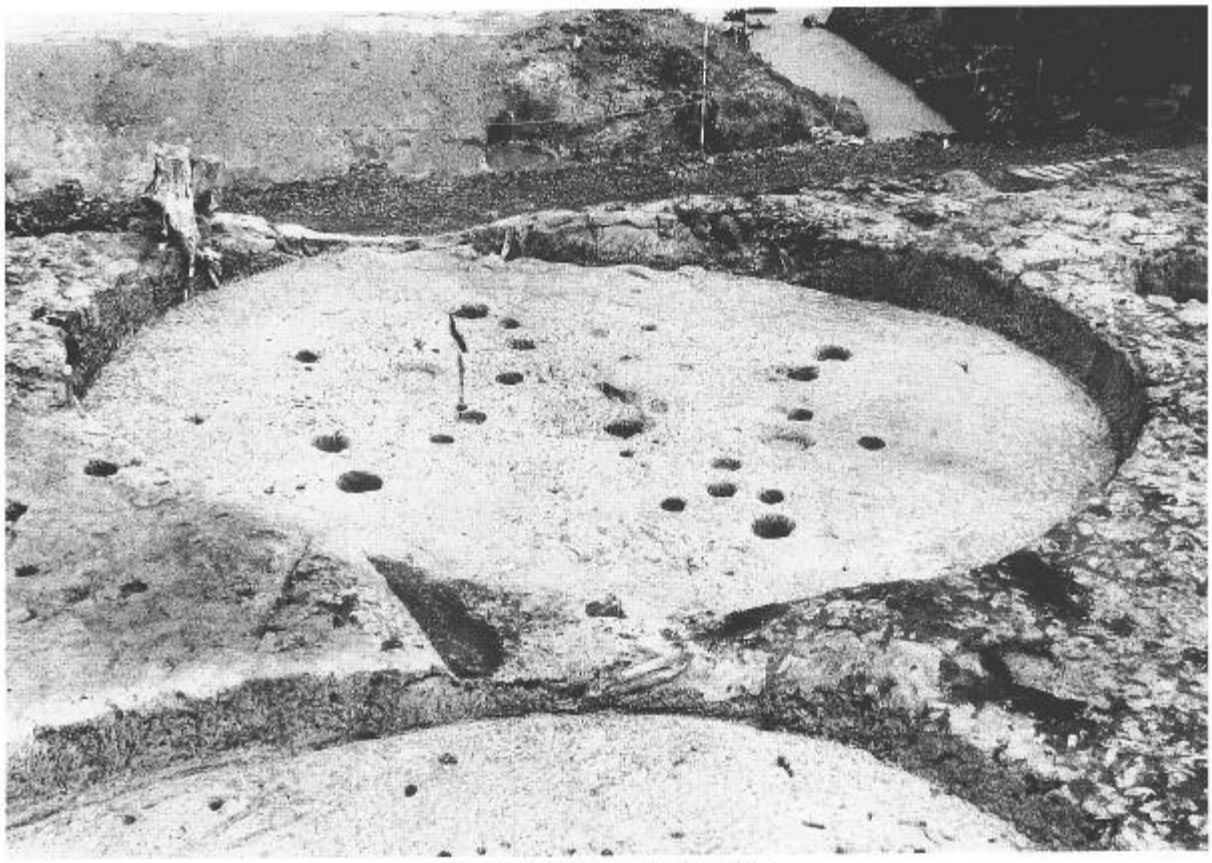


SI 605 竪穴住居跡完掘状況

SI 605 竪穴住居跡床面（最新期）埋設土器確認状況

同　上　断面写真

SI 605 竪穴住居跡出土土器



SI 606 竪穴住居跡完掘状況

SI 606 竪穴住居跡土器出土状況

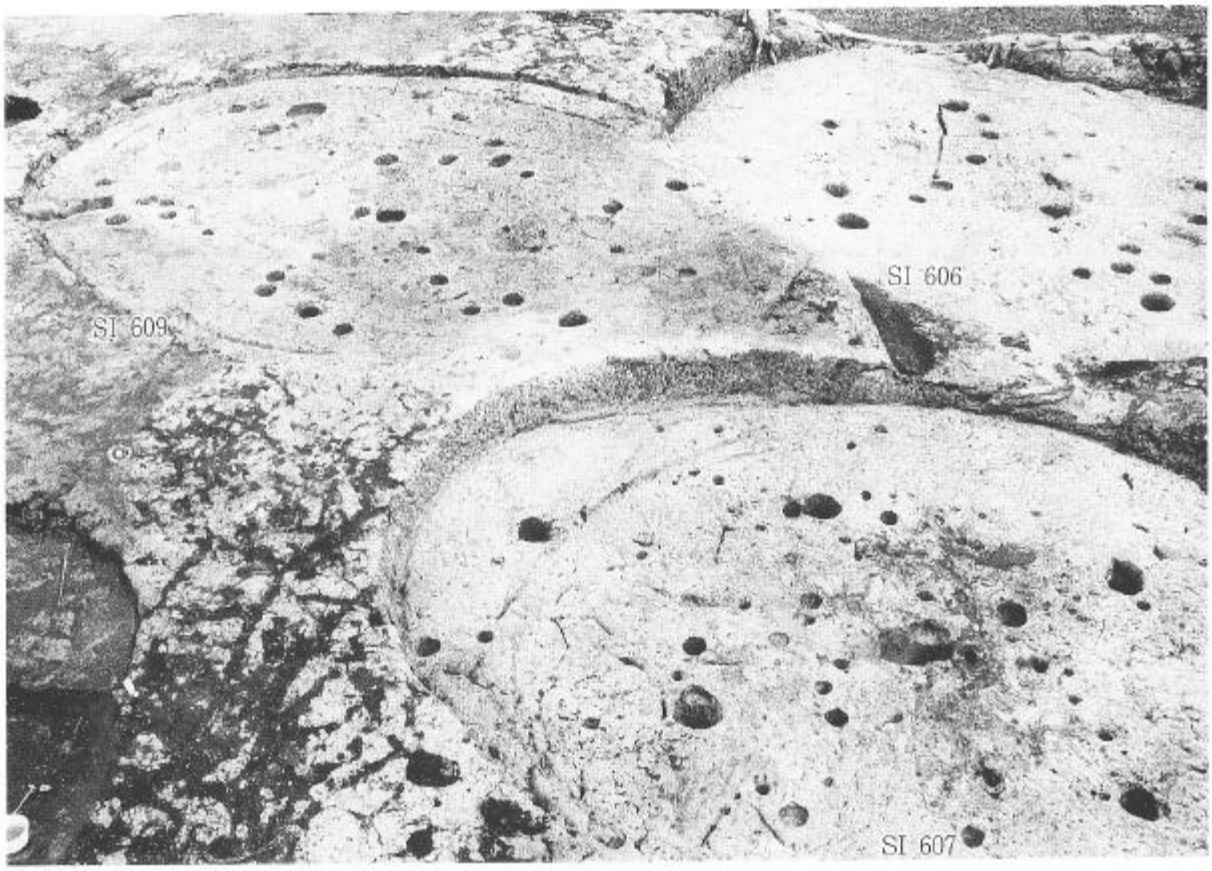
SI 606 竪穴住居跡出土土器（集合写真）

SI 606 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

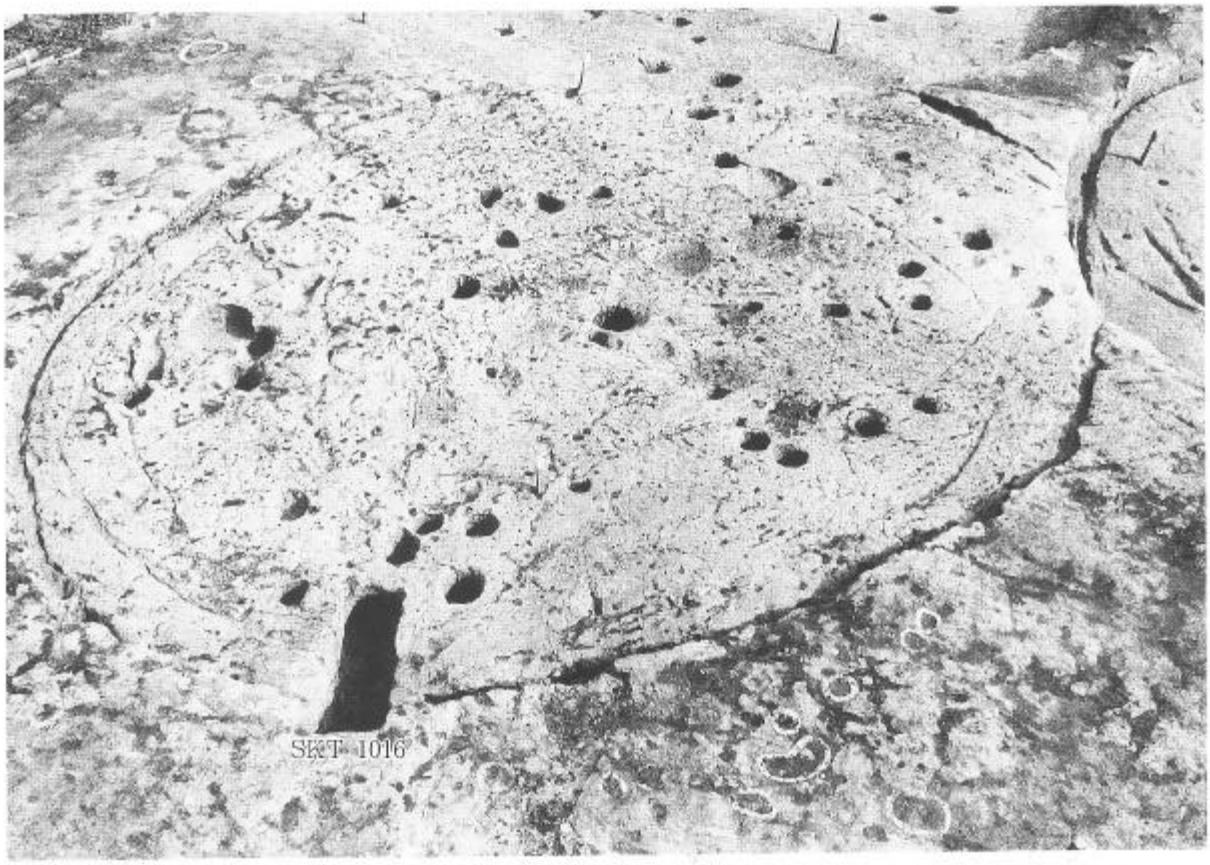
SI 606 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

SI 607 竪穴住居跡完掘状況

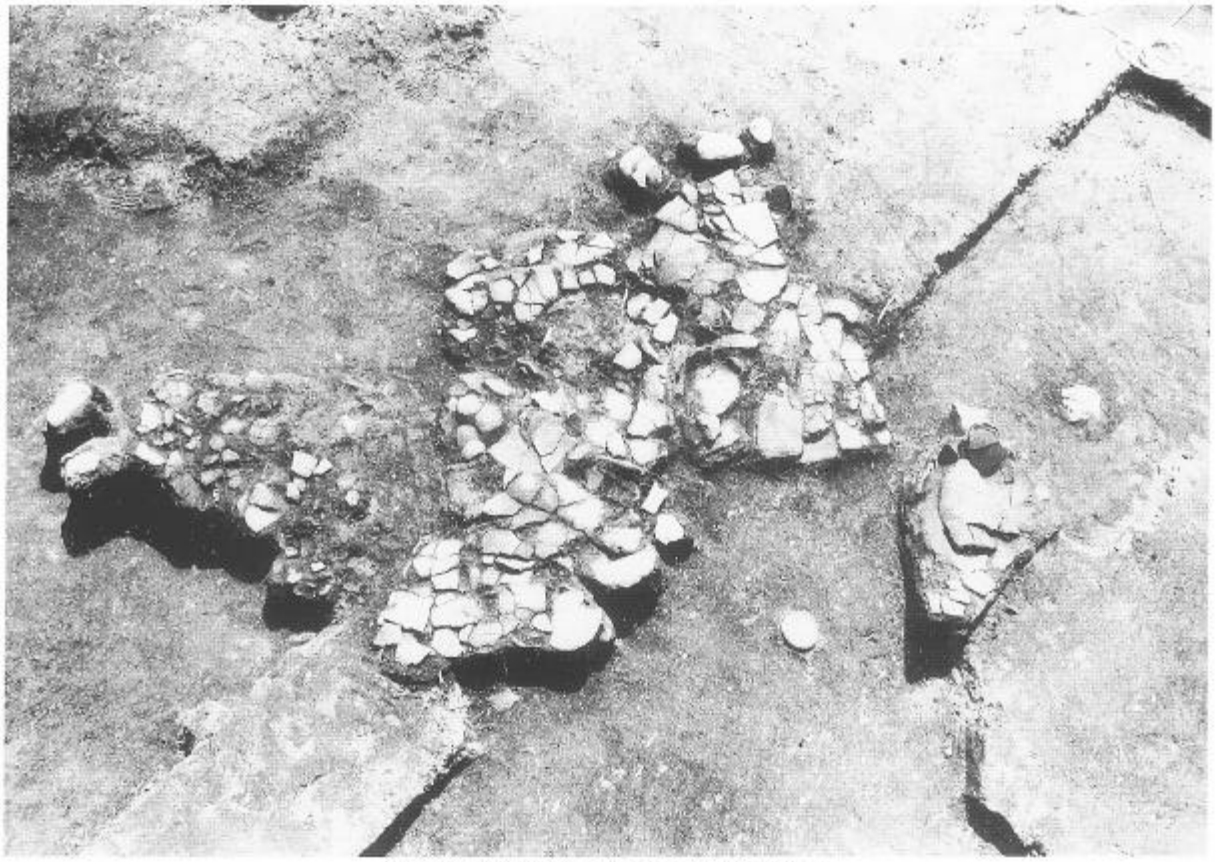
SI 607 竪穴住居跡床面堀り込みピット（P24）貼床状況（断面の白い部分）



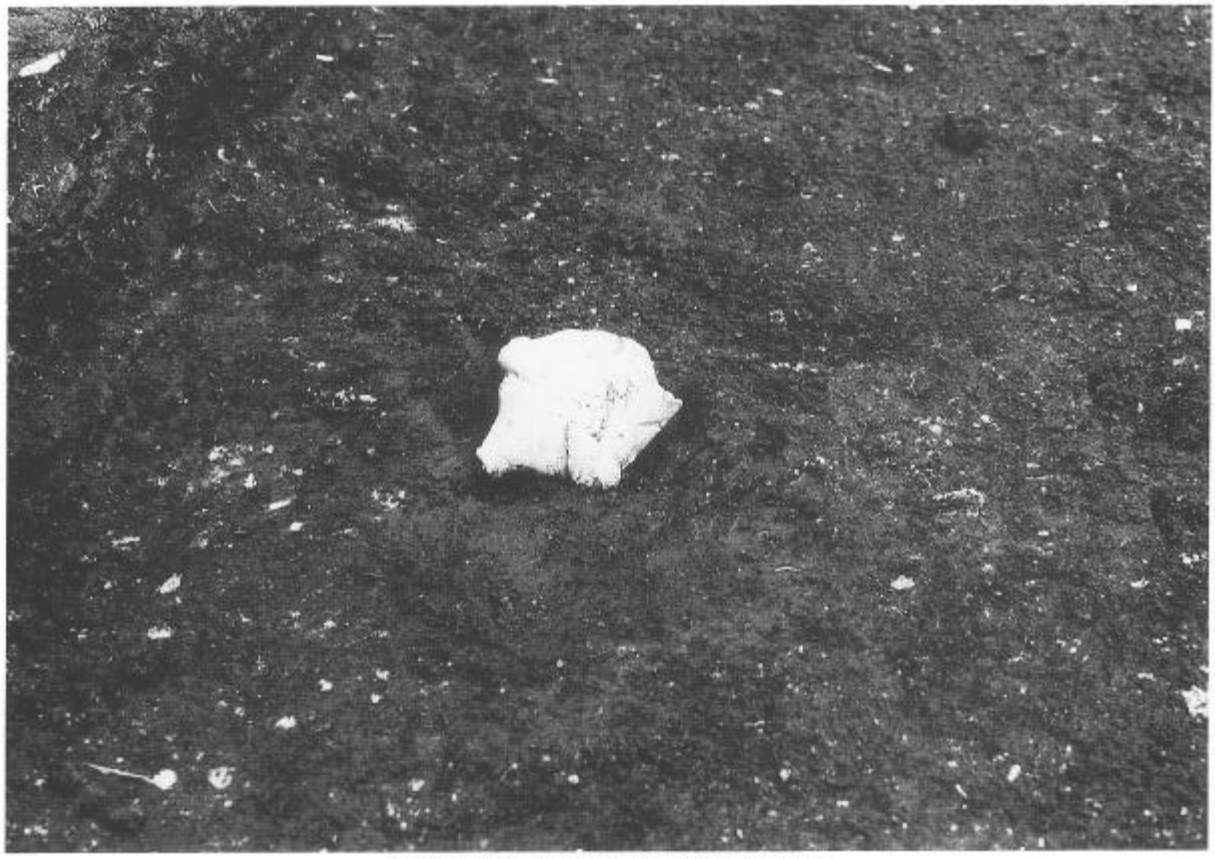
SI 606・607・609 竪穴住居跡完掘状況



SI 609 竪穴住居跡完掘状況



SI 609 竪穴住居跡埋土中土器出土状況



SI 609 竪穴住居跡埋土中岩偶出土状況

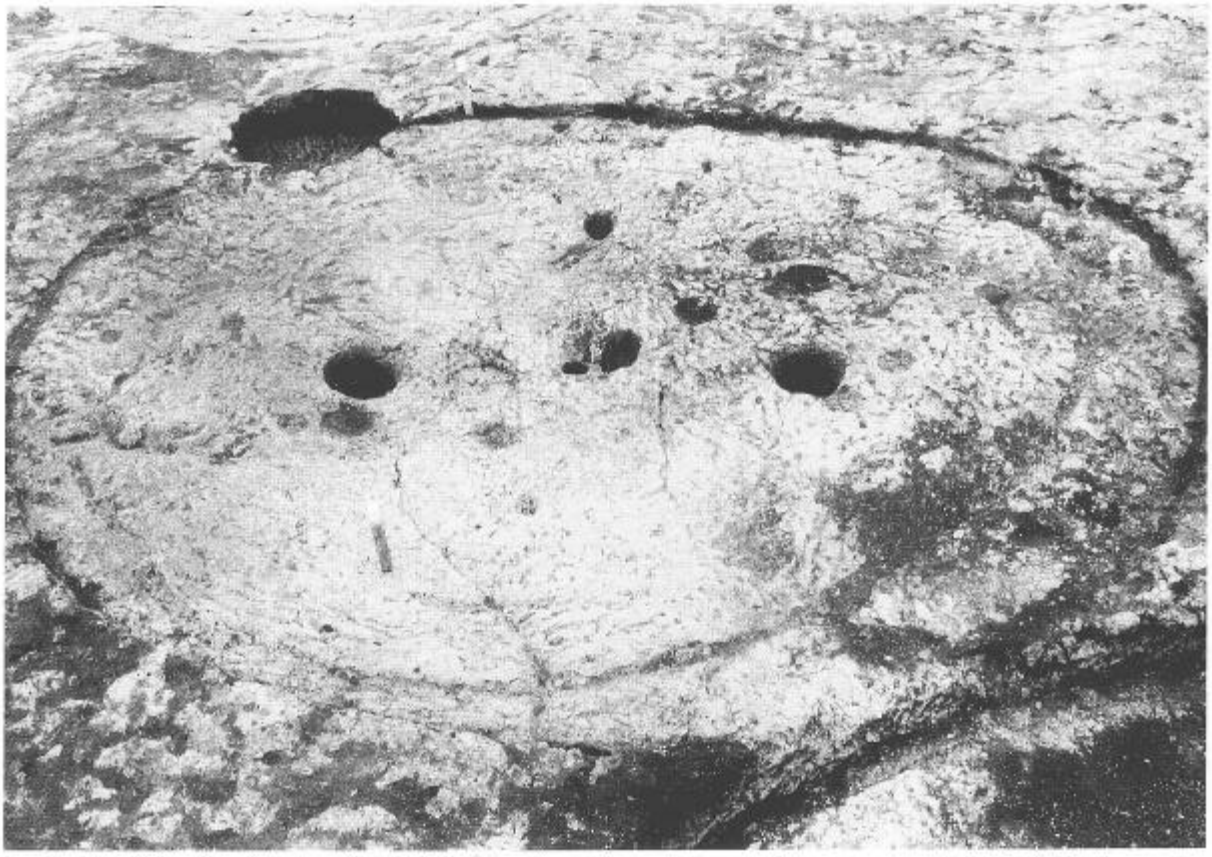
SI 609 竪穴住居跡出土土器（集合写真）

SI 609 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

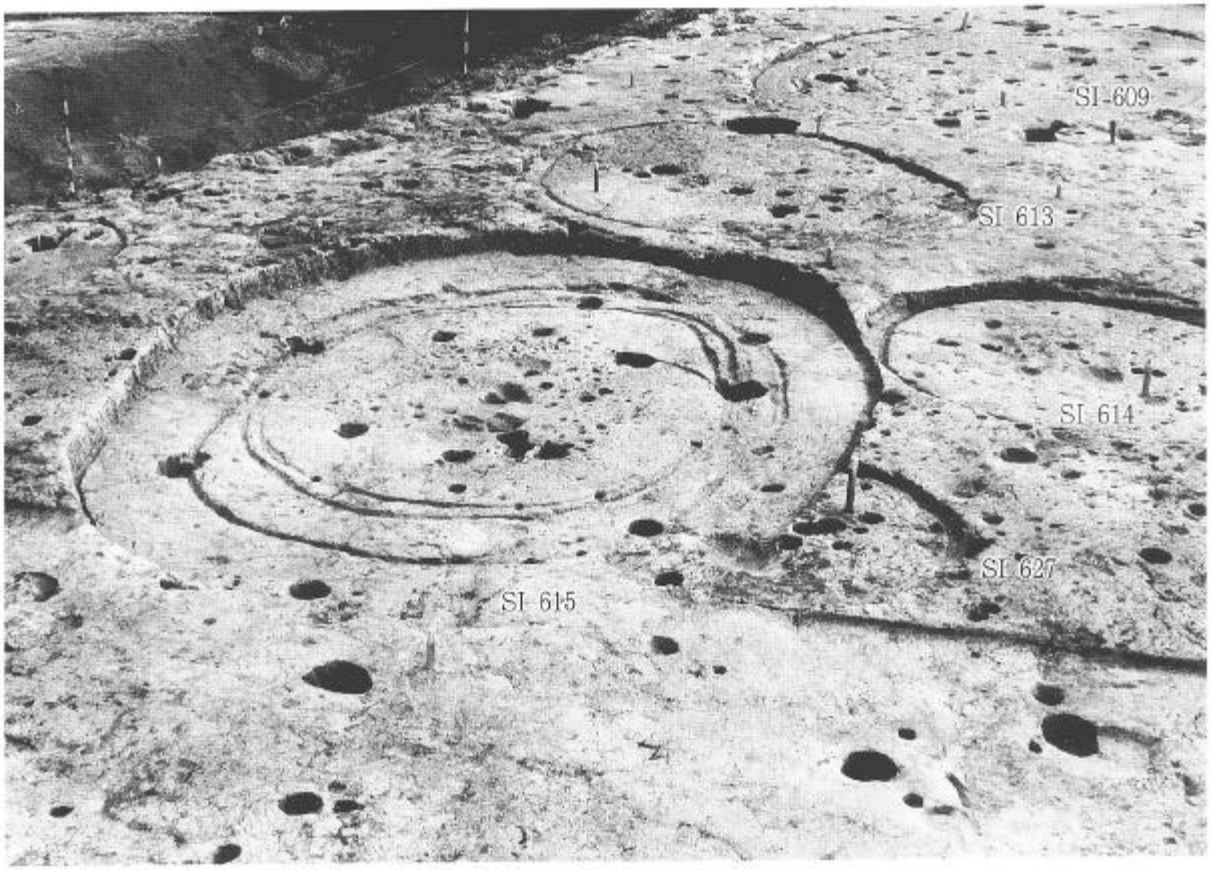
図版42

SI 609 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

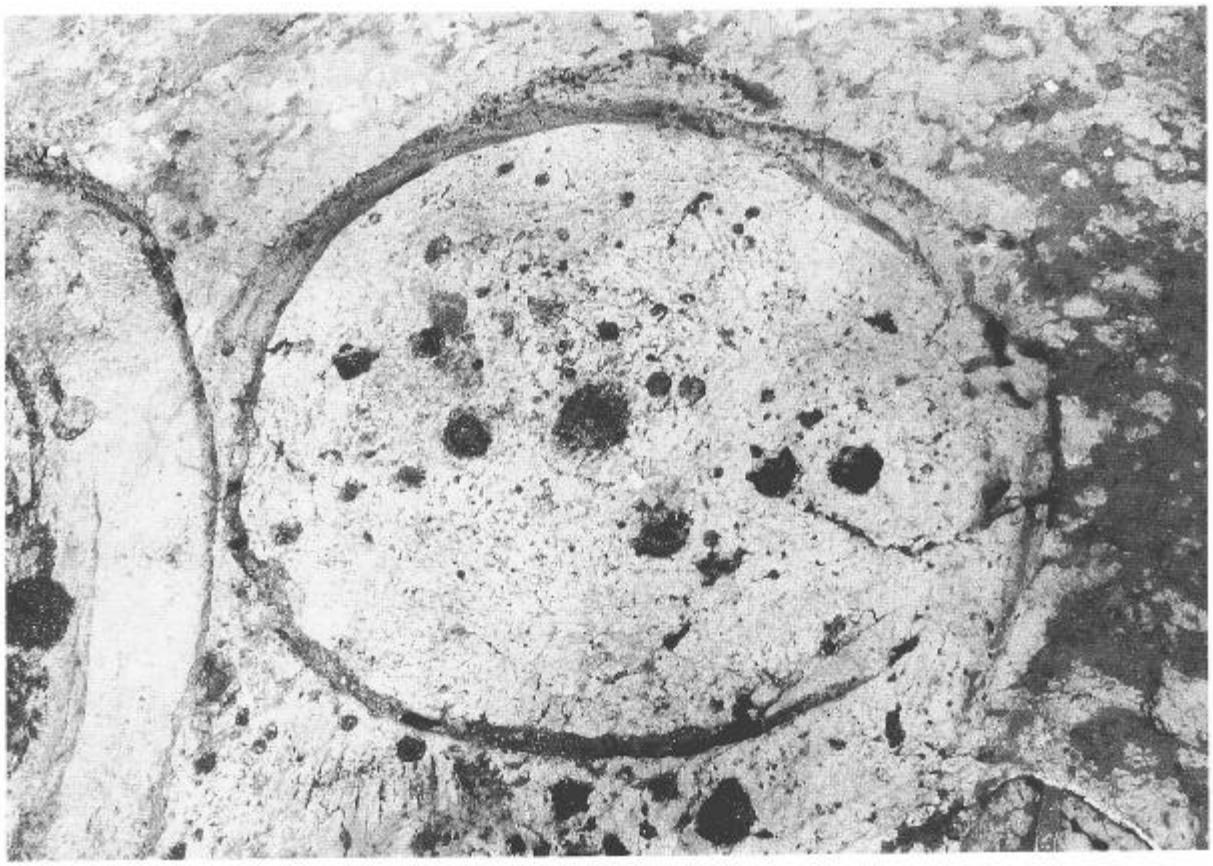
SI 611 竪穴住居跡完掘状況



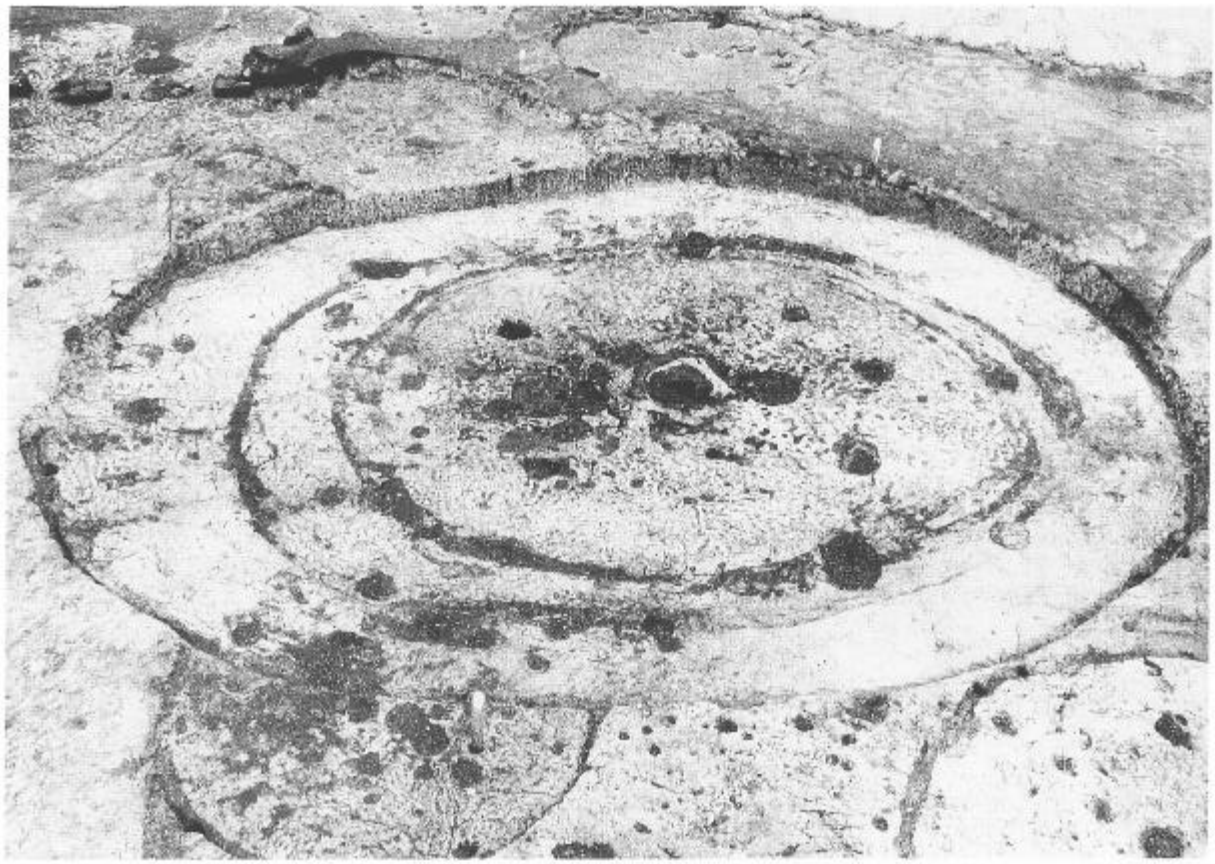
SI 613 竪穴住居跡完掘状況



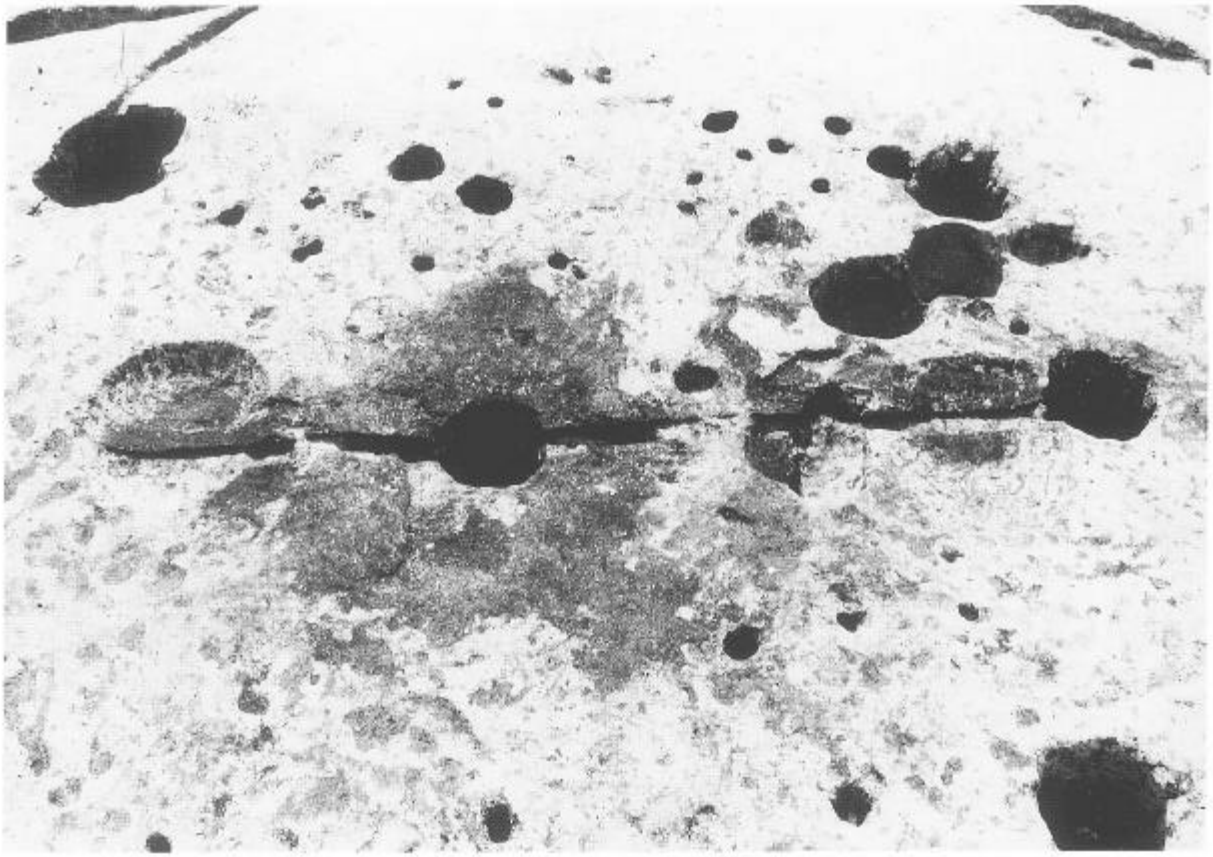
SI 609・613 ～ 615・618・627 竪穴住居跡完掘状況



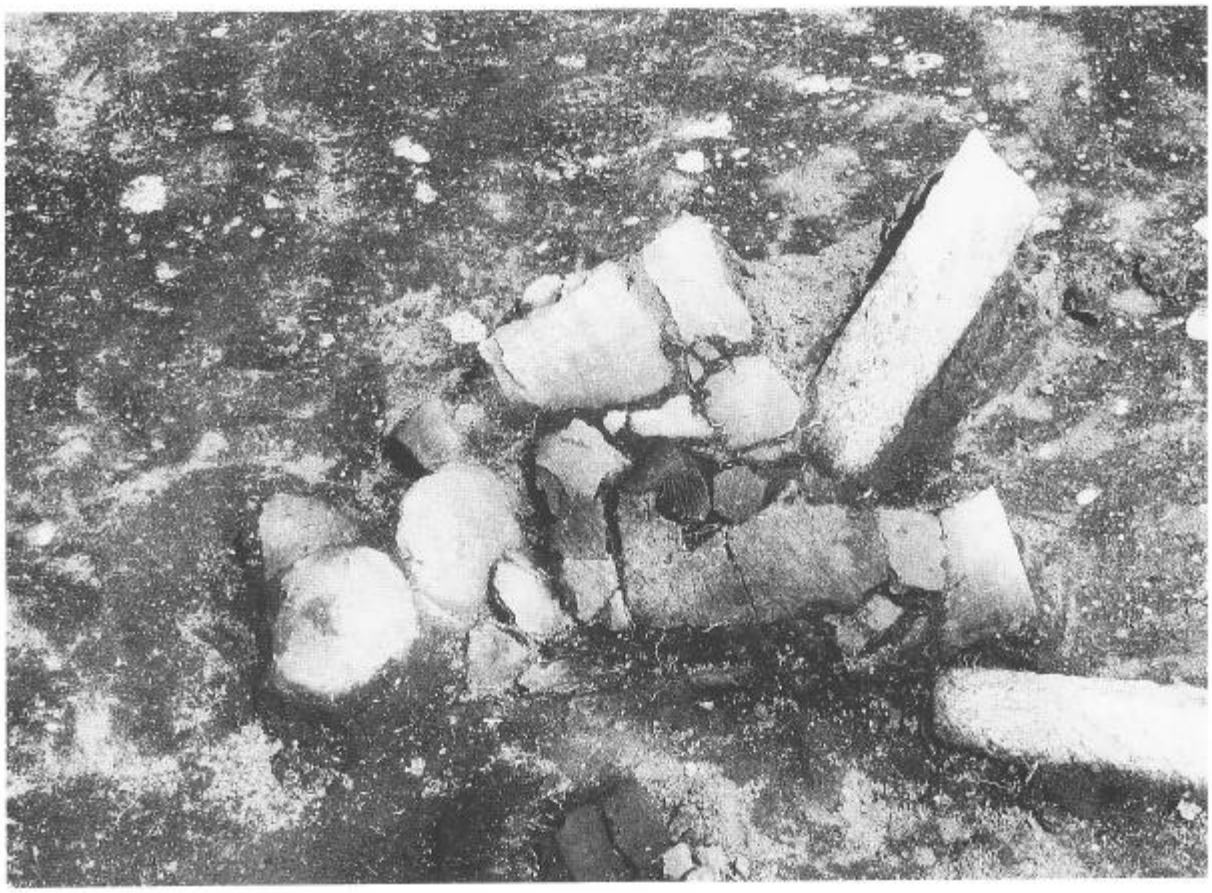
SI 614 竪穴住居跡床面精査状況



SI 615 竪穴住居跡床面精査状況

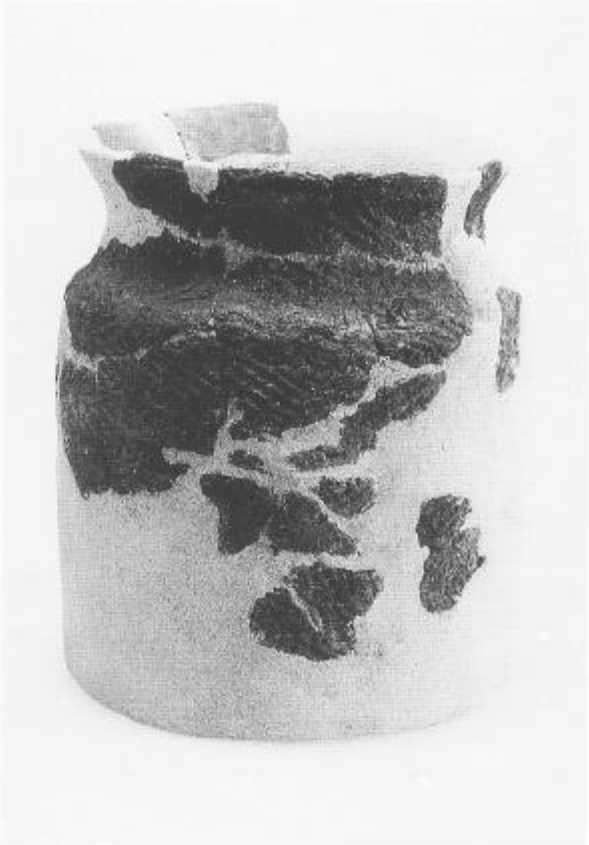


SI 615 竪穴住居跡　炉穴確認状況



SI 615 竪穴住居跡埋土中の土器出土状況

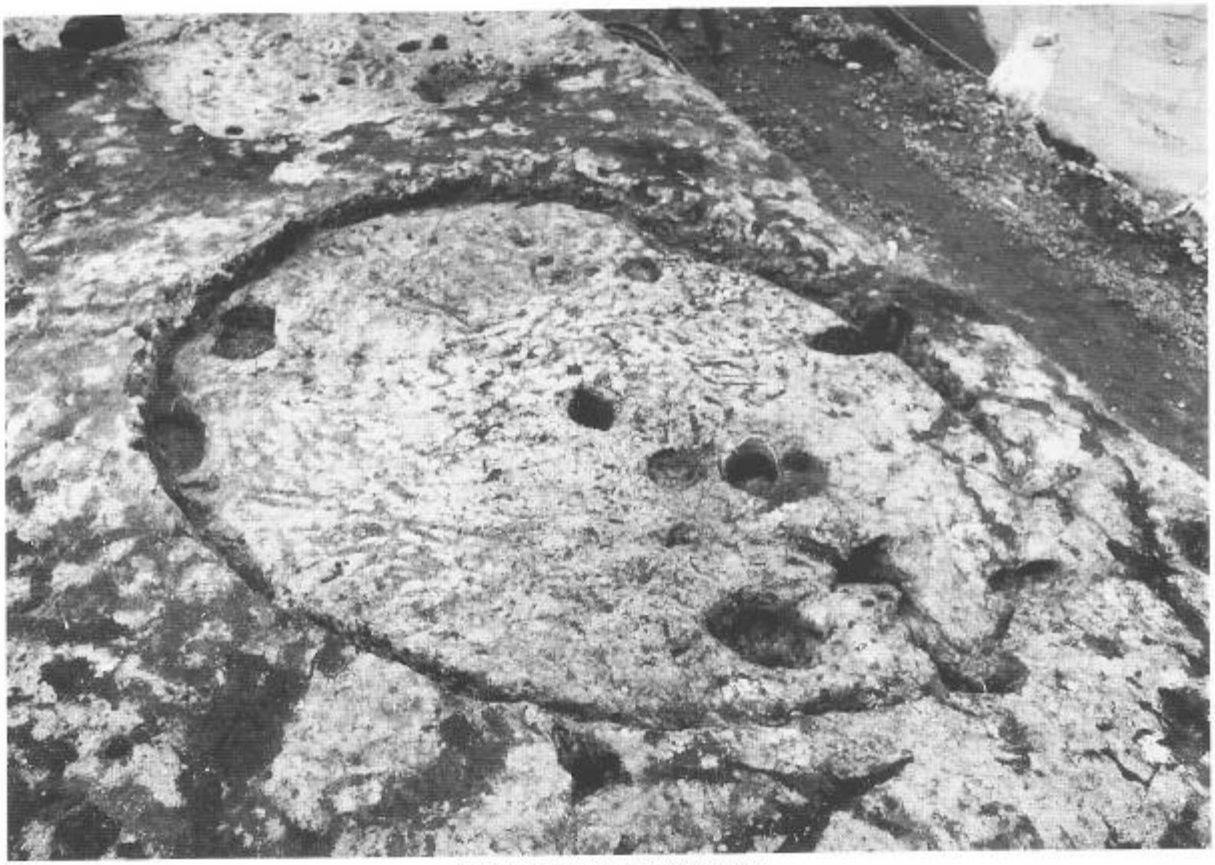
SI 615 竪穴住居跡出土土器（集合写真）



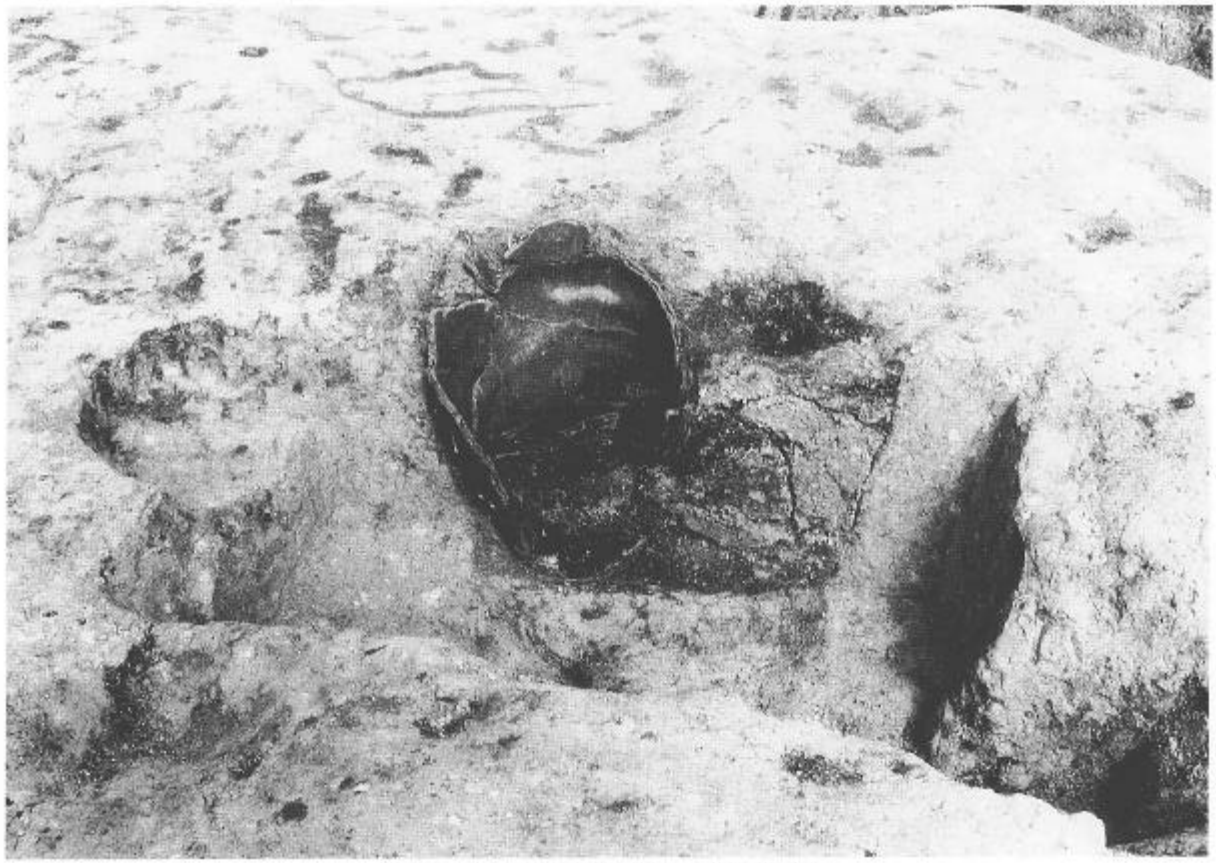
SI 615 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

図版48

SI 615 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）



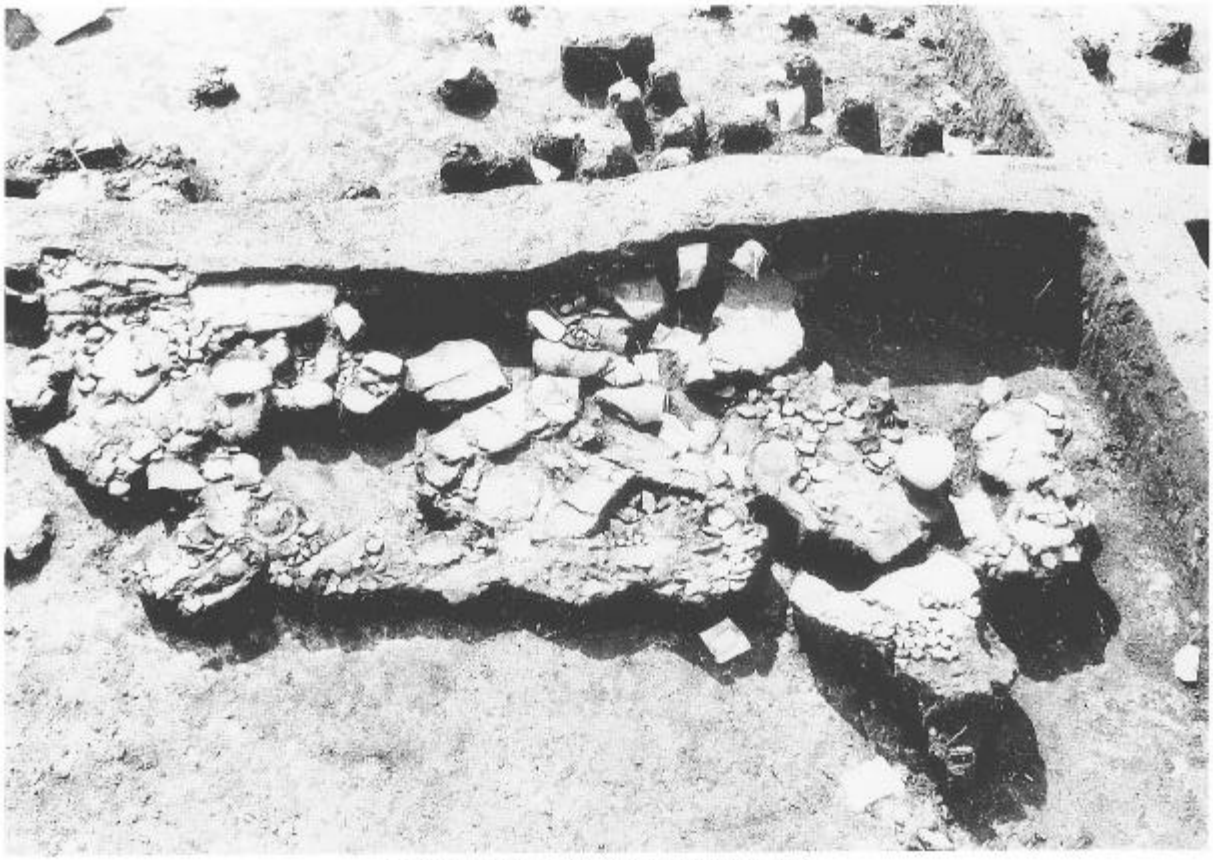
SI 617 竪穴住居跡完掘状況



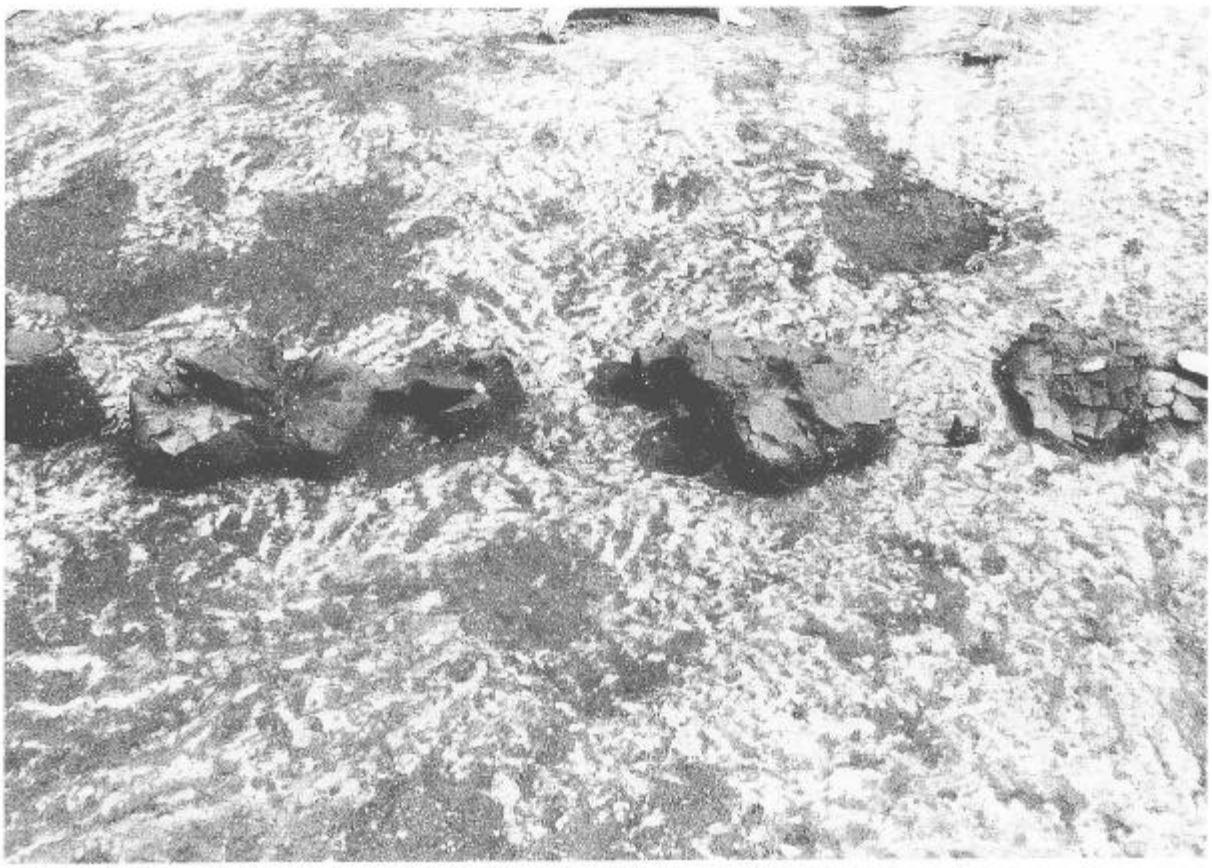
SI 617 竪穴住居跡床面埋設土器確認状況

SI 617 竪穴住居跡床面埋設土器

SI 619 竪穴住居跡完掘状況

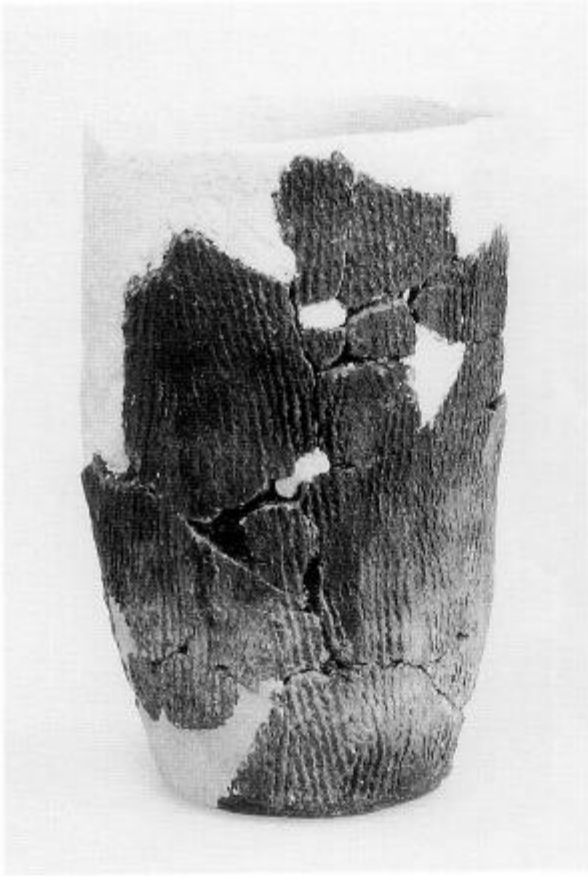


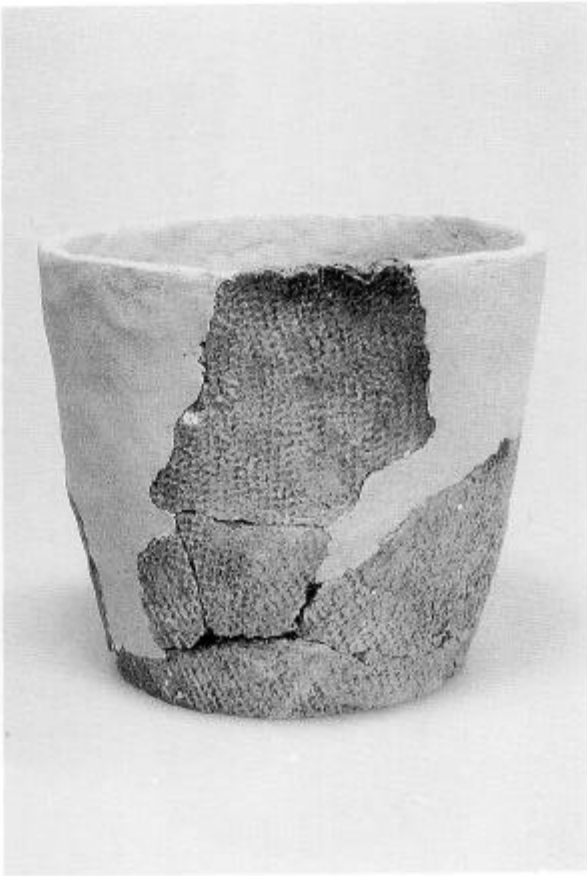
SI 619 竪穴住居跡埋土中土器出土状況



SI 619 竪穴住居跡土層断面ベルト内の土器出土状況

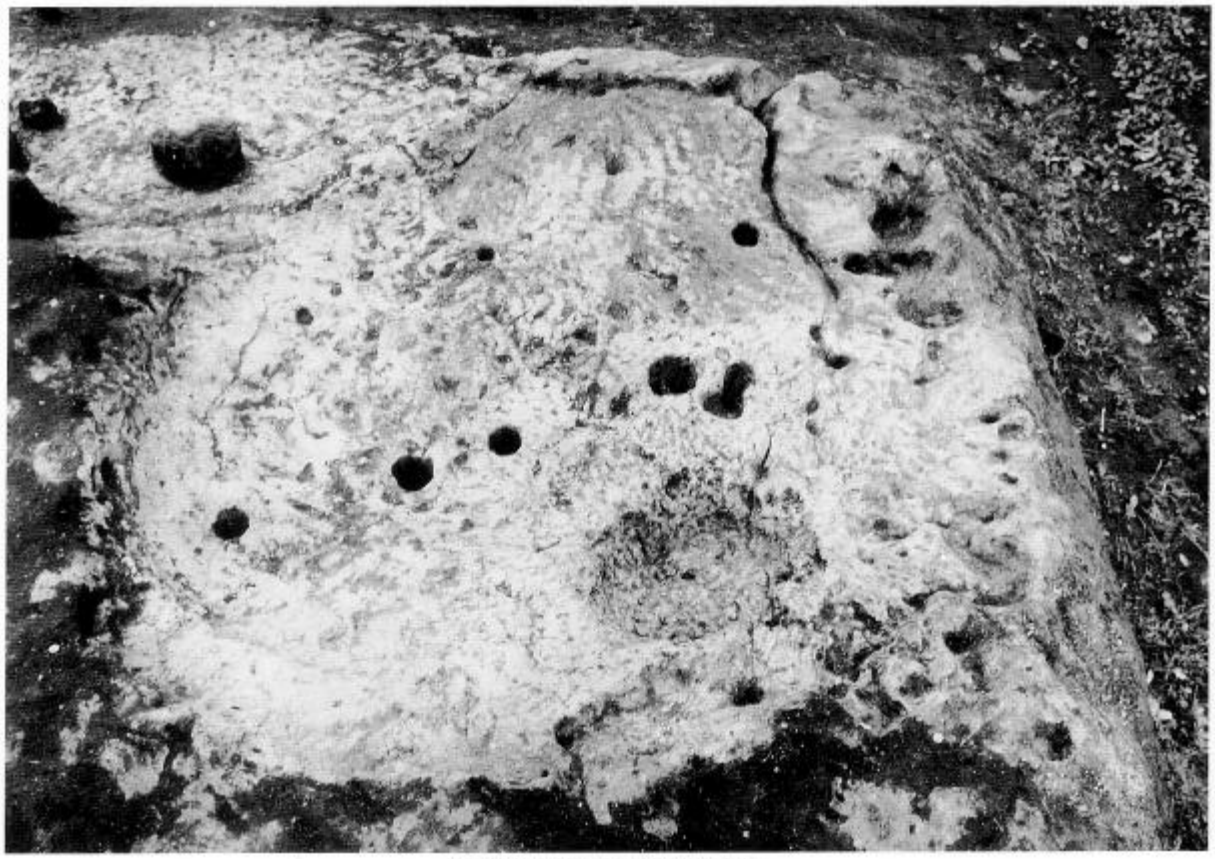
SI 619 竪穴住居跡出土土器（集合写真）





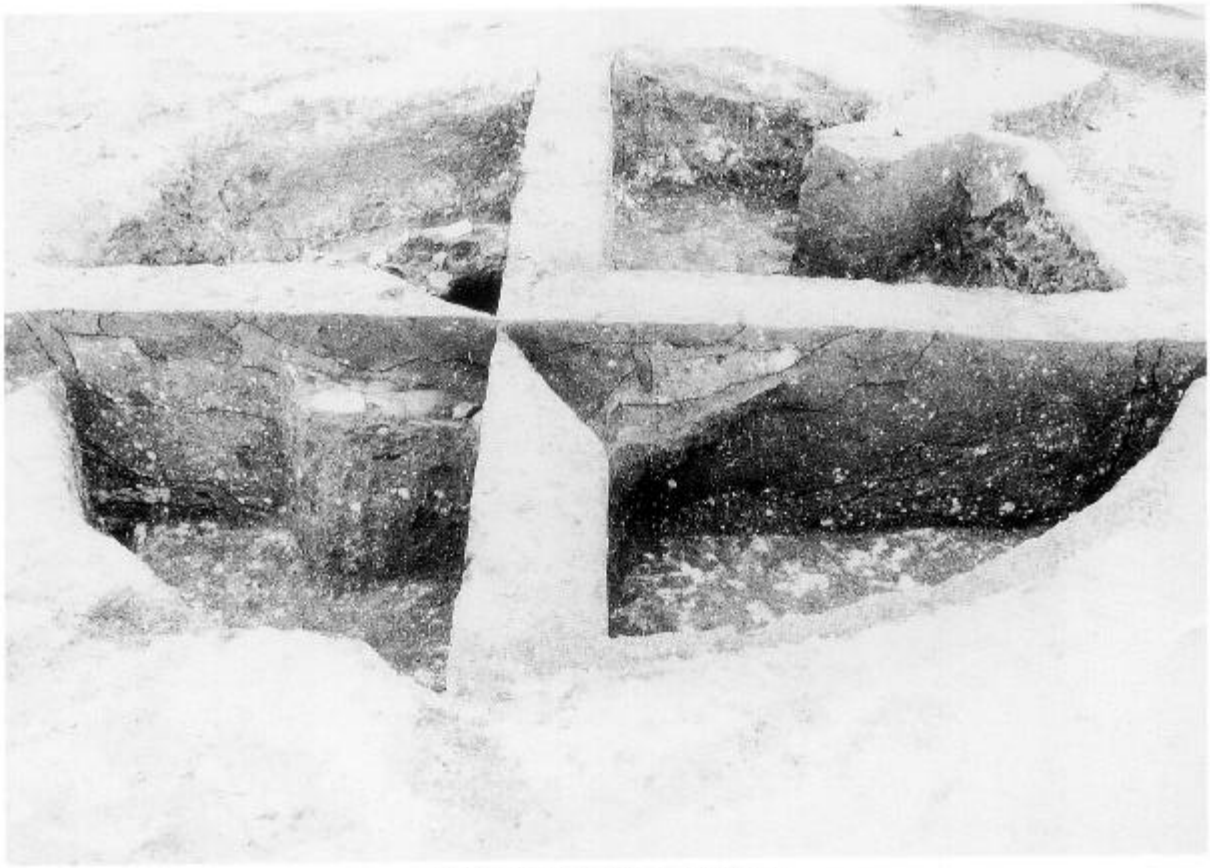
SI 619 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

SI 619 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）



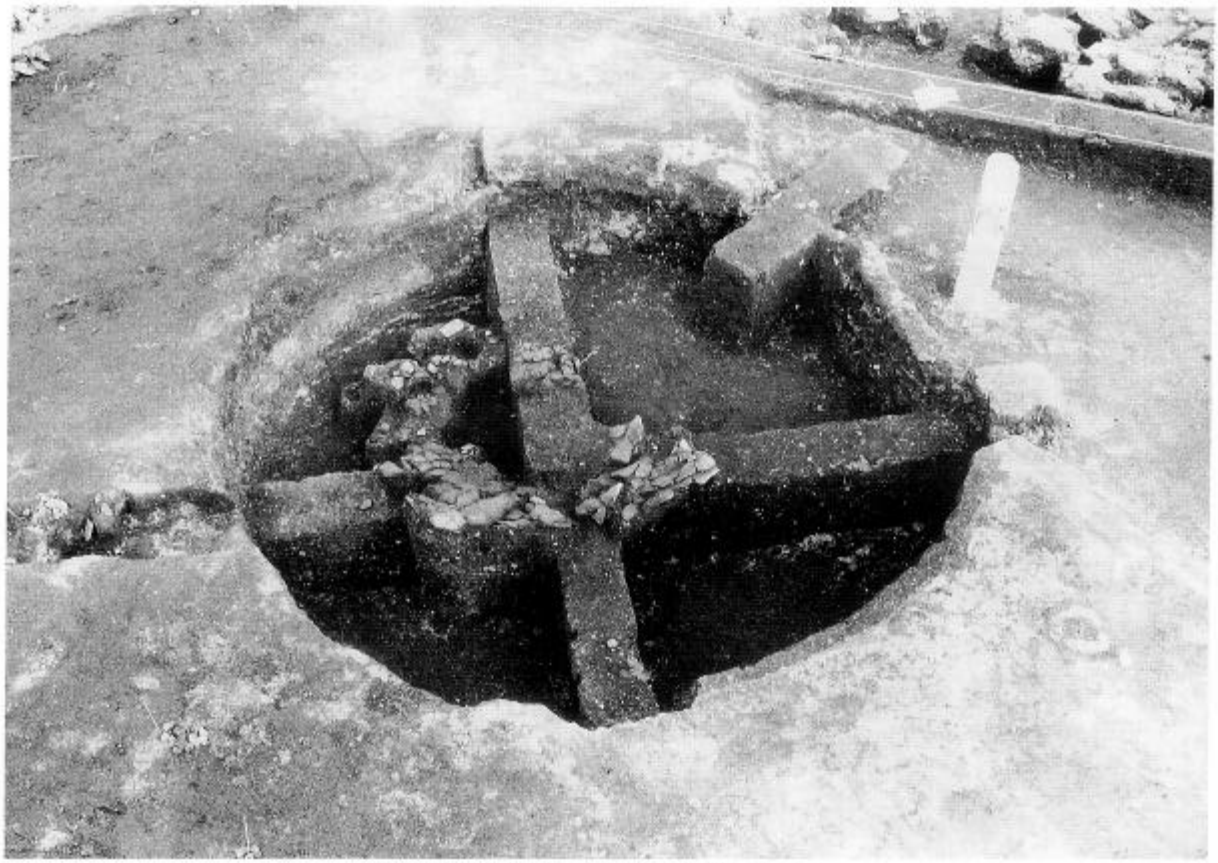
SI 622 竪穴住居跡完掘状況

図版54



SI 628 竪穴住居跡埋土堆積状況

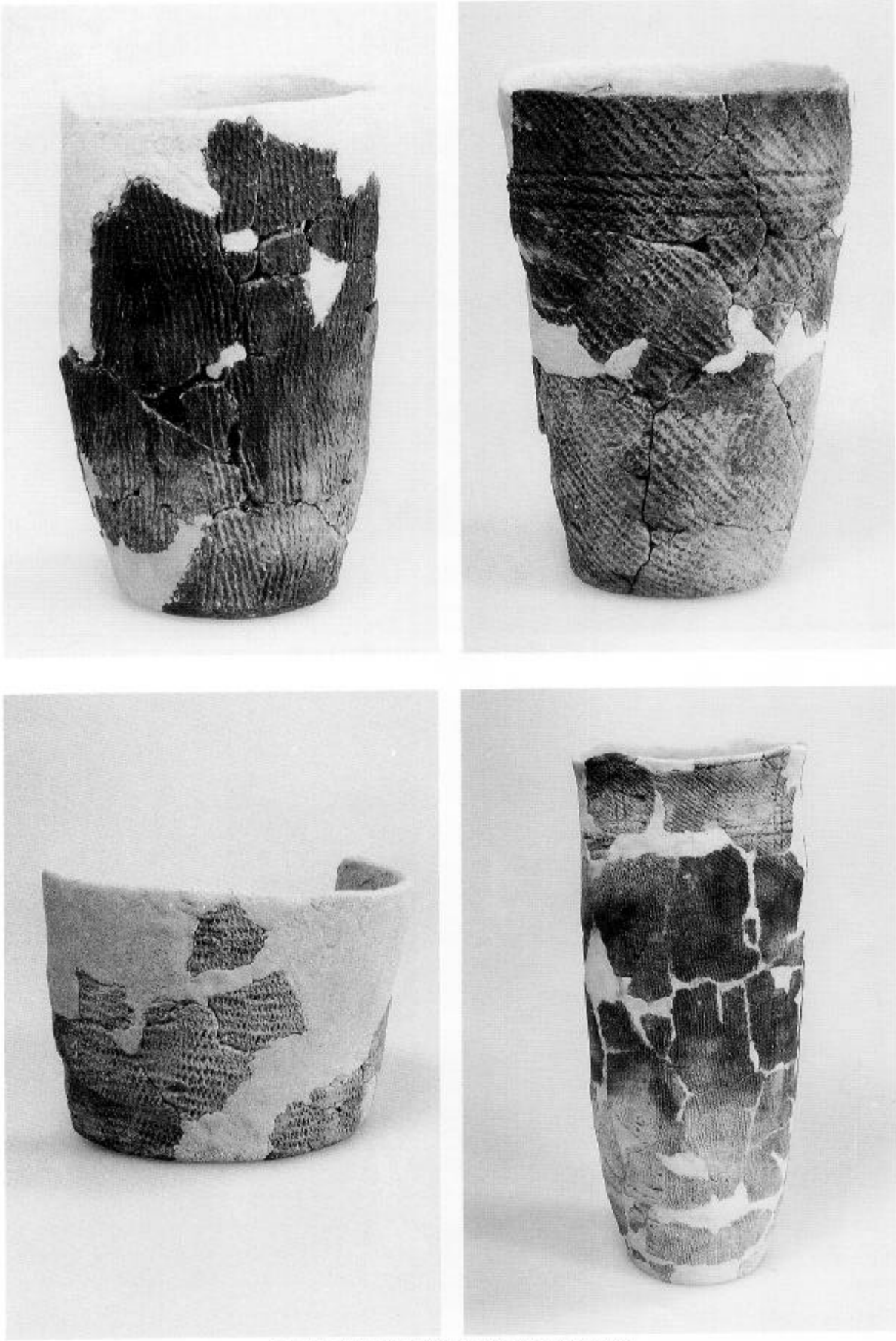
SI 628 竪穴住居跡完掘状況



SI 628 竪穴住居跡埋土中土器出土状況

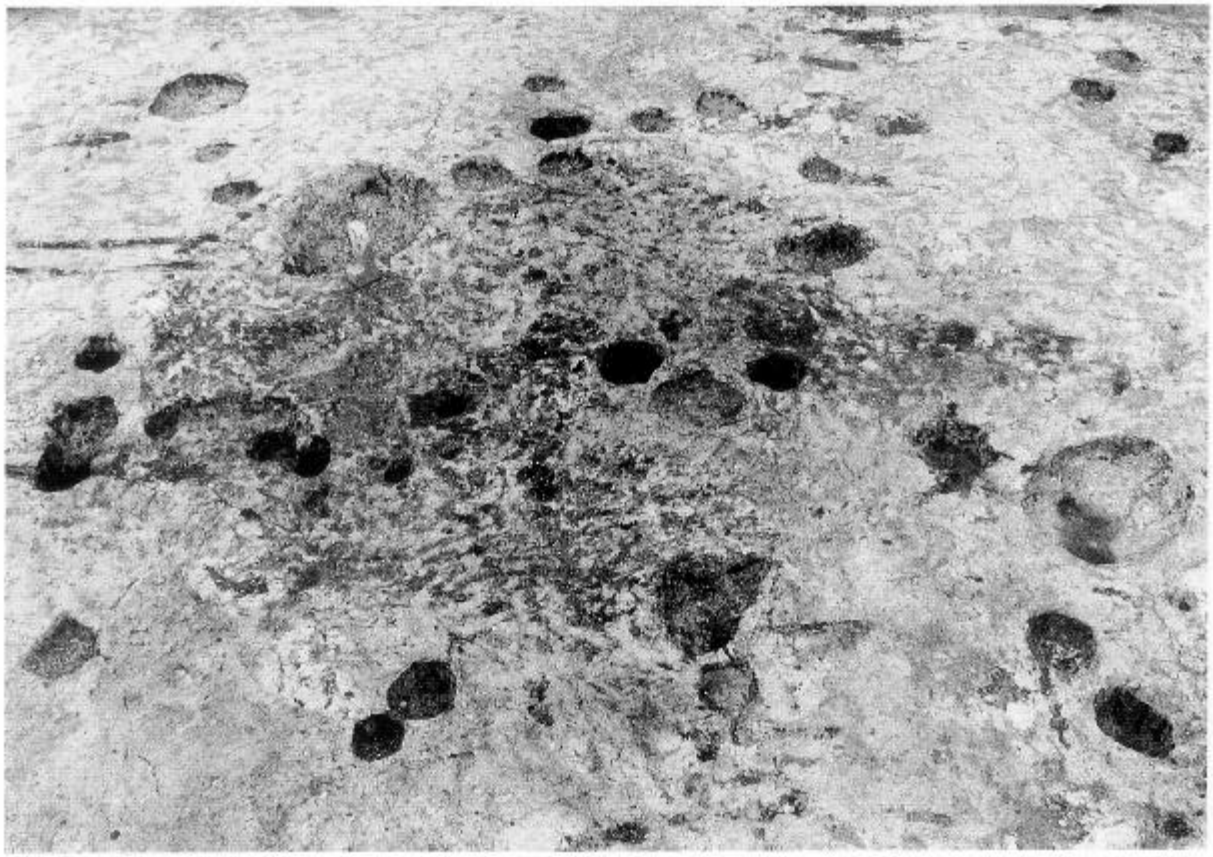
SI 628 竪穴住居跡出土土器（集合写真）

図版56

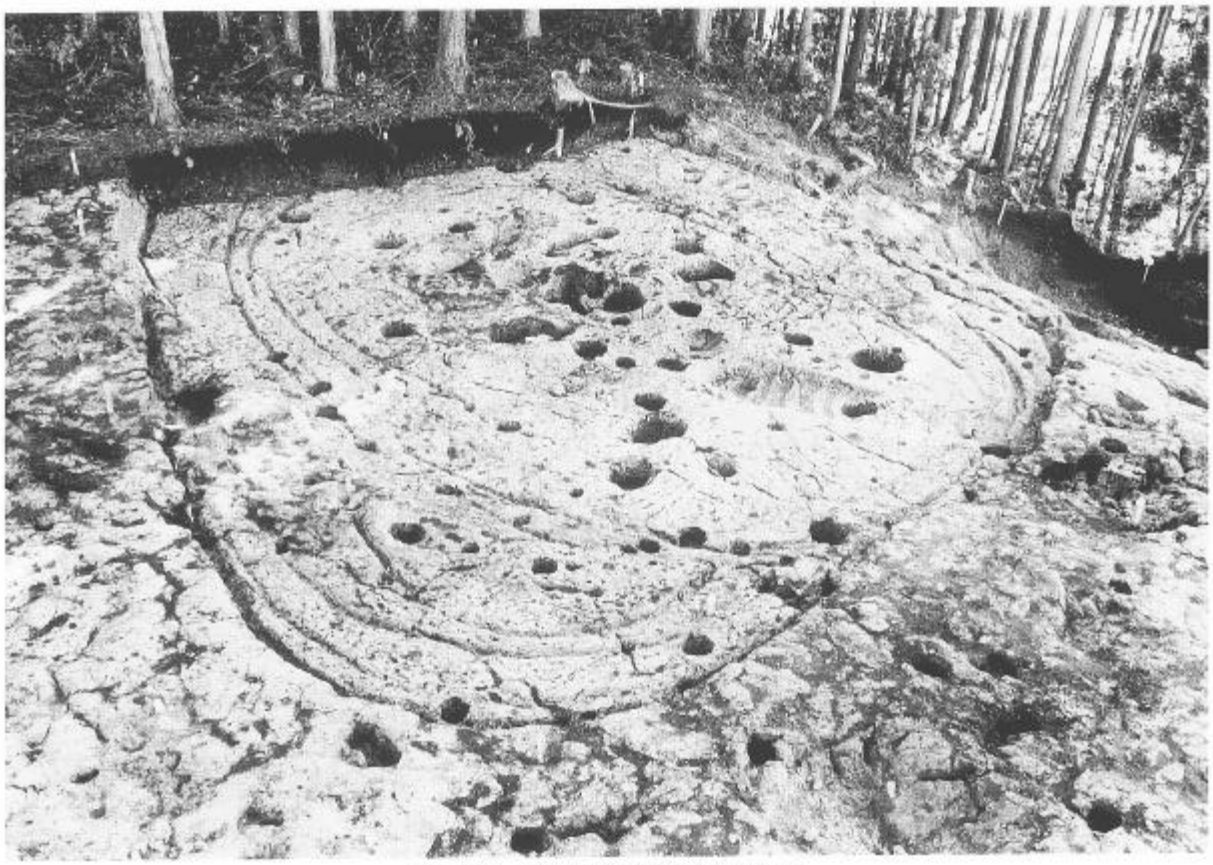


SI 628 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

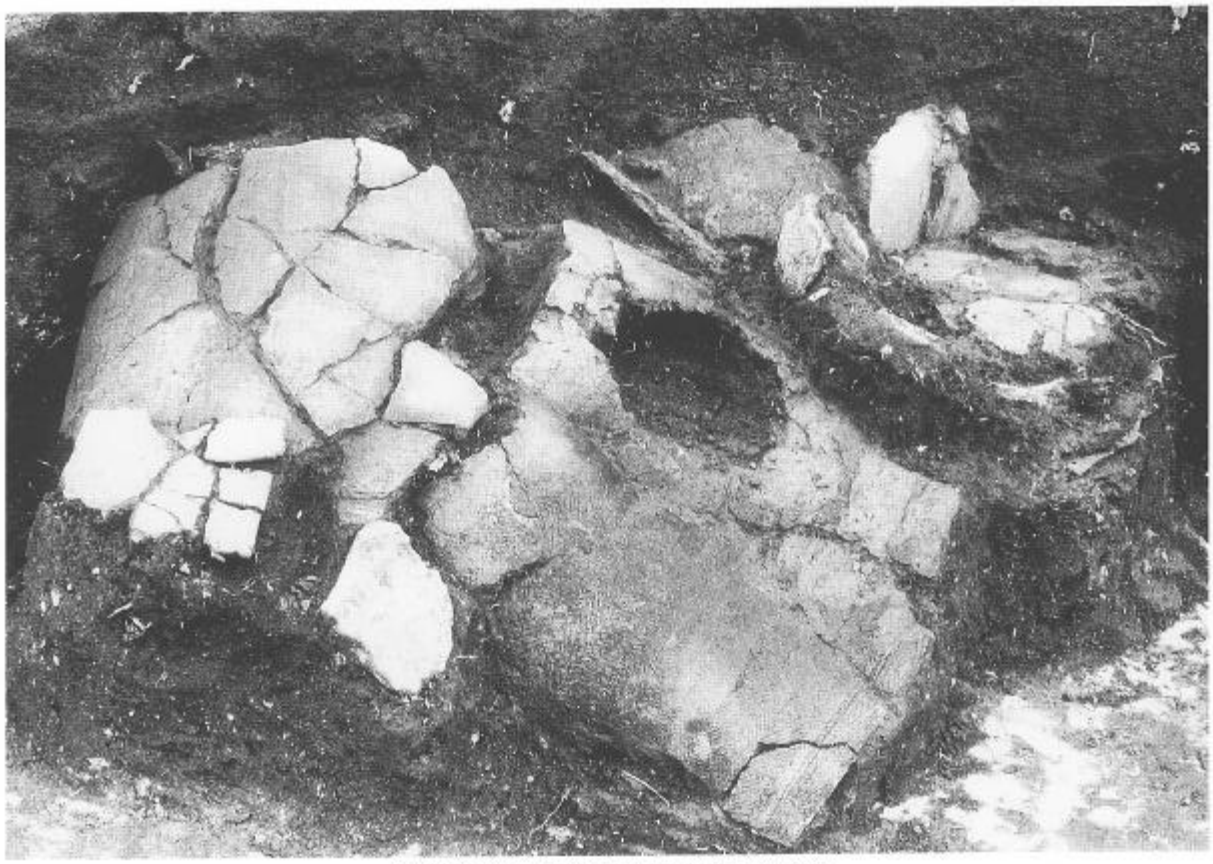
SI 628 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）



SI 632 竪穴住居跡完掘状況



SI 638・751 竪穴住居跡完掘状況

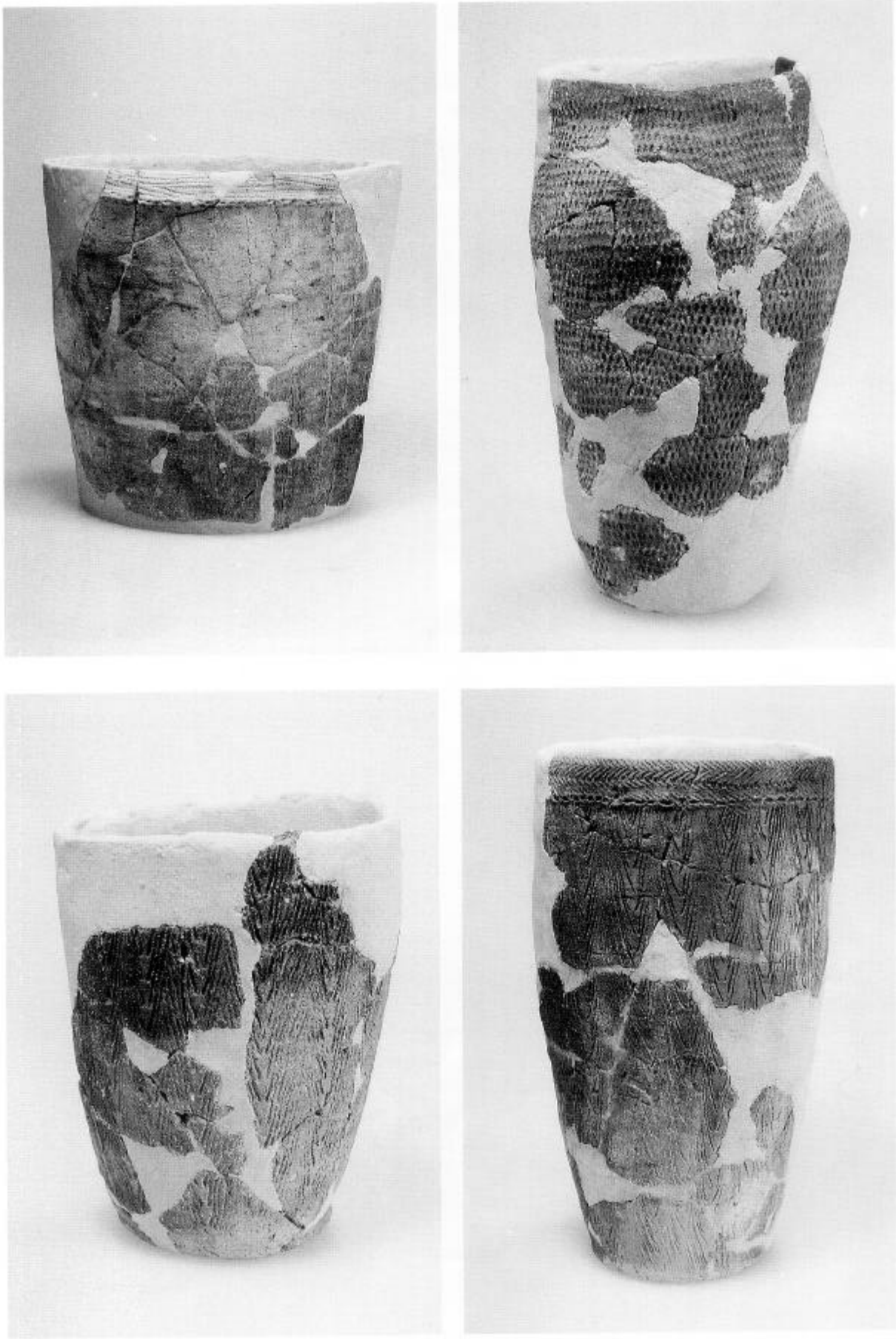


SI 638 竪穴住居跡埋土中土器出土状況

SI 638 竪穴住居跡埋土中土器出土状況

SI 638 竪穴住居跡出土土器（集合写真）

図版60

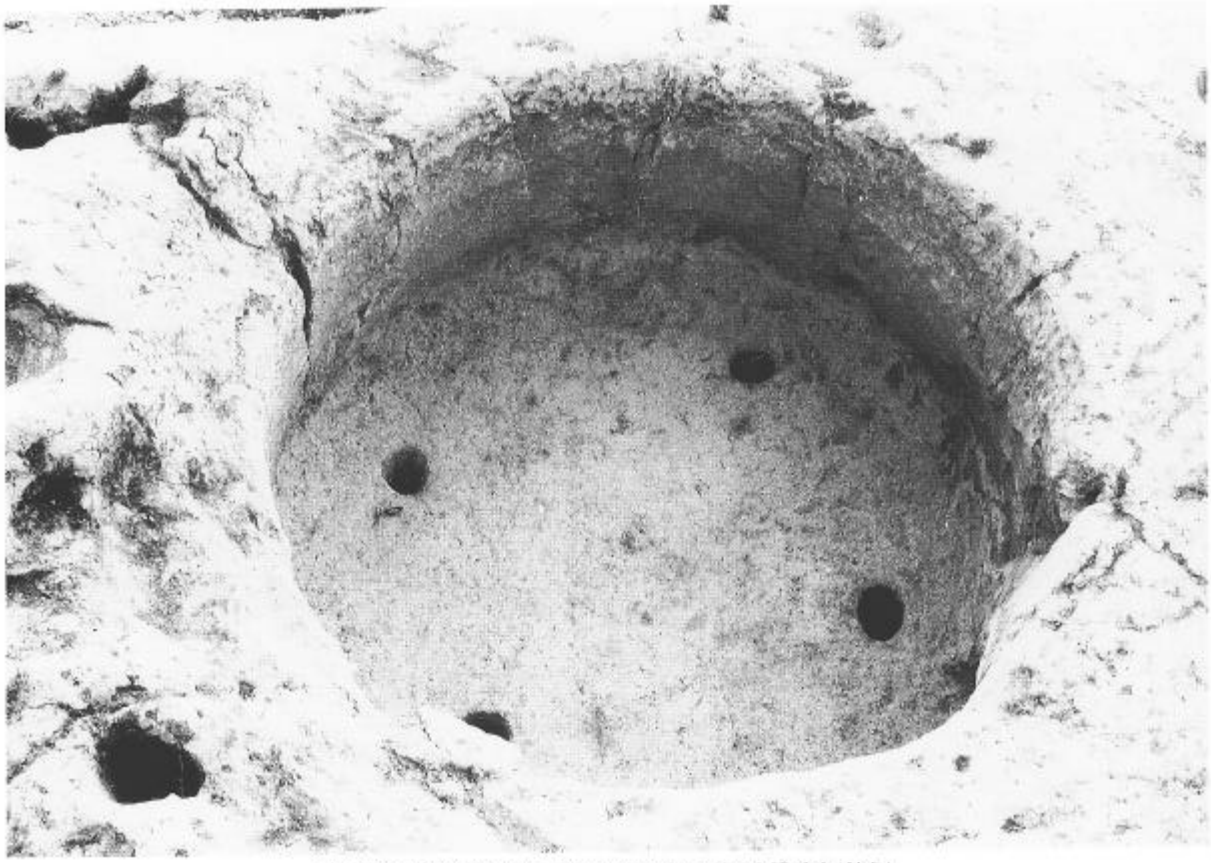


SI 638 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

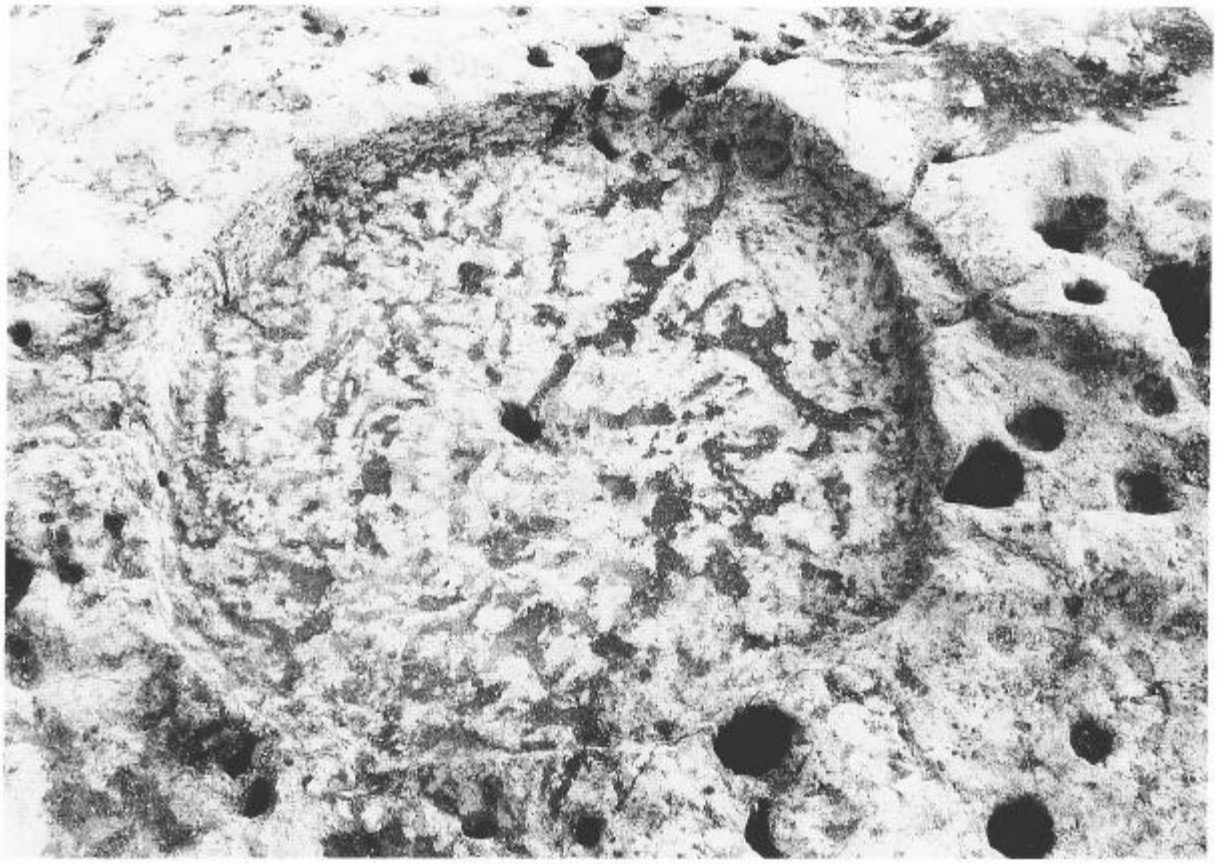
SI 638 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）

図版62

SI 658 竪穴住居跡完掘状況

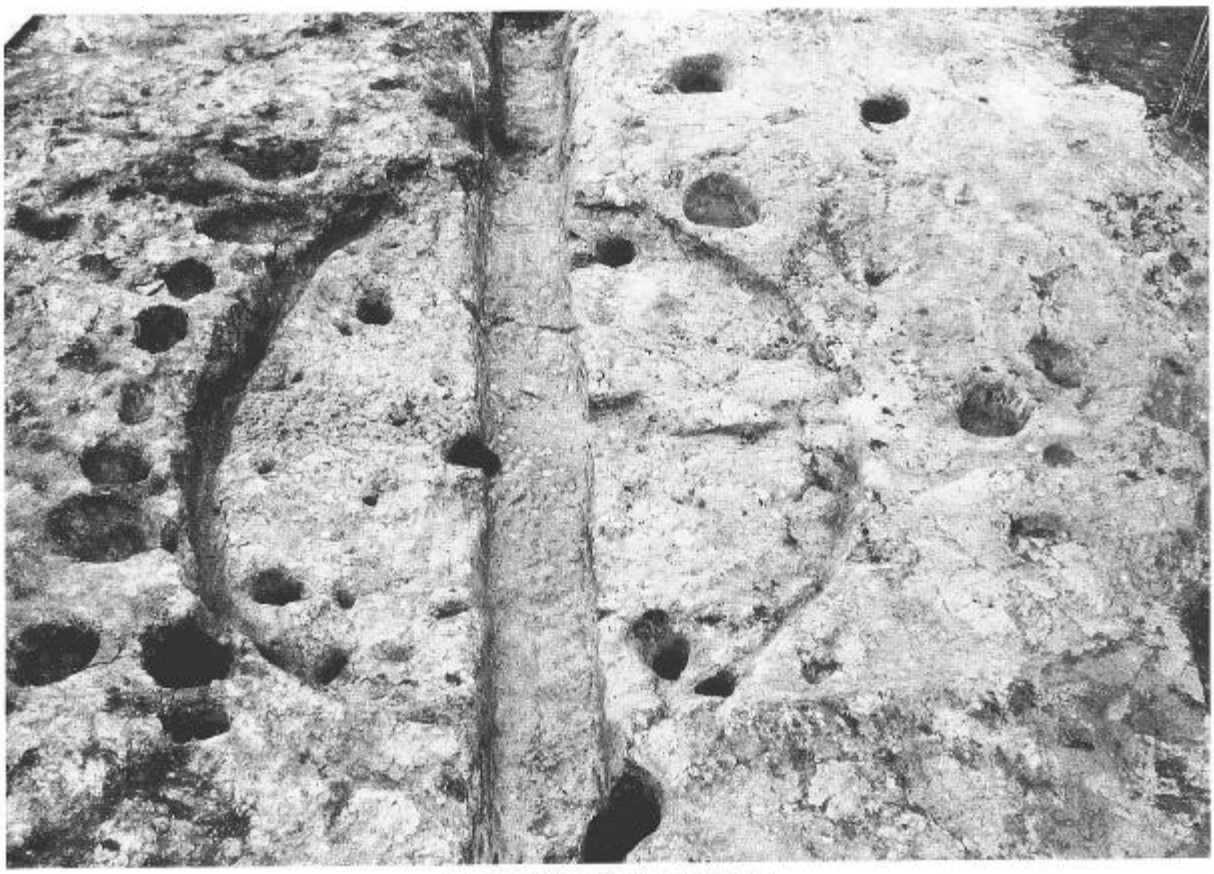


SI 661 竪穴住居跡・SKI 679 竪穴状遺構完掘状況

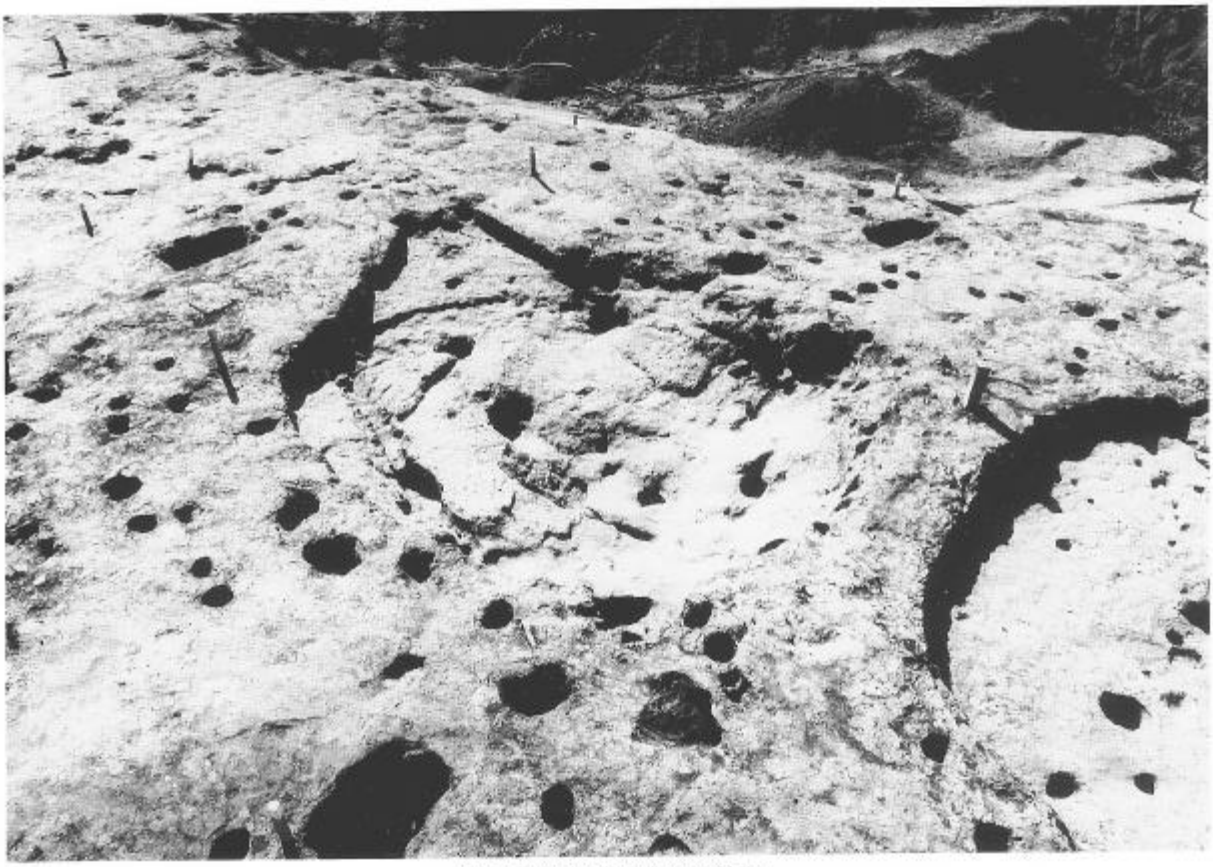


SI 670 竪穴住居跡完掘状況

SI 674 竪穴住居跡・SKF 732・733 フラスコ状土坑完掘状況

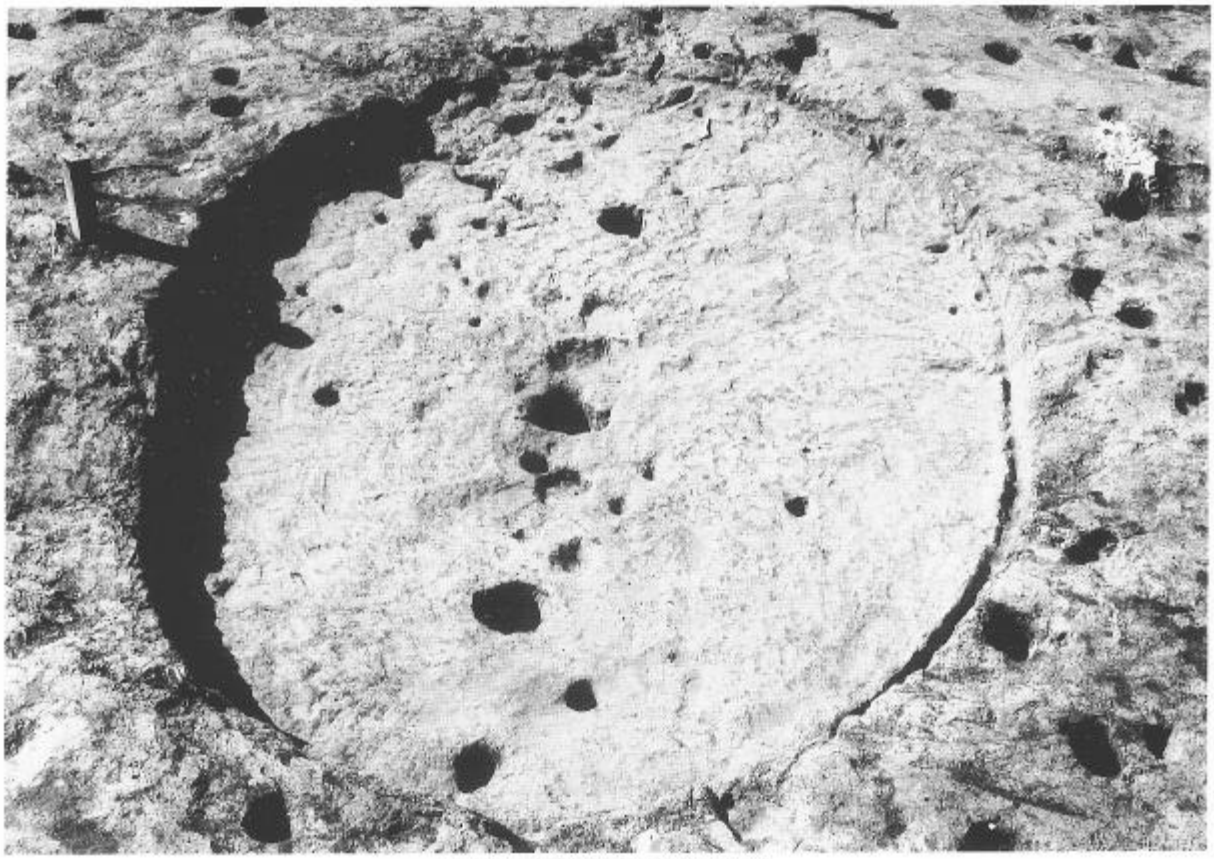


SI 946 竪穴住居跡完掘状況

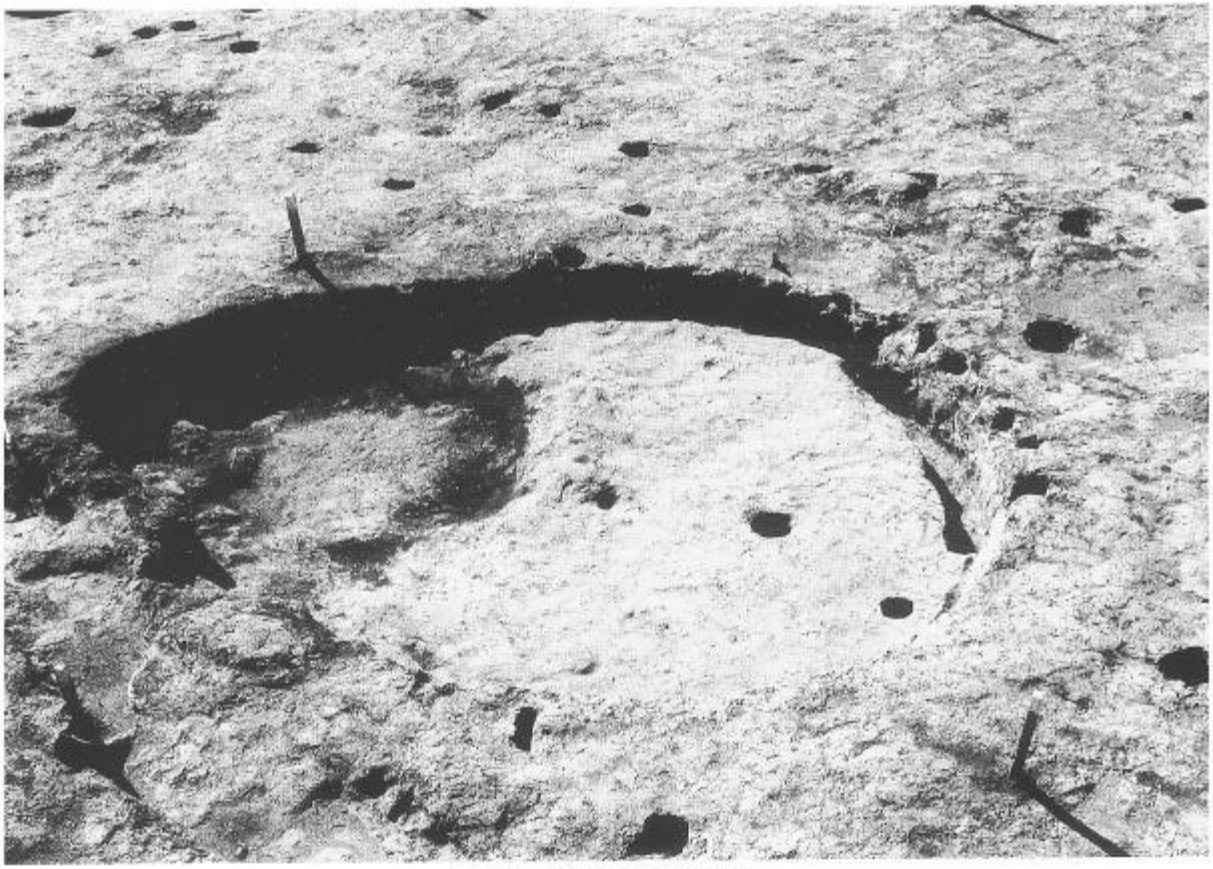


SI 958 竪穴住居跡完掘状況

SI 958 竪穴住居跡出土土器

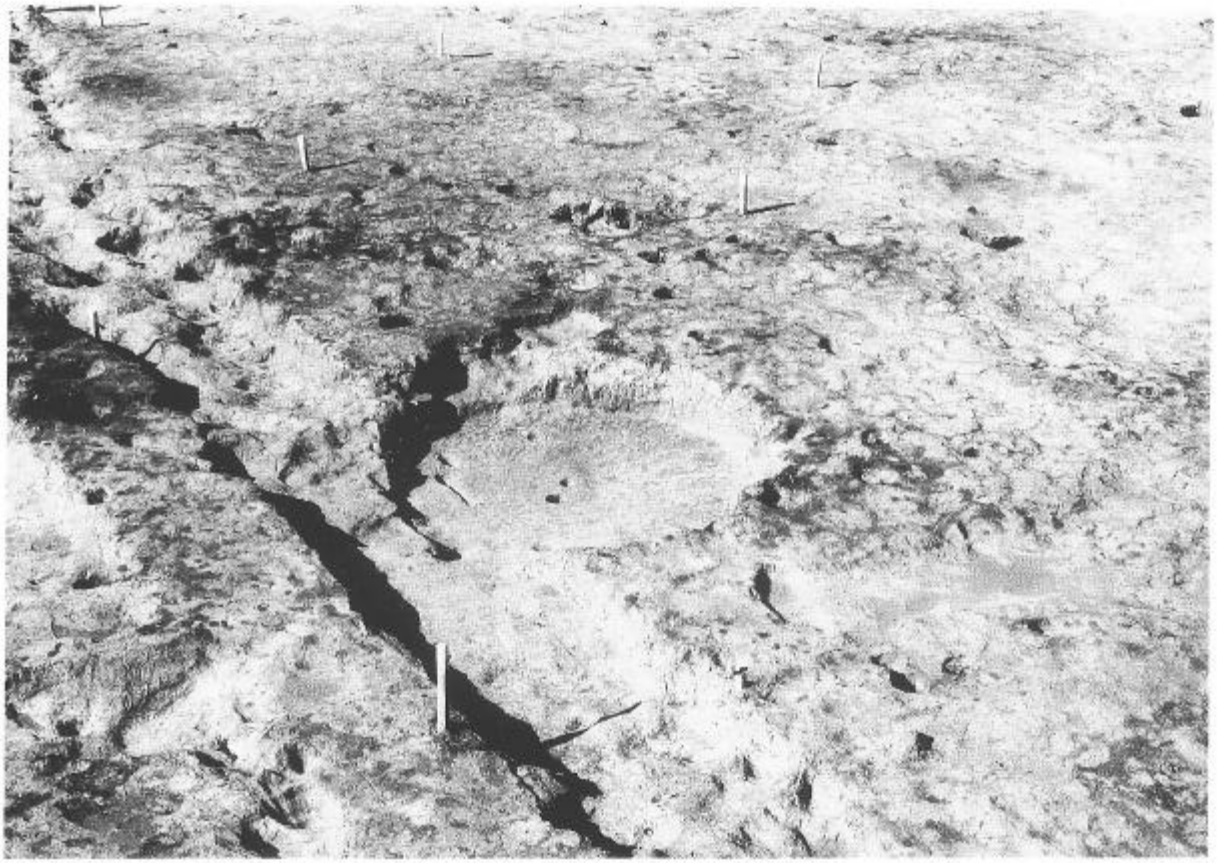


SI 959 竪穴住居跡完掘状況

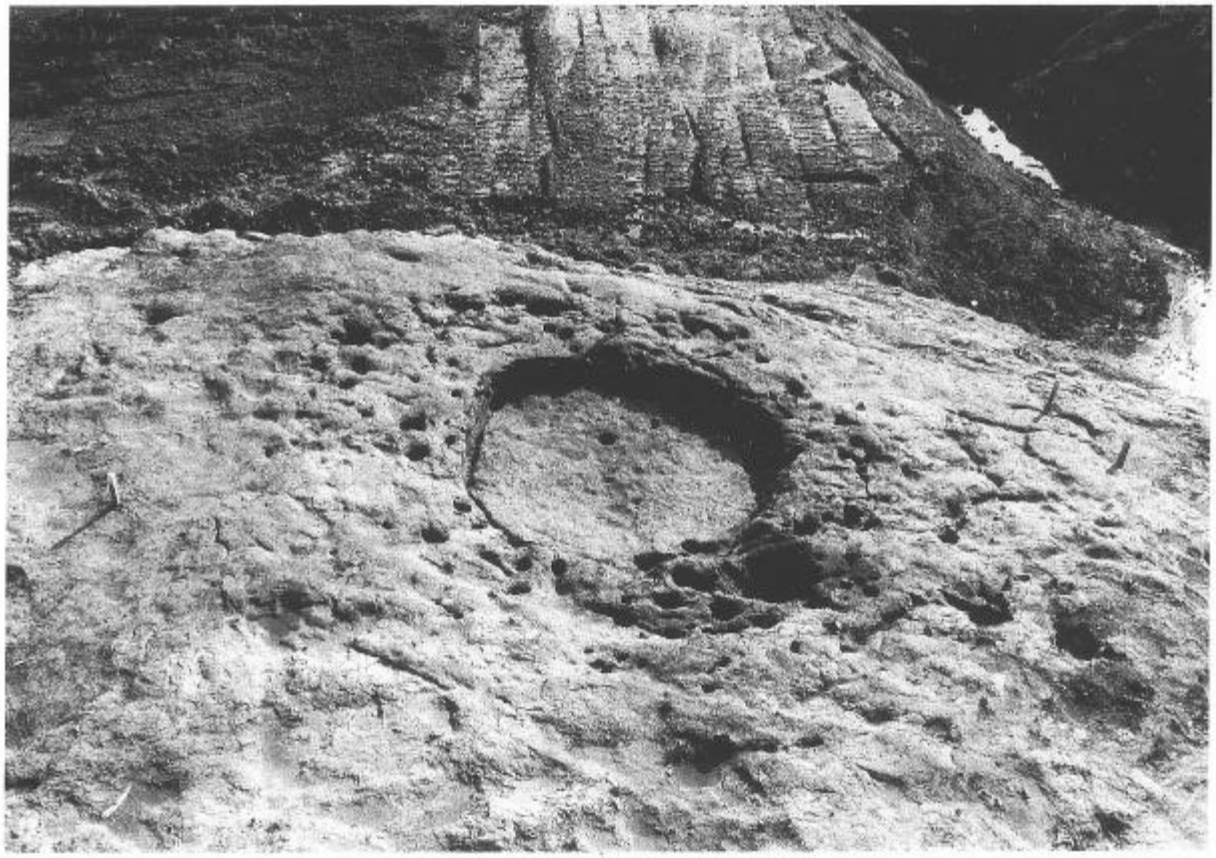


SI 961 竪穴住居跡完掘状況

SI 961 竪穴住居跡と風倒木痕の重複状況



SI 970 竪穴住居跡完掘状況

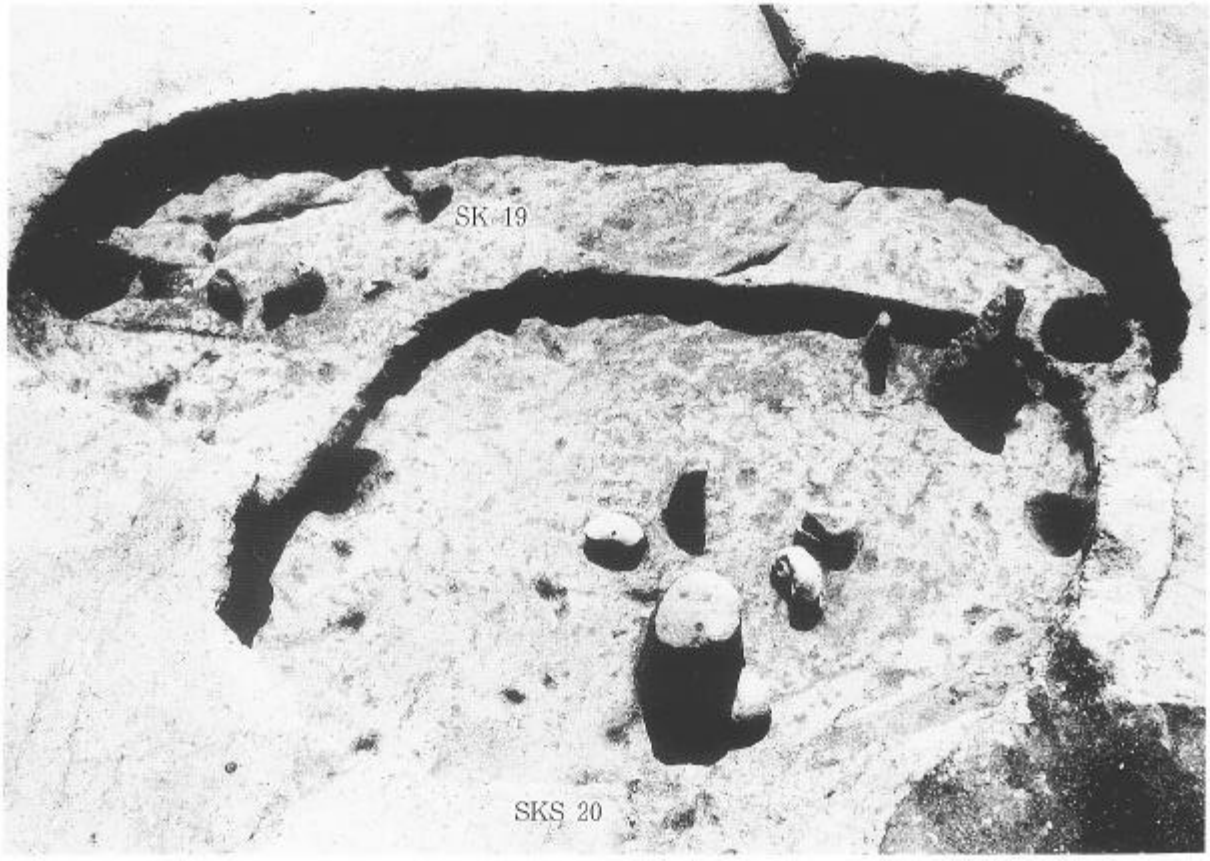


SI 962・1002 竪穴住居跡完掘状況

図版68

SI 967 竪穴住居跡に貼床して、SI1002 竪穴住居をつくり土器を埋設した状況

SI 1002 竪穴住居跡床面埋設土器

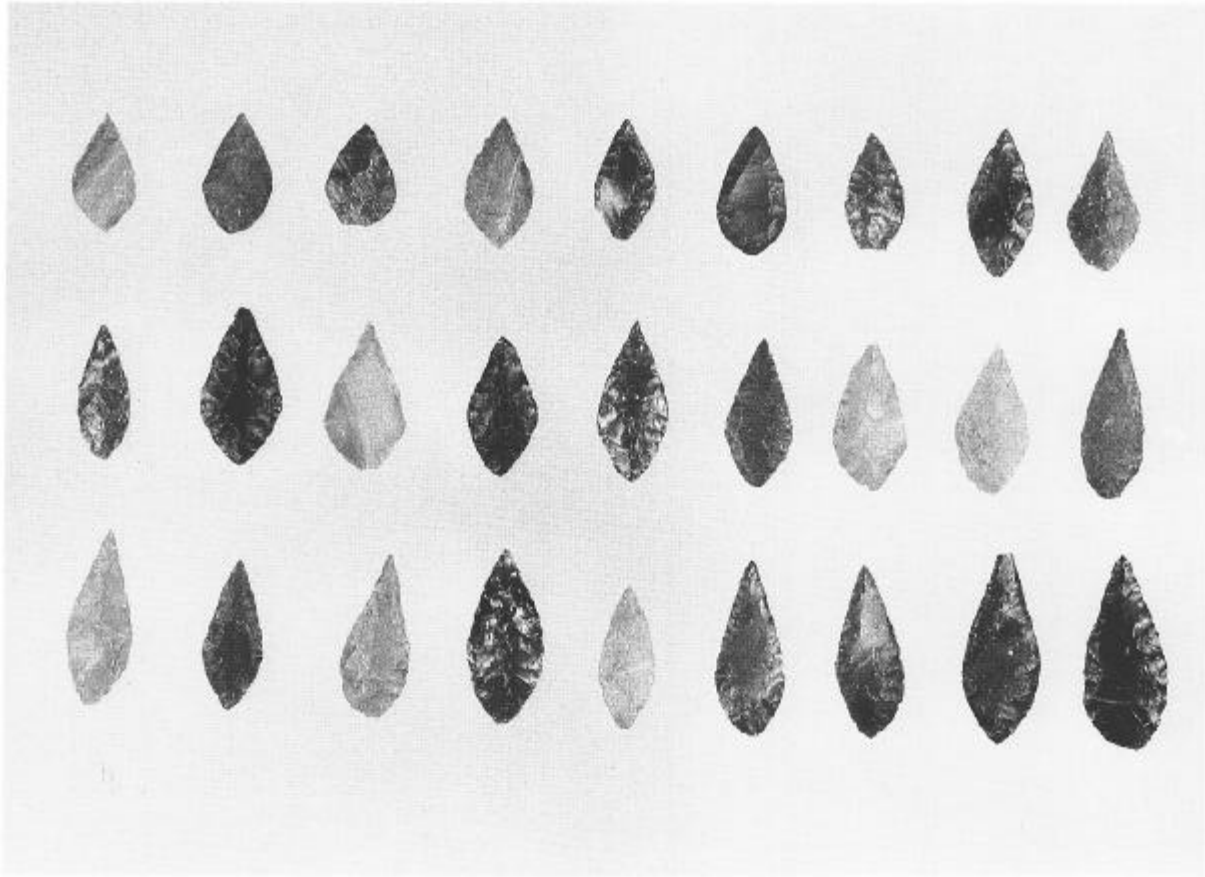


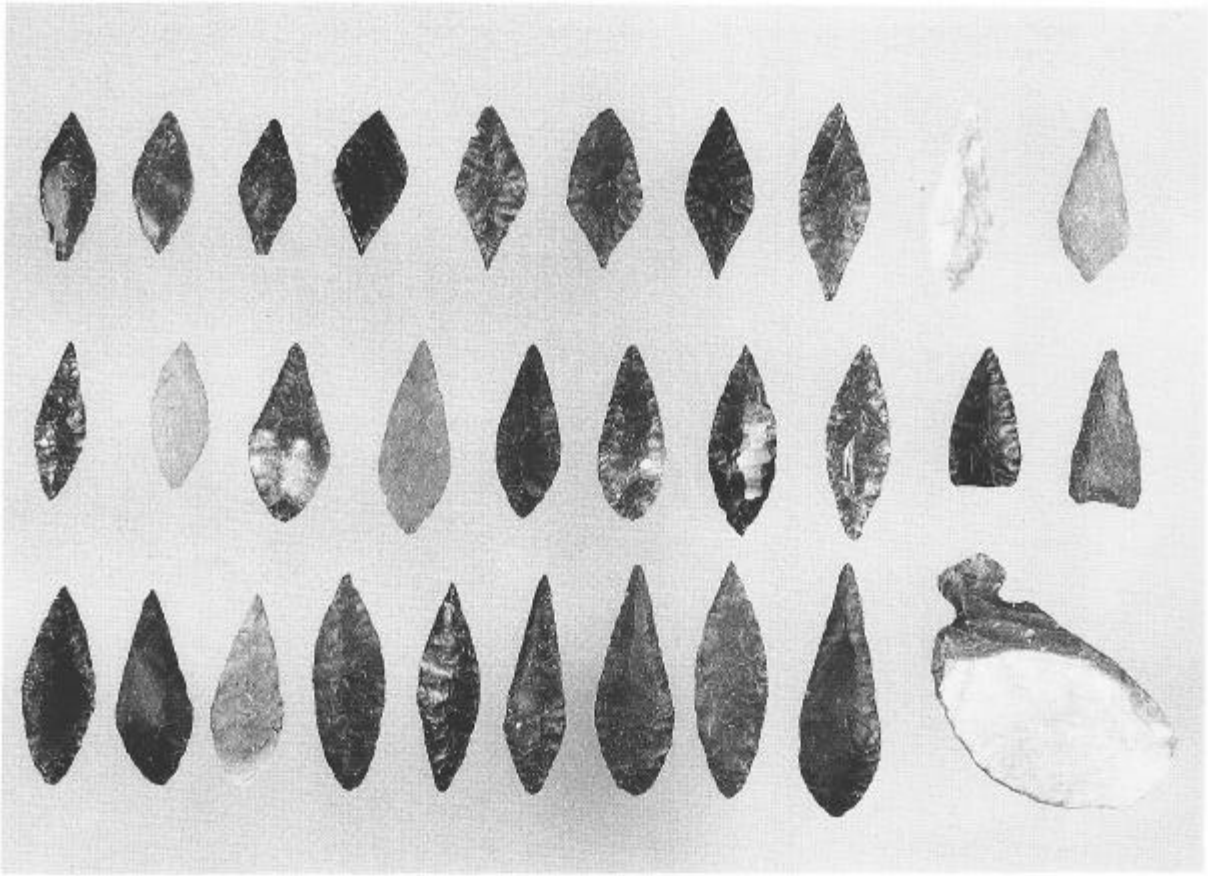
SK 19土坑とSKS20土壙墓完掘状況

SKS 71 土壙墓出土土器

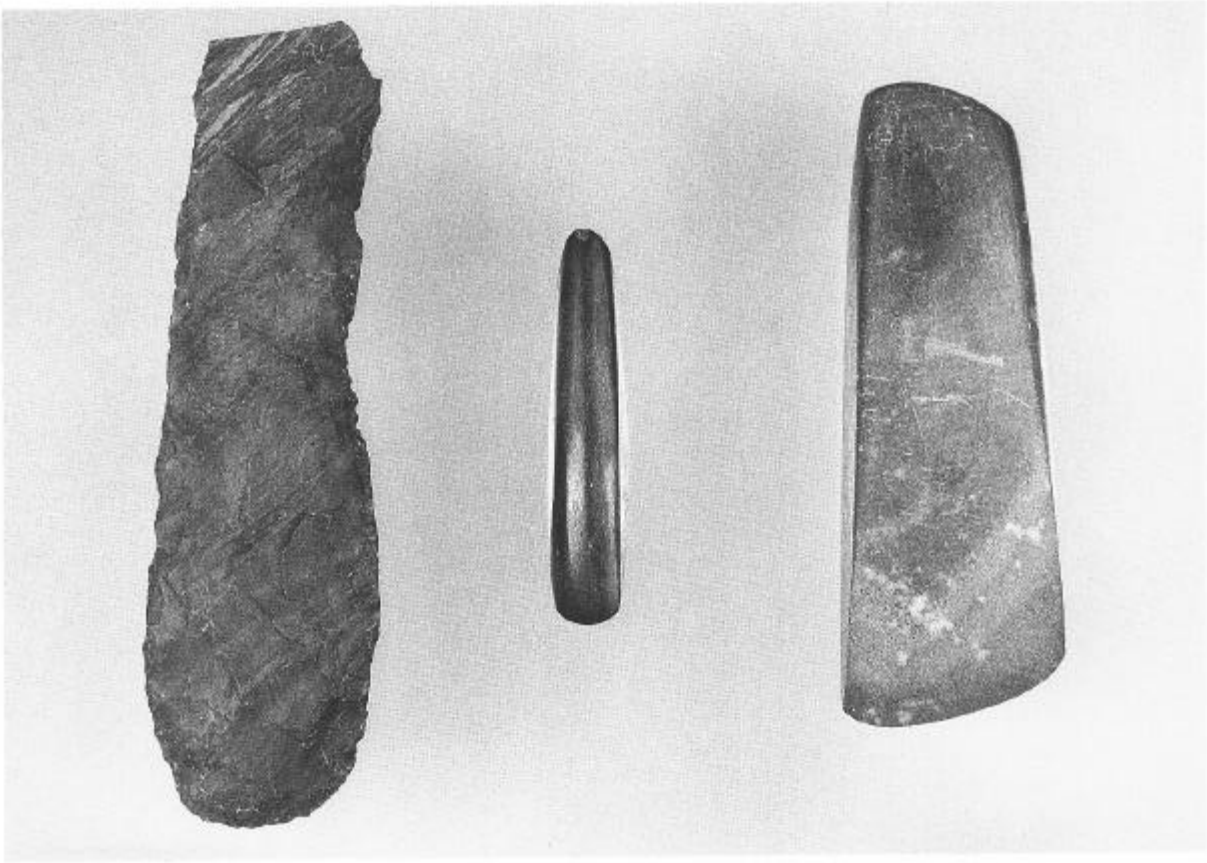
SKS 208 土壙墓出土土器・石器類集合写真（礫は除く）

SKS208 土壙墓出土土器

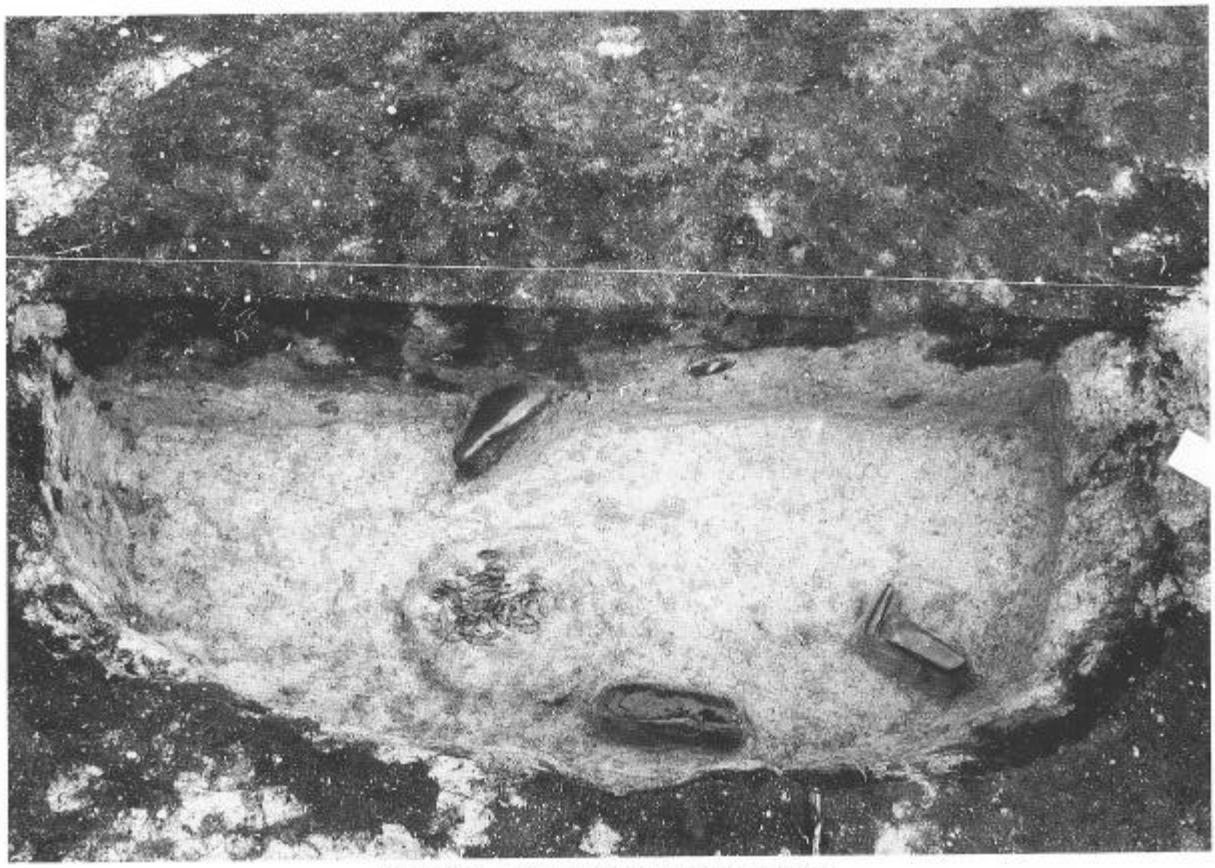




SKS 208 土壙墓出土石器



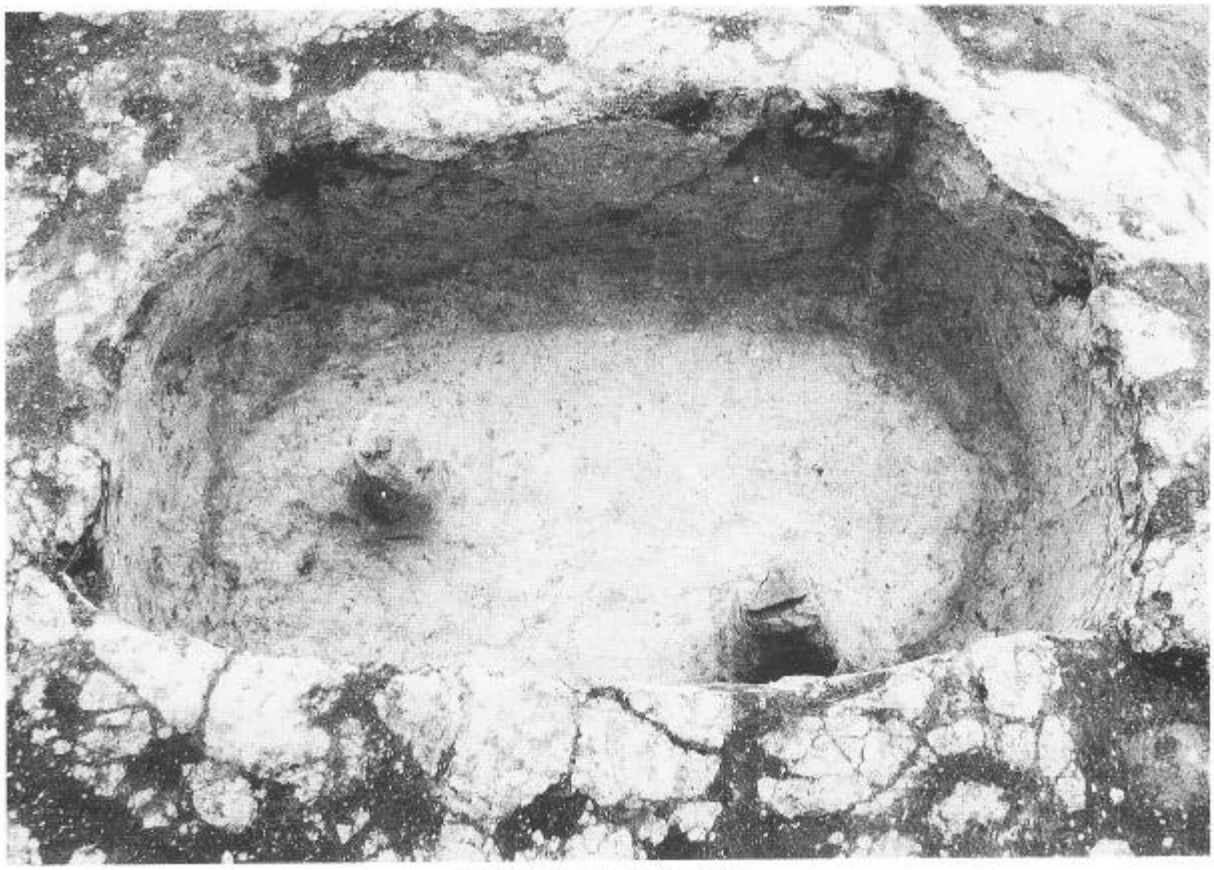
SKS 208 土壙墓出土石器



SKS 208 土壙墓石器等出土状況（部分）

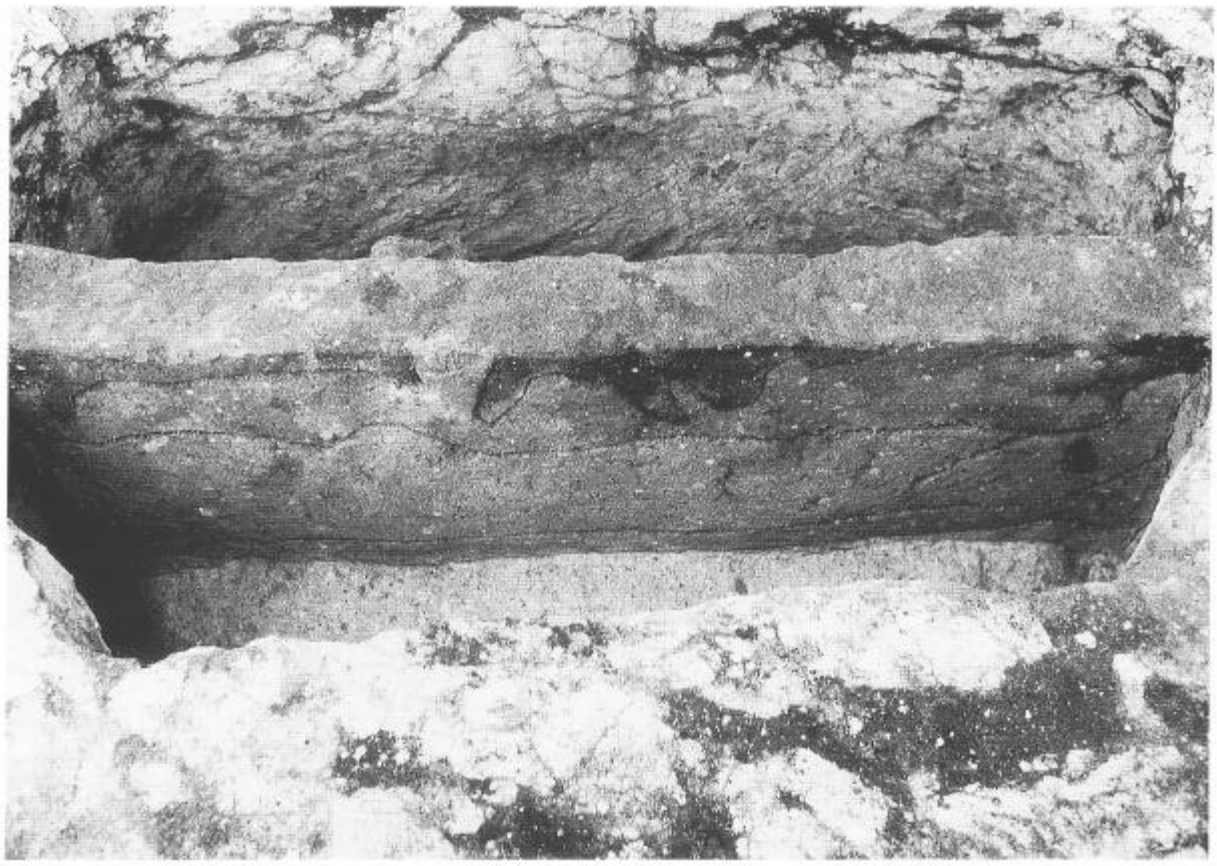
SKS 377 土壙墓精査状況

SKS 377 土壙墓出土土器



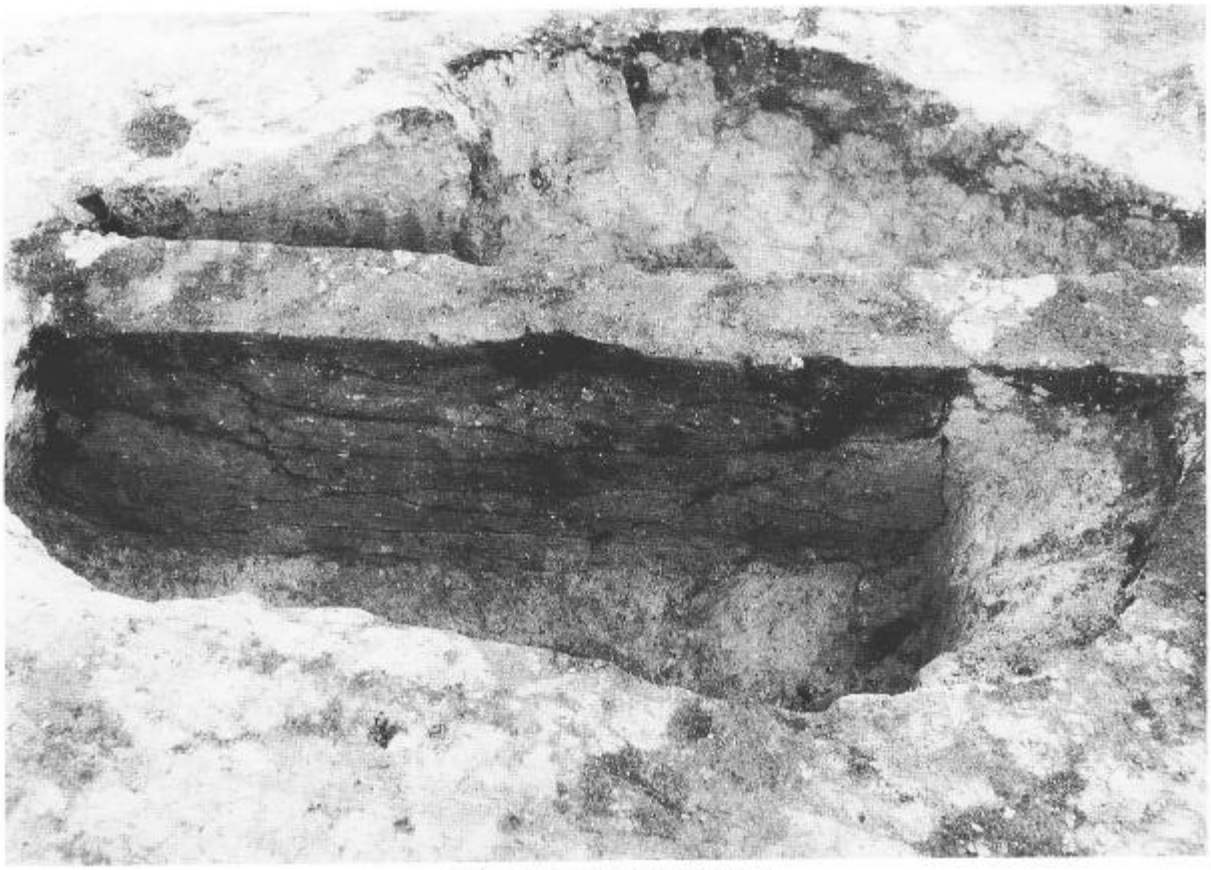
SKS 379 土壙墓精査状況

SKS 379 土壙墓完掘状況



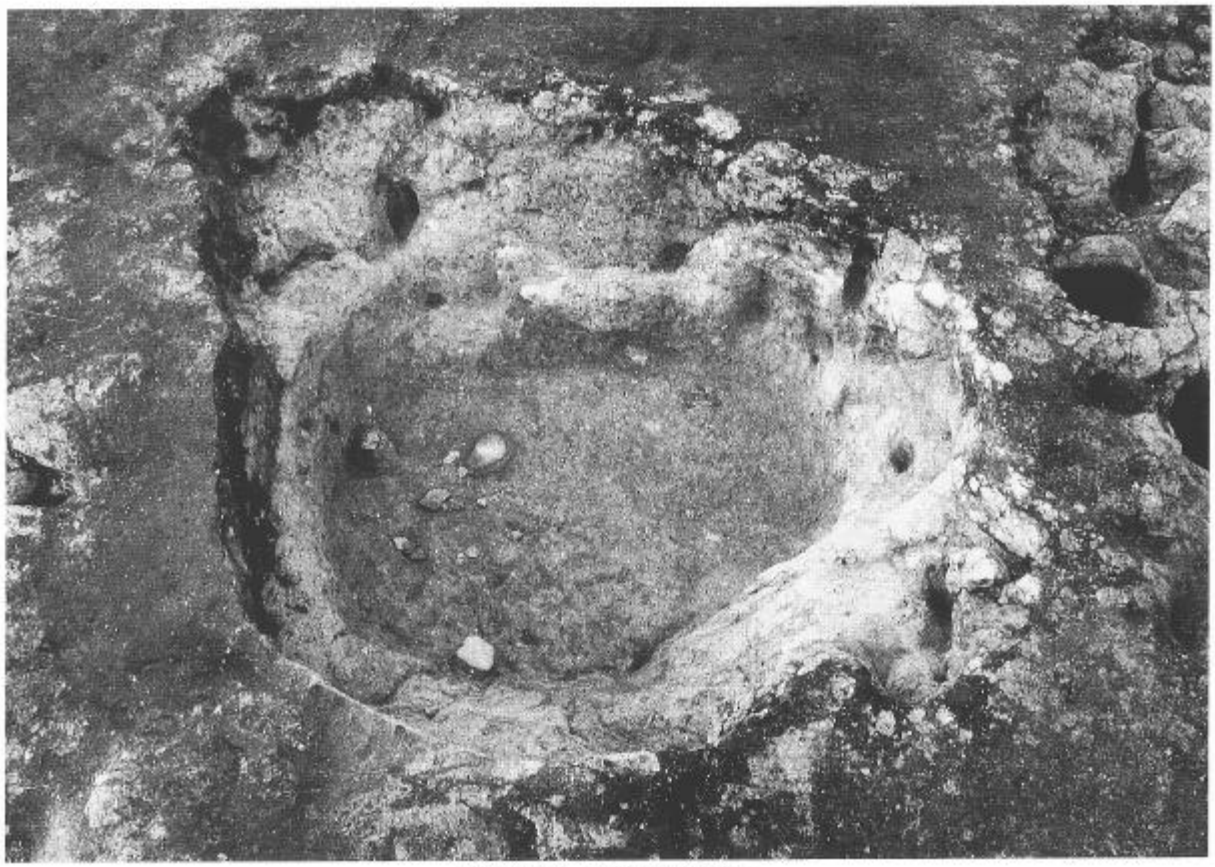
SKS 379 土壙墓埋土堆積状況

SKS 386 土壙墓精査状況

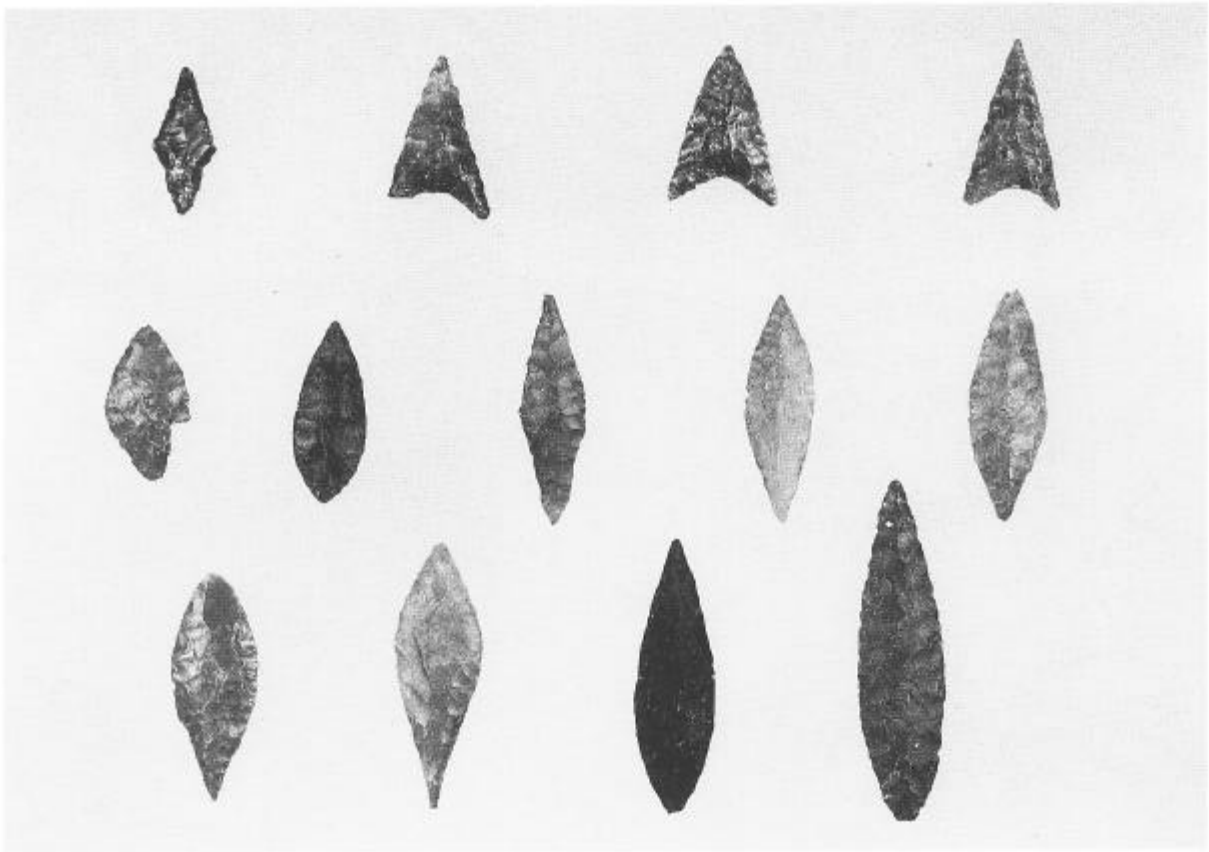


SKS 386 土壙墓埋土堆積状況

SKS 386 土壙墓出土土器



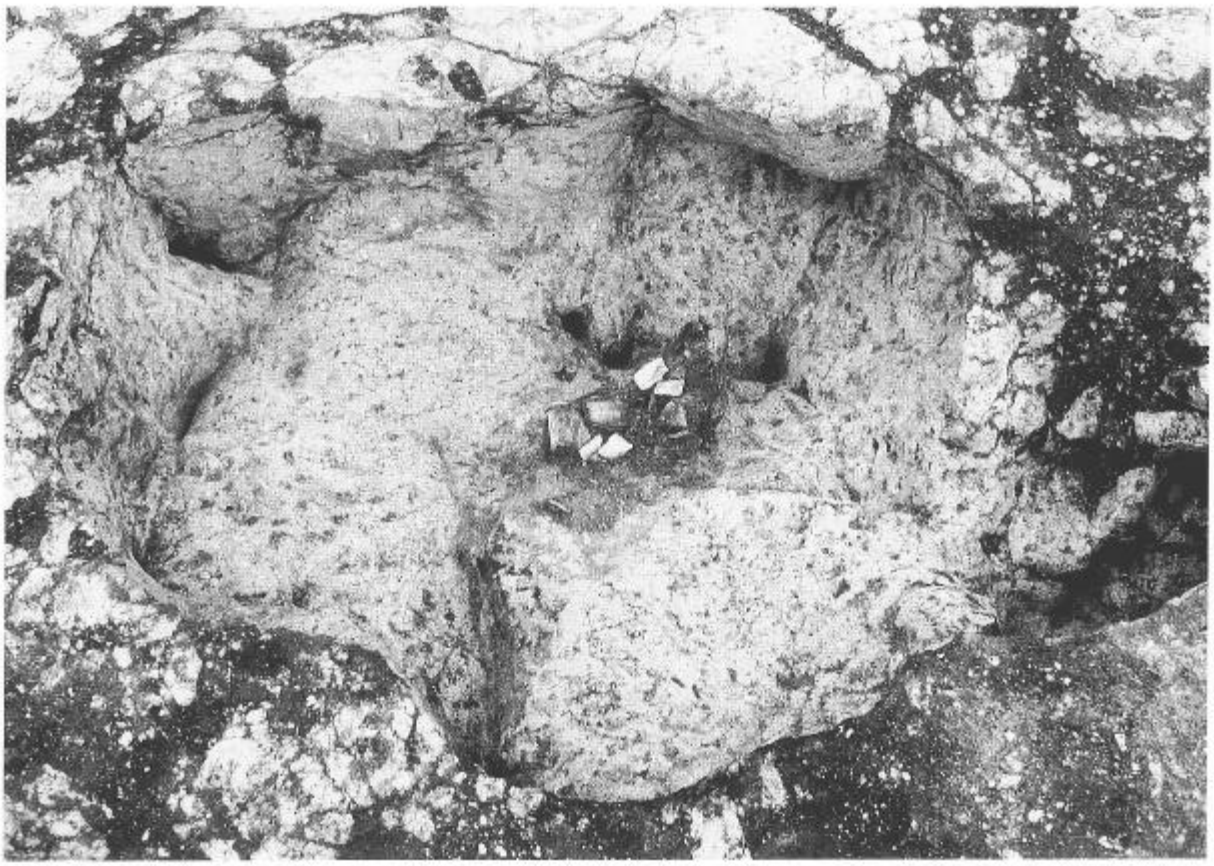
SKS 387 土壙墓精査状況



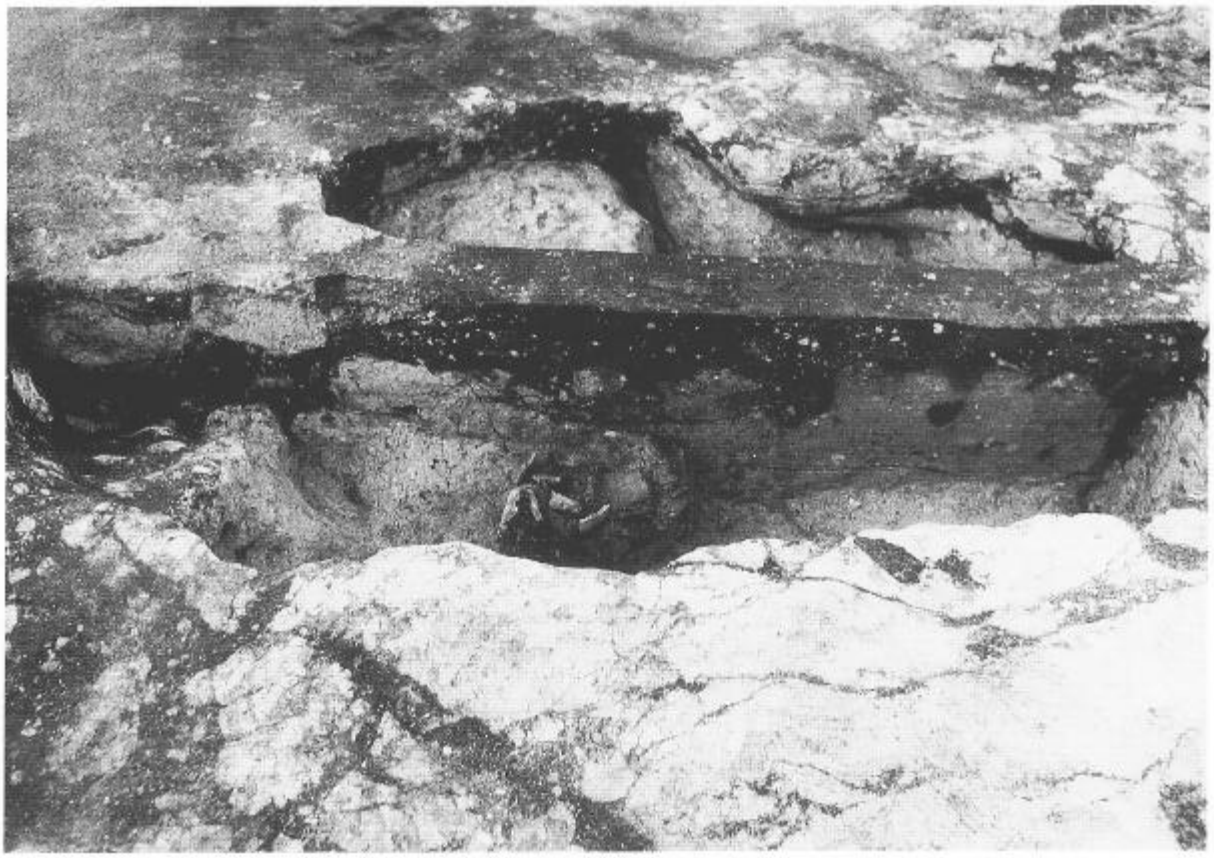
SKS 387 土壙墓出土石器

SKS 391 土壙墓完掘状況

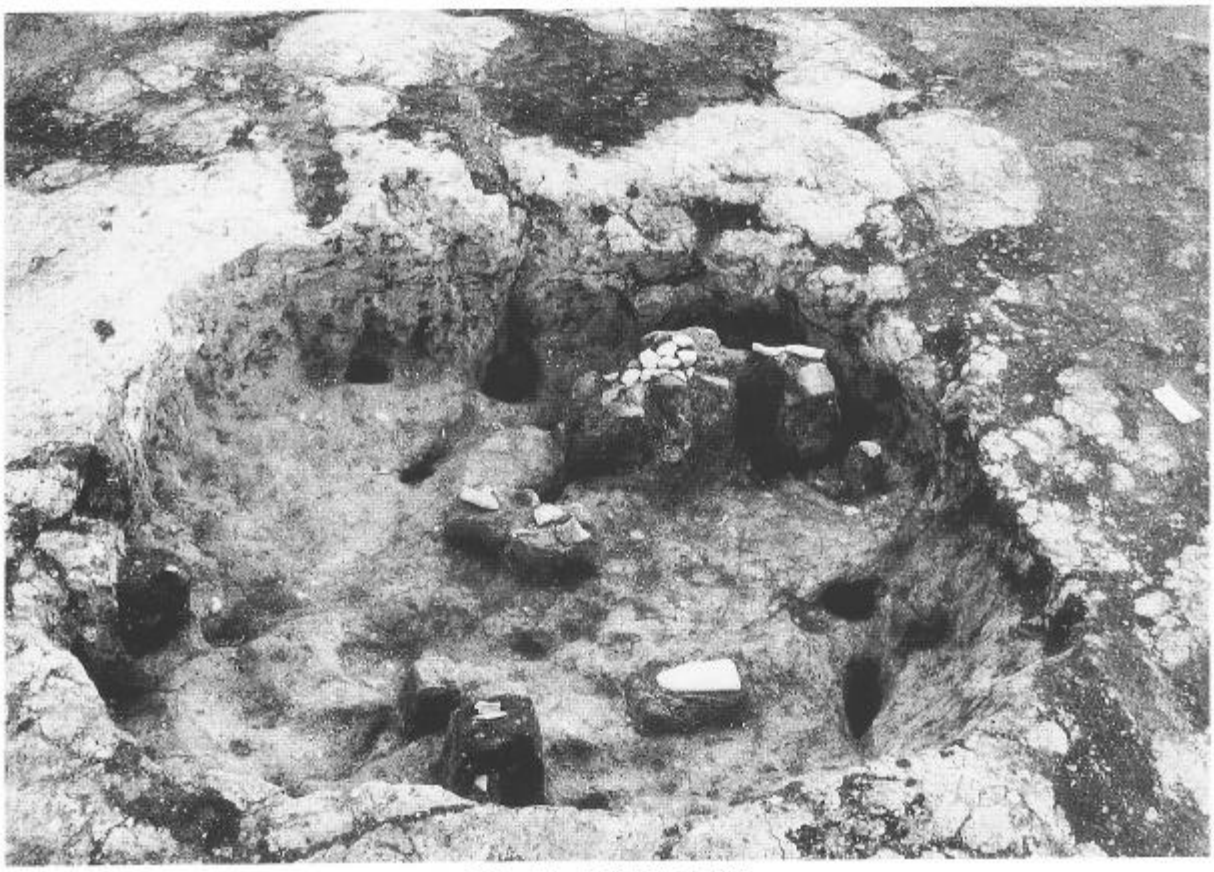
SKS 391 土壙墓埋土堆積状況



SKS 392 土壙墓精査状況



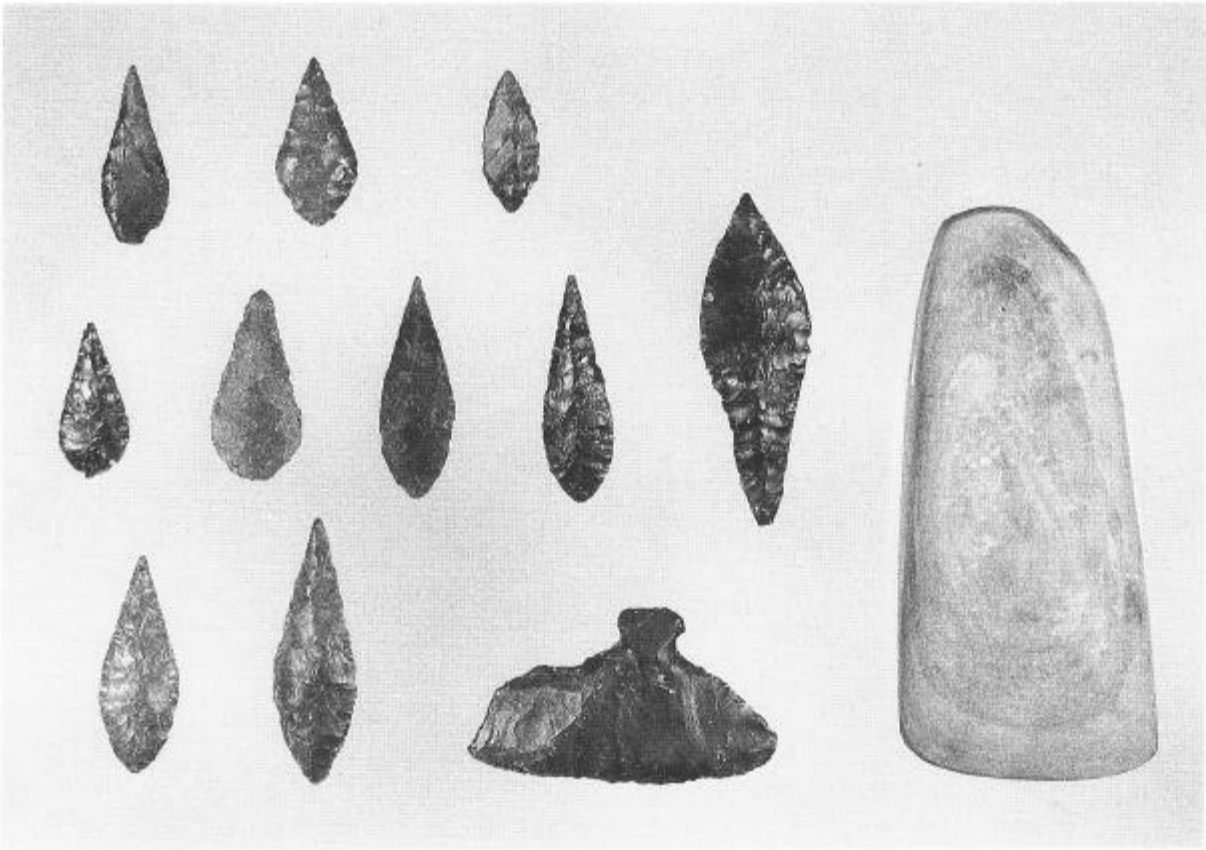
SKS 392 土壙墓埋土堆積状況



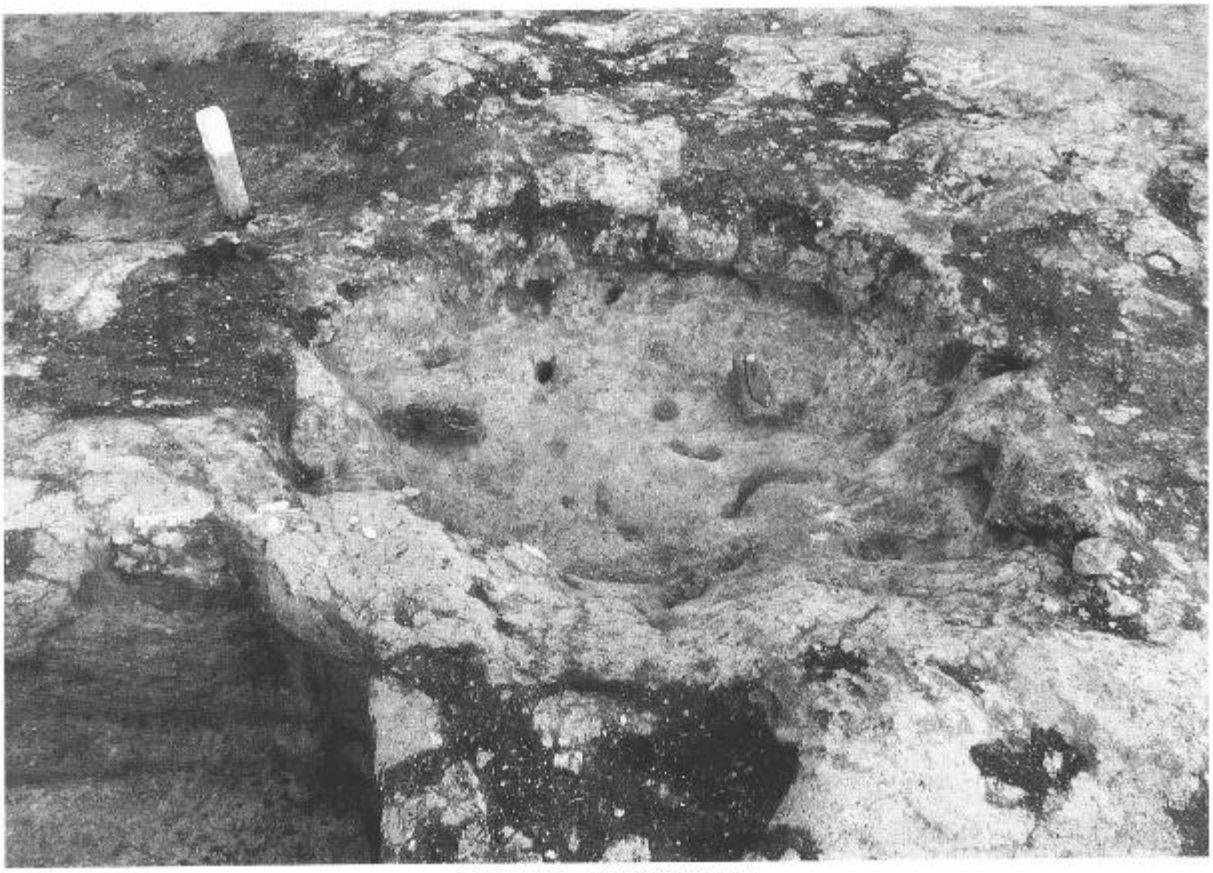
SKS 394 土壙墓精査状況

SKS 394 土壙墓出土土器・石器集合写真

SKS 394 土壙墓出土土器



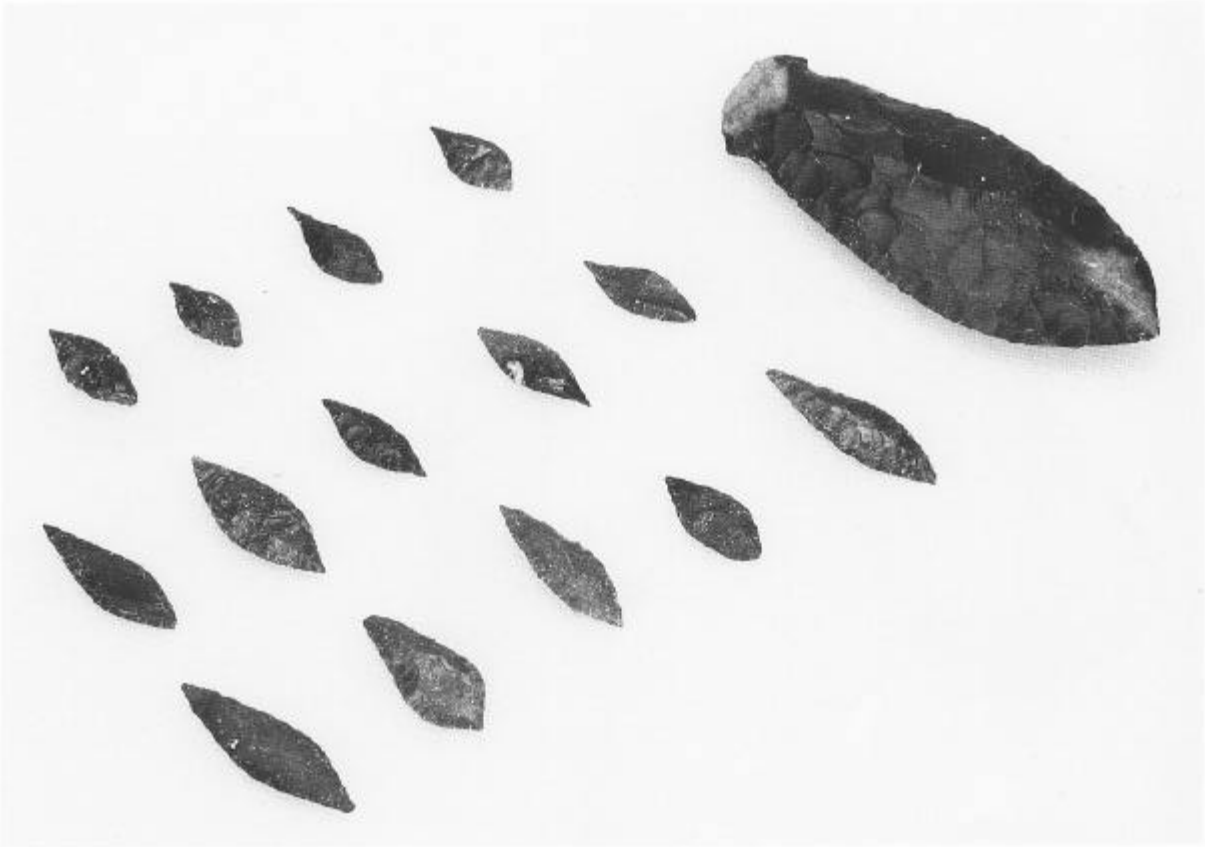
SKS 394 土壙墓出土石器



SKS 408 土壙墓精査状況

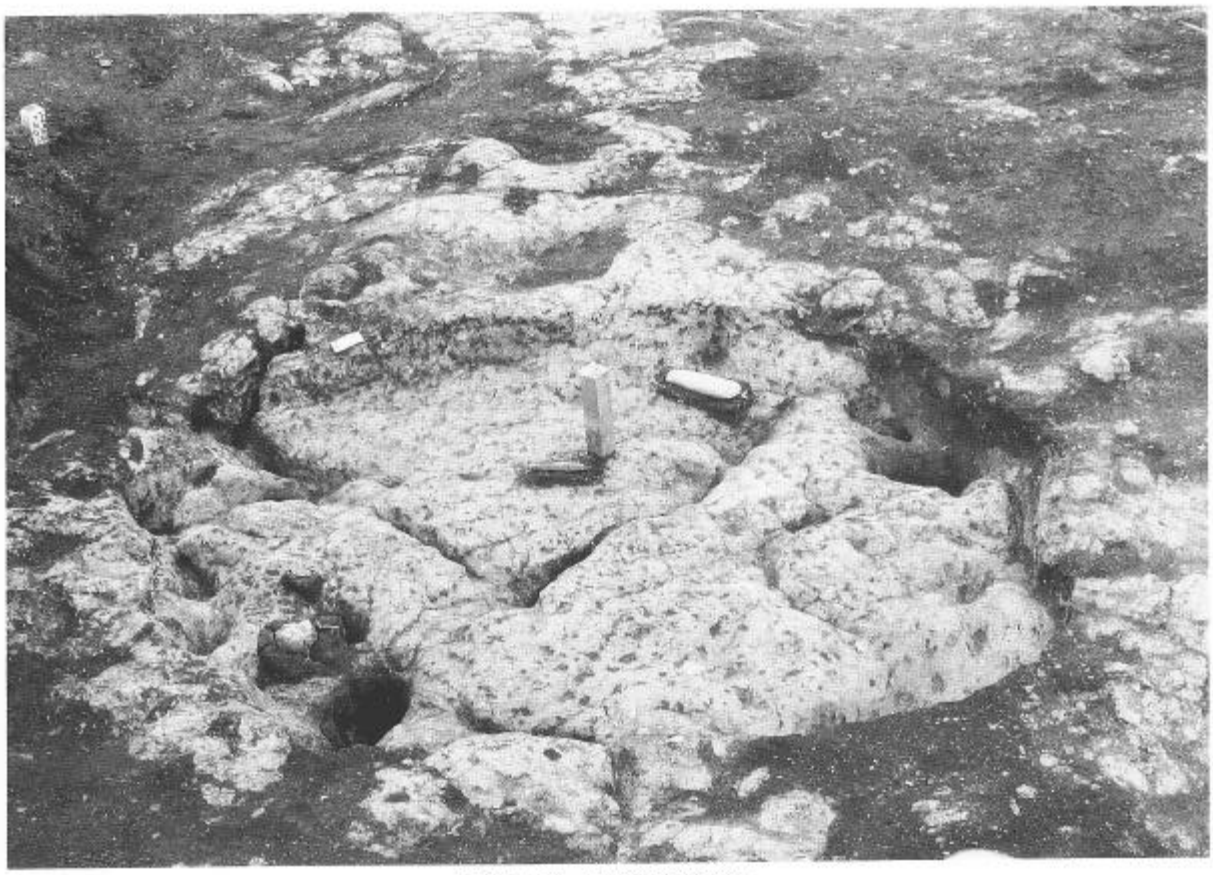
SKS 408 土壙墓石鏃出土状況

SKS 408 土壙墓つまみ付ナイフ出土状況



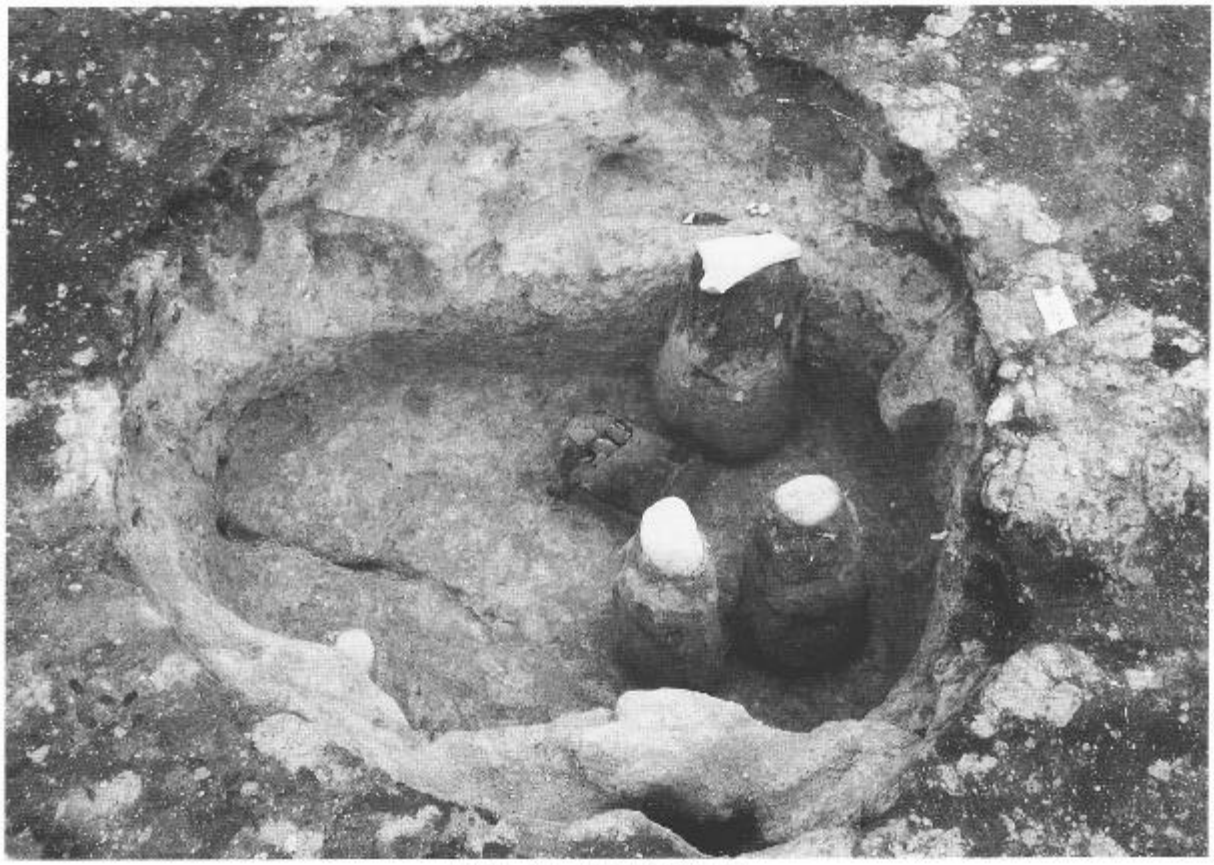
SKS 408 土壙墓出土石器集合写真

図版84



SKS 412 土壙墓精査状況

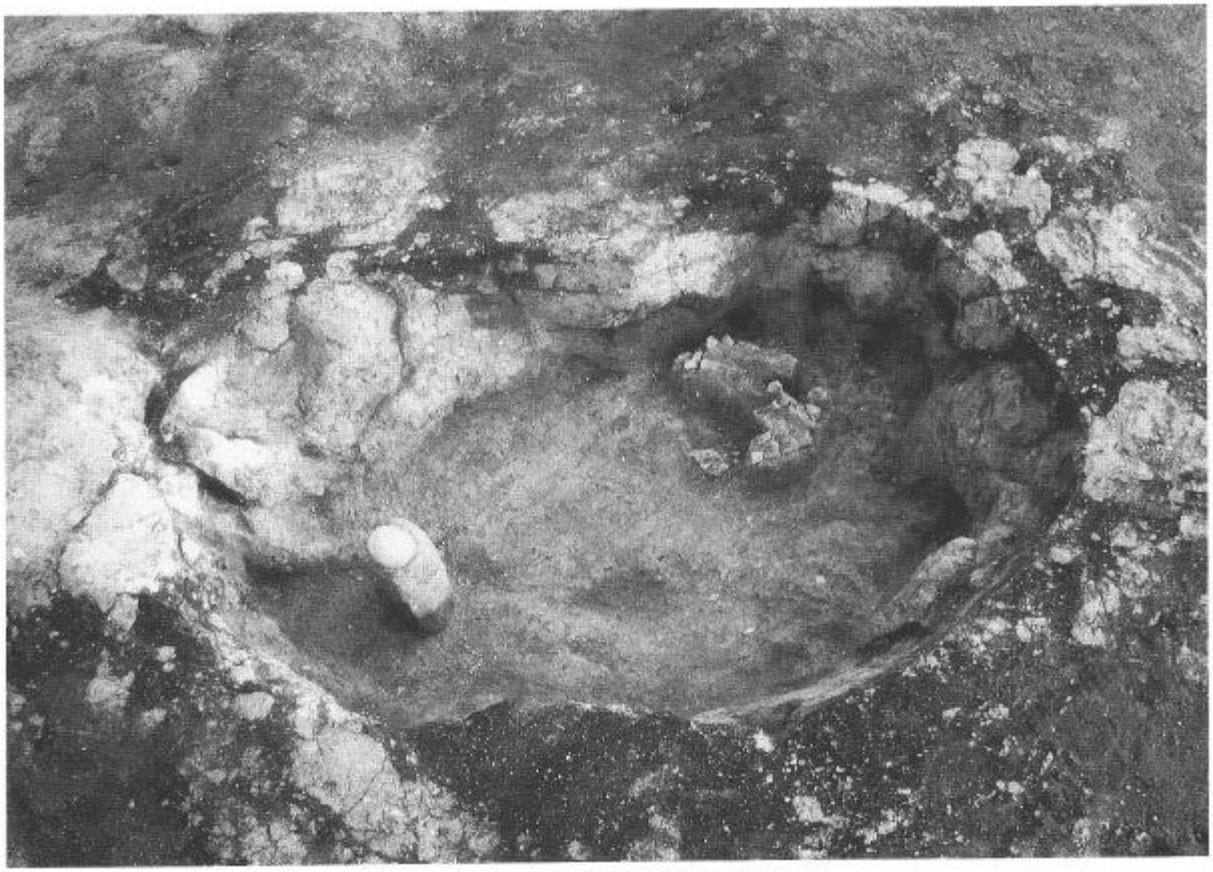
SKS 412 土壙墓出土石器集合写真



SKS 414 土壙墓精査状況

SKS 414 土壙墓出土土器

図版86



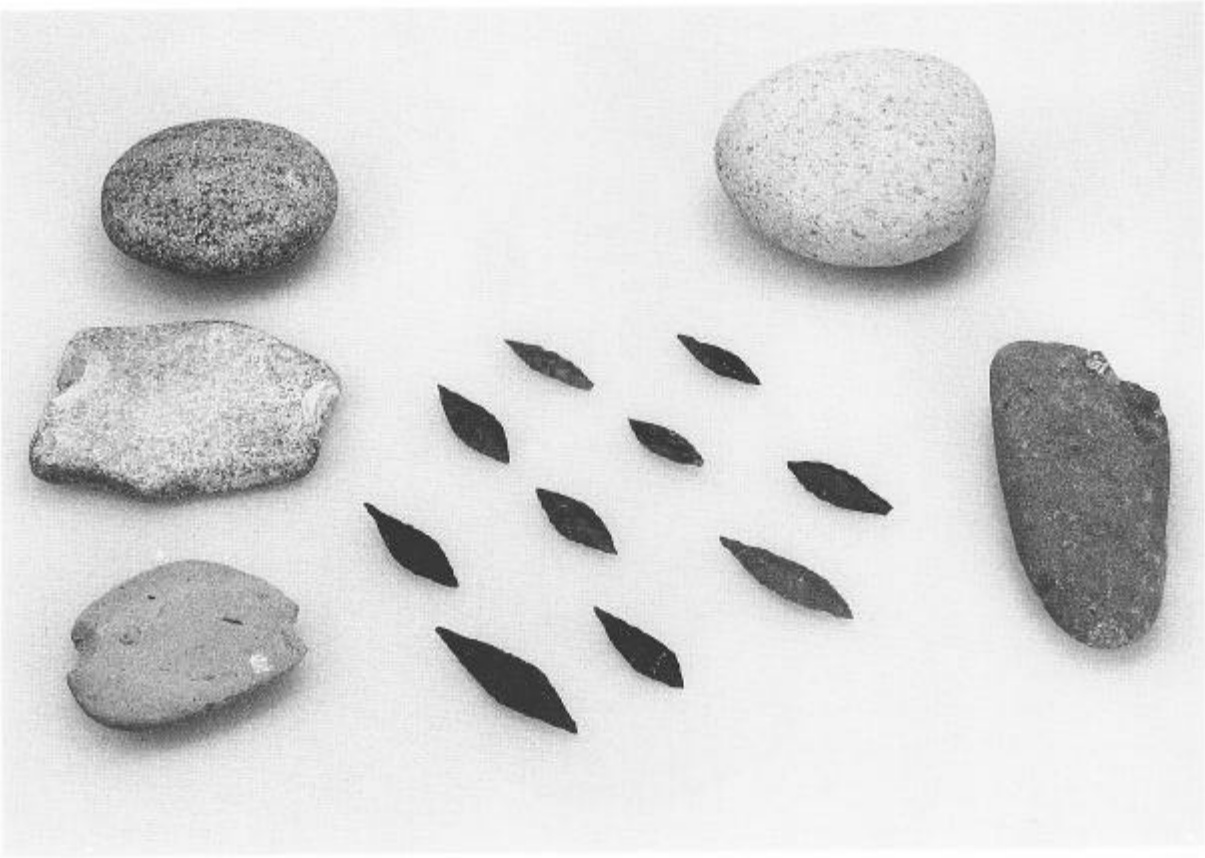
SKS 427 土壙墓精査状況

SKS 427 土壙墓出土土器

SKS 429 土壙墓精査状況

SKS 429 土壙墓出土石斧

SKS 430 土壙墓精査状況

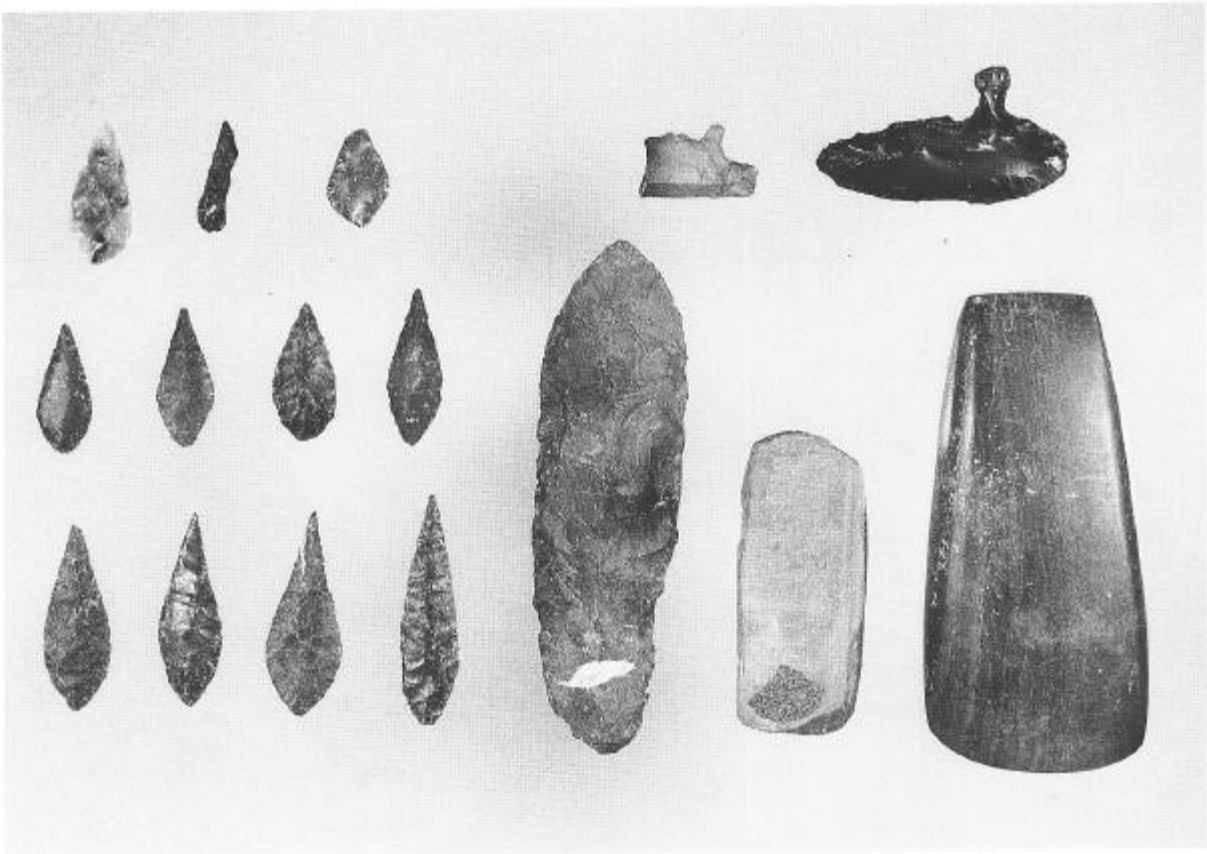


SKS 430 土壙墓出土石器集合写真

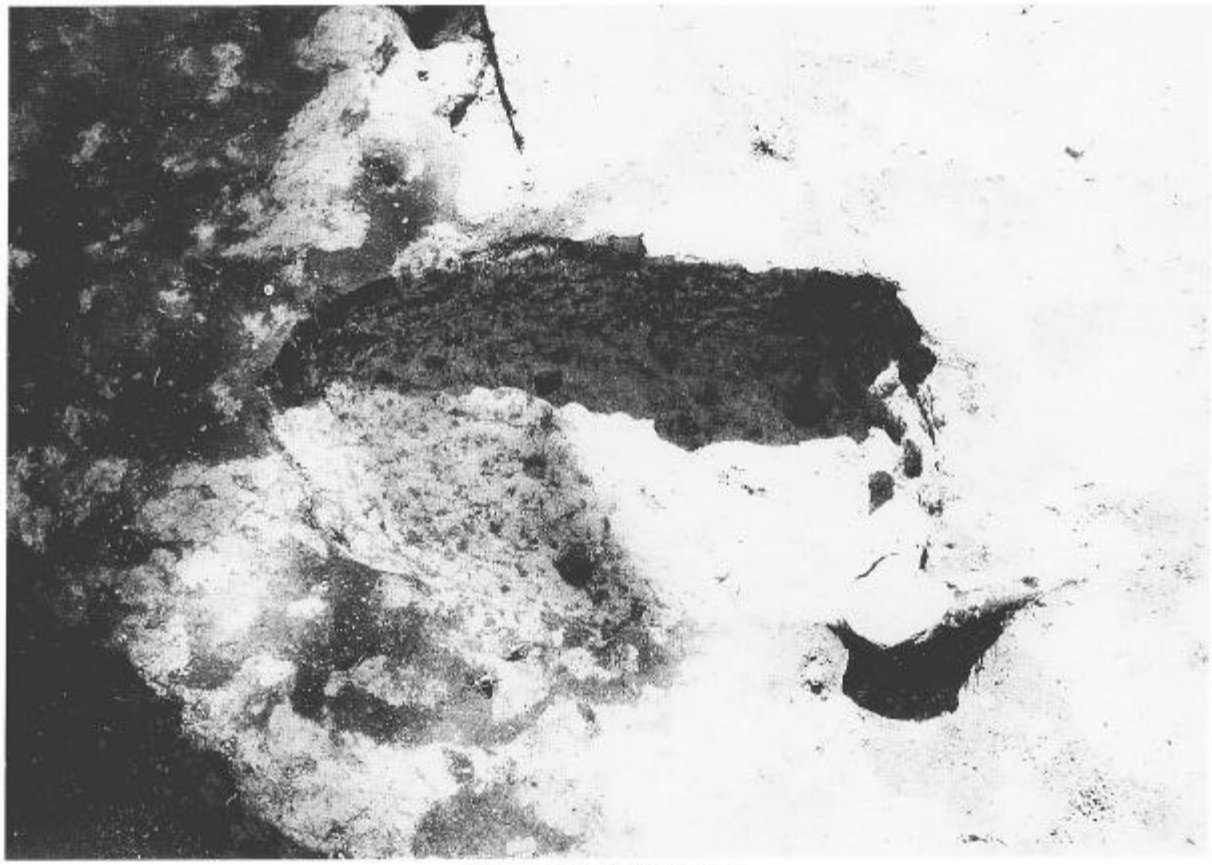
SKS 431 土壙墓精査状況

SKS 431 土壙墓出土土器・石器類

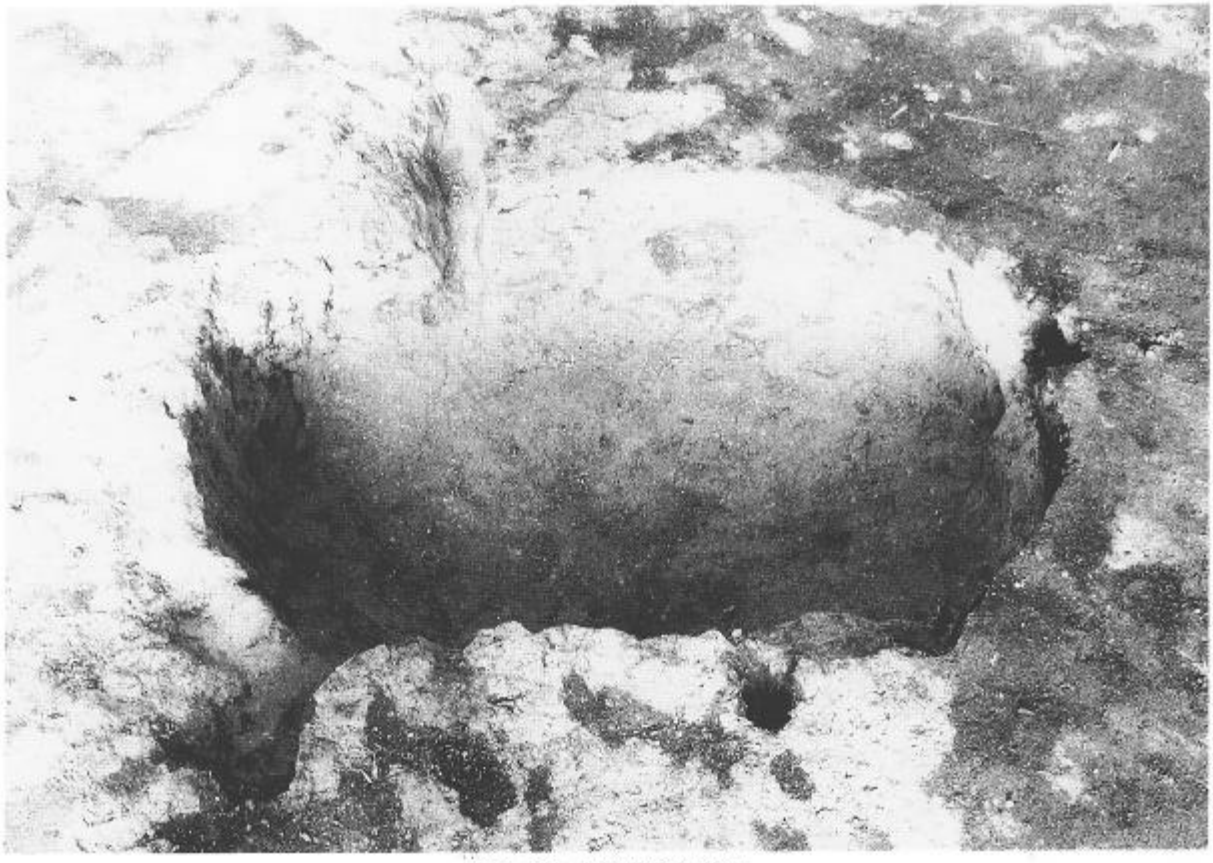
SKS 431 土壙墓出土土器



SKS 431 土壙墓出土石器



SKS 630 土壙墓完掘状況



SKS 633 土壙墓完掘状況